

# Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

User's Guide

リリース 11.1.2.3

### Profitability and Cost Management User's Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2008, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

ドキュメントのアクセシビリティについて .....	13
<b>第 I 部 Profitability and Cost Management の概要 .....</b>	<b>15</b>
<b>第 1 章 Profitability and Cost Management について .....</b>	<b>17</b>
Profitability and Cost Management アプリケーションのタイプ .....	18
標準 Profitability and Cost Management アプリケーション .....	18
詳細 Profitability and Cost Management アプリケーション .....	19
インストール後の最初の Profitability and Cost Management アプリケーションの 作成 .....	20
Profitability and Cost Management の起動 .....	22
サンプル・モデルへのアクセス .....	23
出力ログ・ファイルへのアクセス .....	23
次元およびメンバーのフィルタ処理および表示 .....	24
共通メンバー・セレクタの使用 .....	24
列のソート .....	25
ツリーおよびグリッド・ビュー・モードの使用 .....	26
フィルタの使用 .....	27
検索機能の使用 .....	29
<b>第 II 部 標準 Profitability モデルの操作 .....</b>	<b>31</b>
<b>第 2 章 標準モデルおよびシナリオについて .....</b>	<b>33</b>
<b>第 3 章 標準 Profitability での次元 .....</b>	<b>35</b>
標準モデル作成の手順 .....	35
標準 Profitability のワークスペース .....	37
標準 Profitability の次元について .....	38
標準 Profitability のクローン次元 .....	40
標準 Profitability の次元タイプ .....	41
標準 Profitability のメジャー次元 .....	42
ドライバ・メジャー .....	42
レポート・メジャー .....	42
配賦メジャー .....	43

標準 Profitability の AllocationType 次元	43
標準 Profitability の別名次元	43
標準 Profitability のビジネス次元	44
ビジネス次元メタデータ・ルール	45
標準 Profitability の属性次元	46
<b>第 4 章 標準 Profitability モデルの管理</b>	<b>47</b>
標準 Profitability モデルの管理について	47
標準 Profitability モデルの要約の操作	48
「システム情報」タブ	48
モデル・レベルのプリファレンスの設定	49
標準 Profitability モデル・ステージの設定	51
モデル・ステージの追加	52
モデル・ステージの変更	55
モデル・ステージの削除	56
標準 Profitability の視点(POV)の操作	56
POV 次元	57
POV のステータス	57
バージョン次元	58
標準 Profitability POV の管理	58
POV の追加	59
POV のステータスの変更	60
POV のコピー	61
選択したオブジェクトの POV からの削除	62
POV およびすべてのアーティファクトの削除	63
標準 Profitability のモデル統計のクエリー	64
標準 Profitability データおよびアーティファクトのインポート	66
<b>第 5 章 標準 Profitability 配賦の管理</b>	<b>69</b>
標準 Profitability 配賦について	69
標準 Profitability の費用および収益レイヤー	69
標準 Profitability モデルのドライバと式の定義	70
ドライバ式	71
定義済のドライバ式	71
カスタム・ドライバ式	73
ドライバ基準タイプ	76
優先度シーケンス・ドライバ	77
ドライバの定義	78
ドライバ定義の変更	80
既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成	81

ドライバ定義の削除	82
標準 Profitability ドライバの選択	82
ドライバの選択の作成	83
単一の交差に対するドライバ選択の作成	84
ドライバの選択の変更	86
単一交差のドライバの選択変更	86
ドライバの選択の削除	87
単一交差のドライバの選択の削除	87
標準 Profitability 割当ての操作	88
割当てのタイプ	88
ステージ間割当て	89
ステージ内割当て	89
相互割当て	89
割当ての作成	89
割当ての変更	92
割当ての削除	93
標準 Profitability 割当てルールへの操作	94
割当てルール・ウィザードの使用	95
割当てルールの作成	95
既存の割当てルールから割当てルールを作成	98
「ソースと同じ」割当てルールの作成	98
割当てルールの変更	101
割当てルールの削除	102
既存の割当てルールの適用	103
既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用	103
既存割当てルールの選択の削除	104
「割当てルールの定義」画面の使用	104
割当てルール定義の作成	105
「ソースと同じ」割当てルール定義の作成	107
割当てルール定義の変更	109
割当てルール定義の削除	110
データの入力ウィンドウの使用	111
標準データ入力ビュー	111
カスタム編集ビューの作成	113
データの手動編集	115
ステージ・データの編集	115
ドライバ・データの編集	116
編集ビューの削除	116
配賦のトレース	117

配賦の詳細のトレース .....	117
配賦フローのトレース .....	121
相互配賦 .....	125
トレース配賦イメージのエクスポート .....	126
<b>第 6 章 モデルの検証 .....</b>	<b>127</b>
検証について .....	127
モデル構造検証ルール .....	128
未割当ての値 .....	128
例 1 - フロー停止 .....	129
例 2 - 残余価額 .....	129
アイドル能力 .....	130
オーバードライブ費用および収益 .....	131
モデル構造の検証 .....	131
ステージの貸借一致レポートの生成 .....	134
ドライバ・データ・レポートの生成 .....	136
<b>第 7 章 計算モデル .....</b>	<b>141</b>
データベースの管理 .....	142
計算データベースの配置 .....	142
レポート・データベースの配置 .....	145
計算の管理 .....	147
計算(Calc)スクリプト .....	148
直接配賦データの計算 .....	148
データの転送 .....	150
システムデータ .....	151
システムにおける複数のステージのコントリビューション・パスの計算 .....	151
<b>第 8 章 タスクフローの監視 .....</b>	<b>155</b>
タスクフローの管理 .....	155
タスクフロー情報の表示 .....	157
タスクフローのステータスの表示 .....	158
タスクの詳細の表示 .....	160
タスクフローのスケジュール .....	161
<b>第 9 章 レポートの実行 .....</b>	<b>165</b>
レポートの実行について .....	165
Essbase アウトラインおよびレポート作成 .....	166
ステージ・データのレポート作成 .....	167
直接配賦のレポート作成 .....	168
配賦システムのレポート作成 .....	169

Excel Spreadsheet Add-In を使用したレポート作成 .....	170
Smart View を使用したレポート作成 .....	171
<b>第 10 章 標準 Profitability での Smart View クエリーの管理 .....</b>	<b>173</b>
カスタム・クエリーの作成 .....	174
カスタム・クエリーの編集 .....	178
Smart View クエリーの複製 .....	181
Smart View クエリーの削除 .....	181
「ステージの貸借一致」画面からのクエリーの実行 .....	181
<b>第 11 章 標準 Profitability のメジャー次元 .....</b>	<b>185</b>
標準メジャー次元について .....	185
ドライバ・メジャー .....	185
レポート・メジャー .....	186
費用レイヤー配賦メジャー .....	187
収益レイヤー配賦メジャー .....	189
<b>第 12 章 標準 Profitability での AllocationType 次元 .....</b>	<b>193</b>
<b>第 III 部 詳細 Profitability モデルの操作 .....</b>	<b>195</b>
<b>第 13 章 詳細 Profitability and Cost Management のモデルとシナリオについて .....</b>	<b>197</b>
詳細 Profitability モデル作成の手順 .....	198
詳細 Profitability and Cost Management ワークスペース .....	200
<b>第 14 章 詳細 Profitability and Cost Management の次元 .....</b>	<b>203</b>
詳細 Profitability の次元について .....	203
詳細 Profitability の次元タイプ .....	205
MeasuresDetailed 次元 .....	205
詳細 Profitability の EPMA POV 次元 .....	207
詳細 Profitability の非 EPMA 次元 .....	207
詳細 Profitability の別名次元 .....	207
ビジネス次元 .....	209
ビジネス次元メタデータの要件 .....	209
属性次元 .....	211
<b>第 15 章 詳細 Profitability モデルの管理 .....</b>	<b>213</b>
モデルの管理について .....	213
詳細 Profitability モデルの要約の操作 .....	214
詳細モデル・システム情報タブ .....	214
詳細モデル・データ・スキーマの選択 .....	215
詳細 Profitability モデル・データの登録 .....	217

モデル・データの登録	218
新しいモデル・データの登録の作成	219
既存のモデル・データの登録の変更	224
既存のモデル・データの登録のコピー	225
既存のモデル・データの登録の削除	225
列のマッピング	226
列マッピングの表示	226
列マッピングの変更	227
列マッピングの削除	228
参照テーブルの結合	229
参照テーブルへのテーブルの結合	229
参照テーブル結合の編集	231
参照テーブル結合の削除	232
モデル・データの登録の要約の確認	232
詳細 Profitability ステージの管理	233
詳細 Profitability モデル・ステージの追加	234
詳細 Profitability モデル・ステージの変更	237
詳細 Profitability モデル・ステージの削除	238
詳細 Profitability の視点(POV)の操作	239
POV 次元	240
POV のステータス	240
バージョン次元	240
詳細 Profitability POV の操作	241
POV の追加	241
POV のステータスの変更	243
POV のコピー	243
POV およびすべてのアーティファクトの削除	245
選択したオブジェクトの POV からの削除	246
詳細 Profitability のステージング・テーブルのインポート	247
<b>第 16 章 詳細 Profitability 配賦の管理</b>	<b>249</b>
詳細 Profitability 配賦について	249
詳細 Profitability のドライバと式の定義	249
ドライバ式	250
ドライバ優先度シーケンス	251
詳細 Profitability ドライバの定義	251
比率ベースのドライバの操作	251
比率ベースのドライバの定義	252
比率ベースのドライバの変更	254



比率ベースのドライバの削除	254
レートベースのドライバの操作	255
レートベースのドライバの定義	255
レートベースのドライバの変更	258
レートベースのドライバの削除	259
TBD 計算済メジャー・ドライバの操作	259
詳細 Profitability ドライバの操作	259
複製ドライバの作成	259
詳細 Profitability ドライバの選択	260
単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の作成	262
詳細 Profitability ドライバの選択の削除	263
単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の削除	264
バルク・エディタの操作	264
単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加	265
複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除	268
複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加	269
複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除	270
詳細 Profitability 割当てルールの操作	271
割当てルールの作成	272
詳細 Profitability 割当てルールの複製	273
割当てルールの変更	273
割当てルールの削除	274
詳細 Profitability での割当ての操作	274
割当ての作成	275
割当ての削除	279
計算ルールの操作	279
計算ルールの追加	280
計算ルールの変更	282
計算ルールの削除	283
計算ルールのコピー	283
<b>第 17 章 詳細 Profitability モデルの検証</b>	<b>285</b>
詳細 Profitability の検証について	285
詳細 Profitability モデルの検証ルール	286
詳細 Profitability モデル構造の検証	286
詳細 Profitability ステージの貸借一致レポート	288
アイドル能力	289
OverDriven 値	289
未割当ての値	289

ステージの貸借一致レポートの生成 .....	290
<b>第 18 章 詳細 Profitability モデルの計算 .....</b>	<b>291</b>
詳細 Profitability データベースの管理 .....	291
詳細 Profitability レポート・ビューの配置 .....	291
詳細 Profitability ソース・ステージ・データベースの配置 .....	294
詳細 Profitability コントリビューション・データベースの配置 .....	296
詳細 Profitability 宛先ステージ・データベースの配置 .....	298
詳細 Profitability の計算の管理 .....	300
計算の管理 .....	300
ドライバ操作タイプ .....	303
その他のプロセス・タイプ .....	303
<b>第 19 章 詳細 Profitability のジョブ・ステータスの監視 .....</b>	<b>305</b>
ジョブ・ライブラリ .....	305
ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ .....	305
配賦計算 - 詳細 .....	305
バルク編集の適用 .....	306
POV コピー .....	306
ImportConfiguration .....	306
ジョブ・ライブラリの表示 .....	306
詳細 Profitability タスクフローの管理 .....	309
詳細 Profitability タスクフロー情報の表示 .....	310
詳細 Profitability タスクフロー・ステータスの表示 .....	311
詳細 Profitability タスクの詳細の表示 .....	313
詳細 Profitability タスクフローのスケジュール設定 .....	314
<b>付録 A. Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ .....</b>	<b>317</b>
マスター Essbase アプリケーション .....	318
次元タイプ .....	318
ユーザー定義属性 .....	319
ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ .....	320
BSO およびメンバー次元プロパティの指定 .....	321
カスタム・メジャー次元 .....	324
マスター Essbase アプリケーションの構築 .....	324
Profitability and Cost Management アプリケーションの作成 .....	325
アプリケーションの編集 .....	327
アプリケーションの再登録 .....	328
アプリケーションの複製 .....	329
次元の更新 .....	329

アプリケーションの削除 .....	331
「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示 .....	332
<b>付録 B. 標準と詳細の Profitability アプリケーションの比較 .....</b>	<b>335</b>
<b>用語集 .....</b>	<b>337</b>
<b>索引 .....</b>	<b>365</b>



---

# ドキュメントのアクセシビリティについて

---

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

## Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。



---

---

第 I 部

# Profitability and Cost Managementの概要

---

Profitability and Cost Management の概要の内容 :

- [Profitability and Cost Management](#) について





# 1

## Profitability and Cost Managementについて

### この章の内容

Profitability and Cost Management アプリケーションのタイプ .....	18
インストール後の最初の Profitability and Cost Management アプリケーションの作成 .....	20
Profitability and Cost Management の起動 .....	22
サンプル・モデルへのアクセス .....	23
出力ログ・ファイルへのアクセス .....	23
次元およびメンバーのフィルタ処理および表示 .....	24

収益性を最大化するには、費用と収入を正確に測定して配賦し、管理する必要があります。Oracle Hyperion Profitability and Cost Management は、製品、顧客、地域、支店などのビジネス・セグメントの収益性を計算するために必要な、費用および収益の配賦を管理する分析アプリケーションです。このアプリケーションは、費用分解、消費ベースの費用計算およびシナリオ再生を使用して収益性を測定でき、有効な計画/意思決定支援システムとなります。

Profitability and Cost Management には、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace を介してアクセスします。Profitability and Cost Management の Web クライアントである EPM Workspace は、次にあげるその他のインストール済アプリケーションにアクセスして操作できます:

- Oracle Hyperion EPM Architect
- Oracle Hyperion Planning
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis
- Oracle Hyperion Financial Management
- Microsoft Word および Microsoft Excel などのサードパーティ製アプリケーション

モデルを構築する前に、Performance Management Architect を使用して次元とメンバーを定義し、データベース・アウトライン、つまりモデルの各ステージ内のメイン・オブジェクトを構築する必要があります。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。配布に必要な財務データやその他のデータは、標準 Profitability の場合は Oracle Essbase の多次元データベースにインポートされ、詳細 Profitability の場合は既存のリレーショナル・データベースからインポートされます。

次元を定義後、製品またはサービスに必要な配賦のネットワークを表すカスタマイズしたモデルを Profitability and Cost Management で構築します。

モデルにおいて、割り当てるドライブで、標準の式かカスタマイズした式を使用してデータの計算方法を指定します。計算フローは割当てによって制御されます。割当てを使用することで、費用と収入の配賦を正確に反映でき、収益性を計算できます。次に、モデルの構造と整合性を検証します。モデルを使用して、インポートした財務データを計算し、パフォーマンス・メトリックや収益性レポートを生成します。

有効なモデルの作成後、このモデルの別のバージョンまたはシナリオを作成して、提案する変更の最終結果への影響を評価できます。

Profitability and Cost Management の導入方法の詳細は、次の項を参照してください:

- 18 ページの「[Profitability and Cost Management アプリケーションのタイプ](#)」
- 20 ページの「[インストール後の最初の Profitability and Cost Management アプリケーションの作成](#)」
- 22 ページの「[Profitability and Cost Management の起動](#)」
- 23 ページの「[出力ログ・ファイルへのアクセス](#)」
- 24 ページの「[次元およびメンバーのフィルタ処理および表示](#)」

## Profitability and Cost Management アプリケーションのタイプ

Profitability and Cost Management には、異なる方法で使用される 2 つのタイプのアプリケーションがあります。

- 18 ページの「[標準 Profitability and Cost Management アプリケーション](#)」では、プロセスのあらゆる段階における原価および収益の資金フローに従って、資金の拠出元と用途を決定する標準拠出金分析に重点が置かれます。
- 19 ページの「[詳細 Profitability and Cost Management アプリケーション](#)」では、収益性分析のために、収益オブジェクトのプールまたはレートをシングル・ステップで単一のソースおよび宛先に配賦します。詳細 Profitability は、アーティファクト・ストレージのモデル、計算、レポート・ビューにリレーショナル・データベースを利用します。

各タイプの Profitability アプリケーションの構成要素の単純な比較については、付録 B「[標準と詳細の Profitability アプリケーションの比較](#)」を参照してください。

## 標準 Profitability and Cost Management アプリケーション

標準 Profitability and Cost Management モデルを使用すると、モデル全体の直接のコントリビューション・データを監視および制御できます。原価および収益の両方について入力金額、原価と収益のフロー、資金の最終的な宛先を追跡することによって、リソースを最大限に活用し収益性を簡単に示すことができます。計算結果は個々のコスト・センターまたは勘定科目に転記されます。

標準 Profitability and Cost Management モデルのデータは、Essbase 多次元データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。Performance Management Architect でモデルを作成し、次元および次元メンバーを使用して組織内の勘定科目、活動および操作の階層を定義します。AllocationType 次元は、Performance Management Architect からインポートされます。この次元を使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。

標準 Profitability and Cost Management にアプリケーションを配置した後、モデルを構築し、特定の原価と収益の配賦への資金のフローを生成するドライバおよび割当てを作成します。モデルは、ステージごとに3つの次元を持つ最大9つのステージを使用して構築されます。ステージごとの配賦は、ドライバおよび割当てで指定する計算と式に基づいて次の段階に渡されます。組織の実際のフローを反映するように、配賦はステージ間で渡す(ステージ間配賦)ことも、ステージをスキップすることも、あるいは同じステージ内で反復する配賦を含める(ステージ内配賦)こともできます。

視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POV を使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または最終損益に対する様々な影響を測定するためにシナリオを再生することなどが可能です。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算がステージごとに貸借一致されます。

計算データベースおよびレポートを配置して、モデルを計算し結果を分析します。

詳細 Profitability アプリケーションの作成と操作の手順については、[パート II](#) を参照してください。

## 詳細 Profitability and Cost Management アプリケーション

詳細 Profitability and Cost Management モデルは、ユーザー定義のスキーマを利用してリレーショナル・テーブルを既存のデータおよび関連する参照テーブルに編成し、そのデータを拡張します。詳細 Profitability and Cost Management モデルのデータは、リレーショナル・データベースのみに格納されます。

Performance Management Architect でモデルを作成し、ビジネス次元、別名、メジャーなどを組織で定義します。Profitability and Cost Management では、詳細 Profitability モデルを構築できるように、データがアプリケーションにマッピングされます。アプリケーションはきわめて大きなボリュームでも処理できます。

アプリケーションは階層構造を使用せず、ソースと宛先の単一の組合せの間におけるフローですべての配賦を処理します。配賦は、標準 Profitability の場合のように AllocationType を作成するのではなく、制限された MeasuresDetailed 次元を通じて処理されます。MeasuresDetailed 次元には、すべての配賦を処理する限られたメンバーが含まれます。

詳細 Profitability and Cost Management にアプリケーションを配置した後、モデルを構築し、資金のフローを生成するドライバおよび割当てを作成します。モデルは、最大5つのソース次元と、最大25の宛先次元で、選択したメジャーに対する

ソースおよび宛先テーブルの単一の組合せを使用して構築されます。配賦は、ドライバと割当てで指定する計算と式に基づいて完了します。

視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POV を使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または最終損益に対する様々な影響を測定するためにシナリオを再生することなどが可能です。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算がステージごとに貸借一致されます。

モデルを計算し、結果を分析できるようになります。

標準 Profitability アプリケーションの作成と操作の手順については、[第 III 部](#)を参照してください。

## インストール後の最初の Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

Profitability and Cost Management は、EPM Workspace の一部分であり、共通アプリケーションを使用してアプリケーションおよびセキュリティを管理します。インストール後に、複数の手順を実行して最初の Profitability and Cost Management アプリケーションを作成する必要があります。アプリケーションが作成された後、データを Profitability and Cost Management にインポートする必要があります。

**注：** Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャは、Performance Management Architect を使用するかわりに、Profitability and Cost Management のアプリケーションと次元を管理します。[付録 A 「Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャ」](#)を参照してください。

**注：** マルチバイト文字は Performance Management Architect では使用できますが、Profitability and Cost Management ではサポートされません。

非 Unicode の標準 Profitability アプリケーションでは、計算用またはレポート用データベースの名前にマルチバイト文字を使用しないでください。データベース名には ASCII 文字のみを使用します。

接頭辞と次元名の長さの合計が 80 文字を超えると、Essbase への配置が失敗します。

▶ インストール後に最初の Profitability and Cost Management アプリケーションを作成する手順は、次のとおりです：

**1 次のアプリケーションおよびコンポーネントのインストールを完了します：**

- EPM Workspace
- Oracle Hyperion Shared Services
- Performance Management Architect
- Essbase

- Profitability and Cost Management

**注：** このリストは、Profitability and Cost Management を使用するための最小限のインストール要件を示します;ただし、追加の製品はいつでもインストールできます。

詳しいインストール手順は次を参照してください:

- Oracle Enterprise Performance Management System Installation Start Here
- Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide

- 2 EPM Workspace のメイン・メニューで、「ナビゲート」、「管理」、「次元ライブラリ」の順に選択し、Performance Management Architect にアクセスして、最初のアプリケーションに必要な次元を作成します。

次元の作成方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。必要な次元の詳細は、[第3章「標準 Profitability での次元」](#)を参照してください。

- 3 次元を追加して、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
- 4 「アプリケーション・ライブラリ」から、「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択し、新しい標準または詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションを作成します。「次元ライブラリ」から、Profitability and Cost Management の次元を選択します。

**注：** 新しい Profitability and Cost Management アプリケーションの名前に外国語の文字が含まれるために名前が長くなる可能性がある場合、そのアプリケーションを Performance Management Architect に配置できないことがあります;短い名前 of アプリケーションを作成するか、英語で名前を入力します。

標準または詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションを作成する詳細な手順は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。

- 5 「アプリケーション・ライブラリ」から、新しいアプリケーション名を右クリックし、「検証」を選択します。

検証タスクが送信され、メタデータが確認されます。ジョブ・ステータス・メッセージにあるリンクをクリックして検証タスクのジョブ・コンソールを表示し、「添付ファイル」の下にあるログ・ファイル内の警告またはエラーを表示します。アプリケーションを配置する前に、エラーを修正する必要があります。

- 6 アプリケーション・ライブラリで新しいアプリケーション名を右クリックし、「配置」を選択して、次の手順を行います:

1. 「配置」の「Shared Services プロジェクト」で、「Profitability and Cost Management」アプリケーション・グループの名前を選択します。

**注：** Profitability and Cost Management アプリケーション・グループは、この操作の初回実行時には表示されません。Shared Services で、Profitability and Cost Management アプリケーション・グループまたはプロジェクトを作成する必要があります。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割セキュリティ・ガイド』を参照してください。

2. 「配置」をクリックします。
3. 「ジョブ・タスク」・ウィンドウでジョブ ID のリンクをクリックすると、ジョブ・ステータスが表示されます。
4. 完了メッセージが表示されたら、ジョブ・タスク・ウィンドウの「詳細」の下に新しいアプリケーションが作成され、Profitability and Cost Management に配置されて、選択できるようになっています。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。

- 7 EPM Workspace のメイン・メニューで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「収益性」の順に選択します。「リフレッシュ」をクリックして、新しいアプリケーションを選択します。
- 8 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージング・テーブルのインポート」の順に選択し、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide で説明されているように、モデルの構築を開始するために必要なデータをインポートします。

## Profitability and Cost Management の起動

Profitability and Cost Management は EPM Workspace を通じてのみアクセス可能です。

▶ Profitability and Cost Management にアクセスするには:

- 1 必ず次のアプリケーションを構成、開始および実行してください:

- EPM Workspace
- Shared Services
- Performance Management Architect
- Profitability and Cost Management
- Essbase (標準 Profitability アプリケーションのみ)

必要なアプリケーションがない場合は、管理者へ問い合わせてください。

- 2 Web ブラウザで、EPM Workspace の Web ページにアクセスします。

デフォルトでは、この URL は `http://SERVER_NAME:19000/workspace/` です。

**注：** インストールをカスタマイズすると、ポート番号が変わることがあります。

### 3 EPM Workspace のユーザー名とパスワードを入力します。

**注：** ユーザー名とパスワードは両方とも大/小文字が区別されます。

### 4 「ログオン」をクリックします。

EPM Workspace のメイン・ページが表示されます。

### 5 EPM Workspace のメイン・メニューで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「収益性」の順に選択し、表示するモデルを選択します。

## サンプル・モデルへのアクセス

サンプル・アプリケーションは製品のインストールに含まれており、テストを行うときや機能について自分で調べるときに使用されます。サンプル・アプリケーションには、小さなデータ・セットと、ドライバ、割当ておよび割当てルールの様々な使用方法を示す完成したモデルが含まれます。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理のエクストラクトとデータ・ファイルは、モデル・メタデータ、配賦アーティファクト、費用およびドライバ・データのインポートをサポートするために提供されます。Essbase .otl ファイルも、ライフサイクル管理エクストラクトのかわりに含まれます。これらのファイルを使用して Essbase 次元マスター・キューブを作成し、新しいアプリケーション・マネージャ機能と一緒に使用してサンプル・アプリケーションを作成します。これらのファイルの使用法の詳細は、Oracle Fusion Performance Management の Sample Models Readme ファイルを参照してください。

Performance Management の Sample Models Readme.docx ファイルは次の場所にあります：

```
%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples
```

適切なサンプル・アプリケーション・ファイルは次の場所にあります：

- 標準 Profitability のモデルの場合：

```
%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples\BksSP82
```

- 詳細 Profitability のモデルの場合：

```
%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples\BksDP30
```

**注：** 詳細 Profitability サンプル・モデルは、標準 Profitability サンプル・モデルよりもかなり大きいため、計算に 1 時間近くかかることがあります。

## 出力ログ・ファイルへのアクセス

Profitability and Cost Management に関する情報は、次のログ・ファイルで調べることができます：

表 1 Profitability and Cost Management のログ・ファイル

ログ・ファイル	説明
hpcm.log	<p>現在のログ・ファイルの名前。システムによって以前のログ・ファイルのコピー(履歴ログ・ファイル)が保存されます。</p> <p>Profitability and Cost Management は、アプリケーションまたはサーバーから送信されるアプリケーション固有のメッセージを収集するアプリケーション、サーバー側のログ・ファイルを生成します。</p> <p>このログ・ファイルは、デフォルトでは C:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSysstem\servers\Profitability0\logs にあります。</p> <p>このログ・ファイルへのアクセスについては、システム管理者にお問い合わせください。</p>
SharedServices_Security_Client.log	<p>現在のログ・ファイルの名前。システムによって以前のログ・ファイルのコピー(履歴ログ・ファイル)が保存されます。</p> <p>Shared Services のクライアント側のログ・ファイルで、Profitability and Cost Management と Common Security Services とのハンドシェイクに関する詳細を提供します。</p> <p>このログ・ファイルは、デフォルトでは C:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSysstem\servers\Profitability0\logs にあります。</p>

他の関連する製品とアプリケーションのログ・ファイルについては、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。



## 次元およびメンバーのフィルタ処理および表示

### 共通メンバー・セレクトタの使用

共通メンバー・セレクトタを使用すると、次元メンバーの選択やフィルタ処理を簡単に実行できます。このセレクトタのダイアログ・ボックスは、「ドライバの選択」など、アプリケーション内の様々な場所から開くことができます。


選択されている次元の名前がセレクトタ・ダイアログ・ボックスの最上部に表示され、選択されている次元の使用可能なすべてのメンバーがツリーまたはグリッド・フォーマットでリストされます。

▶ 共通メンバー・セレクトタからメンバーを選択するには:

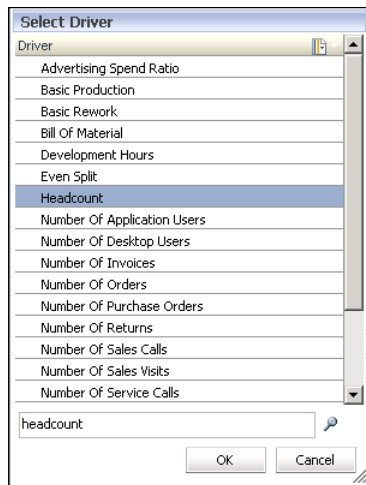
- 1 アプリケーションから、セレクトタ・ボタン  または「追加」  をクリックします。


「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが開き、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。

- 2 メンバー・リストを展開し、メンバーを選択します。

メンバーを検索するには、ダイアログ・ボックスの下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」ボタンをクリックします。 





**3 オプション:** メンバーの表示をフィルタ処理または変更するには、「コンテキスト・メニュー」をクリックし、1つまたは複数のオプションを選択します。

- 「ツリーの表示」は、選択されている次元のメンバーを展開可能な階層で表示します。
- 「グリッドの表示」は、選択されている次元のすべてのメンバーをフラットな連続するリストで表示します。メンバーをフィルタ処理する場合は、この表示モードを選択しておく必要があります。
- 「別名の表示」は、メンバーの別名、つまりメンバーおよび共有メンバーの代替名を表示します。
- 「名前の表示」は、メンバーの名前を表示します。
- 「フィルタ」は、メンバーをフィルタ処理するときに使用します。
- 「ソート」は、フィルタを選択して、メンバーを昇順、降順またはデフォルトの順序で表示するときに使用します。

27 ページの「フィルタの使用」を参照してください。

**4 「OK」をクリックします。**


選択したメンバーが、要求したフィールドに表示されます。

## 列のソート

表示している画面によって、列のソートには2つの方法を使用できます:


- メンバー・セレクタを使用(「ドライバ定義」、「ドライバの選択」、「割当て」、および「データの入力」の各画面上)
- 列ヘッダーをクリック(割当ての宛先、ドライバ例外タブ、およびタスク・フローの管理)

▶ メンバー・セレクタを使用してソートするには:

**1** 画面上、ソートする列の上部にあるメンバー・セレクタをクリックします。

**2** ドロップダウン・リストから「グリッドの表示」を選択します。

この手順は、階層フォーマットを除去してソートを可能にします。



3 画面上のメンバー・セレクタ  を再度クリックし、必要なソート・オプションを選択します。

- 昇順(最小から最大へ)
- 降順(最大から最小へ)
- デフォルト(Essbase データベースの表示のとおり)

選択したソート・オプションを使用してリストが再表示されます。

▶ 列ヘッダーを使用してソートするには:

1 画面で、ソート・アイコンを表示する列ヘッダーをダブルクリックします:

- 「昇順」 
- 「降順」 

2 ソート・オプションを切り替える列ヘッダーをダブルクリックします。

## ツリーおよびグリッド・ビュー・モードの使用

データの編集時には、2つのビュー・モードを切り替えて、次元とそのメンバーを表示できます:


- ツリー・ビューでは、次元とメンバーが展開可能な階層で表示されます。

A
[-] A1
A11
A12
A13
A14

- グリッド・ビューでは、選択されている次元のレベル0のメンバーが連続するリストで表示されます。次元メンバー、ドライバまたはメジャーをフィルタ処理する場合は、グリッド・モードであることが必要です。

A
A11
A12
A13
A14

▶ ビュー・モードを変更する手順は、次のとおりです:

1 データ入力画面の次元列の上部で、ビュー・モードを変更する次元に対して「コンテキスト・メニュー」  をクリックします。

2 必要なビュー・モードを選択します:

- 「ツリーの表示」を選択し、次元とそのメンバーを展開可能な階層で表示します。
- 「グリッドの表示」を選択し、選択されている次元のレベル0のメンバーを連続するリストで表示します。次元メンバー、ドライバまたはメジャー

をフィルタ処理する場合は、グリッド・ビュー・モードであることが必要です。

## フィルタの使用

フィルタは、メンバーの長いリストを絞り込むときに使用し、フィルタ条件を満たすメンバーのみを表示できます。フィルタは、「ドライバの選択」、「割当て」および「データの入力」画面など、複数のオプションから選択する必要がある画面で使用できます。

- フィルタに検索値を入力する場合、フィルタが属性ベースまたは UDA ベースである場合は文字列全体を入力します。
- フィルタの先頭にワイルドカードが必要な場合、使用できるのは疑問符のみです(たとえば、"?ac")。
- 割当てルール名および別名フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などの末尾のワイルドカード記号がサポートされています。たとえば、"B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"



**注：** 割当てルールについては、"\*B"または"B\*a"のように、フィルタの先頭またはフィルタ内でアスタリスクを使用することはできません。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスを使用し、次の形式でフィルタを作成します:

<メンバー名> <操作> <値> <条件>

フィルタに複数のステートメントが含まれる場合、「条件」で AND または OR 条件を使用して、追加のステートメントを付加できます。各ステートメントには大かっこが自動的に挿入され、フィルタは左から右に解決されます。

▶ 次元およびメンバーをフィルタ処理するには:

- 1 「メンバー・セレクタ」  をクリックします。
- 2 「フィルタ」ドロップダウン・リストで、「グリッドの表示」を選択します。  
リストがグリッド・フォーマットに変更され、「フィルタ」オプションがアクティブになります。
- 3 「フィルタ」ドロップダウン・リストで、「フィルタ」  を選択します。  
「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Parameter	Operation	Value	Condition
Name	Is Equal	product	

Buttons: Help, OK, Cancel

4 「パラメータ」の下で、使用可能なパラメータのドロップダウン・リストを表示するセルをクリックし、フィルタ処理するパラメータを選択します:

- 「名前」:
  - 「名前の表示」モードが選択されていると、メンバー名が表示されません。
  - 「別名の表示」モードが選択されていると、別名が表示されます。

**注:** 別名は標準 Profitability のみで使用できます。

- 「属性」(選択可能な場合、「属性」)
- 「UDA」(選択可能な場合、「ユーザー定義属性」)

5 「操作」で、適切なフィルタを選択します:

- 「等しい」
- 「等しくない」

**注:** 現在、名前、別名および属性をフィルタするための EQUAL と NOT EQUAL の両演算子がサポートされています。

現在 UDA でサポートされている演算子は「等しい」のみです。

パラメータとして"Name"が選択されている場合、名前と別名の両方に対して突合せが実行されます。

6 「値」で、セルをクリックして、フィルタの値を選択します:

- 「名前」に、値またはテキストを入力します。名前と別名の両方で一致するものが検索されます。
- 「属性」または「UDA」次元に、選択した属性または UDA 次元の値のドロップダウン・リストからメンバーを選択します。

7 **オプション:** 複数のフィルタ・ステートメントを追加する場合、「条件」で、フィルタを制御する条件を選択します:

- AND
- OR

8 **オプション:** 追加する各フィルタに対して、[手順 4](#) から [手順 7](#) を繰り返します。

## 9 「OK」をクリックします。

フィルタが適用され、フィルタ条件を満たすメンバーのみが表示されます。

## 検索機能の使用

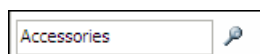
検索機能を使用すると、メンバー・リスト内の1つのメンバーを検索できます。

検索機能は、複数のオプション(ドライバ定義、ドライバの選択、割当て、データの入力など)からの選択を必要とする画面で使用できます。各「検索」フィールドは、そのフィールドが属する列に添付され、一度に1つの列でしか使用できません。

▶ メンバーを検索するには:

### 1 列の一番下にある「検索」テキスト・ボックスにメンバー名を入力します。

名前の一部を入力できます。

A screenshot of a search text box. The text box is rectangular with a thin border and contains the word "Accessories" in a sans-serif font. To the right of the text box is a small magnifying glass icon, indicating a search function.

### 2 「検索」ボタンをクリックします。

選択した名前に最初に一致する名前がメンバー・リストでハイライトされます。



---

## 第 II 部

# 標準 Profitability モデルの操作

---

標準 Profitability モデルの操作の内容：

- 標準モデルおよびシナリオについて
- 標準 Profitability での次元
- 標準 Profitability モデルの管理
- 標準 Profitability 配賦の管理
- モデルの検証
- 計算モデル
- タスクフローの監視
- レポートの実行
- 標準 Profitability での Smart View クエリーの管理
- 標準 Profitability のメジャー次元
- 標準 Profitability での AllocationType 次元





# 2

## 標準モデルおよびシナリオについて

モデルは企業の一部または全体を表し、企業の勘定科目に相当する費用および収益カテゴリを含んでいます。Profitability and Cost Management モデルを使用することで、企業内の費用および収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

モデルは、次の要素で構成されています:

- ステージ - 企業の配賦プロセスの手順を整理します
- 次元は、値を取得および保存するためのビジネス・データの編成に使用されるデータ・カテゴリです。Profitability and Cost Management 内では、次のタイプの次元が使用されます:
  - メジャー次元や AllocationType 次元などのシステム次元:
    - AllocationType 次元は、費用と収益の正しい割り当てや、直接配賦と系統の保管に使用します。
    - メジャー次元には、モデルの構築、検証および計算に必要な次元およびメンバー(費用と収益のメジャー、ドライバの選択など)が含まれています。
  - ビジネス次元 - モデルの各ステージ内のオブジェクト(製品、顧客、地域など)を記述します。次元およびメンバーは、Performance Management Architect で作成され、モデルの基盤となります。
  - POV 次元は、年、シナリオ、期間またはバージョンなど、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。バージョン次元を使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンは、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブの作成に使用できます。
  - 別名次元は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。
  - 属性次元を使用すると、次元メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。
  - UDA(ユーザー定義属性)次元
- ドライバ - 費用または収益のソース値の計算および配賦方法を定義します。選択されているドライバは、次元全体に適用することも、階層の一部、単一のメンバー、さらには単一の交差に適用することもできます。
- 割当て - ソース・データを直接にかまたは定義された割当てルールによって宛先にマップします

- 費用および収入に関する財務データ - データ・ファイルを介して Essbase に直接インポートするか、Profitability and Cost Management を使用して手動で入力します。
- 一部の Performance Management Architect の次元タイプは、Profitability and Cost Management のモデルで使用できます:
  - 勘定科目
  - エンティティ
  - バージョン
  - 時間
  - 国
  - 通貨

これらの次元タイプの使用については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。

これらの要素を組み合わせ、モデル内の配賦ポイントを整理して論理的なフローに編成します。注意深くモデルを作成することで、実際のプロセスおよび活動を網羅し、現実的に費用と収入を配賦することができます。

ビジネス、メジャーおよび POV 次元は、Performance Management Architect で作成され、Profitability and Cost Management リレーショナル・データベースに配置されます。ステージ、ドライバおよび割当ては、Profitability and Cost Management で作成されます。

企業の現在の状況を反映したモデルを作成後、POV のコピー機能を使用して、ベース・モデルの別バージョンを作成できます。シナリオまたは仮定シナリオは、新しい機会および戦略の潜在的な収益性の予測や、代替案またはモデルの変更の評価を実行できる、リスクのない方法です。

[58 ページの「標準 Profitability POV の管理」](#) を参照してください。

## この章の内容

標準モデル作成の手順.....	35
標準 Profitability のワークスペース .....	37
標準 Profitability の次元について.....	38
標準 Profitability のクローン次元.....	40
標準 Profitability の次元タイプ.....	41
標準 Profitability のメジャー次元.....	42
標準 Profitability の AllocationType 次元.....	43
標準 Profitability の別名次元.....	43
標準 Profitability のビジネス次元.....	44
標準 Profitability の属性次元.....	46

## 標準モデル作成の手順

Profitability and Cost Management の標準モデルの作成は、次の手順で行う必要があります:

1. Profitability and Cost Management でモデルを作成する前に、要件、配賦メソッドおよび必要となるステージの数とタイプを定義します。

モデルのビジネス要件と、レポートに対する要求を明確にします。紙と鉛筆、関係者とのディスカッション、フローチャート、ダイアグラム用ソフトウェアなどのツールを使用して、目標を達成するためにモデルに必要とされる概念を固めていきます。場合によっては、最初に実現する必要がある目標を決定してから、目標を満たす最適の戦略を構築するというように、逆算して作業していく方法も有効です。

Essbase アウトラインをデザインする場合は、レポートの目的と要件を綿密に定義します。アウトラインのデザインに労力を投資すると、よいレポートが生成されるという形で報われます。データベース・アウトラインの作成の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

2. データベース・アウトライン、つまり、モデルの各ステージ内のメイン・オブジェクトを構築するために、Performance Management Architect を使用して次元(ビジネス、メジャー、AllocationType、POV 次元など)を定義します。41 ページの「標準 Profitability の次元タイプ」を参照してください。次元の選択手順については、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。

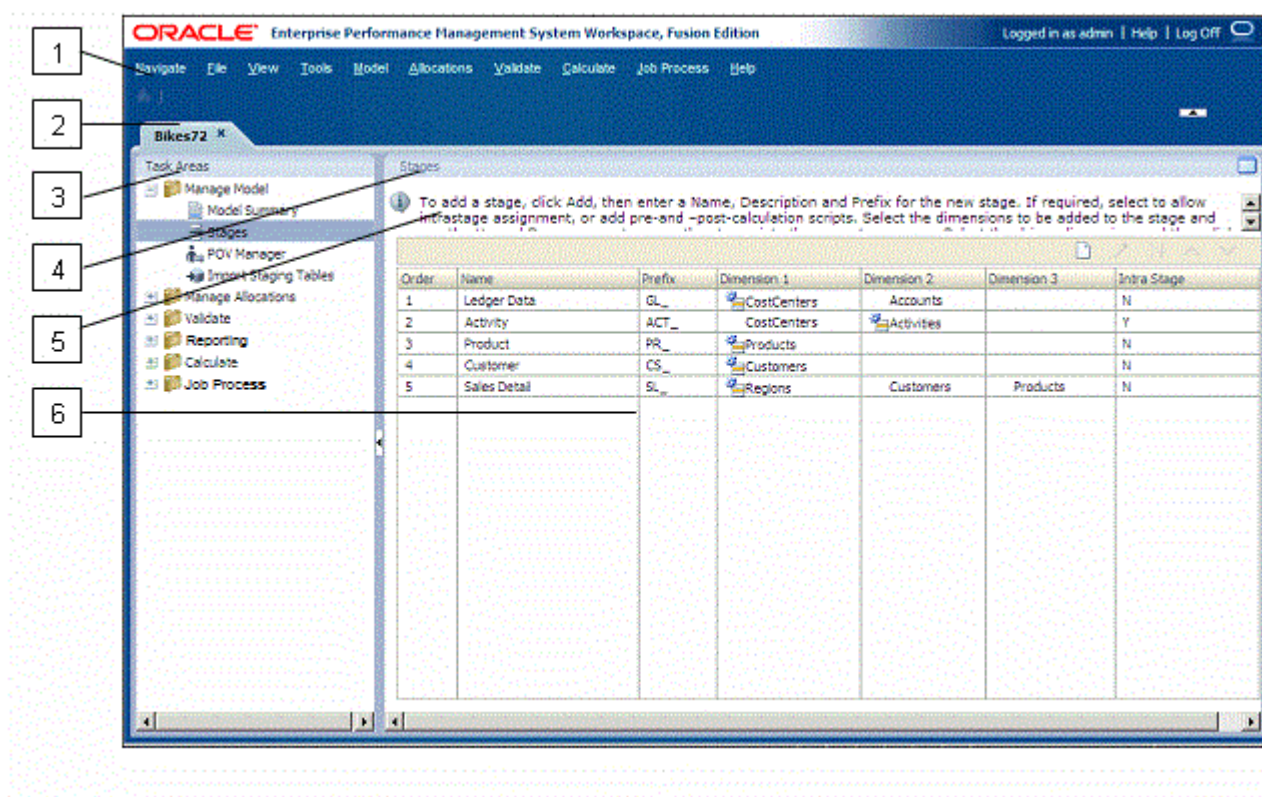
3. モデル・ステージを作成して、プロセスの開始から最終的な製品またはサービスの納品までの計算順序を定義します。ステージ内では、ステージの主要アクティビティに適用する次元を割り当てます。次元はステージ内でシーケンスが付けられ、ステージは計算される順にシーケンスが付けられます。各ステージには最大3つの次元を指定できます。51 ページの「標準 Profitability モデル・ステージの設定」を参照してください。
4. 費用と収益のデータの計算方法を指定するドライバを作成します。各ステージに対して、1つの次元がドライバ次元として選択されている必要があります。70 ページの「標準 Profitability モデルのドライバと式の定義」を参照してください。
5. 選択したドライバ次元のメンバー、またはすべてのステージ次元の交差のメンバーにドライバを割り当てます。ドライバは次元全体、階層の一部、単一のメンバーあるいは単一の交差に割り当てることができます。詳細は、83 ページの「ドライバの選択の作成」を参照してください。
6. 割当てルールを使用してステージ交差の割当てを作成するか、選択次元への明示的割当てを作成します。宛先の交差は、下流のステージまたは同じステージのどちらにあってもかまいません。88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」を参照してください。
7. 各ステージについてモデル構造を検証し、割当てが完全に行われているかどうか、あるいは未使用のドライバがないかどうか、などの検証ルールに適合していることを確認します。詳細は、131 ページの「モデル構造の検証」を参照してください。
8. Essbase データベースを作成し、Profitability and Cost Management により、または直接 Essbase データベースに、費用、収入、ドライバ・データを移入して、計算スクリプトを生成します。66 ページの「標準 Profitability データおよびアーティファクトのインポート」を参照してください。
9. Profitability and Cost Management を使用してモデルに、または直接 Essbase データベースに、データをロードします。詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。
10. 計算用データベースを配置します。142 ページの「計算データベースの配置」を参照してください。
11. レポート用データベースを配置します。145 ページの「レポート・データベースの配置」を参照してください。
12. 各ステージの計算に必要な計算スクリプトを実行します。計算スクリプトの生成や計算など、長時間実行されるジョブの進行状況を監視します。詳細は、第 8 章「タスクフローの監視」を参照してください。
13. ソースおよび宛先交差の直接割当ての結果を取得するよう、計算用データベースを計算します。第 7 章「計算モデル」を参照してください。
14. 「ブロック・ストレージ・オプション」(BSO)を使用する計算用データベースから、「集約ストレージ・オプション」(ASO)を使用するレポート用データベースにデータを転送します。150 ページの「データの転送」を参照してください。
15. 系統データを計算します。151 ページの「系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算」を参照してください。

16. 「ステージの貸借一致」、「ドライバ・データ」および「配賦のトレース」の各レポートを実行します。必要に応じて、モデルやデータの編集と修正を行い、計算を再実行します。次の項を参照してください:
- 134 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」
  - 136 ページの「ドライバ・データ・レポートの生成」
  - 117 ページの「配賦のトレース」
17. Oracle Hyperion Financial Reporting、Oracle Hyperion Smart View for Office または Oracle Hyperion Web Analysis などのレポート・ツールを利用して、計算結果のレポートを作成します。配賦のトレース機能を使用して、モデル全体における、特定のステージ交差からの資金フローを、順方向と逆方向のどちらでも、視覚的に追跡できます。

## 標準 Profitability のワークスペース

EPM Workspace からアクセス可能な Profitability and Cost Management ワークスペースには、2つのメイン領域があります:

- 「タスク領域」ペインでは、モデルの構築、検証および計算、または結果のレポートに必要なプロセスに移動できます。
- コンテンツ・ペインでは、タスク情報を表示したり、データを入力または変更できます。また、モデルおよびそのデータの作成やメンテナンスに関連したタスクも実行できます。



Profitability and Cost Management ワークスペースには、次のアイテムがあります:

1. ウィンドウの上部にある Performance Management Architect のメイン・メニューには、共通の EPM Workspace メニュー・オプション(「ナビゲート」、「ファイナル」、「表示」、「ツール」)に加えて、Profitability and Cost Management メイン・メニュー・オプション(「モデル」、「配賦」、「検証」、「レポート」、「計算」、「ジョブ・プロセス」、「ヘルプ」)が表示されます。
2. 「アプリケーション名」タブに、現在アクティブなアプリケーションの名前が表示されます。
3. 「タスク領域」は、モデル構造の構築、変更、検証、およびモデルの計算に必要なタスクの選択に使用します。また、レポートの生成や、モデル全体における配賦チェーンの調査が可能です。

**注：** タスク領域を変更する際、現在のタスクに存在するメンバー選択の状態は保持されます。この機能により、POV、レイヤーおよびメンバーを再選択せずに画面間を移動できます。メンバー選択の状態は、ユーザーが変更するまで変わりません。

4. タイトル・バーに、現在コンテンツ・ペインに表示されているウィンドウの名前が表示されます。
5. 情報バーには、現在選択されているタスクに関する簡単な説明が表示されます。
6. コンテンツ・ペインには、「ドライバ定義」または「モデルの要約」など、現在選択されているタスクの画面が表示されます。

## 標準 Profitability の次元について

Profitability and Cost Management では、Performance Management Architect で作成された次元およびメンバーを使用して、Essbase アウトラインのビジネス・モデルの構造要素の多くを表現できます：

- 次元。ドライバ、割当てなどのモデルおよびシナリオの構造を実現します
- ビジネス次元。部署、一般会計の勘定科目、アクティビティ、顧客、製品などの、ビジネス固有のモデル要素を表します
- 視点(POV)。期間など
- シナリオ
- バージョン
- その他の属性次元(必要な場合)

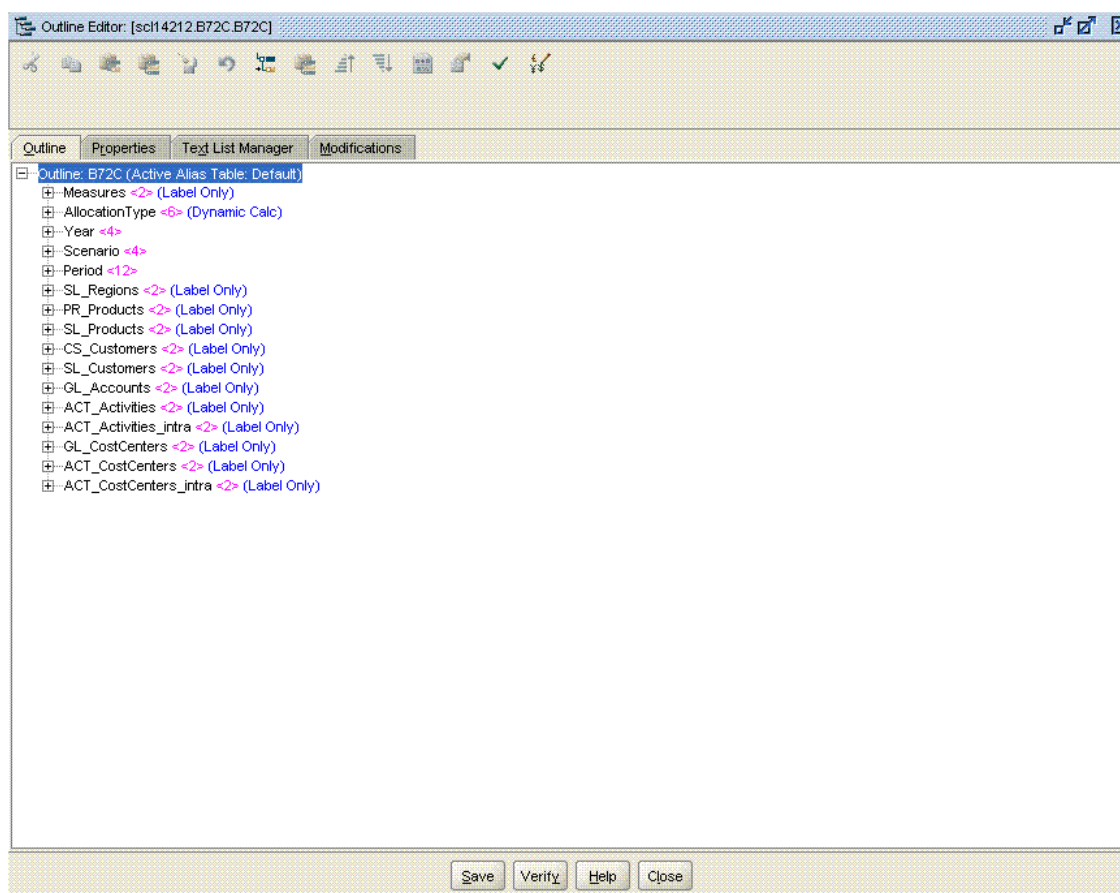
データベース・アウトラインは、モデルのデータ構造を提供し、計算指示や式を含んでいます。Essbase アウトラインでは、次元が階層構造になっており、次元の交差にデータが保存されます。モデルの各ステージには、最大で3つの次元を含めることができます。

---

**注意** メンバーは、同じ次元内で繰り返すことはできません;ただし、複数の次元間では繰り返すことができます。

---

次の図は、Essbase コンソールに表示された、計算用データベースの Essbase アウトラインの例を示しています。



次元には、共有次元とローカル次元があります:

- 共有次元は、Performance Management Architect の「共有ライブラリ」に存在し、複数のアプリケーションで使用できます。
- ローカル次元は、Profitability and Cost Management などの 1 つのアプリケーション内にのみ存在する、分離された独立次元です。これらの次元は、これらが作成されているアプリケーションに対してのみ使用されます。

作成できる次元およびメンバーの数に制限はありませんが、次元構造が大きくなると、パフォーマンス上の問題が発生します。

次元は、Performance Management Architect で作成および管理しますが、モデル内で使用するには事前に作成しておく必要があります。Performance Management Architect により、Profitability and Cost Management 管理者は、別の製品から既存の次元およびメンバーを選択することや、モデル専用次元およびメンバーを新しく作成することができます。複数の製品およびアプリケーション間で、汎用のデータを共有および更新できます。アプリケーションが配置されると、Profitability and Cost Management アプリケーションで次元とそのメンバーを使用できるようになります。

---

**注意** モデリング・プロセスを開始した後では、次元および次元階層を追加または削除しないことをお勧めします。

---

各次元には、次元タイプおよび次元名を指定する必要があります:

- 「次元タイプ」は、次元のプロパティで、定義済の機能をアプリケーションで使用可能にします。Profitability and Cost Management の次元タイプの詳細は、41 ページの「標準 Profitability の次元タイプ」を参照してください。
- 「次元名」は、次元が持つ、組織またはビジネス上の内容を識別するためのものです。たとえば、「勘定科目タイプ」の次元には、「一般会計」や「勘定科目表」などの次元名を付ける場合があります。次元名に次元タイプを反映する必要はありませんが、反映することもできます。

Essbase データベースにデータ値を入力またはロードするには、データベースのすべての次元のメンバーにデータ値を割り当てます。これをデータ値の次元交差と呼びます。次元交差は、データベースの一意の場所またはセルを識別します。

次元の作成、管理、操作の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。次元とメンバーの次元の命名規則については、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。

## 標準 Profitability のクローン次元

モデル内の 1 つ以上のステージに次元が含まれるインスタンスでは、モデルが Essbase に配置され、Performance Management Architect で開かれると、自動的に追加されたクローン次元が表示されます。クローン次元は、その次元が使用されている各ステージの次元の異なるバージョンを作成します。クローン次元は、Performance Management Architect の「設定」ダイアログ・ボックスには表示されません。

たとえば、Department という次元を作成し、モデル内の一部のステージでこの次元を使用する場合、モデルが Essbase に配置されると、モデル内にクローン次元が作成されます:

- Department (元の次元)
  - GLDepartment (接頭辞 GL のステージに対するクローン次元)
  - OPSDepartment (接頭辞 OPS のステージに対するクローン次元)
  - OPSDepartment\_intra (ステージ内割当てが可能な接頭辞 OPS のステージに対するクローン次元)。

---

**注意** Profitability and Cost Management で管理されているため、Performance Management Architect でこれらのクローン次元を変更しないでください。

---

追加のメンバーが必要な場合は、元の次元にのみ新規メンバーを追加します。新規メンバーは、アプリケーションが再配置されるとクローン次元に追加されます。

**注:** クローン次元に対する更新は、Profitability and Cost Management および Essbase には渡されません。



## 標準 Profitability の次元タイプ

次元タイプは、事前定義された機能を使用可能にする次元プロパティです。次元タイプの特定の特性により、次元の動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architect および他の EPM Workspace 製品で特定の次元タイプを共有できるため、様々な製品の次元の機能を活用できます。

Profitability and Cost Management の場合、次のタイプの次元を Essbase アウトラインで使用できます:

- メジャー次元や AllocationType 次元などのシステム次元は、Performance Management Architect から Profitability and Cost Management へ移入されます。必要な次元は、第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」と第 12 章「標準 Profitability での AllocationType 次元」に記載されています。
- 別名次元は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。
- ビジネス次元は、部署、勘定科目、アクティビティ、顧客または製品などのモデル内の構造を説明します。これらは、1 つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります。
- 属性次元を使用すると、次元メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。
- POV 次元は、年、シナリオ、期間またはバージョンなど、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。バージョン次元を使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンは、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブの作成に使用できます。
- 一部の Performance Management Architect の次元タイプは、Profitability and Cost Management のモデルで使用できます:
  - 勘定科目
  - エンティティ
  - バージョン
  - 時間
  - 国
  - 通貨

これらの次元タイプの使用については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。

**注:** 次元アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』の Essbase 命名規則に関する項を参照して最新の規則を確認することをお勧めします。

Profitability and Cost Management の次元の詳細は、次の各項を参照してください:

- [42 ページの「標準 Profitability のメジャー次元」](#)
- [43 ページの「標準 Profitability の別名次元」](#)

- 44 ページの「標準 Profitability のビジネス次元」
- 46 ページの「標準 Profitability の属性次元」

次元およびメンバーの作成と管理の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide および『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

## 標準 Profitability のメジャー次元

メジャー次元には、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバーが含まれています。メンバーは、配賦プロセスに使用されるデータを保存します。費用データと収入データには、互いに異なるメジャーが存在します。

メジャー次元に含まれるメンバーとその説明は、[第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」](#)を参照してください。

---

**注意** この次元のシステム・メンバーは編集しないでください。データが消失したりモデルが破損する可能性があります。

---

メジャー次元のメンバーには、配賦プロセスに必要なビジネス次元メンバーの、様々なタイプのデータが保存されます:

- 42 ページの「ドライバ・メジャー」
- 42 ページの「レポート・メジャー」
- 43 ページの「配賦メジャー」

### ドライバ・メジャー

ドライバ・メジャーは、Quantity や Rate など、ドライバ式でパラメータとして使用される値を保存します。定義済のドライバ・メジャーが 10 個あります。ユーザー定義のドライバ・メジャーをいくつでも追加できますが、ドライバ・メジャーは Essbase アウトライン内で一意であることが必要です。

ドライバ・メジャー次元に含まれるメンバーの詳細は、[第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」](#)を参照してください。

### レポート・メジャー

レポート・メジャーは、レポート作成時に簡単に使用できます。レポート・メジャーは、メジャー次元内に別の階層を形成しています。任意のメジャーに関するレポート作成が可能になります。

レポート・メジャー次元に含まれるメンバーの表示については、[第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」](#)を参照してください。

Essbase 内に存在する別の階層の詳細は、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

## 配賦メジャー

配賦メジャーは、システム定義のメジャーで、上位モデル・ステージまたはデータ・ロードから渡される費用および収益の入力を保管します。また、費用および収益の両方に対する、計算および入力された費用の配賦を制御するために使用されます。

**注：** メジャー次元の配賦メジャーは、[第 12 章「標準 Profitability での AllocationType 次元」](#)で説明されている AllocationType 次元の DirectAllocation および GenealogyAllocation メジャーとは異なりますので、注意してください。

費用レイヤー配賦と収益レイヤー配賦には、互いに異なる配賦メジャーが存在します。費用レイヤーおよび収益レイヤーの配賦メジャー次元に含まれるメンバーの詳細は、[第 12 章「標準 Profitability での AllocationType 次元」](#)を参照してください。

## 標準 Profitability の AllocationType 次元

AllocationType 次元は、Performance Management Architect からインポートされます。この次元を使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。

[第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」](#)を参照してください。

## 標準 Profitability の別名次元

別名は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を簡単に識別できるようになります。1 つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義の次元メンバーに割り当てることができます。

**注：** 重複メンバー名または別名は使用できません。

Profitability and Cost Management では、別名を Performance Management Architect に設定する必要があります。別名次元の作成の詳細は、[Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide](#)を参照してください。

---

**注意** アプリケーションが Profitability and Cost Management に再配置されるまでは、別名の関連付けを Performance Management Architect で削除しても、モデルからは削除されません。

---

インストール後、Default 別名テーブルが使用可能になります。再配置後は、ドライバの選択、割当て、データ入力、ドライバの例外およびトレース配賦を含む共

通メンバー・セレクトを使用するすべての画面で別名を表示できます。「別名の表示」オプションが選択されていると、検索およびフィルタ処理の使用が可能になります。



「メンバー・セレクト」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー・リストの表示名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー Product は、メンバー・リストで[product]と表示されます。

**注：** ドライバの追加または変更時にアクセスするドライバの選択セレクトでは、別名ビューは使用できません。


特定の次元が Essbase で複製されている場合、別名が複製される場合があります。

▶ 別名を表示するには:

1 アプリケーションから、共通メンバー・セレクトを使用する任意の画面(「ドライバの選択」、「割当て」、「データの入力」および「配賦のトレース」など)を選択します。

2 「配賦のトレース」のみ: セレクト・ボタン  または「追加」ボタン  をクリックします。

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが開き、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。

3 「コンテキスト・メニュー」  をクリックし、「別名の表示」を選択します。

メンバーのリストに別名が表示されます。

**注：** 「メンバー・セレクト」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー Product は、メンバー・リストで[product]と表示されます。

## 標準 Profitability のビジネス次元

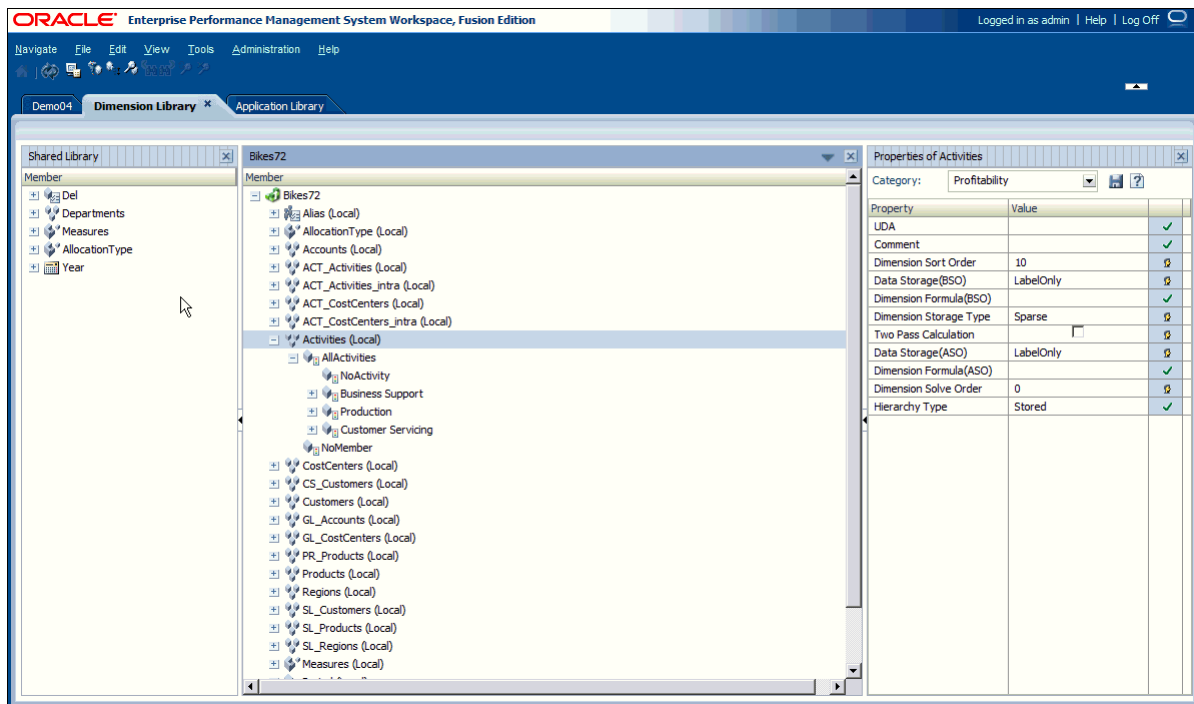
モデルのビジネス次元には、製品タイプ、販売地域、製造プロセス、総勘定元帳、給与計算、部署など、ビジネスまたは組織の要件に特に関連する情報が保管されるメンバーが含まれています。

少なくとも1つのビジネス次元をアプリケーションのユーザーが定義する必要があります。ビジネス次元は、ビジネス固有の部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、場所、顧客および製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。

Essbase アウトラインが配置されると、Profitability and Cost Management アプリケーションでビジネス次元がタイプのない基本次元または汎用次元として作成されます。この機能を使用すると、Profitability and Cost Management で、Planning などの他のアプリケーションで定義されている次元メンバーおよび階層を再使用できます。

# ビジネス次元メタデータ・ルール

ビジネス次元は、Performance Management Architect で作成されます。



ビジネス次元を作成する場合、次の要件が適用されます:

- 通常、Gen1 次元名の下にある最初の世代 2 の子は、ALL メンバーに設定されます。たとえば、Departments 次元の場合は AllDepartments になります。

プライマリ階層は、最初の世代 2 の子の下でホストされます。割当モデリングでは最初の世代 2 階層のみが使用され、この階層に共有メンバーを含めることはできません。

**注意** Profitability and Cost Management では Gen2 の最初のメンバーのみが表示されますが、Essbase では Gen2 の他のメンバーもすべて表示されます。

- 次元の Gen1 メンバーの次のプロパティは LABEL\_ONLY に設定する必要があります:
  - DataStorage(BSO)
  - DataStorage(ASO)
- ビジネス次元は、レポートで使用される可能性がある代替階層をホストできますが、これらの階層は、モデルの構築には使用されません。この次元が代替階層で共有メンバーを持つ場合(2 番目またはそれ以降の世代 2 メンバーの下)は、これらのメンバーの HierarchyType を「動的」に設定します。これらのメンバーを Essbase で表示することは引き続き可能です。詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。

これらの代替階層は、Profitability and Cost Management モデリング画面には表示されず、Essbase でのみ表示できます。

- NoMember メンバーが必要です。階層内の最後の世代 2 の子は常に NoMember であるとともに、集計が IGNORE (~) に設定されている必要があります。
  - 計算用データベースで、NoMember の集計記号を IGNORE (~) に設定します。
  - レポート用データベースでは、ユーザー次元は「保管」次元であるため、次元のルート・メンバーを LABEL ONLY に設定した場合、NoMember の集計は IGNORE (~) にしか設定できません。次元のルート・メンバーを LABEL ONLY に設定すると、データは保管されず、レポート作成で使用された場合は最初の子のデータ値が取得されます。

**注：** NoMember メンバーは、Performance Management Architect によって自動的に追加されるため、.ads ファイルで作成する必要はありません。このメンバーは削除しないでください。

## 標準 Profitability の属性次元

属性次元は、ビジネス次元に関連付けられた次元の特殊なタイプです。属性は、製品のサイズ、色など、データの特性を示します。テキスト属性のみ現在はサポートされています。

属性機能を使用して、次元の観点からのみでなく、それらの次元の特性、つまり属性の観点からもデータを取得して分析できます。たとえば、製品の収益性をサイズやパッケージに基づいて分析でき、さらに各市場地域の人口サイズなどの分析市場属性に組み込むことで、より効果的な結論を下すことができます。

# 4

## 標準Profitabilityモデルの管理

### この章の内容

標準 Profitability モデルの管理について .....	47
標準 Profitability モデルの要約の操作 .....	48
標準 Profitability モデル・ステージの設定 .....	51
標準 Profitability の視点(POV)の操作 .....	56
標準 Profitability のモデル統計のクエリー .....	64
標準 Profitability データおよびアーティファクトのインポート .....	66

### 標準 Profitability モデルの管理について

モデルの管理オプションは、モデルの上位レベル構造を構築したり、モデルのプリファレンスおよび接続を制御するために使用します。

「モデルの要約」から、システム情報を表示したり、モデル・レベルのプリファレンスを設定できます。

「ステージ」セクション内で、モデルで定義されている各ステージに「Essbase」次元を割当て、ステージのデータが保管される交差を作成します。

視点(POV)は、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します;たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。

データ入力を容易にするため、Essbase、または Profitability and Cost Management の「データの入力」画面からデータを入力できます。Profitability and Cost Management の管理者が作成したステージング・テーブルを使用し、ドライバ定義、ドライバの選択、割当てなどのモデル情報を Profitability and Cost Management にロードできます。

モデルの管理については、次の項を参照してください:

- 48 ページの「標準 Profitability モデルの要約の操作」
- 51 ページの「標準 Profitability モデル・ステージの設定」
- 56 ページの「標準 Profitability の視点(POV)の操作」
- 66 ページの「標準 Profitability データおよびアーティファクトのインポート」

# 標準 Profitability モデルの要約の操作

「モデルの要約」では、選択されたアプリケーションのシステム詳細情報が表示され、モデル・レベルのプリファレンスを変更できます。

「モデルの要約」には次のタブがあります:

- 48 ページの「システム情報」タブ
- 49 ページの「モデル・レベルのプリファレンスの設定」

## 「システム情報」タブ

「システム情報」タブには、リレーショナル・データベース、Essbase 接続、承認されたユーザーおよび関連付けられたシステム・コンポーネントなどの、選択されたモデルの詳細が表示されます。

ほとんどのシステム情報は読取り専用ですが、計算/レポート用アプリケーション/データベースの名前は入力、変更できます。

▶ 「システム情報」タブにアクセスするには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。

「システム情報」タブが表示されます。

The screenshot displays the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition interface. The main window shows the 'Model Summary' view for a model named 'Bikes72'. The 'System Information' tab is selected, displaying detailed information about the Profitability relational database (RDB), Essbase, and the associated System Components.

**System Information**

Profitability RDB Information

Server:	adc5140686.us.oracle.com	Database:	adc5140686
Schema Version:	0.95		

Essbase Information

Cluster:	EssbaseCluster-1		
Calculation Application:	Bikes72C	Calculation Database:	Bikes72C
Reporting Application:	Bikes72R	Reporting Database:	Bikes72R

User Information

User ID: admin

Role: Application Creator, Planning Application Creator, Manage Taskflows, Project Manager, Dimension Editor, Profitability Application Creator, Provisioning Manager, Create Integrations, Run Integrations, Calculation Manager Administrator, Essbase Application Creator, EPMA Administrator, Financial Management Application Creator, Administrator, Financial Management Calculation Manager Administrator, Run Taskflows, Administrator, Directory Manager, Planning Calculation Manager Administrator, LCM Designer, LCM Administrator

System Components Information

System	Cluster	HTTP Port	HTTPS Port	Version/Build
Enterprise Performance Management Architect	sd14103.hyperion.com	19000	19047	11.1.2.1.00.1539
Profitability and Cost Management	sd14103.hyperion.com	19000	6743	11.1.2.2.00.77
Analytical Provider Services	sd14103.hyperion.com	19000	13083	11.1.2.0



表 2 「システム情報」タブ

タブ領域	説明
Profitability RDB の情報	リレーショナル・データベース(RDB)サーバー、およびモデル・データが置かれたデータベースの名前。選択したアプリケーションで使用されているスキーマのバージョンも表示されます。
Essbase 情報	モデル構造および関連するデータベースの名前が存在する Essbase 多次元データベース・クラスタまたはサーバーの名前。  計算とレポートのアプリケーション、およびデータベースの名前を入力または変更します。制限付きの語および制限文字の詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。
ユーザー情報	「ユーザー情報」の「データベース」フィールドには、Profitability and Cost Management データベースへのアクセス権があるユーザーのユーザー ID と、そのユーザーに関連するすべてのセキュリティ役割が表示されます。  <b>注：</b> このユーザーに Essbase データベースとアプリケーションへのアクセス権が付与されていることを確認してください。詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。
システム・コンポーネントの情報	インストールに含まれる各コンポーネントの次のような詳細: <ul style="list-style-type: none"> <li>● システム - EPM コンポーネントの名前が表示されます。</li> <li>● クラスタ - そのコンポーネントをホストしているクラスタまたはサーバーの名前が表示されます。</li> <li>● HTTP ポート - コンポーネントで使用しているポートが表示されます。</li> <li>● HTTPS ポート - コンポーネントで使用しているセキュアなポートが表示されます(使用可能な場合)。</li> <li>● バージョン/ビルド - リストされたコンポーネントのバージョンとビルド番号が表示されます。</li> </ul> <p>列ヘッダーをクリックして、列をソートできます。「システム」列と「ホスト」列はアルファベット順にソートされ、「ポート」列と「バージョン/ビルド」列は数値順にソートされます。</p>

## モデル・レベルのプリファレンスの設定

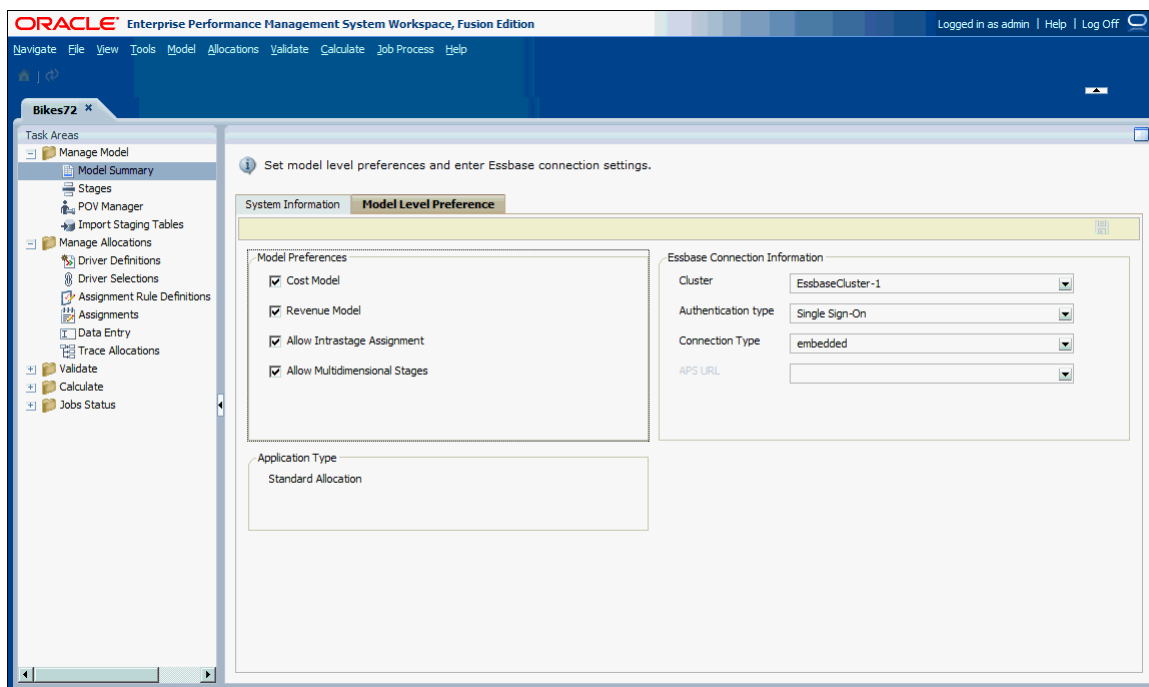
表示プリファレンスを使用するようにアプリケーションをカスタマイズできます。「モデル・レベルのプリファレンス」タブの設定はモデル全体に適用されます。

また、選択したモデルに対して Essbase 接続情報も指定します。

**注意** プリファレンスはモデルのライフ・サイクルのどの時点でも変更可能ですが、サイクルの後の方で変更を加えるとデータが消失する可能性があります。

▶ モデル・レベルのプリファレンスを設定するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」、続いて「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。



- 3 「モデル・レベルのプリファレンス」タブの「モデル・プリファレンス」で、モデルのコンテンツを制御する1つ以上のプリファレンスを選択します。選択可能なプリファレンスについては、表3で説明します。

表3 モデル・レベルのプリファレンス

設定	説明
費用モデル	アプリケーションのモデリング・エディタにすべての関連する費用を表示します
収益モデル	アプリケーションのモデリング・エディタにすべての関連する収益を表示します
ステージ内割当てを許可	ユーザーが同一のステージ内で複数の費用または収益割当てを作成できるようにします。
多次元ステージを許可	ユーザーが最大3つの次元で構成されるモデル・ステージを作成できるようにします

- 4 「Essbase 接続情報」で、モデルの Essbase 接続情報を入力します。必須の入力情報については、表4で説明します。

表4 Essbase 接続情報

設定	アクション
クラスタ	Essbase データベースへの接続を提供する Essbase サーバーの論理名を選択します。この名前は、クラスタ化された、またはクラスタ化されていない Essbase サーバーをポイントできません。
認証タイプ	Essbase の認証タイプとして「シングル・サインオン」を選択します。

設定	アクション
接続タイプ	<p>接続のタイプを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 埋込み</li> <li>● APS</li> </ul> <p>Oracle Hyperion Provider Services Administration Guide を参照してください。</p>
APS URL	<p>「接続タイプ」として「APS」が選択されている場合にのみアクティブになります。</p> <p>Oracle Hyperion Provider Services が実行されているサーバーの論理 Web アプリケーション(LWA)を表す APS の URL を選択します。</p> <p>構成中に、使用可能な APS サーバーが Shared Services レジストリに登録されます。</p> <p>デフォルトでは、APS URL は <code>http://localhost:13080/aps/JAPI.</code> に設定されています。</p>

## 5 「アプリケーション・タイプ」に、「標準配賦」が表示されます。

アプリケーション・タイプは、「Performance Management Architect」でアプリケーションを作成するときに選択され、変更できません。

**注：**「配賦割当て」アプリケーションを作成するには、[第 15 章「詳細 Profitability モデルの管理」](#)を参照してください。

## 6 「保存」ボタンをクリックします。

# 標準 Profitability モデル・ステージの設定

Profitability and Cost Management では、ビジネスの主要なプロセスやアクティビティを反映したモデル・ステージを作成します。各ステージには、そのステージのデータを保存する交差を定義するための次元を割り当てます。ステージは Profitability and Cost Management にのみ存在し、Performance Management Architect や Essbase では認識されません。

ステージは勘定科目、市場、リソース・グループ、材料、業務カテゴリ、設備、プロセス、製品、部品、提供サービス、顧客カテゴリ、個別顧客など、ほぼあらゆるタイプの要件に対して作成できます。1 モデルにつき最大 9 つのステージを定義できます。ステージ名は、各モデルまたはアプリケーションで一意であることが必要です。

各ステージに対して少なくとも 1 つの次元を割り当てる必要があります。各ステージに最大 3 つの次元を含めることができます。同じ次元は、複数のステージに割り当てることができます;ただし、次元とステージの組合せを区別するために一意のステージ接頭辞を設定する必要があります。それぞれのステージ内の次元の数は異なってもかまいません。たとえば、あるステージは 3 つの次元を持ち、他のステージは 1 つまたは 2 つの次元を持つということも可能です。ステージごとに複数の次元が必要な場合は、[49 ページの「モデル・レベルのプリファレンスの設定」](#)を参照してください。

費用と収益の計算はシーケンスをたどって行われるため、各ステージは最初のプロセスから最後のプロセスへ向けて論理的に並べる必要があります。1 つのステージで計算、保存される結果は、次のステージでソース値として配賦されます。複

数のステップを必要とする配賦を作成するには、複数のステージにわたる計算シーケンスを定義します。複数のステージに関連する費用内訳は容易に取得、評価できます。

モデルのステージ内では、費用と収益の計算は次の条件によって制御されます:

- モデル・ステージの順序は、モデル全体におけるアクティビティ、財務の費用および収益の全体的フローを反映した計算順序に沿って設定する必要があります。
- 各ステージ内では、1つの次元のみをドライバ次元として指定する必要があります。

「ステージ」画面では、アプリケーションの「上へ」および「下へ」ボタンを使用して、ステージと次元の順序を指定します;ただし、ステージの配置後にステージの順序、名前、接頭辞を変更した場合は、モデルの再配置が必要になります。

各ステージ・レコードには約 1,000 文字のノート、つまりテキスト・レコードが入力可能です。

モデル・ステージの操作の詳細は、次の項を参照してください:

- [52 ページの「モデル・ステージの追加」](#)
- [55 ページの「モデル・ステージの変更」](#)
- [56 ページの「モデル・ステージの削除」](#)

## モデル・ステージの追加

ステージは組織内の配賦のネットワークを表します。計算は、最初の配賦から納品や問題解決へと向かう、順方向に行われます。逆方向のフローは許可されません。

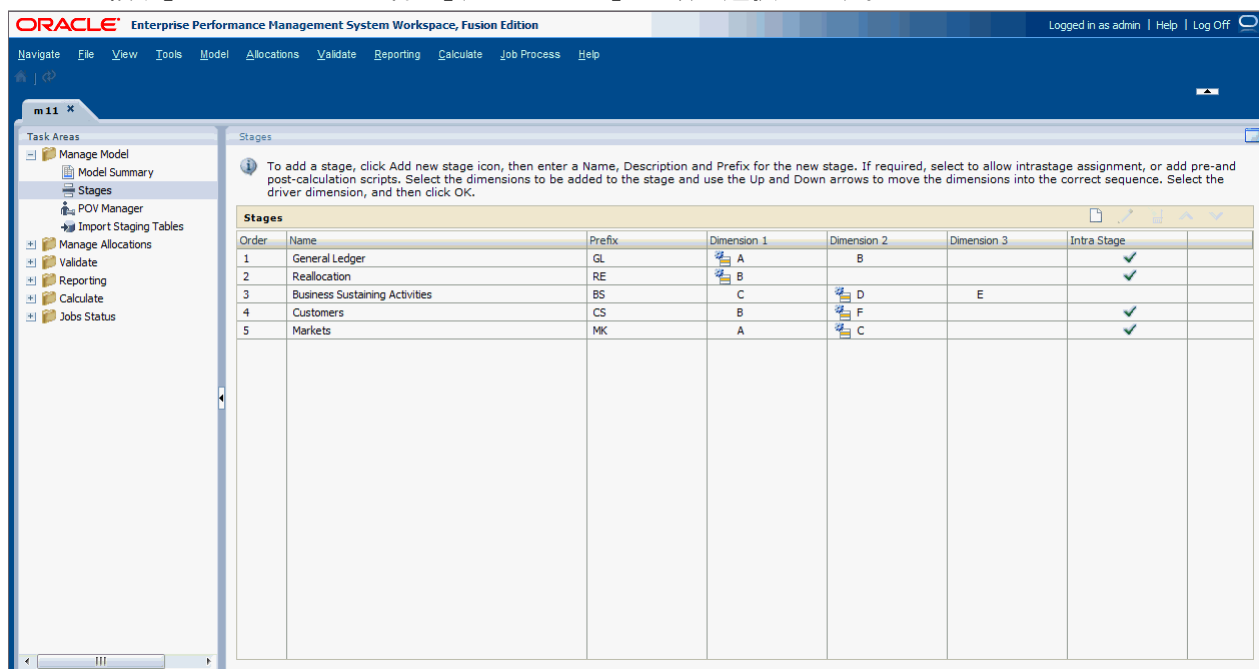
計算シーケンスは、正確な結果を取得するために非常に重要です。計算順序はステージ・ウィンドウに表示される次元とステージの順序によって決定されます。次の例では、モデルの計算が指定された順序で行われ、各ステージの結果が次のステージに送信されます:

- ステージ 1
  - 次元 1
  - 次元 2
  - 次元 3
- ステージ 2
  - 次元 1
  - 次元 2
  - 次元 3
- ステージ 3 など。

各ステージには、名前とステージ接頭辞が必要です。

▶ モデル・ステージを追加するには:


1 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition. The interface includes a 'Task Areas' sidebar on the left with 'Stages' selected. The main window displays a 'Stages' table with the following data:

Order	Name	Prefix	Dimension 1	Dimension 2	Dimension 3	Intra Stage
1	General Ledger	GL	A	B		
2	Reallocation	RE	B			✓
3	Business Sustaining Activities	BS	C	D	E	
4	Customers	CS	B	F		✓
5	Markets	MK	A	C		✓

ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます:

- 「順序」には、モデル内のステージの順序位置番号が表示されます。
- 「名前」には、ステージの名前、通常は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
- 「接頭辞」は、ステージに割り当てられた英数字の接頭辞です
- ステージに含まれる次元。ステージのドライバ次元は、ドライバ・アイコンで示されます。
- 「ステージ内」フィールドには、ステージに対してステージ内割当てを許可するかどうかを示すチェックマークが表示されます。

2 「新規ステージの追加」をクリックします。

**Stage**

Name:

Description:

Prefix:

Allow Intrastage Assignments:

▼ Scripts

Precalculation

Postcalculation

**Stage Dimensions**

Order	Dimension	Driver
1	Accounts	<input type="checkbox"/>
2	Regions	<input type="checkbox"/>

Help OK Cancel

- 3 「名前」に、ステージのわかりやすい一意の名前を最大 80 文字で入力します。

名前は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表すものにします。

- 4 **オプション:**「説明」に、そのステージに含まれる情報のタイプについての簡単な説明を、最大 255 文字までで入力します。

- 5 「接頭辞」の下に、選択したステージの一意の接頭辞を英数字で入力(最大 80 文字)します。

ステージの接頭辞は、次元とステージの組合せを区別するために使用します。たとえば、次元 Department が 2 つのステージで使用される場合、一方に接頭辞 General Ledger を、他方に接頭辞 Process を付けることができます。生成されるレポートでは、これらの次元は General Ledger-Department および Process-Department と表示されます。


- 6 **オプション:** 同ステージ内での配賦が必要な場合は、「ステージ内割当てを許可」を選択して、そのステージにステージ内配賦があることをマークします。

- 7 **オプション:** 手動で作成した計算スクリプトが使用可能な場合は、「スクリプト」で、「計算前」または「計算後」のスクリプト名を入力します。

オプションである計算前および計算後のスクリプトは、EAS コンソールのスクリプト・エディタで手動で作成し、Profitability and Cost Management で実行できます。スクリプトは Essbase に保存され、Essbase セルをユーザーが正しい値に初期化するために使用できます。

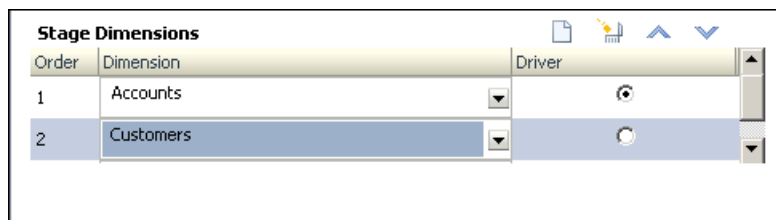
ステージに対して選択したスクリプトのタイプに応じて、ステージでの配賦またはレポート作成の準備のために、スクリプトが次のように実行されます:





- 計算前スクリプトは、ステージの計算スクリプトよりも前に実行されます。
- 計算後スクリプトは、ステージの計算スクリプトよりも後に実行されます。

- 8 「ステージの次元」ツールバーで、「追加」 

次元のリストに1行が追加され、「順序」にはその次のシーケンス番号が表示されます。「次元」リストには、モデル内で使用可能なすべての次元が移入されます。

- 9 「次元」の下で、新しいステージに適用される次元を選択します。








- 10 オプション: 手順 8 から手順 9 までを繰り返す、各ステージで最大 3 つの次元を追加します。
- 11 オプション: 「順序」の下で次元を選択し、「上へ」 または「下へ」 ボタンを使用して次元を計算シーケンス内の適切な位置に移動します。
- 12 「ドライバ」の下で、ステージのドライバ次元を選択します。
- 13 「OK」をクリックします。
- 14 オプション: 「ステージ」表からステージを選択し、「上へ」 または「下へ」 ボタンを使用して各ステージを計算シーケンス内の適切な位置に移動します。

## モデル・ステージの変更

モデル・ステージは簡単に変更できますが、モデルの配置後に次のいずれかの項目を変更すると、モデルの再配置が必要になります。

▶ モデル・ステージを変更するには:

- 1 オプション: ステージを変更する前に、次元メンバーなどのメタデータを Performance Management Architect で変更し、メタデータの変更を Profitability and Cost Management に配置します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。
- 3 変更するステージを選択し、「ステージの編集」 をクリックします。
- 4 次の任意のアイテムを変更します:
  - 名前
  - 説明
  - 接頭辞
  - ステージ内設定
  - スクリプト
- 5 オプション: 「次元」の下で、選択した次元を必要に応じて変更します。
- 6 オプション: 「順序」の下で、「上へ」 または「下へ」 ボタンを使用して次元を正しいシーケンスになるよう再配置します。

- 7 **オプション:** 「ドライバ」の下で、ステージに対して別のドライバ次元を選択します。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 **オプション:** ステージを選択し、「上へ」  または「下へ」  ボタンを使用してステージの順序を変更します。

**注:** この操作により計算の順序が変更され、このステージに関連するすべての割当てと割当てルールを選択が無効になります。


- 10 アイテム(ステージ名、説明、ステージ内の次元の順序以外)が変更された場合は、モデルを再配置します。

**注:** ステージ名、説明および次元の順序は、Essbase キューブの配置状態に影響しません。

## モデル・ステージの削除

モデル・ステージを削除すると、モデルの計算は自動的に変更されます。ステージ次元に設定されているドライバの関連付けや割当ても削除されます。ステージの削除後、新しい計算フローを正しく反映するよう、ステージを並べ替える必要があります。

▶ モデル・ステージを削除するには:



- 1 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。
- 2 「ステージ」ダイアログ・ボックスで、削除するステージを選択します。
- 3 「ステージの削除」  をクリックします。

メッセージにより、削除を確認するよう求められます。

---

**注意** このステージに関するドライバの選択や割当ても削除されます。

---

- 4 「はい」をクリックして、ステージとそのドライバ選択および割当てを削除します。
- 5 **オプション:** 「順序」の下で、「上へ」  または「下へ」  ボタンを使用して他のステージを正しい計算シーケンスになるよう再配置します。

## 標準 Profitability の視点(POV)の操作

モデルの視点(POV)は、選択された期間(年など)、ステータスおよびシナリオ用に、モデル情報の特殊なビューを提供します。POV 次元のメンバーはユーザー定義であり、モデリングや仮定分析において多様な POV の組合せを提供します。

少なくとも1つの POV 次元が必要であり、最大4つ作成できます。まず POV 次元を定義し、次にこれらの次元の名前を定義します。計算は、各月または状況に固有のデータ、ドライバおよび割当てを使用して行われます。



組織の POV 次元の名前と構造は完全にカスタマイズできます。代表的な POV には「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれます。Profitability and Cost Management のほぼすべてのアクティビティにおいて、最初の手順は POV を選択することです。

POV が「ドラフト」ステータスに設定されている場合のみ、モデルは編集可能になります。POV は新しいドライバ、条件あるいはメンバーを反映するように変更でき、新しいシナリオを試すことができます。これらのシナリオを比較することにより、変更点がプロセスや最終結果にどのように影響するのかを評価できます。また、複数の POV バージョンを作成できるため、同一の POV の異なるバージョンを保持することで、モデルの変更点がもたらす影響を監視したり、同一モデルの異なるバージョンを追跡することが可能です。

POV の詳細は、次の項を参照してください:

- [57 ページの「POV 次元」](#)
- [57 ページの「POV のステータス」](#)
- [58 ページの「バージョン次元」](#)
- [58 ページの「標準 Profitability POV の管理」](#)

## POV 次元

視点(POV)の次元はモデルの特定のバージョン、あるいはモデルに対する特定の視点を表すために使用します。各モデルには、少なくとも 1 つの次元を POV 次元に指定する必要があります。POV 次元には、モデルに必要な任意の項目を選択できます。POV 次元として使用される代表的な例を次に示します:

- 期間 - 時間に伴って変化する戦略や変更点を分析できます。モデルのベースを任意の時間単位(四半期、月、年次、年など)にできるため、時系列で戦略を分析したり、在庫や償却を監視できます。時間次元を作成する手順の詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。
- 年 - 暦上の年を指定してデータを収集します。
- シナリオ - 特定の期間と一連の条件に対する、モデルの新しいバージョンを表示します

## POV のステータス

現在モデルが編集あるいは表示可能であるかどうかを示すために、POV に対してステータスを設定する必要があります。ステータスは Essbase の次元ではありません。

POV のステータスは次のいずれかの状態に設定します:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。

- アーカイブ済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。

## バージョン次元

特定の POV を使用し、同じ POV の別バージョンを作成できます。これにより、モデルへの変更の影響を監視したり、同じモデルの異なるバージョンを追跡できます。

バージョン次元は次のタスクで使用します:

- 少数のバージョンで、1つのモデルの繰り返しを複数作成
- 仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを決定する仮定シナリオをモデル化
- 簡単に目標を設定する

バージョン次元内の様々な要素を変更することで、元のモデルを変更せずに変更結果を調べることができます。

## 標準 Profitability POV の管理

POV は年、期間、ステータスなどの指定されたスナップショット用の、モデルの特別なバージョンを表示します。

新しい POV が追加されると、ステータスは自動的に「ドラフト」に設定され、POV が編集できるようになります。

モデルには、1つ以上の POV 次元が必要です;ただし、1つのモデルに対して複数の POV 組合せを作成できます。選択した POV はステージおよびレイヤー情報とともに EPM Workspace ユーザー・プリファレンスとして保存できます。また、POV をコピーして、新しいレポート期間や異なるシナリオ用にモデルを作成することも可能です。詳細は、[61 ページの「POV のコピー」](#)を参照してください。

モデルで使用可能な POV は、アプリケーションで定義された POV 次元に応じて決まりますが、すべての POV が割当てやデータ入力用にそのまま使用できるわけではありません。POV をモデルに追加するまで、POV にドライバを割り当てたりデータをロードすることはできません。

各 POV 組合せについて、次のモデル要素を指定する必要があります:

- ソース・メンバーのドライバ
- 割当てまたは割当てルールを選択
- ドライバ・データ
- 費用および収益データ

POV を操作するには、次の手順を使用してください:

- [59 ページの「POV の追加」](#)
- [60 ページの「POV のステータスの変更」](#)
- [61 ページの「POV のコピー」](#)

- 62 ページの「選択したオブジェクトの POV からの削除」
- 63 ページの「POV およびすべてのアーティファクトの削除」

## POV の追加

年、期間、シナリオおよびステータスなど、選択したモデルのスナップショットに対するモデルの情報や計算を表示するには、POV を追加します。

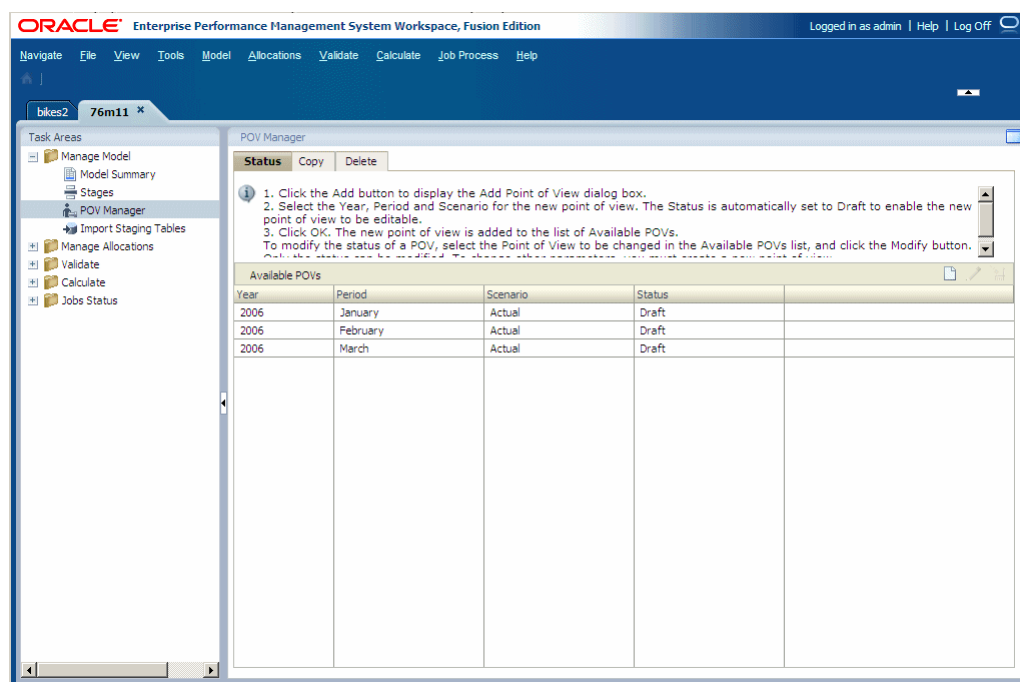
モデルで使用可能なパラメータの値は Essbase Performance Management Architect アプリケーションに設定されています。

**注：** POV は、POV 管理に追加されないかぎり、他のタスク・ウィンドウからアクセスできません。

▶ POV を追加するには:

- 1 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。



- 2 「新規 POV の追加」  をクリックします。

「視点の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

### 3 新しい POV を表示するためのモデルのパラメータを選択します。

新しい POV のため「ステータス」は読取り専用で、モデルを構築および編集できるように、自動的に「ドラフト」に設定されます。

### 4 「OK」をクリックします。

POV がリストに追加されます。

## POV のステータスの変更

POV のステータスはモデルが編集または表示可能かどうかを示します。モデルは、POV のステータスが「ドラフト」に設定されている場合のみ、編集可能です。モデルの完成後、POV のステータスを変更してモデルを変更できないようにします。

POV のステータスは次のいずれかの値に設定できます:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。
- アーカイブ済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。

モデルを編集するためにステータスを「ドラフト」に戻すことは、いつでも可能です。

**注：** POV に変更を加えると、ステータスのみが変更されます;ただし、ステータスが「公開済」または「アーカイブ済」に設定されている場合は、モデルは計算不能になっています。

▶ POV ステータスを変更するには:

#### 1 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。

#### 2 変更する POV を選択し、「POV の編集」 をクリックします。

#### 3 「ステータス」の下で新しいステータスを選択します:

- ドラフト
- 発行済
- アーカイブ済

POV のステータスのみを変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しい POV を作成する必要があります。

- 4 「OK」 をクリックします。

## POV のコピー

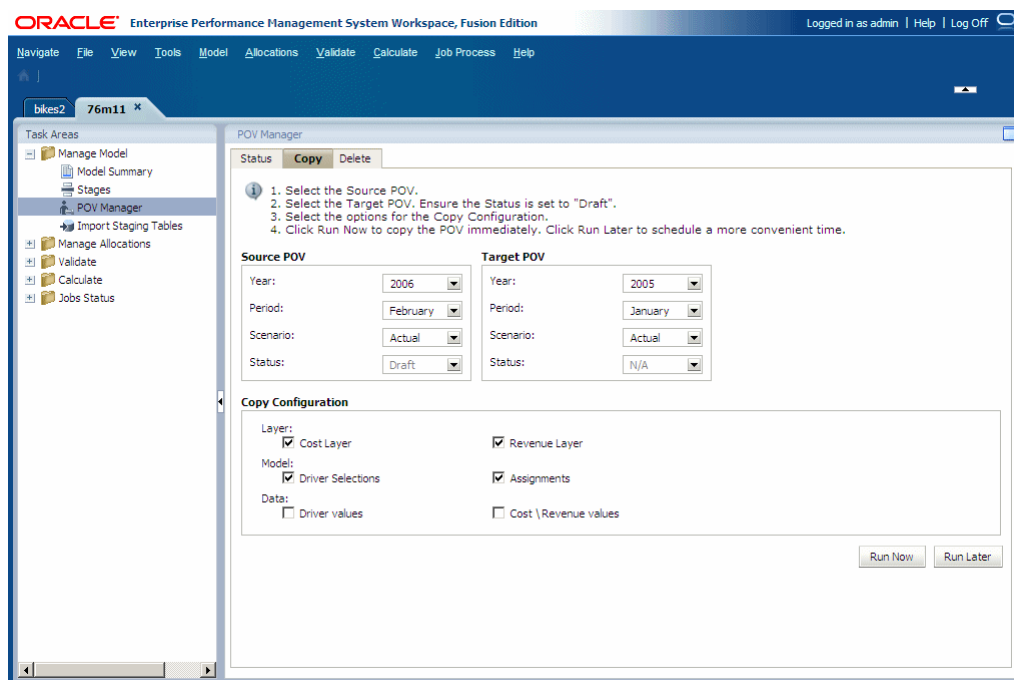
POV をコピーすることで、新しいモデルやシナリオの開始ポイントにしたり、既存のモデルを使用して仮定シナリオを試行できます。

たとえば、前の期間からドライバの選択と割当てをコピーして期間を作成したり、実際のシナリオからデータをコピーして、予測シナリオ用のシード・データを作成できます。

POV をコピーするには、コピーする情報を含んだソース POV と、データのコピー先となる宛先のターゲット POV が必要です。「POV の管理」画面の「ステータス」タブに表示されている、ステータスが「ドラフト」の POV にのみ、情報をコピーできます。詳細は、59 ページの「POV の追加」を参照してください。

▶ POV をコピーするには:

- 1 **オプション:** 必要な場合は、POV 管理画面の「ステータス」タブで POV を作成して、このターゲット POV をコピー操作で使用します。詳細は、59 ページの「POV の追加」を参照してください。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。  
POV マネージャ・ウィンドウの「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。
- 3 「POV マネージャ」から、「コピー」タブを選択します。



- 4 「ソース POV」の下で、コピーする POV を選択します。

**注：** ソースのステータスは、POVに割り当てられたステータスに自動的に設定され、この画面では変更できません。

5 「ターゲット POV」の下で、コピーする POV の宛先になる POV を選択します。

---

**注意** ターゲット POV は、ステータスが「ドラフト」の有効な POV として、「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブに存在している必要があります。そうでない場合、コピー操作は開始されません。

---

6 「構成のコピー」の下で、コピーする POV の要素を選択します：

- 「レイヤー」の下で、「費用レイヤー」、「収益レイヤー」またはその両方を選択します。
- 「モデル」の下で、「ドライバの選択」、「割当て」またはその両方を選択します。
- 「データ」の下で、「ドライバ値」、「費用/収益値」またはその両方を選択します。

これらのオプションは、新しい POV で必要となる情報を選択するために用意されています。たとえば、費用、ドライバの選択およびドライバ値のみを POV のコピーに含めることが可能です。

7 次のいずれかのタスクを実行します：

- 「後で実行」をクリックし、POV をコピーする日時をスケジュールします。[161 ページの「タスクフローのスケジュール」](#)を参照してください。

**注：** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

- 「今すぐ実行」をクリックして、POV をすぐにコピーします。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフロー ID が示されます。ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「検索タスク」の順に選択します。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

8 コピーが完了したら、ターゲット POV の下のコピーされた情報を確認します。

## 選択したオブジェクトの POV からの削除

「POV マネージャ」画面の「削除」タブを使用して、選択したオブジェクトを POV から削除できます。

関連付けられた割当てやドライバの選択も含む POV 全体を削除する場合は、[63 ページの「POV およびすべてのアーティファクトの削除」](#)を参照してください。

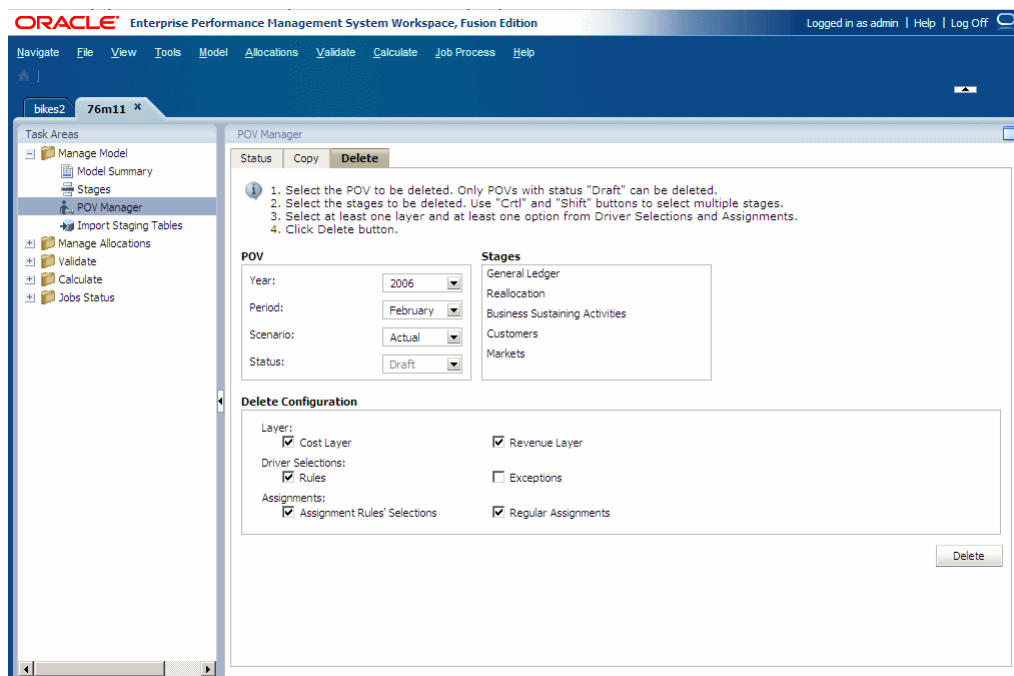
---

**注意** POV を削除する前に EPM Workspace および Essbase にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

▶ 選択したオブジェクトを POV から削除するには:

- 1 他のユーザーがその POV と内容を必要としていないことを確認します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。  
「POV マネージャ」画面が表示されます。
- 3 「削除」タブを選択します。



- 4 「POV」で、削除するアーティファクトを含む POV を選択します。
- 5 「ステージ」の下で、削除するアーティファクトを含むソース・ステージを 1 つ以上選択します。

複数の任意のステージを選択するには[Ctrl]キーを使用します。また、範囲内の最初と最後のステージを選択するには、[Shift]キーを使用して最初と最後のステージを選択します。

- 6 「構成の削除」の下で、削除する構成の要素を選択します:
  - ドライバの選択(「ルール」または「例外」、あるいはその両方)
  - 割当て(「割当てルールの選択」または「通常の割当て」、あるいはその両方)。
- 7 「削除」をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。
- 8 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

選択したレコードが削除されます。選択の内容や削除されたレコード数など、操作の記録を確認するには hpcm.log を参照してください。

## POV およびすべてのアーティファクトの削除

POV を削除すると、関連する割当てとドライバ選択を含む、POV 内のすべてのオブジェクトが削除されます。


Essbase 内のデータを削除する場合は、POV を削除する前に、選択した POV に対して「すべて消去」機能を実行します。148 ページの「直接配賦データの計算」を参照してください。

---

**注意** POV を削除する前に EPM Workspace および Essbase にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

▶ POV および関連する割当てとドライバを削除するには:

- 1 他のユーザーがその POV と内容を必要としていないことを確認します。
- 2 **オプション:** Essbase 内のデータを削除するには、148 ページの「直接配賦データの計算」で説明されているように、「すべてのデータを消去」を選択します。
- 3 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。  
「POV マネージャ」画面が表示されます。
- 4 「ステータス」タブを選択します。
- 5 「使用可能な POV」で、削除する POV を選択します。
- 6 「POV の削除」  をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。

---

**注意** POV を削除すると、POV 内のすべてのオブジェクトが削除されます。

---

- 7 「はい」をクリックして削除を確認します。  
POV はリストから削除され、以後は選択できなくなります。

## 標準 Profitability のモデル統計のクエリー

モデルの作成後、ステージや POV などの特定のコンポーネントとその次元、割当て、およびドライバの数と使用法を特定すると役立つ場合があります。

SQL ベースのクエリー modelstats.sql では、特定の統計をモデル用に生成できます。これらの読取り専用クエリーは、モデル特性およびパフォーマンス統計を表示したり変更の影響を評価する際に使用できます。統計は、モデルおよびパフォーマンスに関する問題の診断にも使用できます。

新しいクエリーを使用するには、既存のデータベース・ビューが必要です:

- ステージ(HPM\_EXP\_STAGE)
- POV (HPM\_EXP\_POV)
- ドライバ選択(HPM\_EXP\_DRIVER\_SEL)
- 割当て(HPM\_EXP\_ASSIGNMENT)
- 割当てルール選択(HPM\_EXP\_ASGN\_RULE\_SELECTION)

**注:** ドライバ・ビュー(HPM\_EXP\_DRIVER)は、モデル統計では使用されません。



選択したデータベースおよびデータベース・ビューへの適切なアクセス権を持っている必要があります。データベース・ビューの作成の詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide の付録B を参照してください。

インストールの後、アプリケーション・フォルダに SQL スクリプト `modelstats.sql` があります。クエリーはデータベースを選ばず、MS SQL または Oracle データベースに対して実行できます。モデルにエラーが含まれている場合、それらのモデルはクエリー結果にレポートされず、既存の統計がそのまま生成されます。

どのアプリケーションについてもクエリーは大きな変更を行う前に実行し、後の結果と比較できるように、クエリーを保存して出力を取得しておくことをお勧めします。このスナップショットはアプリケーションのベースライン統計となっており、その後に行う変更と比較したり、変更による影響の可能性を評価するための情報を表示できます。たとえば、割当てルールを何千回も使用した場合、そのルールに変更を加えると、元の予想よりはるかに大きい影響が出る場合があります。

▶ `modelstats.sql` クエリーを実行するには:

**1** データベースを検索し、次のアイテムの適切なアクセス権があることを確認します:

- データベース・ビュー
- Profitability and Cost Management の RDB スキーマ

**2** `modelstats.sql` クエリーに移動します:

- Windows の場合: `%hyperion_home%\products\Profitability\database\Common\MSSQLServer\view`
- UNIX の場合: `$hyperion_home$\products\Profitability\database\Common\MSSQLServer\view`

**注:** データベース・ビューとクエリーは頻繁に更新されるため、最新バージョンであることを確認してください。

**3** `modelstats.sql` クエリーを開き、各クエリーの"`%`"変数を変更して、クエリーの実行対象となるモデル・コンポーネント ("`application_name like '%'`"または "`layer_name like '%'`"など)を指定します。

たとえば、コード `application_name like '%'` では、パーセント記号をアプリケーション名で置き換えます:

```
application_name like 'bikes2'
```

**注:** パーセント記号を、クエリーの範囲を広くする末尾のワイルドカードとして使用できます。たとえば、'`b%`'と入力すると、クエリーは"`b`"で始まるすべてのアプリケーションに適用されます。クエリーをすべてのアプリケーションに適用するには、'`%`'を入力します。

**4** クエリー結果を確認します。

	APPLICATION_NAME	STAGE_NAME	STAGE_ORDER	DIM1_NAME	DIM2_NAME	DIM3_NAME	IS_INTRA	STAGE_PREFIX
1	bike2	General Ledger	1	Departments	Accounts	(null)	N	GL
2	bike2	Business Operations	2	Departments	Activities	(null)	Y	OPS
3	bike2	Products	3	Products	(null)	(null)	N	PROD
4	bike2	Customers	4	Customers	(null)	(null)	N	CUST
5	bike2	Market	5	Customers	Products	Regions	N	MKT
6	bikes1	General Ledger	1	Departments	Accounts	(null)	N	GL
7	bikes1	Business Operations	2	Departments	Activities	(null)	Y	OPS
8	bikes1	Products	3	Products	(null)	(null)	N	PROD
9	bikes1	Customers	4	Customers	(null)	(null)	N	CUST
10	bikes1	Market	5	Customers	Products	Regions	N	MKT

結果はクエリ選択に応じて変わります。次にクエリーの例を示します:

- 一致するアプリケーションのステージにある全ステージと次元のリストでは、選択したアプリケーションのすべてのステージと関連する次元が、アプリケーション名およびステージ順序の順に表示されます。
- 費用レイヤーと収益レイヤー両方のソース・ステージ別の明示的割当て件数のリスト(アプリケーション)では、アプリケーション名、レイヤー、およびソースと宛先のステージ名が表示されます。
- ルール名とアプリケーションでの使用頻度のリストには、個々のルール、および各ルールが使用された回数の内訳が表示されます。
- ドライバ関連付けでのステージ別のドライバ使用回数のリストには、選択したアプリケーション、ステージおよびレイヤーに対する各ドライバの使用回数が表示されます。例として、この情報を使用して、実際には使用されていないドライバがないか、またそれらのドライバを安全に削除できるかを特定できます。

すべてのクエリを表示するには、最新バージョンの modelstats.sql ファイルを確認します。

## 標準 Profitability データおよびアーティファクトのインポート

データとモデル情報は Profitability and Cost Management に直接入力できます;ただし、データの入力には多大な時間が必要になります。アプリケーションへ容易にデータを入力するには、一連のインポート・ステージング・テーブルとインポート構成を使用して、モデル定義(POV、ステージ、ドライバ、ドライバ選択、割当て、および割当てルールの選択など)を Profitability and Cost Management へ直接インポートできます。

**注:** 次元、費用、ドライバ・データおよび割当てルールはステージング・テーブルからインポートできません。

モデル・データは複数のソースからインポートされます:

- モデル定義データはステージング・テーブルからインポートされます。

- モデル定義は、ライフサイクル管理を使用してインポートできます。Oracle Enterprise Performance Management System Lifecycle Management Guide を参照してください。

---

**注意** データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM Workspace および Essbase にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

ステージング・テーブルをインポートするには、インポートするテーブルを指定するインポート構成を作成する必要があります。構成は保存でき、同一のデータ・セットを何回もインポートするために利用できます。モデル全体をインポートする場合は、テーブル依存関係が存在していて適用されます;ただし、モデルのセクションのみをインポートする場合は、これらの依存関係は適用されません

ステージング・テーブルとインポート構成の作成手順の詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。



# 5

## 標準Profitability配賦の管理

### この章の内容

標準 Profitability 配賦について.....	69
標準 Profitability の費用および収益レイヤー.....	69
標準 Profitability モデルのドライバと式の定義.....	70
標準 Profitability ドライバの選択.....	82
標準 Profitability 割当ての操作.....	88
標準 Profitability 割当てルール of 操作.....	94
データの入力ウィンドウの使用方法.....	111
配賦のトレース.....	117
相互配賦.....	125
トレース配賦イメージのエクスポート.....	126

## 標準 Profitability 配賦について

Profitability and Cost Management では、配賦により、モデル全体の費用および収益が特定の勘定科目または要素へどのように配分されるかを制御できます。各配賦の資金の計算方法を決定するため、ドライバが使用されます。モデル内の資金フローにあわせて、計算結果がソースから宛先に割り当てられます。

配賦の管理の詳細は、次の項を参照してください:

- 69 ページの「標準 Profitability の費用および収益レイヤー」
- 70 ページの「標準 Profitability モデルのドライバと式の定義」
- 82 ページの「標準 Profitability ドライバの選択」
- 88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」
- 111 ページの「データの入力ウィンドウの使用方法」
- 117 ページの「配賦のトレース」

## 標準 Profitability の費用および収益レイヤー

ドライバはモデルに作成される際、費用または収益レイヤーのいずれか、または両方に割り当てられます。費用および収益メンバーは財務データの2つの異なるレイヤーとして扱われます。費用レイヤーはモデルから送信される値(経費、賃料、給与など)を示します。収益レイヤーは入ってくる値(営業収入、製品およびメンテナンス売上など)を表します。

これらのレイヤーは構造では実質的に同じですが、各レイヤーは異なるドライバと割当てを使用しており、異なる結果を生成します。一般的に、1回に使用するのは1つのレイヤーのみです。

70 ページの「標準 Profitability モデルのドライバと式の定義」を参照してください。

## 標準 Profitability モデルのドライバと式の定義

割当てがソースから宛先へのデータの方向を決定するのに対して、これらの割当てに関連するドライバは配賦の値を計算するために使用されます。ドライバは、ソース交差値を宛先交差に割り当てる式を提供します。ドライバ・メジャーおよびドライバ式では、変数を使用してモデル要素を表したり、算術オペランドを使用してドライバ値を計算できるため、モデルの柔軟性が向上します。

配賦は、1つのソースから1つの宛先への単純な計算から、複数の宛先に配分される複雑な計算まで様々です。ドライバを作成する際、値の計算方法を制御する式に関連付けます。均等配布ドライバまたはパーセンテージ・ドライバなどの定義済の式から選択するか、カスタム式を作成します。

Volume および Rate などのドライバ・メジャーは、計算を実行する式内で変数として使用されます。メジャー次元の 0 レベルのメンバーは、ドライバ・メジャーとして選択されます。ドライバ・メジャーは、Essbase データベース内で作成および保存されますが、モデルが配置されるまでは検証されません。

ドライバは、費用および収益値の両方に適用でき、多くの値に再利用できます。ドライバに関連付けられている式が保存され、データは保存されません。ドライバを変更すると、そのドライバを使用するすべての配賦に変更が自動的に適用されます。

**注：** 配賦で使用されるドライバを変更または削除する場合は、計算スクリプトを再生成し、モデルを再計算する必要があります。この種の変更によって、Essbase データベースの構造に影響が生じることはありませんが、計算結果は異なってきます。

モデルに必要な各ドライバについて、次のタスクを実行します：

- ドライバを添付するモデル・レイヤーや関連する式などを指定し、新しいドライバを定義します。78 ページの「ドライバの定義」を参照してください。
- この計算を使用する次元メンバーにドライバを関連付けます。82 ページの「標準 Profitability ドライバの選択」を参照してください。
- ドライバ次元の選択されているメンバーにドライバを割り当て、計算フローを設定します。88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」。

各ステージに対して、1つの次元がドライバ次元として選択されている必要があります。ドライバの値を取得して結果を計算するときには、ドライバ式が使用されます。

たとえば、計算プロセスでは、ソース交差の NetCostForAssignment メジャーの値に係数を乗算することで、各宛先交差に配賦する金額が決定されます。計算され

た金額は、宛先交差の CostReceivedPriorStage メジャー(ステージ内割当ての場合  
は、CostReceivedIntraStage メジャー)に配置されます。

ドライバ係数は、現在計算されている宛先交差のドライバ値とすべての宛先交差  
の合計ドライバ値との比率です。現在の宛先交差の値は、CalculatedDriverValue ド  
ライバ・メジャーの割当てに保管されます。すべてのドライバの合計は  
TotalDriverValue ドライバ・メジャーに保管されます。アイドル費用の追跡が使用  
可能になっている場合にのみ、OverrideTotalDriverValue ドライバ・メジャーがソー  
ス交差に入力されます。ドライバの合計値は、常にソースに添付されます。第 11  
章「標準 Profitability のメジャー次元」を参照してください。

式およびドライバの使用方法的詳細は、次の項を参照してください:

- 71 ページの「ドライバ式」
- 78 ページの「ドライバの定義」
- 80 ページの「ドライバ定義の変更」
- 81 ページの「既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成」
- 82 ページの「ドライバ定義の削除」

## ドライバ式

ドライバ式には、変数、関数および数値のあらゆる組合せを含めることができま  
す。ドライバ式の各要素について、ドライバのメジャーおよび場所を選択する必  
要があります。

配賦内のソース・メンバー交差にドライバが添付されます。このドライバには、  
ソース交差値を求めるためにメジャーに乗算する係数を計算する式が含まれてい  
ます。係数は宛先交差ごとに計算されます。

使用できるドライバ式のタイプは、次のとおりです:

- 定義済のドライバ式 - 共通の計算を実行するために使用します。71 ページの  
「定義済のドライバ式」を参照してください。
- カスタムのドライバ式 - 一般的でない特定の状況を計算するために使用しま  
す。73 ページの「カスタム・ドライバ式」を参照してください。
- ドライバ基準タイプ - 式にレートを設定する別の方法です。実績基準ドライバ  
では計算結果を使用します。標準基準ドライバを使用すると、割り当てられ  
たレートをドライバに設定して費用を下流に配賦することができます。76  
ページの「ドライバ基準タイプ」を参照してください。
- 77 ページの「優先度シーケンス・ドライバ」 - ステージ内の配賦のうち、  
最初に計算する配賦を定義するために使用します

## 定義済のドライバ式

一般的な計算を実行する場合、ドライバは定義済の式を使用します。ドライバ式  
の各要素について、ドライバのメジャーおよび場所を選択する必要があります。  
定義済のドライバでは、計算スクリプト内に式が設定されます。

**注：** 同じドライバ・メジャーを式内の異なる変数にマップすることはできません。たとえば、"DriverValue"={Rate}\*{Quantity}という式では、RateとVolumeに同じメジャーを選択することはできません。

各種ドライバ・タイプと各タイプで使用可能な定義済の式について、表5で説明します。

**表5** 定義済のドライバ

ドライバのタイプ	ドライバ式	使用可能な場所	説明
均等	Calculated DriverValue = 1.0;	なし	このドライバを使用すると、すべてのメジャーに同じ値が適用されます。
標準	Calculated DriverValue = {FixedDriverValue};	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	このドライバを使用すると、ドライバに設定済の値が各メジャーに適用されます。
パーセンテージ	Calculated DriverValue = {Percentage};	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	<p>割当ての宛先に関する合計値の設定済パーセンテージを、「データの入力」ページで入力するか、Essbaseに直接入力します。</p> <p>たとえば、3つのメジャーが存在する場合、最初の割当てに30%、2番目の割当てに65%、3番目の割当てに5%を配賦することができます。</p> <p>パーセンテージの合計が100%未満で、ドライバでアイドル容量が使用可能になっている場合、未配賦の残りのパーセントがアイドル容量として処理されます。</p> <p>パーセンテージ・ドライバを使用する場合に、TotalDriverValue(すべてのドライバ値の合計)が100を超えると、ドライバは標準ドライバとして処理され、配賦が実行されます。入力されたパーセンテージ値の比率に基づいて、ソース全体が宛先に配賦されます。</p> <p><b>注：</b> パーセンテージ・ドライバを相互配賦で使用する場合、未配賦の費用のエラーを回避するため、TotalDriverValueAfterReciprocalsは常に100未満にする必要があります。相互関係が解決された後で配賦を実行すると、ドライバが標準ドライバに変換されます。</p>
標準加重	Calculated DriverValue = {FixedDriverValue}*{Weight};	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	タスクまたはプロセスに対して、加重、つまり相対的な重要性を表す値を入力します。
可変	Calculated DriverValue = {Rate}*{Quantity};	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	このドライバを使用すると、ボリュームと率による計算結果が各メジャーに適用されます。



ドライバのタイプ	ドライバ式	使用可能な場所	説明
加重可変	$\text{Calculated DriverValue} = \{\text{Quantity}\} * \{\text{Rate}\} * \{\text{Weight}\};$	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	<p>タスクまたはプロセスに対して、加重、つまり相対的な重要性を表す値を入力します。</p> <p>たとえば、ある部署でのテクニカル・サポートの問合せ回数に、問合せ内容の長さや難易度に応じて加重を乗算した値を、式で表すことができます。</p> <p>別の例をあげると、様々なタスクへのスタッフの割当てを式が表している場合、給与等級や役職を識別するために、わずかに異なる加重を各タスクに乗算することもできます。</p>
固定および可変	$\text{Calculated DriverValue} = \{\text{FixedDriverValue}\} + (\{\text{Quantity}\} * \{\text{Rate}\} * \{\text{Weight}\});$	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	<p>このドライバを使用すると、数量およびボリュームに率および加重を乗算した計算結果が各メジャーに適用されます。</p>
カスタム	$\text{Calculated DriverValue} = \{\text{Custom Variable}\};$	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース</li> <li>● 宛先</li> <li>● 割当て</li> <li>● グローバル</li> </ul>	<p>カスタム式のタイプの作成方法の詳細は、<a href="#">73 ページの「カスタム・ドライバ式」</a>を参照してください。</p>

## カスタム・ドライバ式

定義済のドライバ式ではモデルに必要な計算フローを正確に反映することができない場合、式エディタを使用してカスタム・ドライバ式を作成できます。ドライバ値を計算するために作成される式には、単純なものから、IF ステートメントを含む複雑なものまであります。

カスタム・ドライバが使用される割当てにより、計算スクリプトに FIX コンテキストが自動的に提供されます。式は FIX コンテキストを考慮して定義する必要があります。FIX コンテキストは、常に割当ての割当てブロックに固定されます。FIX コマンドの詳細は、[Oracle Essbase Database Administrator's Guide](#) を参照してください。

カスタム式には、カスタム変数や、Volume または Rate などの定義済の変数をいくらかでも含めることができます。カスタム変数は、メジャー次元内で Performance Management Architect を使用して定義する必要があります。

さらに、カスタム式内で使用される変数の場所を指定して、カスタム式を別のステージで使用できるようにすることが可能です。Essbase では中かっこ ({} ) は使用されませんが、場所(グローバル、ソース、宛先または割当て)は、中かっこを使用した変数で定義する必要があります。場所は、計算スクリプトの生成中に動的に解決されます。

**注：** 変数の場所が指定されていない場合、場所は割当てであるとみなされます。

要素間に関数(オペランド)を使用して、式の計算を制御します。標準オペランドには、次のようなものがあります:

- 加算(+)
- 減算(-)
- 乗算(\*)
- 除算(/)

各式はセミコロン(;)で終了する必要があります。

次の例は、カスタム・ドライバ式の一般的なフォーマットを示しています:

```
"CalculatedDriverValue" = {Custom Variable -> Source} * {Custom Variable -> Destination};
```

次の例は、場所の構文が使用されていないカスタム・ドライバ式を示しています:

```
"CalculatedDriverValue" = "Variable1" * "Variable2" -> "[GL Departments].[NoMember]";
```

カスタム式は、Profitability and Cost Management の次の例外を除き、数学的に正しく、構文が Essbase 構文に準拠している必要があります:

- Essbase では中かっこは使用されませんが、カスタム変数(ドライバ・メジャー)および場所(グローバル、ソース、宛先または割当て)は、中かっこで囲む必要があります。
- Profitability and Cost Management の構文を使用して指定された変数は、二重引用符で囲まないでください。

Profitability and Cost Management により、場所の構文が Essbase 構文に解決および変換されます。Profitability and Cost Management の構文を使用する場所が指定された変数の適切な次元参照を解決すると、式が Essbase の計算スクリプトにコピーされ、スクリプト内で Essbase 構文に対して確認されます。

式エディタを使用したカスタム式の作成方法の詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

## カスタム・ドライバ式の例

カスタム・ドライバ式の例では、次の値が想定されています:

- ステージ 1 の次元: GL\_Department x GL\_Account
- ステージ 2 の次元: ACT\_Department x ACT\_Activity

Profitability and Cost Management の計算スクリプト生成プロセスにより、このドライバを使用するソースのカスタム・ドライバに定義されたスクリプトが挿入されます。システム生成のスクリプトにより、ソースにアタッチされた割当てロジックに定義されているソースと宛先の組合せを正確に示すための FIX ステートメントが作成されます。

カスタム・ドライバ・スクリプトではこの FIX を作成する必要はありませんが、利用することはできます。また、FIX を変更し、宛先、ソース、割当て、グローバルのメジャーの場所に通常定義されているものとは異なる場所のデータを参照することも可能です。

カスタム・ドライバの一般的な使用法は、通常の4つ以外の場所に保管されているデータを参照する権限によって異なります。これにより、ユーザーは、階層のより高いレベルまたはより少ない交差のドライバ・メジャーへのアクセスが可能になります。

CalculatedDriverValue メジャーにより計算されるデフォルトの FIX ステートメントは、ソースと宛先とのリンクを反映します。サンプル・ステージを使用し、システム生成のスクリプトにより作成された FIX を次に示します:

```
GL_Department.member x GL_Account.member x ACT_Department.member x  
ACT_Activity.member
```

ここで、各次元の次元メンバーは、実行中の配賦のソース交差および宛先交差を示します。

後続の例では、このデフォルトの FIX を変更して、別の場所からドライバ・メジャーを取得します。デフォルトの FIX で参照されているメンバーが目的に一致している場合は、上書きする必要はありません。

### 例 1: 宛先次元の1つのみと、他の場所にある NoMember(この場合は ACT\_Department)に存在するドライバ・メジャーを参照

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" -> [ACT_Activity.NoMember]  
-> [ GL_Department.NoMember ] -> [ GL_Account.NoMember ];
```

この式は、平方フィート、メーターまたは人数など、部門全体のドライバ値が1つの場合に使用します。

### 例 2: 宛先次元のいずれかの親と、他の次元にある NoMember に存在するドライバ・メジャーを参照:

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" -  
> [ACT_Activity.NoMember] -> (@PARENT(ACT_Department) " -  
> [ GL_Department.NoMember ] -> [ GL_Account.NoMember ];
```

また、@ANCESET 関数を使用して値を取得する祖先の世代を参照することもできます。この例において、ドライバは、宛先の Department メンバーの世代2の祖先から DriverMeasure 値が取得されます:

```
"CalculatedDriverValue" = "DriverMeasure" -  
> [ACT_Activity.NoMember] -> (@ANCEST(ACT_Department, 2) " -  
> [ GL_Department.NoMember ] -> [ GL_Account.NoMember ];
```

その他の一般的な使用法は、ソース/宛先の組合せの特性におけるドライバ値の計算を入力するためのものです。このオプションを使用すると、配賦に関連する交差の特性に基づき、ドライバを特定の状況に適合させることができます。

### 例 3: 1つの宛先メンバーの UDA に基づいてドライバ計算の異なるメジャーを参照:

```
IF (@ISUDA(Activity, "UDA1"))  
  
"CalculatedDriverValue" = {Measure1->Destination};  
  
ELSE IF (@ISUDA(Activity, "UDA2"))
```

```
"CalculatedDriverValue" = {Measure2->Destination};
ELSE IF (@ISUDA(Activity, "UDA3"))
"CalculatedDriverValue" = {Measure3->Destination};
ENDIF;
```

この式は、製品フォーム係数または顧客分類など、宛先の特性からドライバ式を入力する場合に使用します。この例の次の構文に注意してください: {Measure1->Destination}は、通常の Essbase の計算スクリプト構文と一致しません。中かっこ({})を使用すると、Profitability and Cost Management での->Destination の解釈が簡単になり、ターゲットとなる実際の宛先との置換えが可能になります。Essbase にスクリプトが配置されると、Profitability により適切なメンバー参照および構文が挿入されます。

## ドライバ基準タイプ

ドライバを定義する際は、次のドライバ基準タイプを使用して、計算済レートまたは割当てレートを使用するかを指定できます:

- [76 ページの「実績基準ドライバ・タイプ」](#)
- [76 ページの「標準基準ドライバ・タイプ」](#)

基準タイプは、費用レイヤーと収益レイヤーのどちらのドライバにも適用できます。1つのステージに、実績基準と標準基準の両方のドライバを含めることができます;ただし、一方の基準ドライバ・タイプからもう一方のドライバ・タイプに変更した場合、影響を受けるステージの計算スクリプトを再生成する必要があります

### 実績基準ドライバ・タイプ

実績基準の費用計算では、ソースの NetCostForAssignment 値を使用して、費用を下流に配賦します。実績基準ドライバでは、次の式を使用します:

$$\text{CostReceivedPriorStage} = \text{ソースのNetCostForAssignment} * \text{CalculatedDriverValue} / \text{ソースのTotalDriverValue}$$

ドライバ・データがない場合、交差とステージ・レベルにおいて、結果はステージの貸借一致レポートで未割当ての費用に転記されます

### 標準基準ドライバ・タイプ

会計データの取込み時と実際のリソース使用時の差異により季節変動または会計値の変動が発生する状況では、複数の期間にわたって測定の一貫性を実現できる標準レートを設定できます。

標準基準ドライバを使用して、ソース交差のドライバの事前に計算された標準レートを設定してその費用を下流に配賦します。このドライバは次の式を使用します:

$$\text{ソースの標準レート} * \text{割当ての数量}$$

このドライバを使用するソースは、ソースに標準レートの製品を配賦し、宛先交差への割当てに数量を配賦します。

**注：** 標準基準ドライバは、均等または「パーセンテージ」のドライバ・タイプでは使用できません。

標準基準を選択すると、「アイドルを許可」が自動的にアクティブになります。標準基準ドライバはステージ内割当てでは使用できますが、相互割当てでは使用できません。

ユーザーが「標準基準ドライバ」を選択すると、費用レイヤーのメジャー次元変数 StandardCostRate、および収益レイヤーの StandardRevenueRate のソースにレートが入力されます。ソースの StandardCostRate は、費用入力データ・エントリの画面を使用して実行できます。数量は、ドライバがどのように定義されているかに基づいて計算されます。

基準タイプは、費用レイヤーと収益レイヤーのどちらのドライバにも適用できます。1つのステージに、実績基準と標準基準の両方のドライバを含めることができます;ただし、一方の基準ドライバ・タイプからもう一方のドライバ・タイプに変更した場合、影響を受けるステージの計算スクリプトを再生成する必要があります。

## 優先度シーケンス・ドライバ

ビジネス・モデルによっては、ドライバが1つ以上の計算済メジャーを式で使用する場合があります。同じステージのソース間の依存関係によって、制御されたシーケンスによる配賦の計算が必要な場合があります。優先度シーケンス・ドライバを使用することで、ステージ内のどの配賦を最初に計算するかを定義できます。

たとえば、ドライバ優先度を設定することで、ドライバ B を使用するソース B の前にドライバ A を使用するソース A が計算されるようにできます。ソース A を最初に配賦することで計算される費用値または収入値は、その後ドライバ B で使用されます。

メジャー次元のレベル 0 の子孫を、ドライバ・メジャーとして選択できます。ドライバを定義するときは、「ドライバ」ダイアログ・ボックスに「シーケンス優先度」を入力します。優先度の数値が小さいドライバに関連付けられているソースは、優先度の数値が大きいドライバに関連付けられているソースより先に解決されます。デフォルト値は 100 に設定されていますが、この値は変更できます。最も高い優先度は 1 です。優先度は整数であることが必要です。同じ優先度のドライバに関連付けられているソースは、特定の順序では処理されません。

ドライバの優先度を変更する場合は、そのステージ内のソースの計算順序を変更している可能性があります。その場合は、そのステージの計算スクリプトを再生成する必要があります。

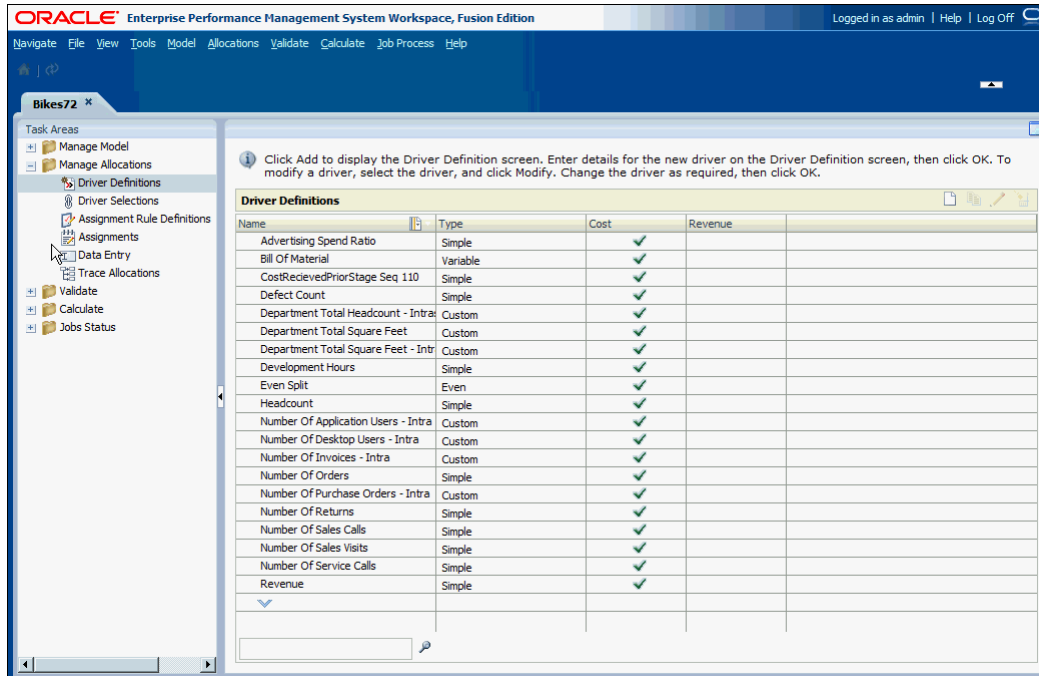
**注：** ステージ内割当ておよび相互割当てで、これらの配賦内の固有のシーケンスがドライバ優先度シーケンスと競合した場合、競合する交差は hpcm.log ファイルに記録されます。


# ドライバの定義

▶ ドライバを定義する手順には:

1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバ定義」をクリックします。

「ドライバ定義」画面が表示されます。



2 「追加」  をクリックします。

The screenshot shows the 'Drivers' dialog box. The 'Name' field is set to 'Local Delivery'. The 'Description' field is empty. The 'Basis Type' is set to 'Actual' and the 'Formula Type' is set to 'Percentage'. The 'Cost Layer' and 'Revenue Layer' checkboxes are unchecked, and the 'Allow Idle' checkbox is checked. The 'Sequence Priority' is set to 3. The 'Formula' field contains the template formula: "CalculatedDriverValue" = {Percentage};

Name	Measure	Location
Percentage	Percentage	Assignment

3 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。

ハ、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

---

**注意** インポートの失敗を避けるには、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』の Oracle Essbase Database Administrator's Guide 命名の制限に関する項を参照して最新の規則を確認することをお勧めします。

---

4 **オプション:**「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。

5 **ドライバの「基準タイプ」を選択します:**

- ソースの NetCostForAssignment 値を使用して費用を下流に配賦するには、「実績」を選択します。76 ページの「実績基準ドライバ・タイプ」を参照してください。
- ソース交差のドライバにユーザー定義の標準レートを割り当てるには、「標準」を選択します。76 ページの「標準基準ドライバ・タイプ」を参照してください。

6 「式のタイプ」から、このドライバの式のタイプを選択します:

- 均等
- 標準
- パーセンテージ
- 標準加重
- 可変
- 加重付き可変
- 固定および可変
- カスタム

式のタイプによって、選択可能な変数が決まります。各ドライバ・タイプの詳細は、70 ページの「標準 Profitability モデルのドライバと式の定義」を参照してください。

定義済の式を選択すると、実際の式が「式」テキスト・ボックスの式テンプレート・タブに表示されます。各要素に使用可能なドライバ・メジャーが「変数の選択」に一覧表示されます。

カスタム式を選択した場合は、「式」テキスト・ボックスが空になり、編集可能になります。

7 **ドライバを適用するレイヤーを選択します:**

- 費用レイヤー
- 収益レイヤー
- 費用レイヤーと収益レイヤーの両方

8 **オプション:**「アイドルを許可」を選択し、このドライバにアイドル費用または収入を許可します。標準基準ドライバが選択されている場合、このオプションは自動的にアクティブになります。

計算後、この情報が IdleCost または IdleRevenue の下に報告されます。

9 **オプション:** 「シーケンス優先度」で、ドライバのシーケンス優先度を入力します。

デフォルトでは、100 が表示されます。最も高い優先度は1 です。77 ページの「優先度シーケンス・ドライバ」を参照してください。

10 **オプション:** カスタム式の場合にのみ、「ドライバ式」で、ユーザー定義の式を入力します。

カスタム式の変数に使用するメジャーは、Performance Management Architect で定義済である必要があります。Oracle Essbase Database Administrator's Guide の説明に従って、式エディタを使用して式を構築します。

11 式で使用される各変数に、次の値を選択します:

- 「メジャー」で、式に使用するメジャーを選択します。
- 「場所」で、モデル内のメジャーの場所を選択して、計算スクリプトが値を見つけることができるようにします:
  - 「グローバル」 - メジャー・データが現在の POV メンバーで形成される交差から取得されます。その他すべての次元のメンバーは NoMember に設定されます。
  - 「宛先」 - メジャー・データが宛先の交差から取得されます。
  - 「ソース」 - メジャー・データがソースの交差から取得されます。
  - 「割当て」 - メジャー・データが宛先ステージおよびソース・ステージの交差から取得されます。

12 **オプション:** 「式」テキスト・ボックスで「換算済」を選択し、実際のメンバーを表示した状態で式を表示します。

「変数の選択」で別のメンバーを選択すると、換算済の式の関連するメンバーも変更されます。

13 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

ドライバが「ドライバ定義」画面のリストに追加され、名前、式タイプ、シーケンス優先度およびレイヤーが表示されます。

14 ドライバを1 つまたは複数の次元メンバーに関連付けます。82 ページの「標準 Profitability ドライバの選択」を参照してください。

## ドライバ定義の変更

選択したドライバの要素は、いずれも変更できます。

▶ ドライバを変更するには:

1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバ定義」をクリックします。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

2 変更するドライバを選択します。

3 「変更」 をクリックします。



「ドライバ」ダイアログ・ボックスが表示され、ドライバの現在の詳細が表示されます。

#### 4 必要に応じて、「ドライバ」情報を変更します。

名前、説明、式のタイプ、レイヤーまたは変数の選択など、ドライバの詳細はいずれも変更できます。

名前を変更する場合、/、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

---

**注意** 費用レイヤーを消去するなど、ドライバに関連付けられているレイヤーを変更すると、変更されたドライバを使用するレイヤーのすべてのドライバ選択内容が削除されます。

---

#### 5 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

#### 6 計算スクリプトを再生成し、ドライバの変更を適用するモデルを再計算します。 第7章「計算モデル」を参照してください。

## 既存のドライバ定義からの新しいドライバ定義の作成

「ドライバの複製の作成」オプションを使用すると、既存のドライバ定義をコピーし、ドライバに新しい名前を割り当てることができます。コピーは、必要に応じて変更できます。

このオプションを使用することにより、「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスを再度開かなくても多くの類似ドライバを迅速に作成できるようになりました。

▶ 既存のドライバ定義から新しいドライバを作成するには:

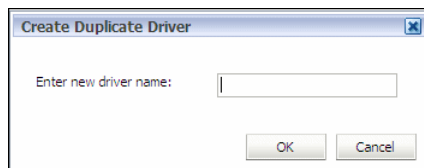
#### 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

「ドライバ定義」画面が表示されます。

#### 2 新しいドライバ定義のテンプレートとして使用するドライバを選択します。

#### 3 「ドライバの複製」をクリックします。

「複製ドライバの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Create Duplicate Driver". It has a text input field with the label "Enter new driver name:" and a cursor inside. Below the input field are two buttons: "OK" and "Cancel".


#### 4 新しいドライバの名前を入力し、「OK」をクリックします。

---

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

---

新しいドライバが「ドライバ定義」のリストに追加され、元のドライバと同じタイプ、ならびに費用または収益の詳細が表示されます。

- 5 「変更」  をクリックすると、新しく作成されたドライバの詳細が表示されま

す。  
「ドライバ」ダイアログ・ボックスが表示され、新しいドライバの最新の詳細が表示されます。必要な場合は、80 ページの「ドライバ定義の変更」に説明されているように、新しいドライバの詳細を変更できます。


## ドライバ定義の削除

---

**注意** ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択も削除されます。

---

▶ ドライバを削除するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバ定義」をクリックします。  
「ドライバ定義」画面が表示されます。
- 2 削除するドライバを選択します。
- 3 「削除」  をクリックします。  
削除を確認するメッセージが表示されます。
- 4 「はい」をクリックして、ドライバを削除します。
- 5 配賦が正しく計算されるように、配賦に別のドライバを選択して削除されたドライバと置き換えます。
- 6 計算スクリプトを再生成し、モデルを再計算します。第7章「計算モデル」を参照してください。

## 標準 Profitability ドライバの選択

ドライバを作成した後で、適用する次元メンバーに割り当てる必要があります。

ドライバを選択する際、次の方法を使用してドライバの選択を適用します:

- ドライバを次元の最上位メンバーに適用します。ドライバは、その次元内のすべてのメンバーに継承されます。
- ドライバを次元のサブ階層の最上位メンバーに適用します。ドライバは、選択されたメンバーの子孫にのみ継承されます。
- ドライバを単一のメンバーに適用します。

- ドライバを単一の交差または例外に適用します。

費用または収益値が含まれる交差には、値を配賦するため、ドライバを関連付ける必要があります。割当てまたは割当てルールを含む交差に対してドライバが割り当てられていないと、モデルの検証時に「欠落しているドライバ割当て」というエラーが作成されます。ドライバの選択は、必要に応じて変更できます。

選択内容の変更結果は、モデルを配置したときに反映されます;ただし、選択内容が変更されても、警告やエラーは表示されません。

**注：** ステージに含まれる次元が1つのみの場合、次元メンバーのドライバ選択を作成する必要があります。ステージに含まれる次元が2つの場合は、次元メンバーのドライバ選択、または単一交差のドライバ選択、あるいはその両方が必要です。

ドライバの選択の操作方法の詳細は、次の手順を参照してください:

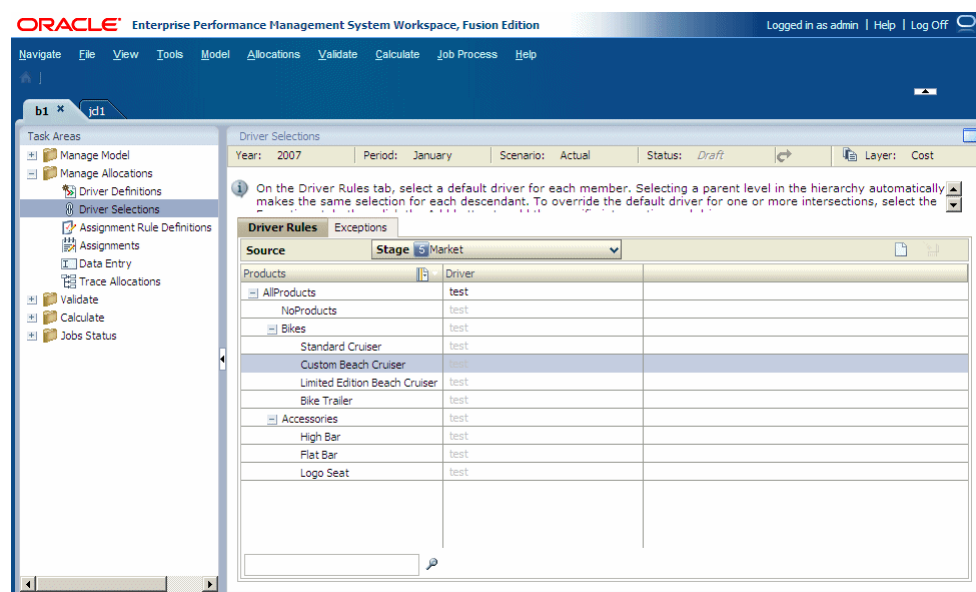
- 83 ページの「ドライバの選択の作成」。
- 84 ページの「単一の交差に対するドライバ選択の作成」。
- 86 ページの「ドライバの選択の変更」。
- 86 ページの「単一交差のドライバの選択変更」
- 87 ページの「ドライバの選択の削除」。
- 87 ページの「単一交差のドライバの選択の削除」




## ドライバの選択の作成

▶ ドライバを割り当てるには:


- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。

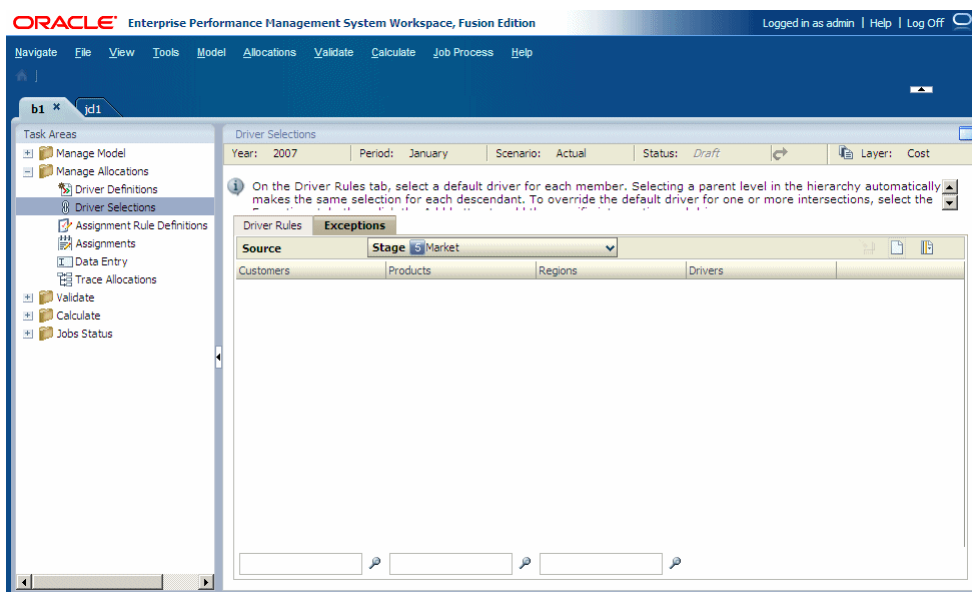
「ドライバの選択」画面が表示されます。





- 2 POV を選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 レイヤーを選択します。
- 4 「ドライバ・ルール」タブの「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。  
選択したステージのドライバ次元が最初の列に表示され、ドライバ次元内のすべての次元メンバーがその下にリストされます。
- 5 次元の下で、デフォルトのドライバを適用する親レベルまたは 0 レベルのメンバーを選択します。親レベルは、ステージまたは階層の一部の親になります。
- 6 「ドライバ」で、セレクトタ・アイコン  を表示するセルをクリックするか、または「追加」  をクリックして、共通セレクトタから親次元のドライバを選択し、「OK」をクリックします。24 ページの「共通メンバー・セレクトタの使用」を参照してください。  
ドライバが親に適用されると、同じドライバが自動的にすべての子孫に継承されます。ドライバは、継承されていることを示すため淡色表示になります。
- 7 「オプション:」 継承されたドライバ以外のドライバをメンバーに対して選択するには、次の手順を行います:
  1. 親次元を展開します。
  2. 異なるドライバを必要とするメンバーを選択します。
  3. 共通セレクトタから代替のドライバを選択します。24 ページの「共通メンバー・セレクトタの使用」を参照してください。ドライバの選択が自動的に保存されます。
- 8 オプション: 単一の交差に対してドライバを設定する必要がある場合は、84 ページの「単一の交差に対するドライバ選択の作成」を参照してください。

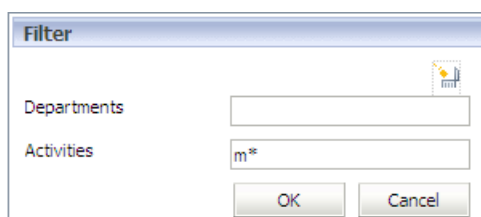
## 単一の交差に対するドライバ選択の作成

- ▶ 単一交差のドライバを選択するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
  - 2 「POV」および「レイヤー」を選択し、「実行」  をクリックします。
  - 3 「例外」を選択します。




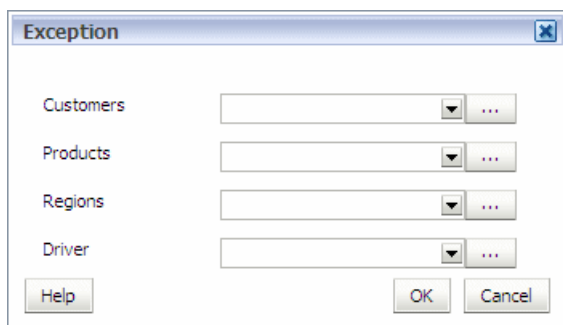
- 4 「ステージ」で、交差を含むモデル・ステージを選択します。
- 5 オプション: 「例外」タブで「メンバー・セレクタ」をクリックすると、使用可能な次元のリストをフィルタ処理できます。
  1. ドロップダウン・リストで、必要に応じて「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。
  2. 「フィルタ」を選択します
  3. 1つ以上の次元に対するフィルタ条件を入力します。


必要なメンバーの正確な名前または別名を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、"M"の文字で始まる次元のすべてのメンバーを検索するには、"M\*"と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。



4. 「OK」をクリックします。  
フィルタ条件を満たすアイテムのみが「例外」タブに表示されます。

- 6 「追加」をクリックします。



- 7 「例外」ダイアログ・ボックスに一覧表示された各次元で、セクタ・アイコン  をクリックし、例外ドライバを適用する必要がある特定の交差に必要なメンバーを選択します。



24 ページの「共通メンバー・セクタの使用」を参照してください。

- 8 交差のすべてのメンバーを選択したら、「OK」をクリックします。
- 9 「ドライバ」で、交差の例外ドライバを選択します。
- 10 「OK」をクリックします。

ドライバの選択は自動的に保存され、テーブルに表示されます。

## ドライバの選択の変更


▶ ドライバの選択を変更するには:


- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。
- 2 POV を選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 レイヤーを選択します。
- 4 「ドライバ・ルール」の「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。  
選択したステージのドライバ次元が最初の列に表示され、そのドライバ次元内のすべてのメンバーがその下にリストされます。
- 5 「ドライバ」で、変更するドライバを含むセルをクリックして共通セクタ・ボタンを表示するか、「追加」  をクリックして、別のドライバを選択します。
- 6 共通メンバー・セクタから、別のドライバを選択し、「OK」をクリックします。

ドライバの選択が自動的に保存されます。

## 単一交差のドライバの選択変更



▶ 単一交差のドライバを選択するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- 2 「POV」および「レイヤー」を選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 「例外」タブを選択します。

- 4 「ステージ」で、交差を含むモデル・ステージを選択します。
- 5 「ドライバ」で、変更するドライバを含むセルをクリックします。  
ドロップダウンおよび共通セレクト・ボタンが表示されます。
- 6 セレクト・ボタンをクリックすると、「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 7 特定の交差に必要な次元メンバーを選択します。
- 8 「OK」をクリックします。  
ドライバの選択は自動的に保存され、テーブルに表示されます。



## ドライバの選択の削除

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

- ▶ 選択したドライバを削除するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。
  - 2 POV を選択し、「実行」をクリックします。
  - 3 レイヤーを選択します。
  - 4 「ドライバ・ルール」の「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。
  - 5 削除するドライバの選択が含まれる行を選択します。
  - 6 「削除」をクリックします。  
削除を確認するメッセージが表示されます。
  - 7 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。  
ドライバが行から削除されます。

## 単一交差のドライバの選択の削除

削除する交差を選択します。その交差全体が「例外」タブから削除されます。

- ▶ 単一交差のドライバの選択を削除するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。
  - 2 POV を選択し、「実行」をクリックします。
  - 3 レイヤーを選択します。
  - 4 「例外」タブを選択します。
  - 5 「ステージ」で、モデル・ステージを選択します。
  - 6 削除する交差を選択します。
  - 7 「削除」をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。

## 8 「はい」をクリックして削除を確認します。

交差全体が行から削除されます。

## 標準 Profitability 割当ての操作

ドライバ定義が費用と収益のフローの計算方法を決定するのに対して、割当ては計算した収益および費用の配賦先を指定します。

割当ては、ソースから宛先へのデータのフローを定義します。フローを定義するには、モデル内の各ノードまたは交差に対してソースおよび宛先の関係を作成し、あるメンバーの宛先を配賦フローの次の交差のソースにします。

ソース・データを含むステージ内の次元メンバーの各交差に対して、下位のメンバー交差を宛先として割り当てます。

順方向または同じステージにのみ、割当てを行うことができます。費用と収益の配賦は、開始から終了の方向にはトレースできますが、逆方向ではできません。モデルを計算する前に、割当てを内部フロー・ルールに従って検証し、モデルの整合性を確認する必要があります。割当てでは、ステージをスキップすることもできます。たとえば、ステージ1のソース交差にステージ3の宛先を割り当てることができます。

プロセスのフローに応じて、一部またはすべての割当てタイプを使用できます。[88 ページの「割当てのタイプ」](#)を参照してください。

割当ては、各ステージ内の1つの次元メンバーの交差によって制御されます。割当ては、特定のレベル0メンバーの交差に対して作成されます。割当てを個別に設定することも、繰り返し利用できるように割当てルールを作成することもできます。

割当てを作成するには、有効な POV およびレイヤー(費用または収益)を選択し、時間、期間、シナリオおよびレイヤーの組合せごとに一意の割当てを作成します。ソースは「ソース」ペインで適用し、宛先は「宛先」ペインで選択します。宛先には、ノードまたは交差を明示的に選択するか、割当てルールを選択できます。割当てルールの作成の詳細は、[94 ページの「標準 Profitability 割当てルールの操作」](#)を参照してください。

割当ての操作方法の詳細は、次の項を参照してください:

- [88 ページの「割当てのタイプ」](#)
- [89 ページの「割当ての作成」](#)
- [92 ページの「割当ての変更」](#)
- [93 ページの「割当ての削除」](#)
- [94 ページの「標準 Profitability 割当てルールの操作」](#)

## 割当てのタイプ

割当ては、様々な方法で設定できます:

- [89 ページの「ステージ間割当て」](#)



- [89 ページの「ステージ内割当て」](#)
- [89 ページの「相互割当て」](#)

## ステージ間割当て

ステージ間割当てとは、ソースと宛先の組合せが別々のモデル・ステージにある割当てです。たとえば、ステージ 1 からステージ 2 への割当てです。

## ステージ内割当て

ステージ内割当ては、ソースと宛先が同じステージにある割当てです。

## 相互割当て

相互割当ては、2 つ以上のプロセスのソースと宛先が相互に費用を転送し合う、ステージ内割当てです。単純な相互関係としては、交差 1 から交差 2 への直接配賦および交差 2 から交差 1 に戻す直接配賦があります。相互割当ては常にステージ内割当てです。

---

**注意** Profitability and Cost Management でサポートされているのは、単純な相互ループのみです。複雑な相互関係はサポートされていません。たとえば、交差 1 から交差 2 へ、交差 2 から交差 3 へ、および交差 3 から交差 1 へというような複雑な相互ループはサポートされていません。

---

相互ループの例: 人事部が、給与計算または従業員レポートの処理費用の一部を情報技術部に割り当てます。逆に、情報技術部が同部門の人材要件管理に必要な費用を人事部へと割り当てます。それぞれの部門が、相手の部門にサービスを提供するサポート機能を持っているケースです。

モデルを作成する際、ループ内に設定された割当てによって相互割当てが定義されます。相互関係が検出されると、特別な計算プロセスが実行され、最初に相互割当てを、次に通常の割当てを解決します。

パーセンテージ・ドライバが相互配賦で使用される場合、未割当ての費用のエラーを回避するため、TotalDriverValueAfterReciprocals は常に 100 未満の値になります。相互関係の解決後に実行される配賦では、「ドライバ」がすべて標準ドライバに変換されます。

相互割当てのフローをトレースする場合は、[117 ページの「配賦のトレース」](#)を参照してください。


## 割当ての作成

割当てにより、費用および収益が 1 つの交差から他の交差に転送され、モデル内の財務フローが構築されます。

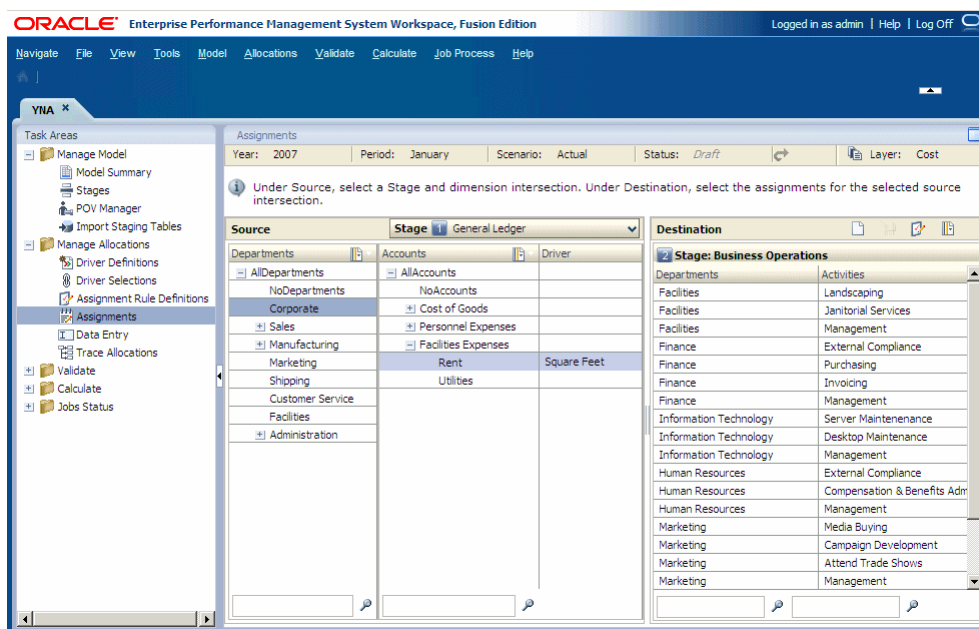
Oracle では次のフローを推奨します:

1. 要素を見落とすことがないように、プロセスまたは配賦に使用するすべての割当てを順番に作成します。
2. モデルの構造を検証し、必要なドライバ選択が欠落していないことを確認します。

▶ 割当てを作成するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
- 2 選択されているモデルの POV を選択し、「実行」 をクリックします。
- 3 レイヤーを選択します。
- 4 「ソース」の横にある「ステージ」ドロップダウン・リストから、割当てに使用するモデル・ステージを選択します。


選択したモデル・ステージの次元およびメンバーが表示されます。



- 5 「ソース」で、各次元からメンバーを選択し、割当てのソースの交差を作成します。

ドライバは「ドライバ」列に示されます。「宛先」列には、宛先ステージの次元およびメンバーが移入されます。

**注：** 階層のメンバーを検索するには、列の下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」をクリックします。

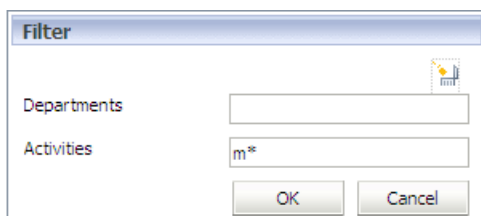
- 6 オプション: 「宛先」の下で「メンバー・セクタ」 を選択すると、使用可能な宛先のリストをフィルタ処理できます。

1. ドロップダウン・リストで、必要に応じて「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。

2. 「フィルタ」 を選択します

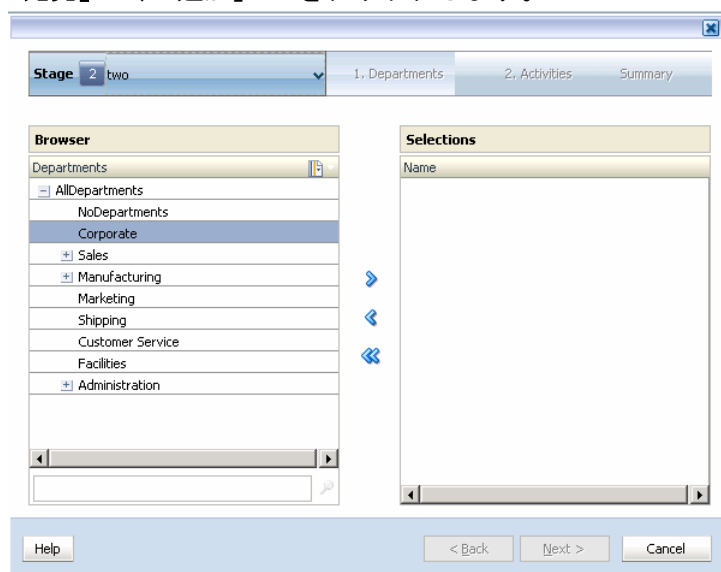
3. 1つ以上の次元でフィルタ条件を入力し、「OK」をクリックします。

必要なメンバーの正確な名前を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、"M"の文字で始まる次元のすべてのメンバーを検索するには、"M\*"と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。



The image shows a 'Filter' dialog box with two input fields. The 'Departments' field is empty, and the 'Activities' field contains 'm\*'. There are 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom.

7 「宛先」で、「追加」をクリックします。




The image shows a dialog box for selecting a stage. The 'Stage' dropdown is set to 'two'. The 'Browser' pane shows a tree view of departments, with 'Corporate' selected. The 'Selections' pane is empty. There are 'Help', '< Back', 'Next >', and 'Cancel' buttons at the bottom.



8 「ステージ」で、割当ての宛先とするステージを選択します:

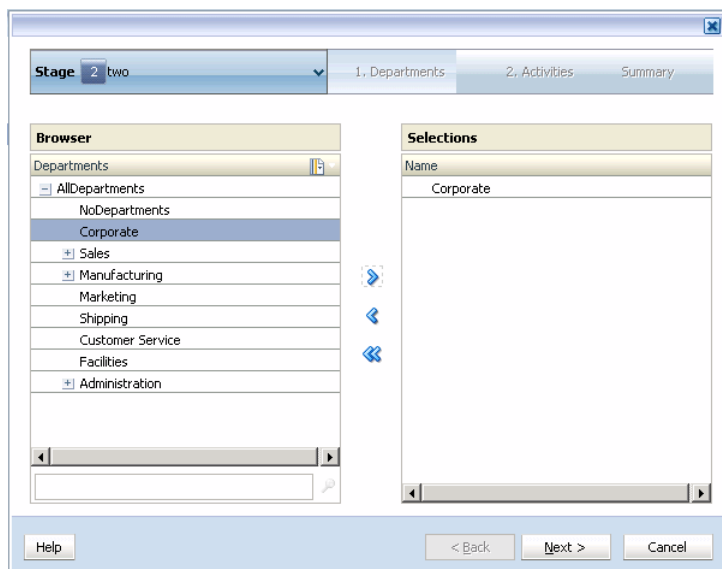
- ステージ間割当ての場合は、ソース・ステージに続く任意のステージを選択します。
- ステージ内割当ての場合は、ソース・ステージと同じステージを選択します。

**注:** ステージ内配賦が許可されているステージの場合(ソースと宛先の交差が同じステージ内に存在する場合)、宛先の交差値を保存するための別個の次元が Essbase アウトラインに作成されます。これらの次元には、\_intra という接尾辞が付きます。たとえば、ステージ次元が OPS\_Products および OPS\_Activities である場合、ステージ内配賦の宛先データは OPS\_Departments\_intra および OPS\_Activities\_intra という次元に保存されます。

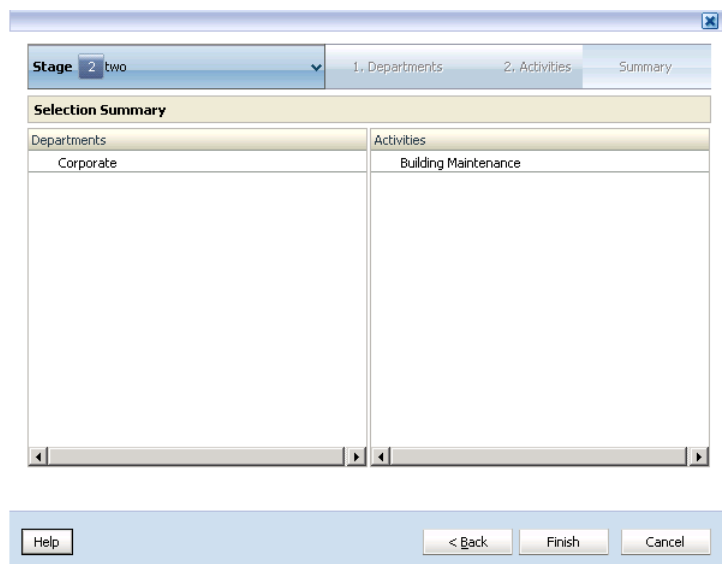
9 「手順「1」」で、割当ての宛先に使用する交差の最初のメンバーを選択します。

10 「追加」をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動します。

**注：**「選択」リストからメンバーを削除するには、削除するメンバーをハイライトし、「削除」をクリックします。リスト全体を削除するには、「すべて削除」をクリックします。



- 11 「次」をクリックします。
- 12 「手順「2」」で、割当ての宛先に使用する交差の2番目のメンバーを選択し、「次へ」をクリックします。
- 13 **オプション:** 手順 9 および手順 10 を繰り返して、追加メンバーを選択します。  
すべてのメンバーを選択すると、「宛先選択要約」が表示されます。





- 14 選択内容が正しいことを確認し、「終了」をクリックします。

## 割当ての変更

任意の割当てについて、宛先を変更できます;ただし、変更が財務フローとモデルの計算結果に影響することを考慮する必要があります。

▶ 割当てを変更するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
- 2 変更する割当てを含むモデルの POV とレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。
- 3 「ソース」の下で、モデル・ステージと、割当てのソースを含む次元メンバーの交差を選択します。
- 4 「宛先」の下で、変更する宛先メンバーを選択します。
- 5 宛先メンバーのセルをダブルクリックし、割当てを編集します。新しいメンバー名の入力を開始して、ドロップダウン・リストからメンバーを選択します。
- 6 変更の内容を確認します。
- 7 「保存」をクリックして、変更を保存します。



## 割当ての削除

---

**注意** 割当ての削除は財務フローとモデルの結果計算に影響を与えます。

---

▶ 割当てを削除するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
- 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。
- 3 「ソース」の下で、モデル・ステージと、削除する割当てを含む次元メンバーの交差を選択します。  
選択したステージの次元およびメンバーが表示されます。
- 4 「宛先」の下で、削除する宛先を選択します。  
削除対象として複数の宛先を選択するには:
  - 宛先の範囲を選択するには、[Shift]キーを押しながら、削除する範囲の先頭と末尾の宛先を選択します。
  - 複数の任意の宛先を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の宛先を1つずつ選択します。
- 5 「削除」をクリックします。  
削除を確認するメッセージが表示されます。

---

**注意** モデルの財務フローが、割当ての削除に従って変更されます。

---

- 6 「はい」をクリックします。

## 標準 Profitability 割当てルールへの操作

割当てでは配賦結果を渡す方向を指定します。同じパラメータを使用する複数の割当てがモデルに含まれていることがよくあります。類似する複数の割当てを簡単に作成するには、割当てパラメータを指定する割当てルールを作成し、再利用します。

割当てルールは、単一の宛先ステージのメンバー・セットおよびオプションのフィルタ・セットの集合です。フィルタは、次元に適用される条件の集合です。次の1つ以上の条件に基づいて、ルールが作成されます:

- 次元階層の特定のブランチ内のメンバーシップ
- メンバー名
- メンバーの別名
- UDA (ユーザー定義の属性)
- 属性の関連付け

割当てルールで戻される宛先は、宛先ステージにある全次元のレベル0メンバーの外積です。このメンバーは、ルールに適用されたフィルタ基準を満たしています。

割当てルールは個々の割当てを多数作成したり管理する労力を削減する一方、時間経過によるメタデータの変更にも対応しています。これにより、ルール定義で取り込んだ元のビジネス・ロジックが正しい割当て関係を継続して生成できるようになります。

次のオプションを使用して、割当てルールを作成できます:

- 単一の宛先ステージについて、特定のメンバー・セットおよびオプションのフィルタ・セットを定義します。
- 計算スクリプトの生成時に宛先ステージの次元メンバーを、選択したソースに置換する、ソースと同じ割当てルールを定義します。詳細は、[98 ページの「ソースと同じ」割当てルールの作成](#)を参照してください。

モデルにおいて、割当てルールの定義はすべての POV で同一です。ステージング・テーブル HPM\_STG\_ASGN\_RULE\_SEL を使用して Profitability and Cost Management に割当てルールの選択内容をインポートできます。ステージング・テーブルの使用方法は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide の付録 A を参照してください。

割当てルールの作成および管理には、次のような2つのオプションを使用できます:

- 割当てルールを作成してソースに適用する詳細は、[95 ページの「割当てルール・ウィザードの使用」](#)を参照してください。
- 割当てルールの作成と管理、および割当てルールの完全なリストを簡単に表示する詳細は、[104 ページの「割当てルールの定義」画面の使用](#)を参照してください。このオプションでは、ルールをソースに適用できませんので注意してください。

## 割当てルール・ウィザードの使用

「割当て」画面から使用可能な割当てルール・ウィザードでは、割当てルールの作成、および作成したルールのソースへの適用の両方を行うことができます。

次の手順を使用します:


- 95 ページの「割当てルールの作成」
- 98 ページの「既存の割当てルールから割当てルールを作成」
- 98 ページの「「ソースと同じ」割当てルールの作成」
- 101 ページの「割当てルールの変更」
- 102 ページの「割当てルールの削除」
- 103 ページの「既存の割当てルールの適用」
- 103 ページの「既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用」

### 割当てルールの作成

▶ 割当てルールを作成するには:

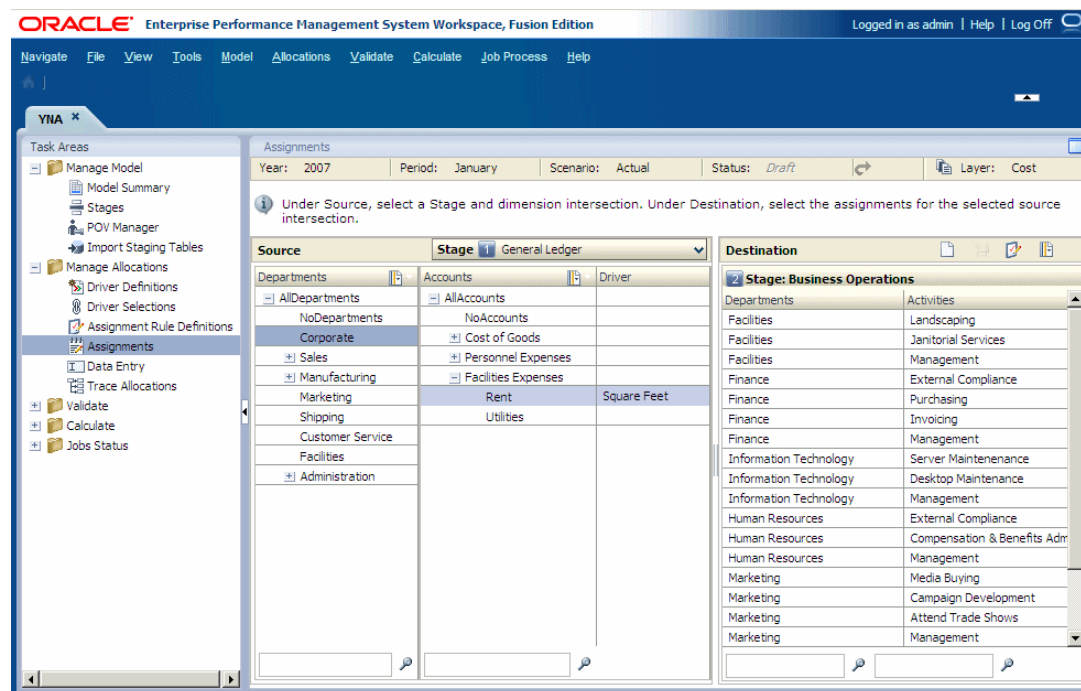
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。

「割当て」画面が表示されます。

- 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」  をクリックします。

- 3 「ステージ」で、割当てのステージを選択します。


ステージの次元およびメンバーが表示されます。



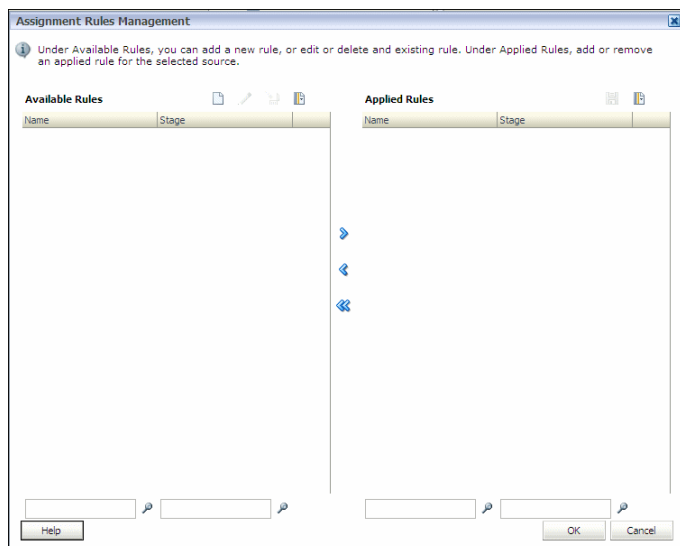
- 4 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を作成する次元ごとに、メンバーを選択します。交差に関連付けられたドライバは、「ドライバ」列に示されます。


交差のすべての次元が選択されている場合、「宛先」列には、次の情報が移入されます:

- 宛先ステージの次元およびメンバー(交差に割当てがある場合)。
- 宛先ステージおよび割当てルールの名前(交差に適用されている場合)。

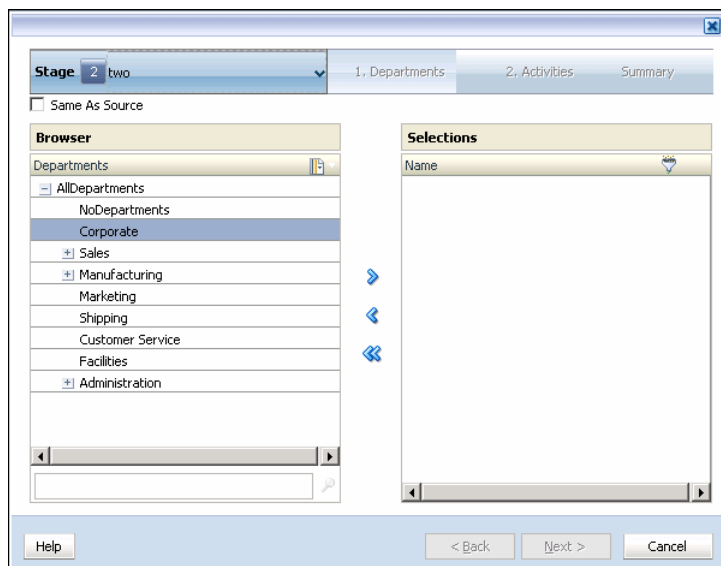
5 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



6 「使用可能なルール」列で、「追加」をクリックします。

「ルールの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。




7 「ステージ」で、ルールを作成するステージを選択します。

8 **オプション:** 1 つまたは複数の宛先交差に対して単一のソースを使用する割当てルールを作成するには、「ソースと同じ」を選択します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

9 ステップ「1」で、割当てルールに使用する交差の最初のメンバーを選択します。



10 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動します。

11 「次」をクリックします。


12 **オプション:** 選択済の、レベル0でない次元メンバーのリストをフィルタ処理します。

UDA つまり属性パラメータについてフィルタに値を入力するとき、文字列全体を入力します。ルールの名前フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などのワイルドカード記号がサポートされます。たとえば、"B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"\*B"は、フィルタがワイルドカードで始まることを意味しますが、これは許可されていないため使用できません。

27 ページの「フィルタの使用」を参照してください。

**注:** 割当てルールの場合、フィルタの作成中にどちらのモード(「別名の表示」または「名前の表示」)が選択されていても、名前によるフィルタ基準がメンバー名と別名の両方に適用されます。

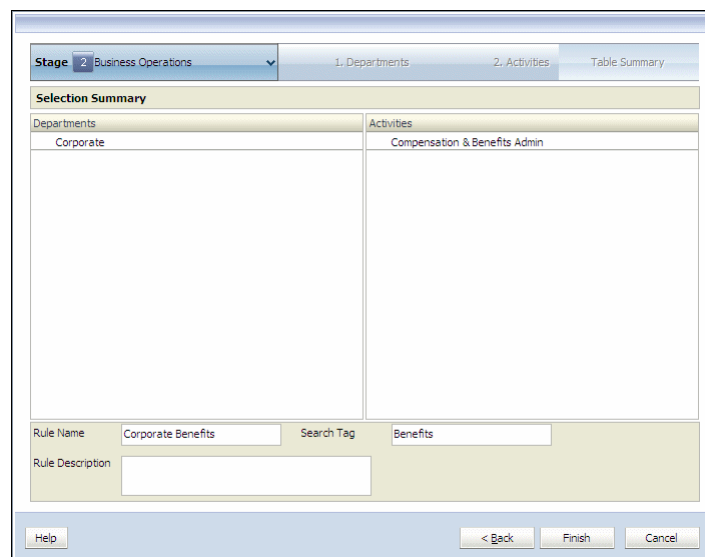
13 ステップ「2」で、割当ての宛先に使用する交差の2番目のメンバーを選択します。

14 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動します。

すべてのメンバーを選択すると、「宛先選択要約」が表示されます。

15 「次」をクリックします。

すべてのメンバーを選択すると、割当てルール要約が表示されます。



16 選択が正しいかどうかを確認します。

17 「ルール名」に、割当てルールの名前を入力します。ルール名は、80文字まで入力できます。

18 **オプション:** 後からルールを簡単に検索できるように、「検索タグ」を入力します。

19 **オプション:** 割当てルールの説明を入力します。

20 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 既存の割当てルールから割当てルールを作成

次の手順で、既存の割当てルールを編集し、「名前を付けて保存」オプションを使用して新しい割当てルールとして保存できます:

- 既存のルールを編集し、新しいルールとして保存します。
  - 既存のルールを編集し、内容を変更してルールの名前を変更します。
- ▶ 既存の割当てルールを新しいルールとして保存するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」をクリックします。
  - 2 ソース・ステージおよび交差を選択します。
  - 3 コピーまたは変更する割当てルールを選択し、「編集」をクリックします。
  - 4 **オプション:** 割当てルールの選択項目を変更します。
  - 5 「ルール名」で、新しいルールの名前を入力します。
  - 6 **オプション:** 後からルールを簡単に検索できるように、「検索タグ」を入力します。
  - 7 **オプション:** 割当てルールの説明を入力します。
  - 8 「名前を付けて保存」をクリックし、ルールを新しい名前のもとで保存します。
  - 9 「終了」をクリックします。

新しいルールが「使用可能なルール」に表示されます。

## 「ソースと同じ」割当てルールの作成

「ソースと同じ」割当てルールを定義する場合は、割当てルールを作成し、1つ、複数またはすべての宛先ステージ次元のメンバー選択でワイルド・カードを使用できるようにします。ルール選択を使用してこのルールが選択されると、「ソースと同じ」とマークされている次元では、宛先ステージ次元およびソース・ステージ次元の両方で同じメンバーが使用されます。

**注:** ルール内でソースと同じメンバーの選択で使用されているレベル0のメンバーは、ソース・ステージ次元および宛先ステージ次元の両方の中で、レベル0のメンバーとして存在する必要があります。

「ソースと同じ」設定を含むルールは、ワイルドカードとして機能し、ルールを選択するたびに、新しい宛先として選択した次元の各メンバーを検索します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

### 例: 「ソースと同じ」割当てルール

モデルには、配賦に必要な次元が2つあります:

- Products (Cola および Lime)

- Regions (US および Can)


たとえば、割当てルール「Rule 1」は、「Products」という次元をあらゆる配賦のソースとして使用するために作成されます。「ソースと同じ」割当てルールを作成して適用する手順は、次のとおりです。

- 1 番目の配賦を実行する場合は、関連付けられているメンバー「Cola」、「宛先」として「US」、「Rule 1」の順に選択します。計算スクリプトが生成されると、選択したソース「Product (Cola) X US」が挿入されます。
- 2 番目の配賦を実行する場合は、関連付けられているソース・メンバー「Lime」、「宛先」として「US」、「Rule 1」の順に選択します。今度は、計算スクリプトが生成されると、選択したソース「Product (Lime) X US」が挿入されます。

▶ 「ソースと同じ」割当てルールを作成するには:

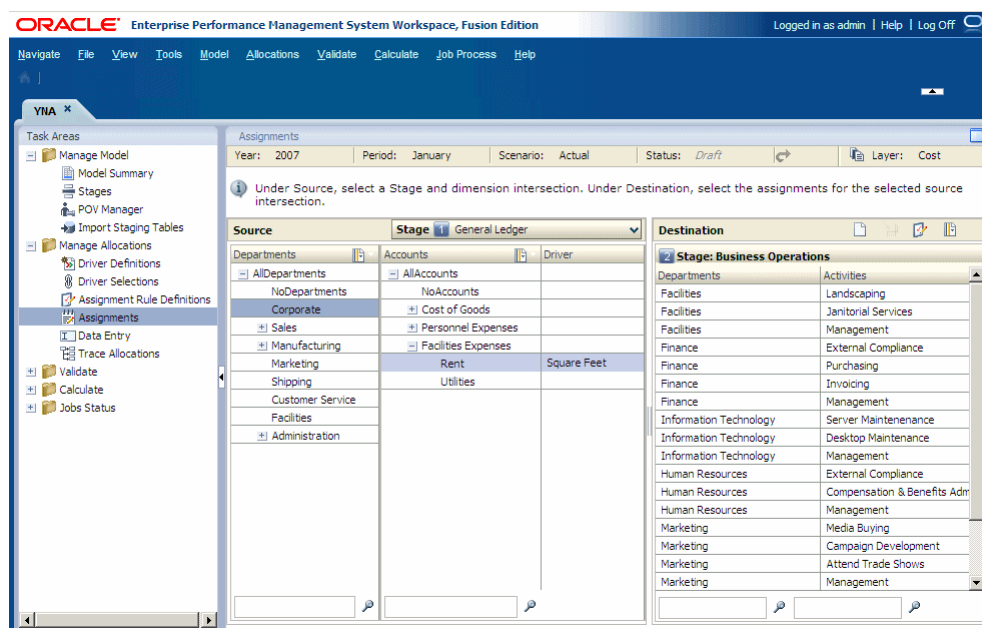
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。

「割当て」画面が表示されます。

- 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」 をクリックします。

- 3 「ステージ」で、割当てのステージを選択します。

ステージの次元およびメンバーが表示されます。



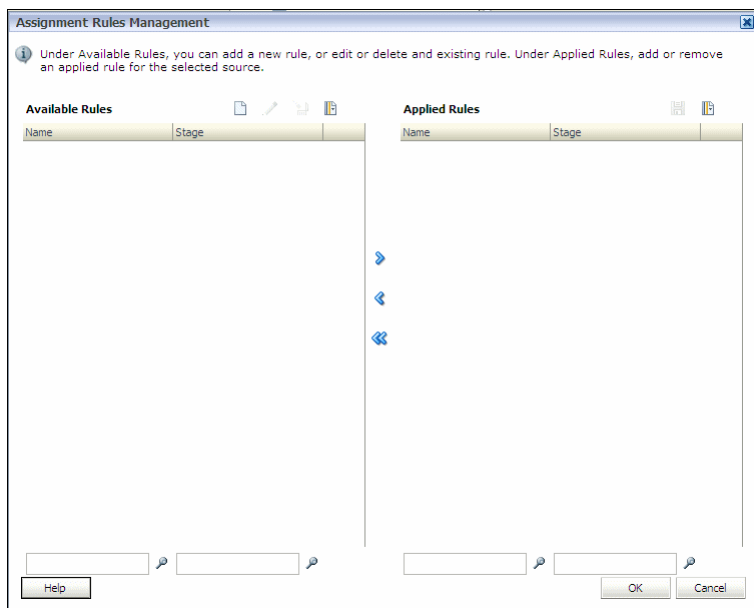
- 4 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を作成する次元ごとに、メンバーを選択します。


関連付けられたドライバは「ドライバ」列に示されます。「宛先」列には、次の情報が移入されます:

- 宛先ステージの次元およびメンバー(交差に割当てがある場合)
- 宛先ステージおよび割当てルールの名前(交差に適用されている場合)。

- 5 「宛先」で、「ルール管理」 をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



6 「使用可能なルール」列で、「追加」をクリックします。

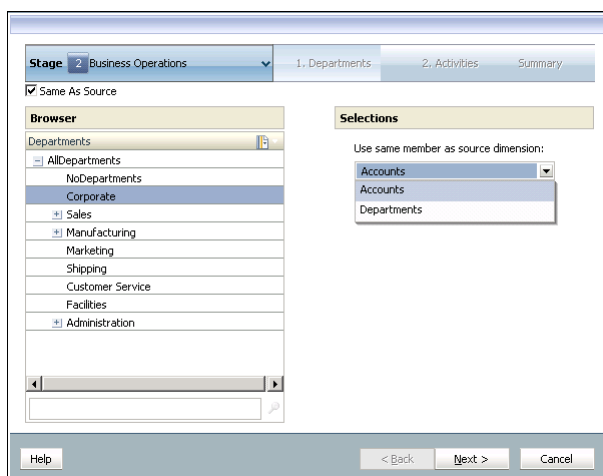
「ルールの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7 「ステージ」で、ルールが作成された宛先ステージを選択します。

8 手順「1」で、「ソースと同じ」を選択し、1つ以上の宛先交差に対して単一のソースを使用する割当てルールを作成します。

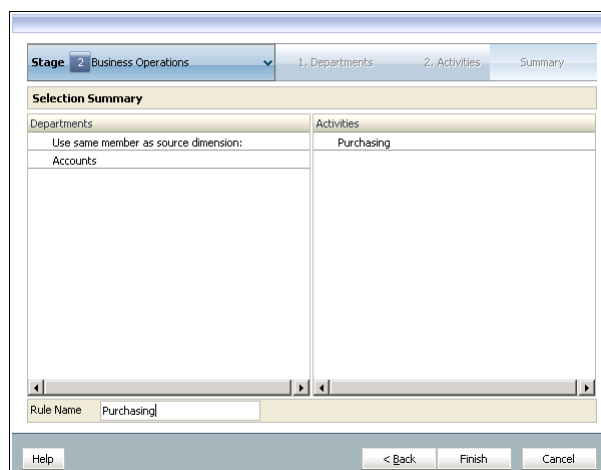
計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

**注：**「ソースと同じ」を選択すると、次元のメンバー選択と「フィルタ」アイコンが使用不可になります。これは、定義されたソース内ではメンバーが初めから事前選択されていたためです。この次元では、新しいメンバーの選択は必要がなく許可されていません。



9 「選択」で、「ソース次元と同じメンバーを使用」ドロップダウン・リストから、各配賦についてデフォルトのソース次元とする次元を選択します。



- 10 「次」をクリックします。
- 11 手順「2」で、手順 8 から手順 9 までを繰り返し、割当ての「宛先」の各交差メンバーを選択します。
- 12 「次」をクリックします。  
割当てルール要約が表示されます。




- 13 選択内容を確認します。
- 14 「ルール名」に、ソースと同じ割当てルールの名前を入力します。割当てルール名には 80 文字まで入力できます。
- 15 「終了」をクリックします。  
「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 割当てルールの変更

宛先ステージ、選択された次元メンバー、フィルタ・セット、および既存の割当てルールのルール名、ルールの説明および検索タグを変更できます。

- ▶ 割当てルールを変更するには:
  - 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
  - 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。
  - 3 「ステージ」で、変更する割当てルールのステージを選択します。  
ステージの次元およびメンバーが表示されます。
  - 4 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を構成するメンバーを選択します。  
関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。
  - 5 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」をクリックします。  
「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6 変更するルールを選択して、「変更」  をクリックします。

「ルールの編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。

**注：** 必要に応じて、フィルタを変更します。27 ページの「フィルタの使用」を参照してください。

7 「ルールの編集」ダイアログ・ボックスにある各「ステップ」の「選択」で、必要に応じて、矢印キーを使用してメンバーの追加や削除を行い、ルール交差に選択された次元メンバーを変更し、「次へ」をクリックします。

すべての次元の変更が完了したら、ルールの編集要約が表示されます。

8 ルールの編集要約で、選択内容を確認します。

9 **オプション：**「ルール名」で、割当てルールに異なる名前を入力します。ルール名は、80 文字まで入力できます。

10 適切なオプションを選択し、ルールを保存します：

- 変更したルールを元のルール名で保存する場合は、「保存」をクリックします。
- 別のルール名で新しいルールを作成する場合は、「名前を付けて保存」をクリックします。

11 「終了」をクリックします。

変更したルールが「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」リストに表示されます。


## 割当てルールの削除

▶ 割当てルールを削除するには：

1 削除する割当てルールを他のユーザーが必要としていないことを確認します。

2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。

「割当て」画面が表示されます。

3 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」  をクリックします。

4 「ステージ」で、削除する割当てルールのステージを選択します。


ステージの次元およびメンバーが表示されます。

5 「ソース」で、割当てルールのソースの交差を構成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

6 「宛先」で、「ルール管理」  をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7 「使用可能なルール」で、削除するルールを選択し、「削除」  をクリックします。

削除を確認するメッセージが表示されます。

---




**注意** ルールとルール選択が削除されるため、割当てルールを削除すると、モデル・データの計算に影響があります。

---

- 8 「はい」をクリックします。  
ルールが「使用可能なルール」リストから削除されます。
- 9 「OK」をクリックします。



## 既存の割当てルールの適用

▶ 割当てルールを適用するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
- 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。
- 3 「ステージ」で、割当てルールを適用するステージを選択します。  
ステージの次元およびメンバーが表示されます。
- 4 「ソース」で、割当てルールを適用するソースに対して、交差を作成するメンバーを選択します。  
関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。
- 5 「宛先」で、「ルール管理」をクリックします。  
「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 6 「使用可能なルール」で、この交差に適用する割当てルールを選択します。
- 7 「追加」をクリックして、選択した割当てルールを「適用済ルール」に移動し、「OK」をクリックします。  
割当てルールが、選択した割当てに適用されます。


## 既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用

▶ 「ソースと同じ」割当てルールを適用するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。  
「割当て」画面が表示されます。
- 2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。
- 3 「ステージ」で、割当てルールを適用するステージを選択します。  
ステージの次元およびメンバーが表示されます。
- 4 「ソース」で、割当てルールを適用するソースに対して、交差を作成する各次元のメンバーを選択します。
- 5 「宛先」で、「割当てルール管理」をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6 「使用可能なルール」で、「ソースと同じ」オプションを使用して、この交差に適用する割当てルールを選択し、「OK」をクリックします。

7 「追加」をクリックして、選択した割当てルールを「適用済ルール」に移動し、「OK」をクリックします。割当てルールが、選択した交差に適用されます。


計算スクリプトが生成されると、選択したソース・メンバーおよび次元メンバーが挿入され、正しい配賦結果が生成されます。

## 既存割当てルールの選択の削除

▶ 割当てルールの選択を削除するには:

1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。

「割当て」画面が表示されます。


2 選択したモデルの POV およびレイヤーを選択し、「実行」をクリックします。

3 「ステージ」で、削除する割当てルールを含むステージを選択します。

ステージの次元およびメンバーが表示されます。


4 「ソース」で、削除する割当てルールのソースに対する交差を作成するメンバーを選択します。

関連付けられているドライバが適切な「ドライバ」列に表示されます。「宛先」列のアイコンがアクティブになります。

5 「宛先」で、「割当てルール管理」をクリックします。

「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6 「適用済ルール」で、この割当てから削除する割当てルールを選択します。

7 選択した割当てルールを「使用可能なルール」に移動する場合は、「削除」、「OK」の順にクリックします。

割当てルールが、選択した割当てから削除されます。

## 「割当てルールの定義」画面の使用

「タスク領域」ペインから使用可能な「割当てルールの定義」画面では、割当てルールの作成と管理を行えるほか、割当てルールの完全なリストを1つの場所に簡単に表示できます。ただし、このオプションでは、ルールをソースに適用できません。

「割当てルールの定義」画面には、割当てルールの名前と説明、および宛先ステージが表示されます。関連付けられた検索タグが一覧表示され、割当てルールを作成または変更したユーザーの ID が示されます。割当てルールが割当てルール・ウィザードと「割当てルールの定義」画面のいずれで作成されたかにかかわらず、すべての割当てルールを使用できます。

次の手順を使用します:



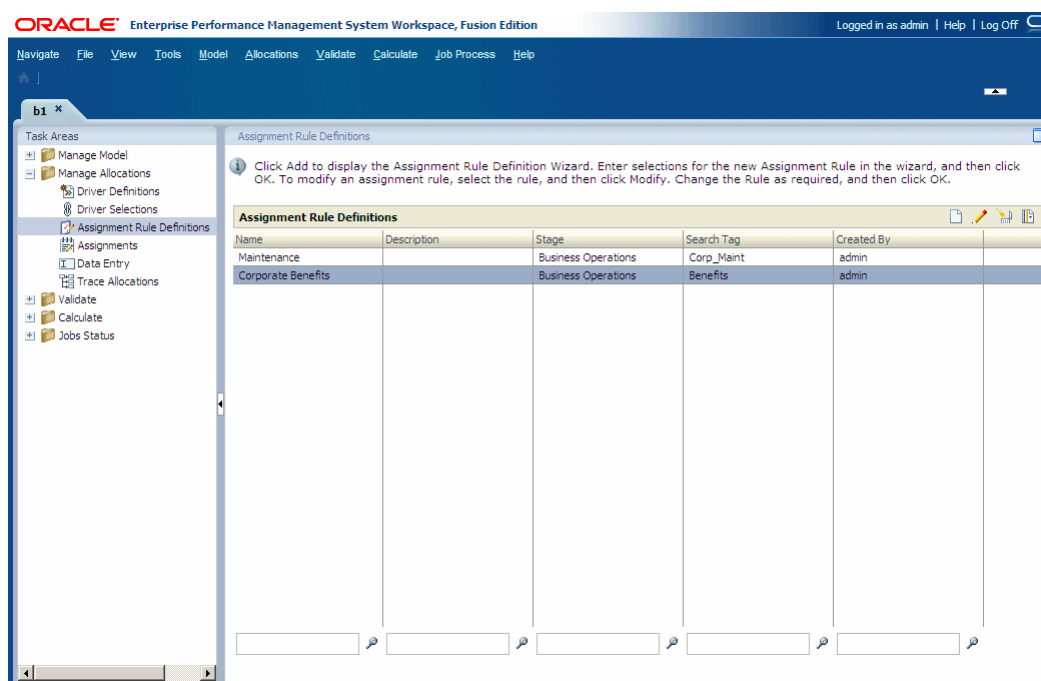
- 105 ページの「割当てルール定義の作成」
- 107 ページの「[ソースと同じ] 割当てルール定義の作成」
- 109 ページの「割当てルール定義の変更」
- 110 ページの「割当てルール定義の削除」

## 割当てルール定義の作成

▶ 割当てルール定義を作成するには:

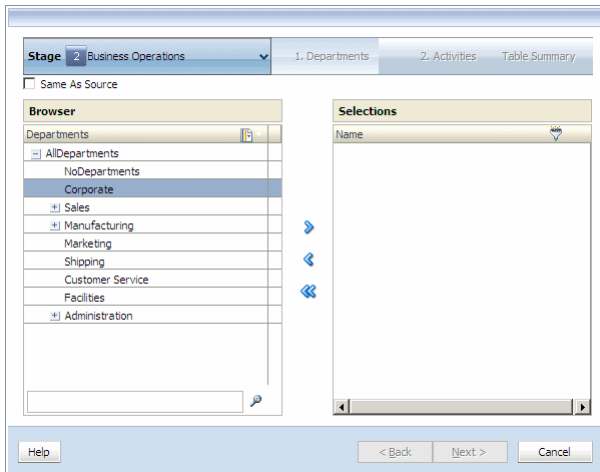
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。



「割当てルールの定義」画面が表示されます。この画面には、割当てルールの名前と説明、および宛先ステージが表示されます。関連付けられた検索タグが一覧表示され、割当てルールを作成または変更したユーザーの ID が示されます。



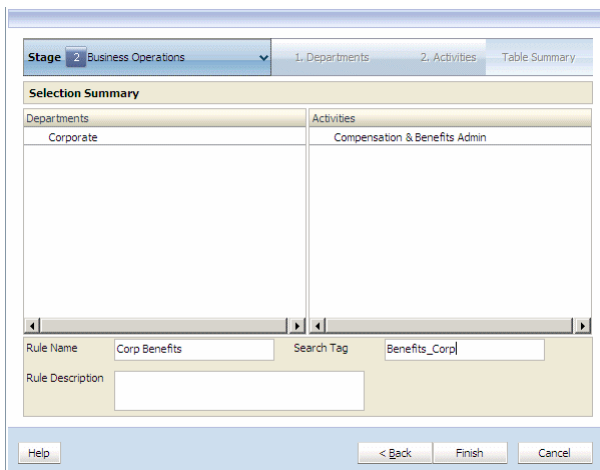
- 2 「追加」  をクリックします

割当てルール・ウィザードが表示されます。



- 3 ステップ「1」では、「ブラウザ」の下で、割当てルールに交差の最初のメンバーを選択します。
- 4 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。
- 5 ステップ「2」の「ブラウザ」の下で、割当ての宛先として交差の2番目のメンバーを選択します。
- 6 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、その他の次元に対してこのステップを繰り返します。

交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。



- 7 **オプション:** 選択済の、レベル0でない次元メンバーのリストをフィルタ処理します。

UDA つまり属性パラメータについてフィルタに値を入力するとき、文字列全体を入力します。ルールの名前フィルタでは、アスタリスク(\*)や疑問符(?)などのワイルドカード記号がサポートされます。たとえば、"B\*"と入力すると、文字"B"で始まる名前または別名を持つメンバーがフィルタされます。"\*B"は、フィルタがワイルドカードで始まることを意味しますが、これは許可されていないため使用できません。

[27 ページの「フィルタの使用」](#)を参照してください。

**注：** 割当てルールの場合、フィルタの作成中にどちらのモード(「別名の表示」または「名前の表示」)が選択されていても、名前によるフィルタ基準がメンバー名と別名の両方に適用されます。

**8 新しいルールについて次の情報を入力します：**

- 「ルール名」 - ルール名には、80 文字まで入力できます。
- 「検索タグ」 - 検索タグには、80 文字まで入力できます。
- 「ルールの説明」

**9 「終了」をクリックします。**

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

**10 選択が正しいかどうかを確認します。**

**11 「ルール名」に、割当てルールの名前を入力します。ルール名は、80 文字まで入力できます。**

**12 「終了」をクリックします。**

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 「ソースと同じ」割当てルール定義の作成

「ソースと同じ」割当てルールを定義する場合は、割当てルールを作成し、1つ、複数またはすべての宛先ステージ次元のメンバー選択でワイルド・カードを使用できるようにします。ルール選択を使用してこのルールが選択されると、「ソースと同じ」とマークされている次元では、宛先ステージ次元およびソース・ステージ次元の両方で同じメンバーが使用されます。

**注：** ルール内でソースと同じメンバーの選択で使用されているレベル0のメンバーは、ソース・ステージ次元および宛先ステージ次元の両方の中で、レベル0のメンバーとして存在している必要があります。

「ソースと同じ」設定を含むルールは、ワイルドカードとして機能し、ルールを選択するたびに、新しい宛先として選択した次元の各メンバーを検索します。

計算スクリプトが生成されると、選択したソースがルールに挿入され、適切な配賦が作成されます。

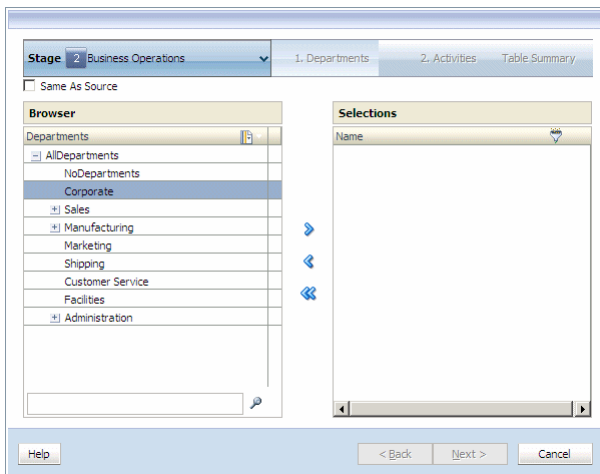
▶ 「ソースと同じ」割当てルール定義を作成するには：

**1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。**

「割当てルールの定義」画面が表示されます。

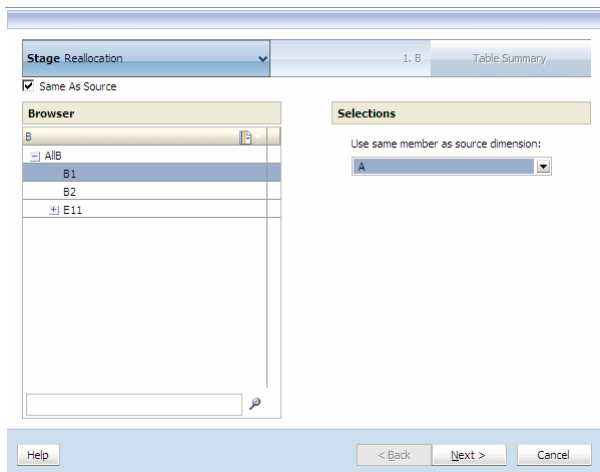
**2 「追加」をクリックします**

割当てルール・ウィザードが表示されます。

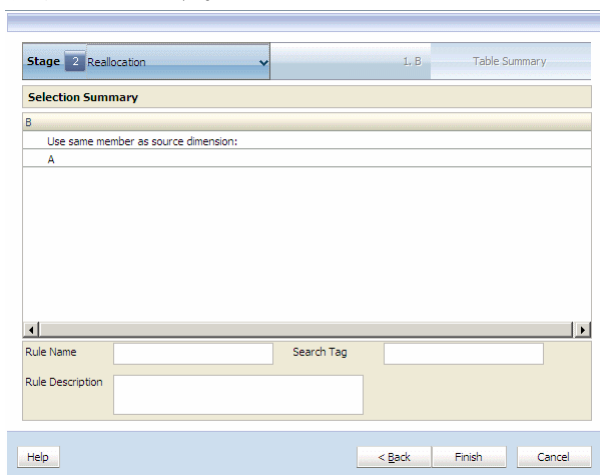


- 3 「ブラウザ」の下で、交差の最初のメンバーを選択します。
- 4 「ブラウザ」の上にある「ソースと同じ」をクリックします。

画面の「選択」列が変わり、「ソースと同じ」ドロップダウン・リストが表示されます。





- 5 「選択」の下で、割当てルールのソースとして使用する次元を選択し、「次へ」をクリックします。

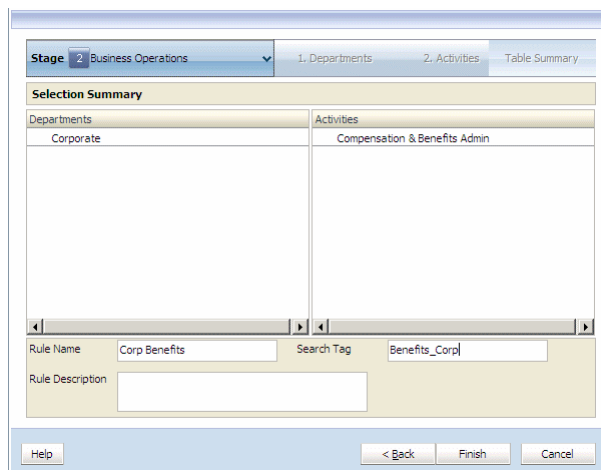


- 6 「終了」をクリックします。

「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

- 7 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。
- 8 ステップ「2」の「ブラウザ」の下で、割当ての宛先として交差の2番目のメンバーを選択します。
- 9 「追加」  をクリックして、選択したメンバーを「選択」に移動し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、その他の次元に対してこのステップを繰り返します。

交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。



#### 10 新しいルールについて次の情報を入力します:

- ルール名。ルール名には、80 文字まで入力できます。
- 検索タグ。検索タグには、80 文字まで入力できます。
- ルールの説明

#### 11 「終了」をクリックします。


「ルール名」に表示されていたルール名が、「割当てルール管理」ダイアログ・ボックスの「使用可能なルール」のリストに追加されます。

## 割当てルール定義の変更

任意の割当てルール定義を変更できます。

変更した割当てルール定義をオリジナルとして保存することも、名前を変更して新しい割当てルール定義を作成することもできます。

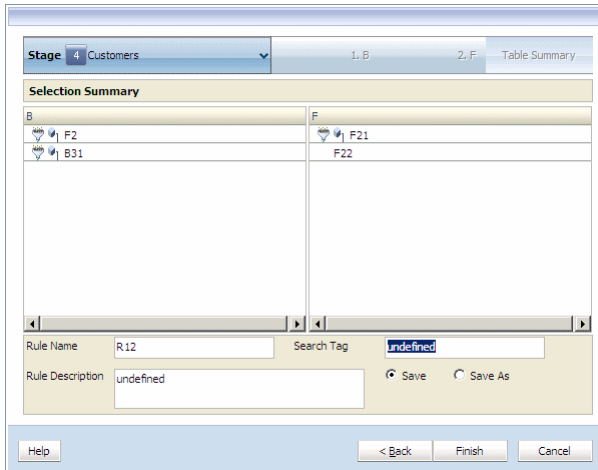
▶ 割当てルール定義を変更するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。  
「割当てルールの定義」画面が表示されます。
- 2 変更する割当てルールを選択します。
- 3 「選択した割当てルールの編集」  をクリックします。

割当てルール・ウィザードが表示されます。

- 4 **オプション:** ステップ「1」では、「ブラウザ」の下で「追加」矢印または「削除」矢印を使用して、該当するメンバーを「選択」列の下に移動し、「次へ」をクリックします。
- 5 **オプション:** ステップ「1」の「ブラウザ」の下で「追加」矢印または「削除」矢印を使用して、該当するメンバーを「選択」列の下に移動し、「次へ」をクリックします。

必要に応じて、その他の次元に対してこのステップを繰り返します。交差のすべてのメンバーを選択すると、宛先選択の要約が表示されます。




- 6 割当てルールに対する変更を確認します。
- 7 **オプション:** 既存の割当てルールへの変更を同じルール名で保存する場合は、「保存」をクリックして、既存のルール名の検索タグとルールの説明を入力し、「終了」をクリックします。

変更した割当てルールが保存されます。

- 8 **オプション:** 割当てルールを新しい割当てルールとして保存する場合は、「名前を付けて保存」をクリックして、新しいルール名、検索タグおよびルールの説明を入力し、「終了」をクリックします。

新しい割当てルールが選択した次元に新しいルール名で保存されます。with the selected dimensions under the new rule name.

## 割当てルール定義の削除

- ▶ 割当てルールを削除するには:
  - 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。  
「割当てルールの定義」画面が表示されます。
  - 2 削除する割当てルールを選択します。
  - 3 「割当てルールの削除」  をクリックします。  
削除確認メッセージが表示されます。
  - 4 「はい」をクリックします。

選択した割当てルール定義が「割当てルールの定義」リストから削除され  
ます。

## データの入力ウィンドウの使用法

Profitability and Cost Management のデータの入力ウィンドウを使用してデータの追加、編集および確認を実行できます。

事前に定義されたいくつかのビューが用意された標準データ入力ビューは、アプリケーションを配置すると使用できるようになります。また、メジャーのセット(メジャー次元のメンバー)を含むカスタマイズした編集ビューを作成してデータを見やすくできます。この方法は頻繁に更新する必要があるデータのセットがある場合に便利です。

様々なタイプのデータ入力ビューを作成できます:

- 標準データ入力ビューは、アプリケーションの配置後に使用でき、事前に定義されたビューが提供されます。111 ページの「標準データ入力ビュー」を参照してください。
- ユーザー定義のカスタム・データ入力ビューの定義は、Profitability and Cost Management スキーマに格納されます。ビューはアプリケーションごとに定義され、すべてのユーザー間で共有されます。この機能は名前付きビューにのみ適用されます。
- アドホック・ビューはユーザー・プリファレンスに格納され、ユーザー間で共有されることはありません。これらのビューは、ユーザーがメジャーを選択し、「保存」ではなく「適用」をクリックすると作成されます。

データを手動で管理する方法については、次の項を参照してください:

- 111 ページの「標準データ入力ビュー」
- 113 ページの「カスタム編集ビューの作成」
- 115 ページの「ステージ・データの編集」
- 115 ページの「データの手動編集」
- 116 ページの「ドライバ・データの編集」
- 116 ページの「編集ビューの削除」

## 標準データ入力ビュー

Performance Management Architect から Profitability and Cost Management にアプリケーションを配置すると、標準データ入力ビューが作成されます。これらのビューを使用して、費用の賃借一致、ドライバ統計と費用統計、およびステージ内割当て詳細のデータの詳細を迅速かつ簡単に評価できます。


標準データ入力ビューでは、関連するメジャーの選択が「データの入力」画面に表示されます。必要な場合は、標準データ入力ビューを必要に応じて変更して、結果を自分の組織向けにカスタマイズできます。

「データの入力」画面の「使用可能なビュー」から標準データ入力ビューを選択すると、次の表に示すように、画面はそのビューの関連メジャーを反映するように変わります:

**表 6** 標準データ入力ビュー

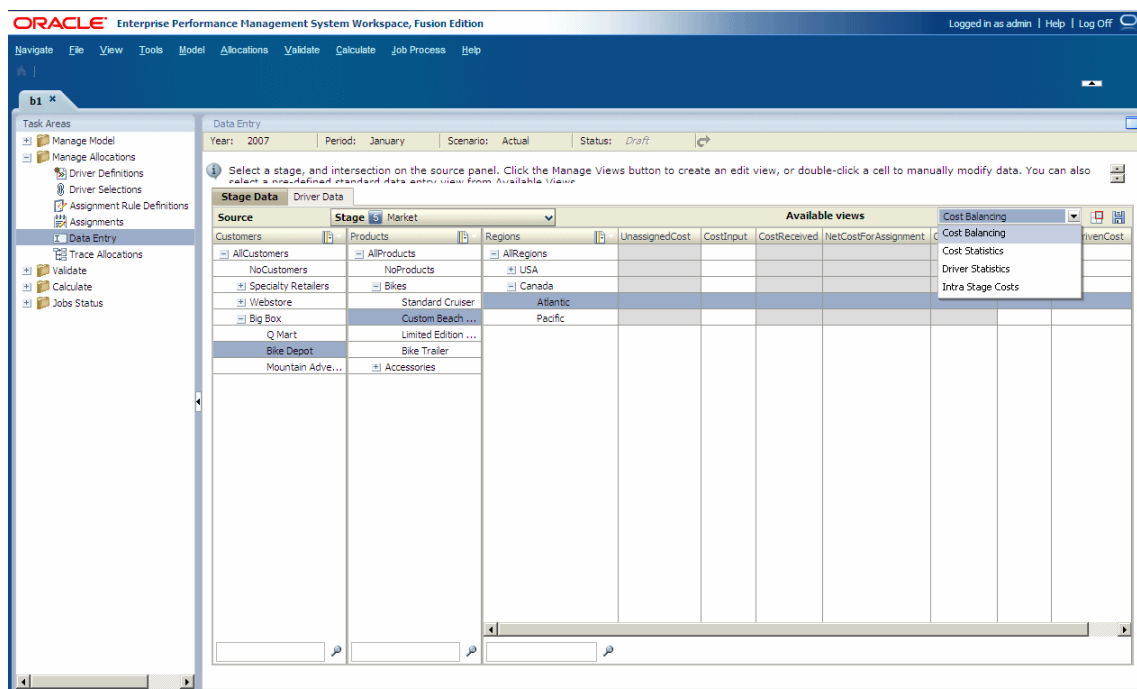
データ入力ビュー	関連付けられたメジャー
費用の賃借一致	<ul style="list-style-type: none"> <li>● UnassignedCost</li> <li>● CostInput</li> <li>● CostReceived</li> <li>● NetCostForAssignment</li> <li>● 割当て済費用</li> <li>● IdleCost</li> <li>● OverDrivenCost</li> </ul>
ドライバ統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CostPerDriverUnit</li> <li>● TotalDriverValue</li> <li>● OverRideTotalDriverValue</li> <li>● IdleDriverValue</li> </ul>
費用統計	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NetCostForAssignment</li> <li>● UnitCost</li> <li>● Quantity</li> </ul>
ステージ内費用 このビューは、モデルがステージ内割当てをサポートするステージを持たない場合でも使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CostInput</li> <li>● CostReceivedPriorStage</li> <li>● CostReceivedIntraStage</li> <li>● NetReciprocalCost</li> <li>● NetCostForAssignment</li> <li>● CostAssignedIntraStage</li> <li>● NetCostAfterIntraStage</li> </ul>

▶ 標準データ入力ビューを表示するには:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。
- 2 「データの入力」画面で必要な POV を選択し、「実行」 をクリックします。
- 3 「ステージ・データ」タブの「ステージ」で、ソース・ステージを選択します。
- 4 「使用可能なビュー」で、標準データ入力ビューを選択します。

選択したデータ入力ビューの関連付けられたメジャーが、「データの入力」画面に表示されます。





- 5 オプション: 関連付けられたメジャーを追加または削除して、選択した標準データ入力ビューを自分の組織に合わせてカスタマイズします。詳細は、113 ページの「カスタム編集ビューの作成」を参照してください。

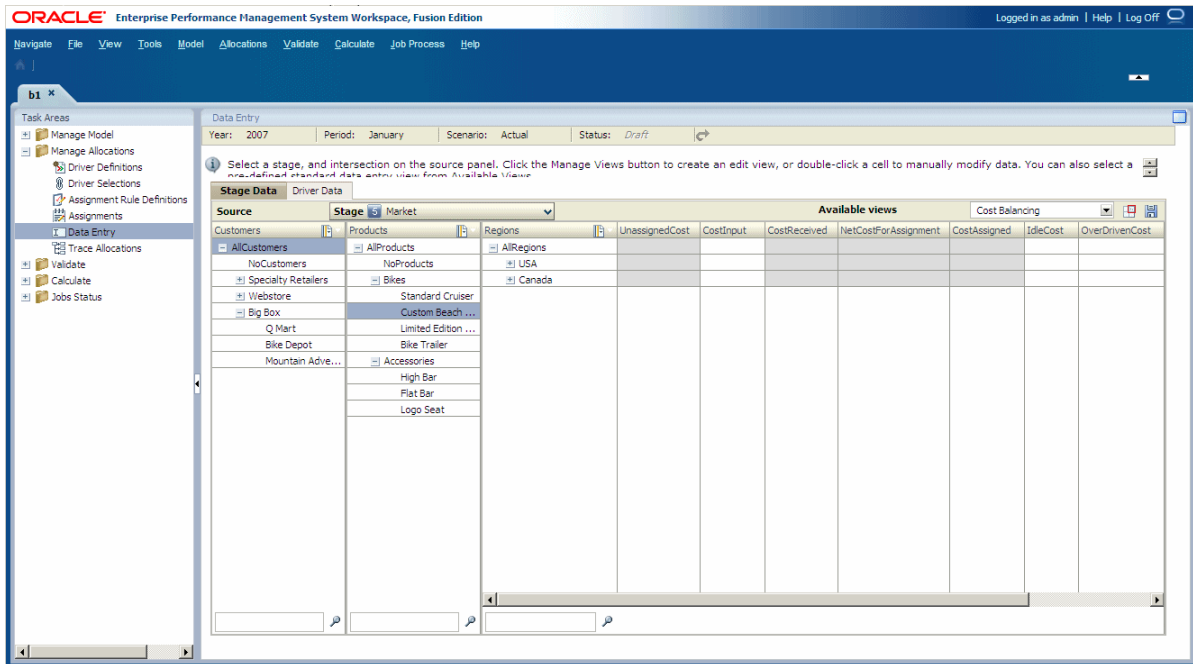
## カスタム編集ビューの作成



編集ビューを使用すると、シナリオの実行や最新情報の取得で頻繁に変更するデータを簡単に編集できます。保存済のビューは「使用可能なビュー」リストから選択できます。

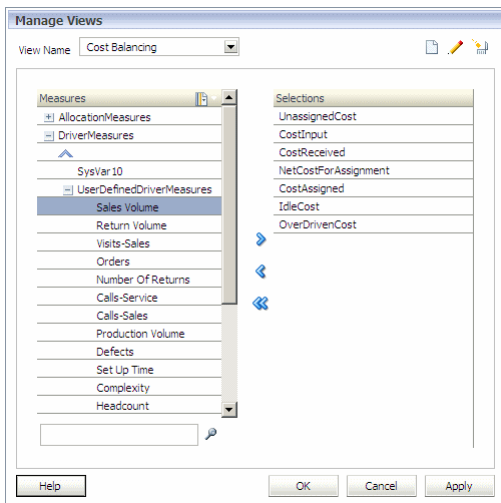
▶ 編集ビューを作成するには:


- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。

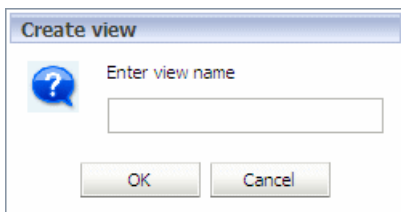
「データの入力」画面が表示されます。




- 2 変更するデータの POV を選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 「ステージ」の下でソース・ステージを選択します。
- 4 「ステージ・データ」タブで、「ビューの管理」  をクリックします。  
「ビューの管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 5 「追加」  をクリックします。



- 6 「ビューの作成」ダイアログ・ボックスで、新規ビューの名前を入力し、「OK」をクリックします。

- 7 「メジャー」の下で、ビューで使用する1つまたは複数のメジャーを選択して、「追加」  をクリックすることでメジャーを「選択」リストに移動します。
- 8 次のいずれかのアクションを行います:
  - 1回のみ使用する編集ビューを一時的に保存する場合は、「適用」をクリックします。
  - 繰り返し使用する編集ビューを保存する場合は、「OK」をクリックします。  
新規編集ビューの名前が「使用可能なビュー」リストに追加されます。



## データの手動編集

一部のインスタンスでは、データを変更してエントリを修正、または値を変更する必要があります。データの入力・ウィンドウを使用してデータにアクセスし、手動で変更してください。

- ▶ データを手動で変更するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。  
「データの入力」画面が表示されます。
  - 2 変更するセルを含むタブを選択します:
    - ステージ・データ
    - ドライバ・データ
  - 3 [115 ページの「ステージ・データの編集」](#)の説明のとおりデータ編集します。

## ステージ・データの編集

「データの入力: ステージ・データ」画面から、新規データの手動での追加、またはインポートされたデータの編集が可能です。

- ▶ データを編集するには:
- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。  
「データの入力」画面が表示されます。
  - 2 変更するデータのPOVとレイヤーを選択し、「実行」  をクリックします。
  - 3 「ステージ・データ」タブの「ソース」の下で、ステージを選択します。
  - 4 **オプション:** 「使用可能なビュー」リストから保存済のビューを選択できます。  
選択したビューに対するすべてのメジャーが表示されます;ただし、親メジャーは変更できません。
  - 5 「ステージ・データ」タブで、変更する交差値を作成するメンバーを選択します。
  - 6 交差セルをダブルクリックしてデータを編集します。
  - 7 「保存」  をクリックして、変更を保存します。


## ドライバ・データの編集

「ドライバ・データ」タブには、ソース・ステージと宛先ステージの次元が表示されます。選択したソースのメンバー交差について、割り当てられた宛先メンバーとドライバ・メジャーがこのタブに表示されます。

ドライバ・メジャーのドライバ式の定義に割当ての場所が含まれている場合、このドライバのデータはソース・メンバーと宛先メンバーで形成される交差に保管されます。交差には複数のステージからの次元が含まれるため、「ステージ・データ」タブでこの交差を表示することはできません。

▶ ドライバ・データを編集するには:

1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。


2 POV を選択し、「実行」をクリックします。

「データの入力」画面が表示されます。

3 「ドライバ・データ」タブを選択し、レイヤーを選択します。


4 「ソース」で、変更するソース交差のモデル・ステージおよび次元メンバーを選択します。

選択した割当てのドライバ・メジャーがすべて表示されます: 「ソース」ペインにソース・ドライバ・メジャーが、「宛先」ペインに宛先ドライバ・メジャーおよび割当てドライバ・メジャーが表示されます。

5 **オプション:** 表示する宛先交差を選択する場合は、「宛先」で「メンバー・セレクト」をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します:

- 空の表示
- すべて表示
- 通常の割当ての表示
- 割当てルールの表示

6 ドライバ・メジャー・フィールドをダブルクリックし、新しい値をセルに入力します。

7 「保存」をクリックして、変更を保存します。


## 編集ビューの削除

編集ビューを削除できます。


▶ 編集ビューを削除するには:

1 他のユーザーが同じ編集ビューを必要としないことを確認してください。


2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「データの入力」をクリックします。

3 POV を選択し、「実行」をクリックします。

「データの入力」画面が表示されます。

4 「ステージ・データ」タブで、「ビューの管理」をクリックします。

「ビューの管理」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 5 「ビュー名」ドロップダウンから、削除する編集ビューを選択し、「削除」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

- 6 「はい」をクリックします。

編集ビューは削除され、「使用可能なビュー」リストには表示されなくなります。

## 配賦のトレース

「配賦のトレース」機能を使用することで、モデル内の資金のフローを開始から終了まで視覚的に確認できます。

任意の選択されたメンバー交差から、財務モデル内の任意の位置に移動できます:

- 交差の値に影響するソース・メンバーと、各メンバーが影響を及ぼす値を表示するには戻ります。
- 交差の値が配賦された宛先メンバーと、各メンバーに配賦されている値を表示するには進みます。

すべての関連する割当てが表示されます。表示する情報をカスタマイズできます。トレース配賦イメージを別の場所にエクスポートし、必要に応じて表示または印刷することもできます。

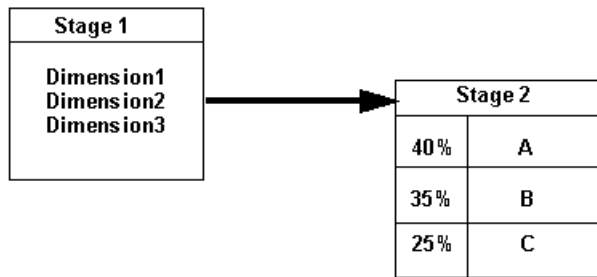
データが自動的に集約されるため、デフォルトでは、計算は計算用データベースを使用して実行されます。

配賦をトレースする手順については、次の項を参照してください:

- [117 ページの「配賦の詳細のトレース」](#)
- [121 ページの「配賦フローのトレース」](#)
- [125 ページの「相互配賦」](#)
- [126 ページの「トレース配賦イメージのエクスポート」](#)

## 配賦の詳細のトレース

「配賦の詳細」により、ソース交差から直接に最終の宛先への配賦か、宛先交差からソースへの配賦を、順を追って確認できます。開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。



直接配賦データは、フローの各ステップのパーセンテージを次の式で計算するために使用します:

- 順方向へドリルする場合:

$$\% = \frac{\text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage}}{\text{SRC NetCostForAssignment}}$$

- 逆方向へドリルする場合:

$$\% = \frac{\text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage}}{\text{DEST NetCostForAssignment}}$$

ステージごとに、その次の交差にコントリビューションする各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。次の条件が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは 100%にはなりません:

- 交差にアイドル費用が存在する場合。
- 上流(ソースに戻る方向)にドリルするとき、宛先に入力済費用が存在する場合。


▶ 配賦の詳細をトレースするには:

- 1 配賦スクリプトがすべて実行されていることを確認します。

148 ページの「直接配賦データの計算」を参照してください。

- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「配賦のトレース」を選択します。

「トレーサビリティ」画面が表示されます。

- 3 POV を選択し、「実行」  をクリックします。


- 4 レイヤーを選択します。

- 5 「開始ポイント」で、「プリファレンス」を選択し、トレースする情報のプリファレンスを選択します:

- 実行するトレースのタイプを選択します:
  - 「配賦の詳細」は、ソース交差から直接に最終の宛先への配賦を、順を追って確認します
  - 「配賦フロー」は、選択した交差に対して、直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差を表示します。
- マップの表示モードを選択します:
  - 別名を表示

- 表示名

**注：**「別名を表示」が選択されていて、別名が設定されていない場合、表示名は大かっこ([ ])で囲んで表示されます。

- 6 次元ごとにセクタ・ボタンをクリックして、トレースを開始する交差を指定するメンバーを選択します。

**注：** 配賦を表示するには、最下位のメンバーを選択する必要があります。


- 7 「配賦の詳細」を選択します。

- 8 「トレース」をクリックして、財務フローのマッピングを開始します。


選択した交差が画面に表示されます。ステージの名前、および交差の各次元で選択したメンバーが表示されます。選択した交差の開始ポイントの「プロパティ」が画面の下部に表示されます。



**注：** フロー・ダイアグラム全体をドラッグして、さらに見やすい位置に移動できます。モデル・ステージ内の次元数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを大きくするかスクロールする必要があります。

- 9 **オプション:** 交差ヘッダーで、「配賦のトレース」コンテキスト・メニューを選択し、選択した交差を展開する際に表示する最大ノード数(3、5、10 または 20)を選択します。この選択は、任意の交差で繰り返し行うことができます。


- 10 交差をクリックし、ソース・ノードを強調表示します。

**注：** 「展開ノード」は、交差の選択後に初めて交差に表示されます。

- 11 「プロパティ」で、選択した交差に関連する「ソースの詳細」を確認します。

ソースについて、次の情報が表示されます:

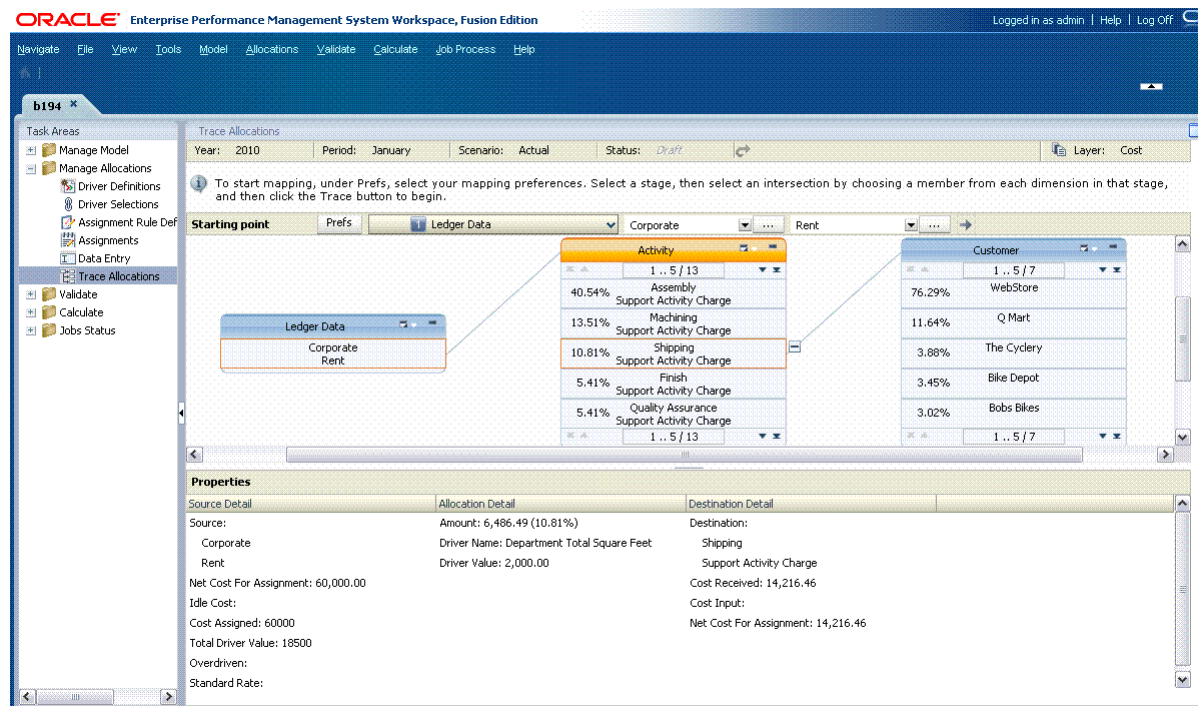
- ソースでは、開始ポイントに選択した次元メンバーがすべて表示されません。
- 割当ての正味費用
- アイドル費用(存在する場合。)
- 割当て済費用
- ドライバ値の合計
- OverDriven (存在する場合)
- StandardCostRate (存在する場合)

- 12 表示する次の交差を選択し、「展開」をクリックして、選択した交差への配賦または選択した交差からの配賦を表示します。上流または下流に移動するには、交差のいずれかの側でノードを展開します。

開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。

次の条件が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは 100%にはなりません:

- 交差にアイドル費用が存在する場合。
- 上流(ソースに戻る方向)にドリルするとき、宛先に入力済費用が存在する場合。



13 ステージ・ヘッダーをダブルクリックし、配賦に含まれている交差を展開して表示します。ソース交差および宛先交差は強調表示されます。

14 任意の交差をクリックすると、その詳細が「プロパティ」ペインに表示されます。このペインは、画面の下部に表示されます。

次の詳細が表示されます:



- 「ソースの詳細」の下:
  - 「ソース」には、値の提供元となった交差に含まれる次元メンバーが表示されます
  - 割当ての正味費用
  - アイドル費用(存在する場合)
  - 割当て済費用
  - ドライバ値の合計
  - OverDriven (存在する場合)
  - 標準レート(存在する場合)
- 「配賦の詳細」の下:
  - 配賦の金額



- ドライバ名
- ドライバ値
- 「宛先の詳細」の下:
  - 「宛先」には、値の配賦先である交差に含まれる次元メンバーが表示されます
  - 受取り済費用
  - 入力済費用
  - 割当ての正味費用

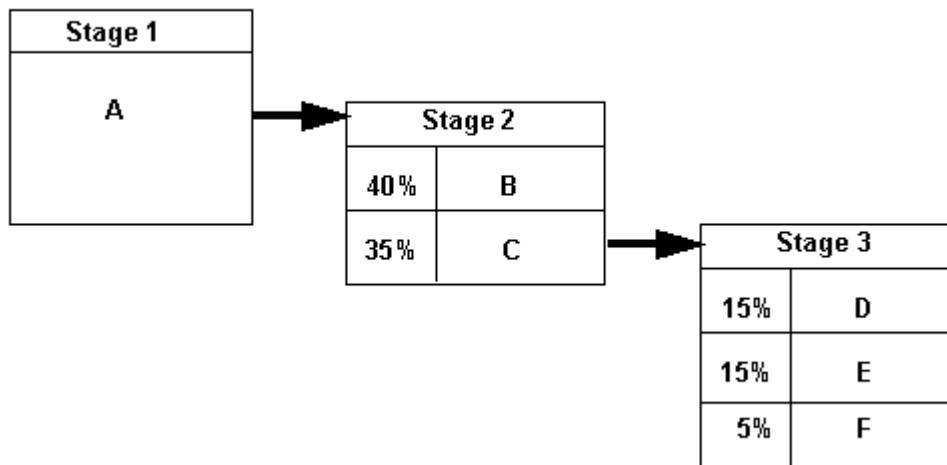
**注:** 「プロパティ」に表示されているメジャーの詳細は、[第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」](#)を参照してください。

#### 15 必要に応じて、モデル全体に対するフローを実行します:

- 「展開」  を使用し、モデル全体に対する直接配賦を確認します
- 「縮小」  を使用し、交差のリストを閉じます。

## 配賦フローのトレース

「配賦フロー」に、直接割当てではなく間接的な関係を持つソース交差および宛先交差が表示されます。たとえば、ステージ 1 の値がステージ 3 に中間ステップなしで配賦される場合があります。それぞれの配賦のフローをたどることで、ソースからの提供データを各ステップで確認して、最初のソースまたは最終的な宛先への配賦の影響を理解できるようになります。




直接配賦データは、フローの各ステップのパーセンテージを次の式で計算するために使用します:


- 順方向へドリルする場合:
  - $\% = (\text{ASSG CostReceivedPrior}(\text{orIntra})\text{Stage} / \text{SRC NetCostForAssignment}) * \text{SRC} \%$
- 逆方向へドリルする場合:

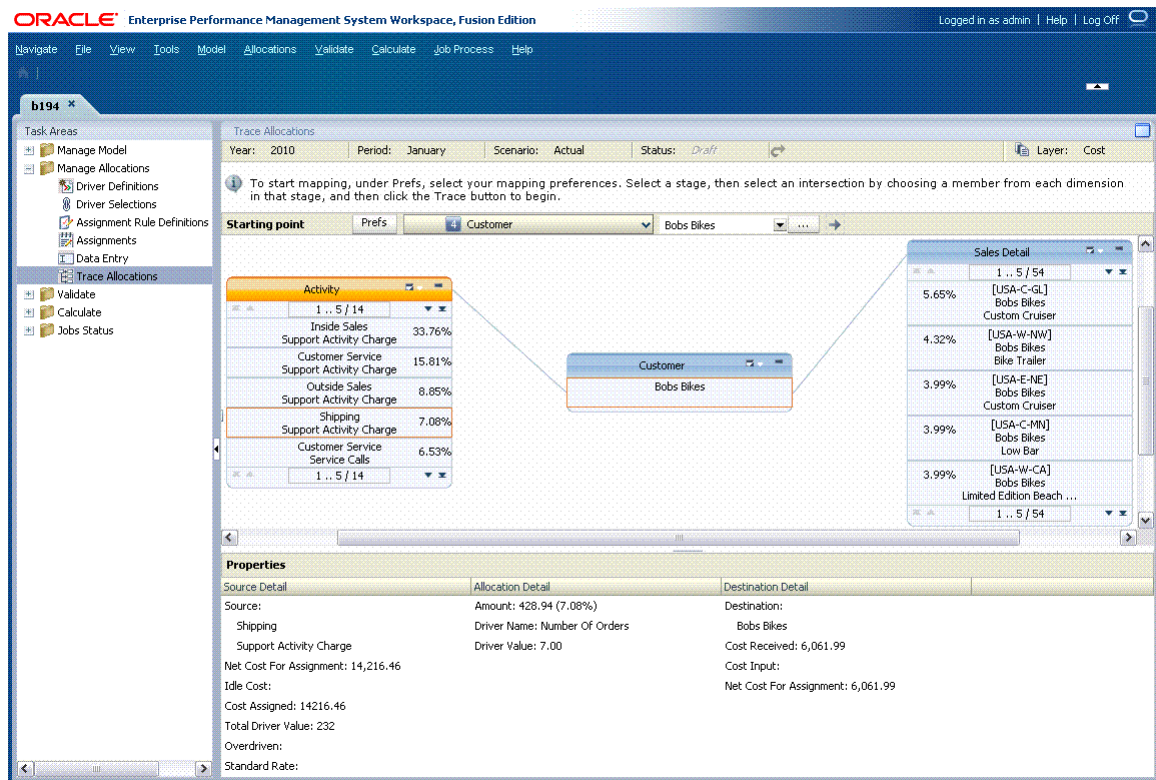
- $\% = (\text{ASSG CostReceivedPrior(orIntra)Stage} / \text{DEST NetCostForAssignment}) * \text{DEST} \%$


ステージごとに、その次の交差にコントリビューションする各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。交差にアイドル費用が存在する場合、ステージについて表示されるこのパーセンテージは100%にはなりません。

▶ 配賦フローをトレースするには:

- 1 配賦スクリプトがすべて実行されていることを確認します。148 ページの「[直接配賦データの計算](#)」を参照してください。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「配賦のトレース」を選択します。  
「トレーサビリティ」画面が表示されます。
- 3 「POV」および「レイヤー」を選択し、「実行」 をクリックします。
- 4 「開始ポイント」で、「プリファレンス」を選択し、トレースする情報のプリファレンスを選択します:
  - 「配賦フロー」を選択し、選択した交差に対して、直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差を表示します。
  - マップの表示モードを選択します:
    - 別名を表示
    - 表示名

**注:** 「別名を表示」が選択されていて、別名が設定されていない場合、表示名は大かっこで囲んで表示されます。
- 5 「開始ポイント」で、表示する「ステージ」を選択します。
- 6 次元ごとにセクタ・ボタン をクリックして、トレースを開始する交差のメンバーを選択します。配賦を表示するには、最下位のメンバーを選択する必要があります。




7 「トレース」  をクリックして、財務フローのマッピングを開始します。


**注：** モデル・ステージ内の次元数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを引き伸ばす必要があります。

選択した交差が画面に表示されます。ステージの名前、および交差の各次元で選択したメンバーが表示されます。開始ポイントの「プロパティ」が画面の下部に表示されます。



8 **オプション:** 交差ヘッダーで、「配賦のトレース」コンテキスト・メニュー  を選択し、選択した交差を展開する際に表示する最大ノード数(3、5、10または20)を選択します。この選択は、任意の交差で繰り返し行うことができます。


9 交差をクリックし、ソース・ノードを強調表示します。

**注：** 「展開」  は、交差の選択後に初めて交差に表示されます。

10 「プロパティ」で、選択した交差に関連する「ソースの詳細」を確認します。

- ソースでは、開始ポイントに選択した次元メンバーがすべて表示されます。
- 割当ての正味費用
- アイドル費用(存在する場合。)

- 開始ポイントへの割当て済費用。
- ドライバ値の合計
- OverDriven (存在する場合)
- 標準レート(存在する場合)

**11** 次の交差を強調表示し、「展開」をクリックして、選択した交差への配賦または選択した交差からの配賦を表示します。上流または下流に移動するには、交差のいずれかの側でノードを展開します。

開始ポイントにコントリビューション、または開始ポイントから値を取得する交差に、ステージおよび関連付けられているメンバーが表示されます。各配賦のパーセンテージが高い順に表示されます。交差にアイドル費用が存在する場合、ステージの合計パーセンテージは 100%にはなりません。

**注：** フロー・ダイアグラム全体をドラッグして、さらに見やすい位置に移動できます。モデル・ステージ内の次元数によっては、タスク・バーの右端にある「トレース」ボタンが見えるよう、ウィンドウを大きくするかスクロールする必要があります。


**12** ステージ・ヘッダーをダブルクリックし、配賦に含まれている交差を展開して表示します。ソース交差および宛先交差は強調表示されます。

**13** 交差をダブルクリックし、その詳細を「プロパティ」ペインで表示します。

次の詳細が表示されます：

- 「ソースの詳細」の下：
  - 「ソース」には、値の提供元となった交差に含まれる次元メンバーが表示されます
  - 割当ての正味費用
  - アイドル費用(存在する場合)
  - 割当て済費用
  - ドライバ値の合計
  - OverDriven (存在する場合)
  - 標準レート(存在する場合)
- 「配賦の詳細」の下：
  - 配賦の金額
  - ドライバ名
  - ドライバ値
- 「宛先の詳細」の下：
  - 「宛先」には、値の配賦先である交差に含まれる次元メンバーが表示されます
  - 受取り済費用
  - 入力済費用
  - 割当ての正味費用

注：「プロパティ」に表示されているメジャーの詳細は、第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」を参照してください。

14 オプション: 「展開」  をクリックすると、モデル全体の配賦を確認できます。

## 相互配賦

相互配賦の正味相互費用が「配賦のトレース」画面で計算および表示されます。正味相互費用は、ReciprocalCostReceived と ReciprocalCostAssigned の差異として計算されます。選択した交差の計算済パーセンテージも表示されます。

モデル内の相互配賦の交差および値は、Essbase 内の次の費用レイヤー配賦メジャーの下に表示されます:

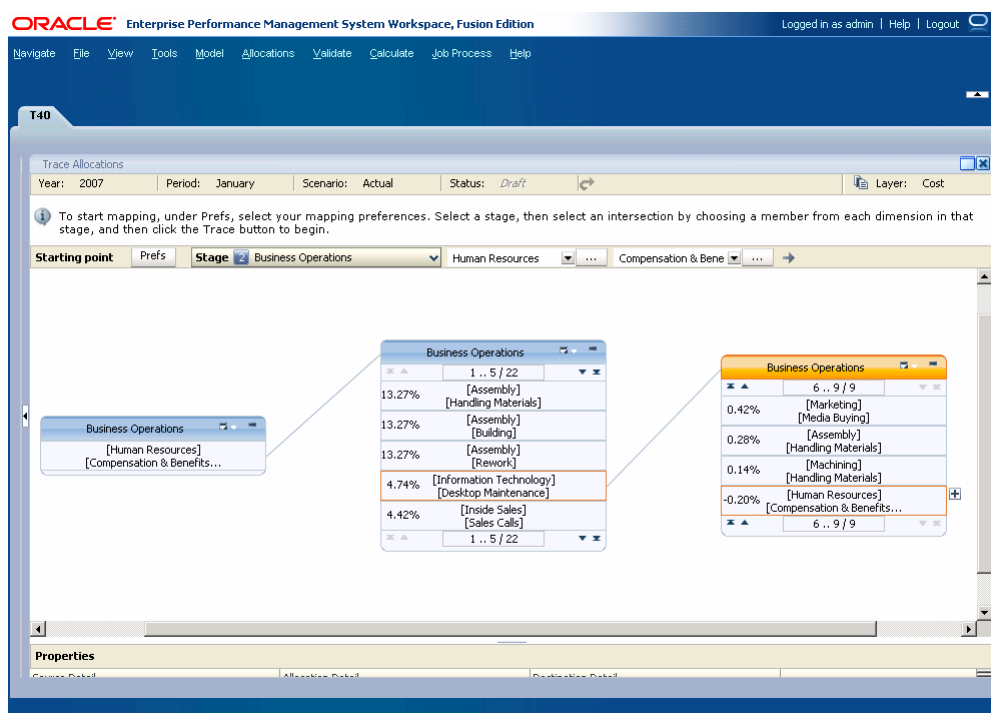
- ReciprocalCostAssigned
- ReciprocalCostReceived

計算済の金額およびパーセンテージは、マイナス値として表示される場合があります。これは、相互配賦の他の部分に割り当て返される交差の金額または計算済パーセンテージを示しています。

デフォルトで、「配賦のトレース」画面での相互配賦は、交差の各リストの最後に表示されます。

### 例: 相互配賦

次の配賦フローのダイアグラムでは、Information Technology(情報技術部)の Desktop Maintenance(デスクトップ・メンテナンス)の交差が、Human Resources(人事部)の Compensation and Benefits Admin(報酬および福利厚生管理)との間で相互配賦を持っています。



Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition の「Trace Allocations」画面のスクリーンショット。画面には「Business Operations」の配賦フローが示されており、Information Technology (Desktop Maintenance) と Human Resources (Compensation & Benefits Admin) の間で相互配賦が行われていることが確認できます。

Business Operations	Value
[Assembly]	13.27%
[Handling Materials]	13.27%
[Assembly]	13.27%
[Building]	13.27%
[Assembly]	13.27%
[Rework]	13.27%
[Information Technology]	4.74%
[Desktop Maintenance]	4.74%
[Inside Sales]	4.42%
[Sales Calls]	4.42%

Business Operations	Value
[Marketing]	0.42%
[Media Buying]	0.42%
[Assembly]	0.28%
[Handling Materials]	0.28%
[Machining]	0.14%
[Handling Materials]	0.14%
[Human Resources]	-0.20%
[Compensation & Benefits Admin]	-0.20%

各交差の正味相互費用は、次のように計算されます:

- 「Information Technology」の「Desktop Maintenance」 - 正味相互費用は 216.24 で、「Human Resources」の「Compensation & Benefits Admin」の 4.74%を占めます。
- 「Human Resources」の「Compensation and Benefits Admin」 - 正味相互費用は-216.24 で、「Information Technology」の「Desktop Maintenance」の-0.20%を占めます。

「Human Resources」の「Compensation and Benefits Admin」のマイナス(-)値は、「Information Technology」の「Desktop Maintenance」に配賦し戻される金額を示します。

## トレース配賦イメージのエクスポート

トレース配賦ダイアグラムを生成したら、イメージを別の場所にエクスポートして、印刷または表示することができます。

▶ トレース配賦イメージをエクスポートするには:

1 次の項の説明に従って、トレーサビリティ・ダイアグラムを生成します:

- 117 ページの「配賦の詳細のトレース」
- 121 ページの「配賦フローのトレース」
- 125 ページの「相互配賦」

2 EPM Workspace のメイン・メニューから、「配賦」、「トレーサビリティのエクスポート」([Ctrl]+[Shift]+[E])の順に選択します。

トレーサビリティ・ダイアグラムが表示された新しいブラウザが開きます。ダイアグラムは、.png イメージとしてエクスポートされます。

3 イメージを右クリックし、「ピクチャに名前を付けて保存」を選択します。

4 ダイアグラムの表示または印刷を可能にする新しい場所に、トレーサビリティ・ダイアグラムを.png イメージとして保存します。

---

**注意** 画像形式のファイル拡張子を.png から変更しないでください。変更すると、画像が破損します。

---

# 6

## モデルの検証

### この章の内容

検証について.....	127
モデル構造検証ルール.....	128
未割当ての値.....	128
アイドル能力.....	130
オーバードライブ費用および収益.....	131
モデル構造の検証.....	131
ステージの貸借一致レポートの生成.....	134
ドライバ・データ・レポートの生成.....	136

## 検証について

モデルはライフ・サイクルを通じて何回か検証する必要があります:

- モデルを構築後、モデル検証を実行し、モデルの構造がモデリング・ルールに準拠していることを確認します。
- データを追加後、選択されているドライバに対してドライバ・データ・レポートを生成し、計算に必要なすべてのデータが存在することを確認します。
- モデルの計算後、ステージの貸借一致レポートを生成し、モデル・ステージのすべての貸方記入と借方記入が一致することを確認します。

構造検証画面に表示される読取り専用のタブでは、未使用のドライバ、および関連するソースまたは宛先が欠落している割当てがハイライトされます。モデル内の任意のステージに対して、ステージ内割当ておよび相互割当てのリストを表示することもできます。モデル構造の検証サイクル中にエラーが発生した場合は、モデルの構築または計算を続行する前に、修正する必要があります。

モデルに対して適切な検証を実行するには、次の項を参照してください:

- 128 ページの「モデル構造検証ルール」
- 128 ページの「未割当ての値」
- 130 ページの「アイドル能力」
- 131 ページの「モデル構造の検証」
- 134 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」
- 136 ページの「ドライバ・データ・レポートの生成」

# モデル構造検証ルール

モデルは、データを追加する前に、一連のモデル検証ルールと照合して、構造が健全であることが確認されます。構造検証では次の条件が満たされているかどうかチェックされます:

- ソース・メンバーに対する宛先の割当てにそれぞれドライバがあること
- 受信の割当てが送信の割当てに関連付けられていること
- 未使用のドライバがないこと。
- 相互割当てが正常に動作すること。
- ステージ内割当てが正常に動作すること。
- 割当てルールが正しいこと。

モデルを計算するには、構造エラーをすべて解決する必要があります。構造エラーをすべて修正し、ステージを送信して再度検証します。エラーの修正および再検証を何度か行う必要がある場合もあります。唯一の例外は、未使用のドライバがありませんという警告で、モデル内の未使用のドライバを使用して正常に計算を実行できる場合にも発生する可能性があります。

**ヒント:** 状況によっては、あるエラーを修正した結果、別の問題が発生することがあります。このため、修正を行うたびにモデル・ステージを再検証すると有効です。

## 未割当ての値

モデルに含まれる費用と収益は特定のアクティビティまたは勘定科目に割り当てる必要があります;ただし、一部の費用または収益をモデルの任意のステージで未割当てとして残すことができます。これらの値は未割当ての費用または収益として報告されます。

未割当て値には次の2つのタイプがあります:

- ノードに配賦されているが、フロー内で続いて次に提供されない費用または収益。129 ページの「例 1 - フロー停止」を参照してください。
- 残余価額を含むノードから配賦された費用または収益。129 ページの「例 2 - 残余価額」を参照してください。

モデルの作成方法によっては、これらの未割当て値を想定および許容することもできますが、そうしない場合は、配賦のエラーが発生し、修正する必要が生じます。

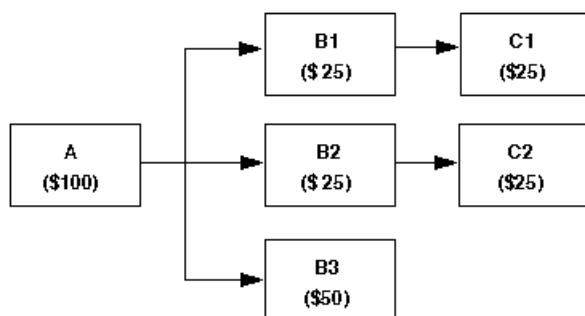
**ヒント:** 特定の費用または収入がモデル・フローの最後に到達する前に論理上停止する場合は、次元階層の特定領域を、未割当て値を許容するように作成することをお勧めします。このモデリング手法を使用することにより、モデルの検証時に、想定内の未割当て値と、修正が必要な配賦エラーを区別できるようになります。



検証中、未割当ての費用および収益にはフラグが設定されます。特定のステージおよび交差における未割当て値の集約は、メジャー次元の UnassignedCost メンバーあるいは UnassignedRevenue メンバーとして報告されます。未割当て値を確認して、配賦する必要があるかどうかを判断してください。

## 例 1 - フロー停止

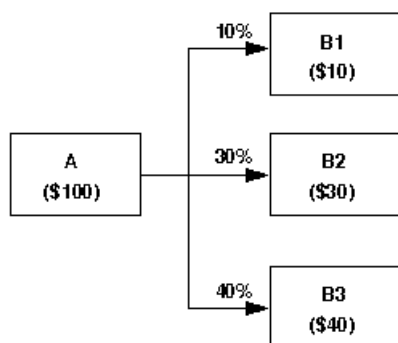
次の例では、ステージ A からの値(\$100)が B1、B2 および B3 に配賦されます。



B1 および B2 からの値はそれぞれ C1 および C2 に配賦されます;ただし、B3 には割当てはありません。この例では、B3 からの\$50 はメジャー次元の UnassignedCost または UnassignedRevenue として報告されます。

## 例 2 - 残余価額

次の例ではパーセンテージ・ドライバが使用されており、後続の割当てに値を配賦したことにより、元の交差に残余価額が残されます。



ステージ A には\$100 あります。パーセンテージ・ドライバにより、ステージ B の交差への配賦は元の金額値の 80%になります。この割当ての結果、元の高額の 20%、すなわち\$20 が未配賦として残ります。この\$20 は IdleCost として扱われます。

# アイドル能力

フル容量とは、すべてのモデル・リソースがタスクまたは割当てを実行するために完全に使用されている状態を意味します。アイドル能力またはアイドル容量とは、モデル・リソースの一部が完全には使用されていない状態を示します。リソースを最大限に使用し、マシンのダウンタイムなどの非効率を監視するには、アイドル能力を追跡する必要があります。

アイドル能力の計算とレポート作成を行う機能を設定するには、ドライバを作成または変更するときに、「アイドルを許可」オプションを選択し、ドライバのデータの一部としてドライバ合計量を入力します。

各ノードのアイドル費用および収益はメジャー次元の `IdleCost` および `IdleRevenue` メンバーとして報告されます。

次のドライバのメジャーは実績基準ドライバのアイドル能力のみに関連します:

- `IdleDriverValue - IdleCost` の計算でドライバ値(DV)として使用されるメジャー。
- `TotalDriverValue` - ユーザーが入力したドライバ値に基づいて計算されるドライバ合計量。これに基づいてアイドル費用が計算される。
- `EffectiveTotalDriverValue` - ソースで「アイドルを許可」が選択されているドライバの実効ドライバ合計値を保存するために使用されるメジャー。

アイドル能力はモデルの構造検証時に報告されます。未配賦の残余能力が検出された場合、ドライバがアイドル能力を許可するように設定されていないと、エラーが発生します。

標準基準ドライバはデフォルトでアイドル容量の計算が有効になっています。割り当てられる費用または収益の合計が `NetCostForAssignment` より小さい場合、その残りはアイドル費用またはアイドル収益として保管されます。

## 標準基準ドライバのアイドル費用の例

ソース X - 3つの宛先(A、B、C)に割り当てられた 100 の `NetCostForAssignment`

- 宛先 A - 30 `CostReceived`
- 宛先 B - 30 `CostReceived`
- 宛先 C - 30 `CostReceived`

ソース X - `NetCostForAssignment` = 100

X からすべての宛先(`CostAssigned`)に移動された合計金額 = 90

`IdleCost` = 10

`UnassignedCost` = 0

アイドル費用はステージの貸借一致レポートで確認できます。詳細は、[134 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」](#)を参照してください。

# オーバードライブ費用および収益

Profitability and Cost Management では、費用の移動先を制御する割当ての組合せと、移動する額を決定するドライバを使用して、ソースから宛先へ費用または収益を移動します。

実績基準ドライバを使用すると、ソースからすべての宛先に移動される額は常に実績金額です。標準基準ドライバを使用すると、宛先に実績以上の金額を移動することが可能です。オーバードライブ費用は超過した額であり、ソースからすべての宛先に移動された実績金額を超えます。

## オーバードライブ費用の例

ソース X - 3つの宛先(A、B、C)に割り当てられた 100 の NetCostForAssignment

- 宛先 A - 35 CostReceived
- 宛先 B - 35 CostReceived
- 宛先 C - 35 C CostReceived

ソース X - NetCostForAssignment = 100

X からすべての宛先(CostAssigned)に移動された合計金額 = 105

OverdrivenCost = 5

UnassignedCost = 0

次のメジャーはオーバードライブ費用および収益に関連します:

- ステージ貸借一致レポートのメジャー
  - OverDrivenCost
  - OverDrivenRevenue
- 費用レイヤー配賦メジャー
  - OverDrivenCost
- 収益レイヤー配賦メジャー
  - OverDrivenRevenue

オーバードライブ費用または収益は、ステージの貸借一致レポートで確認できません。詳細は、[134 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」](#)を参照してください。

## モデル構造の検証

モデル構造を一度に 1 ステージずつ検証して、すべての必須モデリング・ルールが適用されていることを確認する必要があります。モデルを配置する前に、すべてのステージを検証する必要があります。

構造検証には、選択されたモデル・ステージに関する次の情報が表示されます:

- 「未使用のドライバ」には、使用されていない既存のドライバが表示されません。

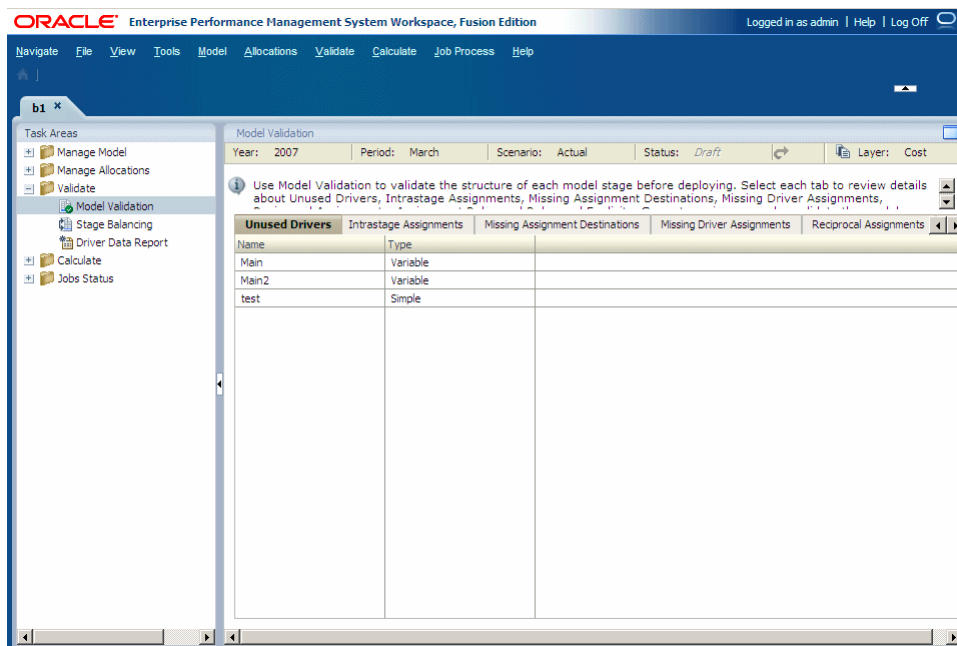
- 「ステージ内割当て」には、ソースと宛先が同一のステージ内にある割当てが表示されます。
- 「欠落している割当て宛先」には、未割当ての費用または収益が表示されます。
- 「欠落しているドライバ割当て」には、有効なドライバが選択されていない割当てが表示されます。
- 「相互割当て」には、選択されたステージ内の相互割当てが表示されます。
- 「割当てルール」には、割当てルールに関連付けられたエラーが表示されます。
- 「ルールと明示」には、割当てルールと明示的割当ての両方が同じソースにアタッチされているモデル内のすべてのソースが表示されます。交差に許可されている割当ては1つのタイプのみであるため、割当ての1つをそのソースから削除する必要があります。


モデルを正しく計算するには、モデル構造に含まれるエラーをすべて修正する必要があります。唯一の例外は、未使用のドライバがありませんという警告で、モデル内の未使用のドライバを使用して正常に計算を実行できる場合にも発生する可能性があります。

▶ モデル・ステージを検証するには:

- 1 「タスク領域」から「検証」、「モデル検証」の順に選択します。

「モデル検証」画面が表示されます。



- 2 検証するモデルのPOVを選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 「レイヤー」から、検証プロセスを開始する費用レイヤーまたは収益レイヤーを選択します。

検証が終了すると、画面が更新されて結果が表示されます。

- 4 **オプション:** 「未使用のドライバ」タブを選択すると、モデルに含まれる未割当てのドライバを確認できるため、これらのドライバを割当てに含めるかどうかを決定します。

ドライバを割り当てるには、82 ページの「標準 Profitability ドライバの選択」を参照してください。

- 5 「ステージ内割当て」タブで、選択したステージの割当てを表示します。

ステージ内割当てに対する変更が必要な場合は、88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」を参照してください。

- 6 **オプション:** 値は受信されるが値を送信する割当てがない交差をすべて表示するには「欠落している割当て宛先」タブを選択します。定義により、送信の割当てが必要でないステージのみがモデルの最終ステージになります。

各モデル・ステージに、ステージと割当てタイプを選択する必要があります:

- 欠落している割当てでルール宛先をすべて表示するには、「割当てルールの表示」を選択します。
- 欠落している通常の割当ての宛先をすべて表示するには、「通常の割当ての表示」を選択します。

プラン済および想定される未割当ての費用または収益の例外がある場合、モデルを計算するには、欠落している割当てをすべて修正する必要があります。88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」を参照してください。

- 7 **オプション:** ドライバ割当てが欠落しているすべての交差を表示するには、「欠落しているドライバ割当て」タブを選択します。

各モデル・ステージに、ステージと割当てタイプを選択する必要があります。モデルを正しく計算するには、欠落しているドライバ割当てをすべて修正する必要があります。82 ページの「標準 Profitability ドライバの選択」を参照してください。

- 8 **オプション:** 特定のステージに対する相互割当てをすべて表示するには、「相互割当て」タブを選択します:

1. 「ステージの選択」ドロップダウンから、相互割当てを表示するモデルのステージを選択します。リストで選択可能になっているのは、ステージ内割当ての可能性があるとマークされているステージのみです。
2. 表示する通常の割当てを選択します。

ループに含まれる相互割当ての数は「相互」の下に表示されます。相互ループの各部分に対する次元とメンバーの組合せは、操作順に表示されます。ステージ内割当てに対する変更が必要な場合は、88 ページの「標準 Profitability 割当ての操作」を参照してください。

**注:** クローズドループ・サイクル列にその他の送信の割当てがない相互割当て、または標準基準列に標準基準ドライバがある相互割当ての横には、感嘆符(!)が表示されます。

- 9 **オプション:** 割当てルールのエラー・メッセージを表示するには、「割当てルール」タブで「検証」をクリックします。

モデルを正しく計算するには、不適切な割当てルールをすべて修正する必要があります。エラーを修正したら、「検証」をクリックして、割当てルールが適切であることを確認してください。

**10 オプション:** 「ルールと明示」タブを選択すると、割当てルールと明示的割当ての両方がアタッチされているモデル内のすべてのソースが表示されます。この場合、割当ての1つをソースから削除する必要があります。

**11 オプション:** 「クエリー」タブを選択します。

次元または次元メンバーの名前が変更または削除された場合、その次元や次元メンバーを参照している Smart View クエリーは無効になります。Smart View クエリーの検証画面ですべてのクエリーを検証し、無効なクエリーに対してエラー・メッセージを表示します。

**12** すべてのタブのエラーを修正後、エラーが検出されなくなるまで**手順 1** から構造検証を繰り返します。

**13** 検証の完了後、モデルを計算します。[第 7 章「計算モデル」](#)を参照してください。

## ステージの貸借一致レポートの生成

モデルを計算後、標準「ステージの貸借一致」レポートを使用して、未割当ての費用を計上するため、割り当てられている値と入力値の貸借を一致させることで、実績を検証します。費用データと収益データに対しては、別個にレポートを生成する必要があります。

**注:** ステージの貸借一致レポートを生成するには、データベースを配置してデータをロードし、データベースを計算しておく必要があります。

アウトライン構造は、各ステージに関する次の情報を提供します:

- 入力 - 入力の貸借一致メジャーに関連付けられた値の合計
- 出力合計は、宛先ステージでのすべての出力メジャー値の合計です。この値は、受入れ貸借一致のメジャーに関連付けられます。
- 下位の各ステージへ出力される金額
- 下位ステージへの出力の合計
- 未割当ての費用または収益の合計
- アイドル費用または収益の合計
- 過剰な費用または収益

モデルの内容に応じて、次の一部またはすべてのデータ・タイプが各モデル・ステージで使用できます:

**表 7** ステージの貸借一致レポートで使用されるデータのソース

メジャーまたは式	Essbase メジャー名	データのソース
直接入力(ユーザーにより入力された費用または収入)	<ul style="list-style-type: none"><li>● CostInput</li><li>● RevenueInput</li></ul>	Essbase

メジャーまたは式	Essbase メジャー名	データのソース
割当て入力(割当て済の入力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CostReceivedPriorStage</li> <li>● RevenueReceivedPriorStage</li> </ul>	Essbase
合計入力	= 直接入力 + 割当て済の入力	計算済
割当て済費用	CostAssignedPostStage NetCostForAssignment	Essbase
各ステージを表す数値	CostReceivedPriorStage または CostAssignedPostStage  これらの数値は、前のステージから選択されたステージに割り当てられた費用を表します。計算済の数値を割当て入力の数値と比較して、Essbase に不整合がないかをチェックできます。	Essbase
出力合計	現在の行に含まれるすべてのステージの SUM	計算済
アイドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● IdleCost</li> <li>● IdleRevenue</li> </ul>	Essbase
オーバードライブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● OverDrivenCost</li> <li>● OverDrivenRevenue</li> </ul>	Essbase
未割当て(Essbase 内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● UnassignedCost</li> <li>● UnassignedRevenue</li> </ul>	Essbase
未割当て(Essbase 内)	= "入力合計" - "出力合計" - "アイドル"	計算済  計算済の値は、Essbase からのデータと比較できます。

レポートを印刷するには、使用しているブラウザ・メニューから「ファイル」、「印刷」の順に選択します。

▶ ステージの貸借一致レポートを生成するには:

1 レポートを生成する前に、次のアプリケーションおよびサービスが実行されていることを確認します:


- Provider Services
- Shared Services
- Essbase

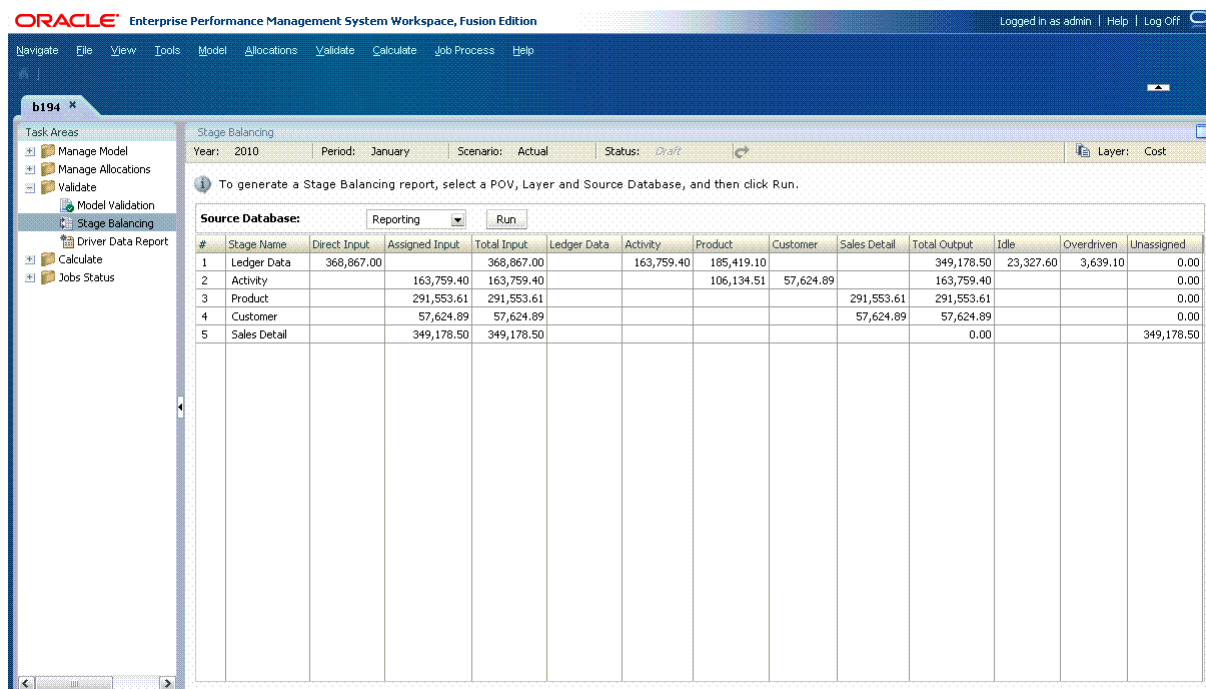
**注:** ステージの貸借一致レポートを生成するには、データベースを配置してデータをロードし、データベースを計算しておく必要があります。

2 **オプション:** 計算用データベースを使用してステージの貸借一致レポートを表示するには、レポートを生成する前に、計算用データベース(BSO)上でデフォルトの Calc All を実行します。

3 「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。

「ステージの貸借一致」画面が表示されます。

- 4 モデルのPOVを選択し、「実行」をクリックします。
- 5 「レイヤー」から、選択されているモデルの費用または収益レイヤーを選択します。
- 6 「ソース・データベース」から、生成するレポートのタイプを選択します:
  - 「レポート」(ASO データベースの結果) - 推奨
  - 「計算」(BSO データベースの結果) - 計算用データベース(BSO)を使用してステージの貸借一致レポートを生成する前に、すべての計算およびデフォルトの計算を実行および完了しておく必要があります。
- 7 「実行」をクリックします。  
レポートが生成されます。



Source Database: Reporting Run

#	Stage Name	Direct Input	Assigned Input	Total Input	Ledger Data	Activity	Product	Customer	Sales Detail	Total Output	Idle	Overdriven	Unassigned
1	Ledger Data	368,867.00		368,867.00		163,759.40	185,419.10			349,178.50	23,327.60	3,639.10	0.00
2	Activity		163,759.40	163,759.40			106,134.51	57,624.89		163,759.40			0.00
3	Product		291,553.61	291,553.61					291,553.61	291,553.61			0.00
4	Customer		57,624.89	57,624.89					57,624.89	57,624.89			0.00
5	Sales Detail		349,178.50	349,178.50						0.00			349,178.50

- 8 レポートを確認し、次の1つまたは複数の検証方法を使用して結果を確認します:
  - 入力合計 - 出力合計 - アイドル = 未割当ての値
  - ステージに対するすべての配賦の合計 = 割当て済の入力
  - 未割当ての値の合計 + アイドル = 直接入力

## ドライバ・データ・レポートの生成

データ・ドライバ・レポートは、モデルに入力されたドライバ・データのドキュメント作成、確認および更新を行うために使用します。ドライバ・データ・レポートを生成するには、データベースが配置され、データがロードされている必要があります(データのロードはオプションです)。

費用データに対するレポートと収益データに対するレポートは、別個に実行する必要があります。修正が必要な場合は、Profitability and Cost Management を使用し



てモデル構造を変更するか、Essbase または Microsoft Excel で直接データを編集できます。

ドライバ・データ・レポートの実行時には、ログ・ファイルが自動的に生成され、エラーおよび警告がすべて記録されます。ログ・ファイル (validationReport.txt) は、Profitability and Cost Management アプリケーション・サーバーを実行しているユーザーのホーム・ディレクトリに保存されます。

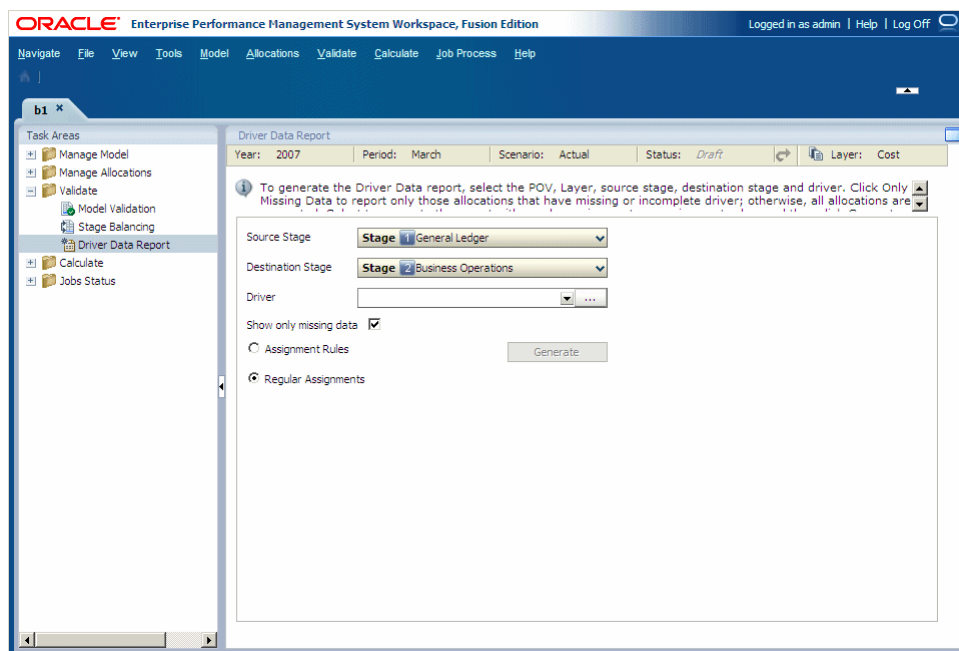
▶ ドライバ・データ・レポートを生成するには:


1 レポートを生成する前に、次のアプリケーションおよびサービスが実行されていることを確認します:

- Provider Services
- Shared Services
- Essbase

**注:** レポートを生成するには、データベースが配置され、データがロードされている必要がありますが、計算されている必要はありません。ドライバ・データ・レポートを生成するには、データベースが配置され、データがロードされている必要があります(データのロードはオプションです)。

2 「タスク領域」から、「検証」、「ドライバ・データ・レポート」の順に選択します。「ドライバ・データ・レポート」画面が表示されます。




3 選択されているモデルの POV を選択し、「実行」  をクリックします。

4 「レイヤー」から、費用レイヤーまたは収入レイヤーを選択します。

5 「ソース・ステージ」から、レポートのソース・ステージを選択します。

6 「宛先ステージ」から、レポートの宛先ステージを選択します。

7 「ドライバ」から、データを検証するドライバを選択します。

必要に応じて、セクタ・ボタン  をクリックし、「ドライバの選択」ダイアログ・ボックスからドライバを選択します。

**8 オプション:** 「欠落データのみ」を選択すると、欠落した、または不完全なドライバ・データが含まれる配賦のみをレポートできます。

**注:** このオプションを選択しない場合は、すべての配賦がレポートに生成されます。

**9 レポートに含める割当てのタイプを選択します:**

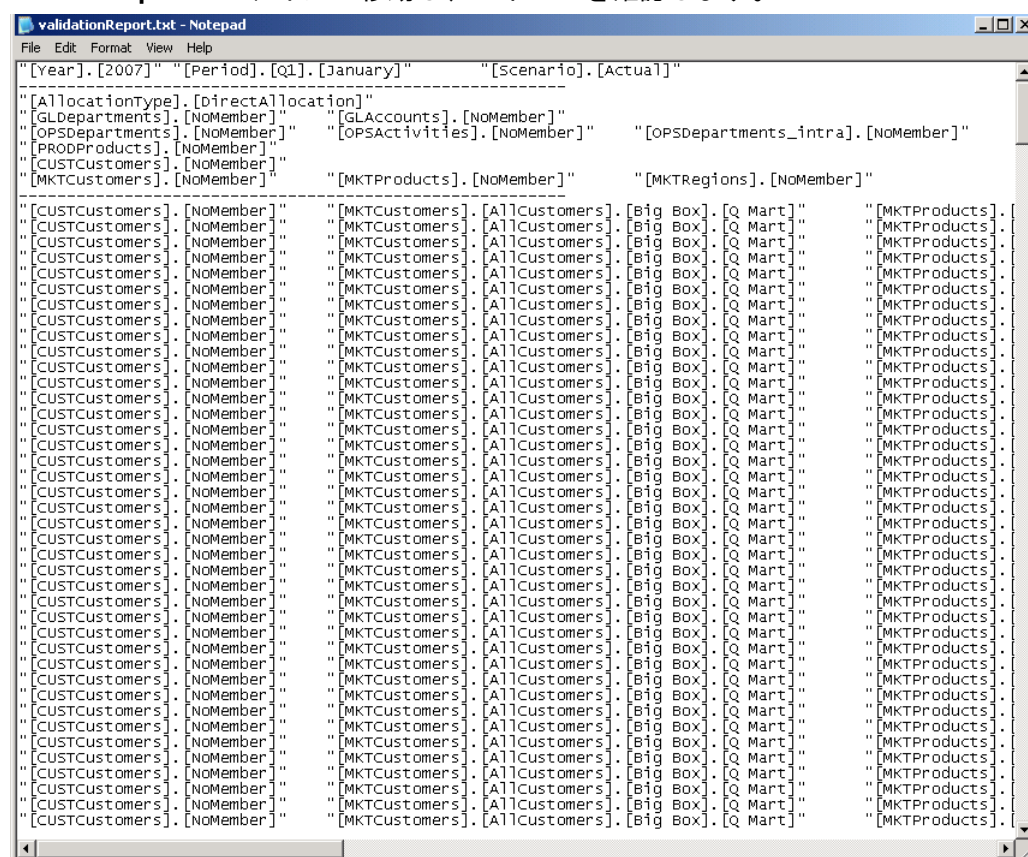
- 「割当てルール」
- 「通常の割当て」

**10 「生成」をクリックし、選択したレポートを生成します。**

レポートの生成中は、「生成」ボタンが使用不可能になります。レポートが完了すると、確認メッセージが表示されます。レポートの場所 (validationReport.txt ファイルが作成される場所) までのパスと概算のファイル・サイズが示されます。

**11 「OK」をクリックし、メッセージを閉じます。**

**12 validationReport.txt ファイルに移動し、レポートを確認します。**



**13 生成されたレポートを編集して、欠落した、または不完全なデータのすべてに対応します。**

レポートはテキスト・フォーマットで直接編集でき、結果を Essbase にインポートできます。

また、ドライバ・データを Microsoft Excel に貼り付けて編集し、元のレポート・ファイルに戻したうえで Essbase にインポートできます。

- 14 **オプション:** レポートを印刷するには、テキスト・ファイル・メニューから「ファイル」、「印刷」の順に選択します。



## この章の内容

データベースの管理 .....	142
計算の管理 .....	147
計算(Calc)スクリプト .....	148
直接配賦データの計算 .....	148
データの転送 .....	150
システムデータ .....	151
システムにおける複数のステージのコントリビューション・パスの計算 .....	151

モデルの構造とデータを検証した後、データベースを配置してモデルを計算する必要があります。Profitability and Cost Management では、2通りの計算が実行されます:

- 直接配賦では、ソースおよび宛先交差の直接割当ての結果を計算します。
- システムでは、相互の直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

システムには直接配賦データが必要であるため、直接配賦データを最初に計算する必要があります。

操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。

---

**注意** モデルを計算する前に、費用、収益およびドライバ・データが Essbase にロードされていることを確認します; これらがロードされていない場合、計算スクリプトは空のデータ・セットを使用して実行されます。

---

次の手順を使用して、データベースを配置および計算します:

- 142 ページの「計算データベースの配置」
- 145 ページの「レポート・データベースの配置」
- 148 ページの「計算(Calc)スクリプト」
- 148 ページの「直接配賦データの計算」
- 150 ページの「データの転送」
- 151 ページの「システムデータ」

- [151 ページの「系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算」](#)

## データベースの管理

モデルの構造とデータを検証した後、Reporting と Calculation の両方のデータベースを配置して、メタデータ・アウトラインを作成する必要があります。

**注：** メタデータを変更したときは必ず、アプリケーションを再配置する必要があります。Performance Management Architect を配置した場合は、引き続き Essbase を配置してメタデータの同期を維持してください。

次の手順を使用してデータベースを配置します：

- [142 ページの「計算データベースの配置」](#)
- [145 ページの「レポート・データベースの配置」](#)

## 計算データベースの配置

「計算用データベース」タブのオプションは、計算用データベースにのみ適用されます。計算用データベースは、Essbase のブロック・ストレージ・オプション(BSO)を使用して作成され、メタデータ・アウトラインが作成されます。

---

**注意** データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM Workspace および Essbase にデータのバックアップを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

データベースを最初に配置する際、「データベースの置換」オプションを選択して、完全なデータベースを作成する必要があります。最初の配置の後、計算用データベースの再配置が必要になったときには、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定を新しいデータベースに保持またはリストアする配置オプションを選択できます。

次のアーティファクトを保持できます：

- Essbase データ
- システム生成およびユーザー作成の計算スクリプト
- レポート・スクリプト
- 代替変数
- ルール・ファイル
- セキュリティ・フィルタ
- データベース設定

計算データベースの場合のみ、データは次のいずれかのフォーマットでエクスポートされます。

- 次元メンバー数が 1,000 未満である密次元が少なくとも 1 つある場合、データは列フォーマットでエクスポートされ、ルール・ファイルが生成されます。ルール・ファイルは、新しいアウトラインの作成後に生成されます。

このルール・ファイルは、Essbase のデータ・フォーマットを指定します。このファイルは、エクスポートされたデータが置かれた Essbase データベース・アプリケーション・フォルダと同じフォルダにあります。ファイル名の形式は次のとおりです。

RMMddxxx.rul または RMMddxxx.txt

ここで、MM は現在の月、dd は現在の日、xxx は生成される一意の識別子です。拡張子が .rul のファイルにはルール・ファイルが含まれ、拡張子が .txt のファイルにはデータ・ファイルが含まれます。

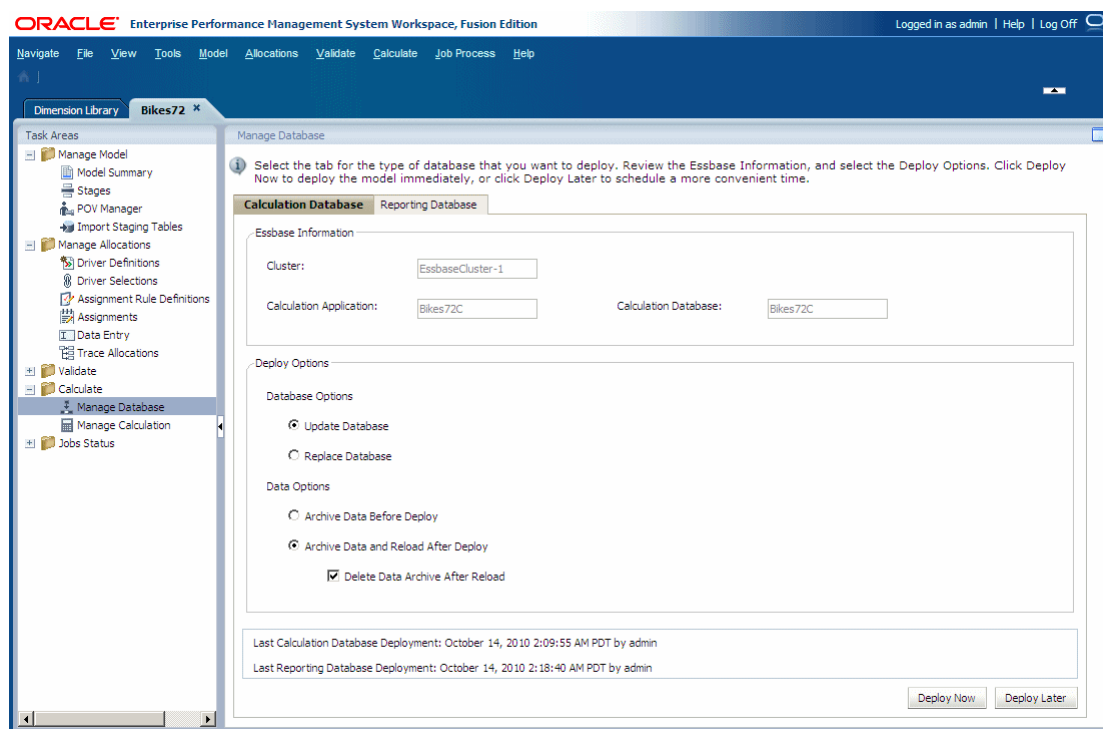
- 次元メンバー数が 1,000 未満である密次元がない場合、データはフラット・ファイルでエクスポートされます。

再配置の前にシステムが次元を分析し、使用するエクスポート・オプションをアドバイスするメッセージが生成されます。配置で発生したすべてのエラーが hpcm.log に報告されます。

▶ 計算用データベースを配置するには:

- 1 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。

「データベースの管理」画面の「計算用データベース」タブが表示されます。



- 2 「Essbase 情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「クラスタ」には、モデルを含む Essbase データベース・サーバーの名前が表示されます。
- 「計算用アプリケーション」には、配置されるアプリケーションの名前が表示されます。

- 「計算用データベース」には、アプリケーションが配置される Essbase データベースの名前が表示されます。

**3 「配置オプション」の下で、計算用データベースの配置のための「データベース・オプション」を選択します:**

- データベースの初回配置時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- 既存のデータベースを再配置する場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- それ以降の配置では、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

**4 「配置オプション」の下で、計算用データベースの配置で使用する「データ・オプション」を選択します:**

- 「配置前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。計算用データベースでは、レベル 0 のデータのみがエクスポートされます。メンバーの数が 1,000 より少ない密次元の場合にのみ、データは列フォーマットでエクスポートされ、密次元でない場合はネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的に Essbase にインポートされます。新しいアウトラインの作成時にデータが列フォーマットでエクスポートされた場合は、ルール・ファイルが生成されます。

---

**注意** このオプションは、追加または削除される次元がない場合にのみ使用できます。次元の追加または削除は、Performance Management Architect で行うことも、Profitability and Cost Management でステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- **オプション:** 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。

**5 オプション:** 「計算キューブの最終配置」で、以前の配置の日時を確認します。

**6 オプション:-** 「後で配置」をクリックし、配置を実行する都合のよい日時をスケジュールします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。

---

**注意** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

---

**7 オプション:** 「今すぐ配置」をクリックし、ただちに計算用データベースを配置します。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー ID を示す確認メッセージが表示されます。



---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

- 8 **第 8 章「タスクフローの監視」**の説明に従って、「ステータス」ページでタスクフロー ID を使用して配置の進行状況を監視します。
- 9 「データベースの置換」オプションを選択している場合、またはデータ・インポートがなんらかの理由により失敗した場合は、配置の終了後、空のデータ・セットに対して計算が実行されることがないように、Essbase データベースからデータをロードします。

入力レベルの費用、収益およびドライバ・データは、次の 2 つの方法でロードできます:

- データの入力ウィンドウの「配賦の管理」を使用して、アプリケーションに直接データをロードします。116 ページの「ドライバ・データの編集」を参照してください。
- Essbase のデータ・ロード方法を使用して、Essbase にデータをロードします。Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

#### 10 モデルの計算を行います。

148 ページの「直接配賦データの計算」を参照してください。

## レポート・データベースの配置

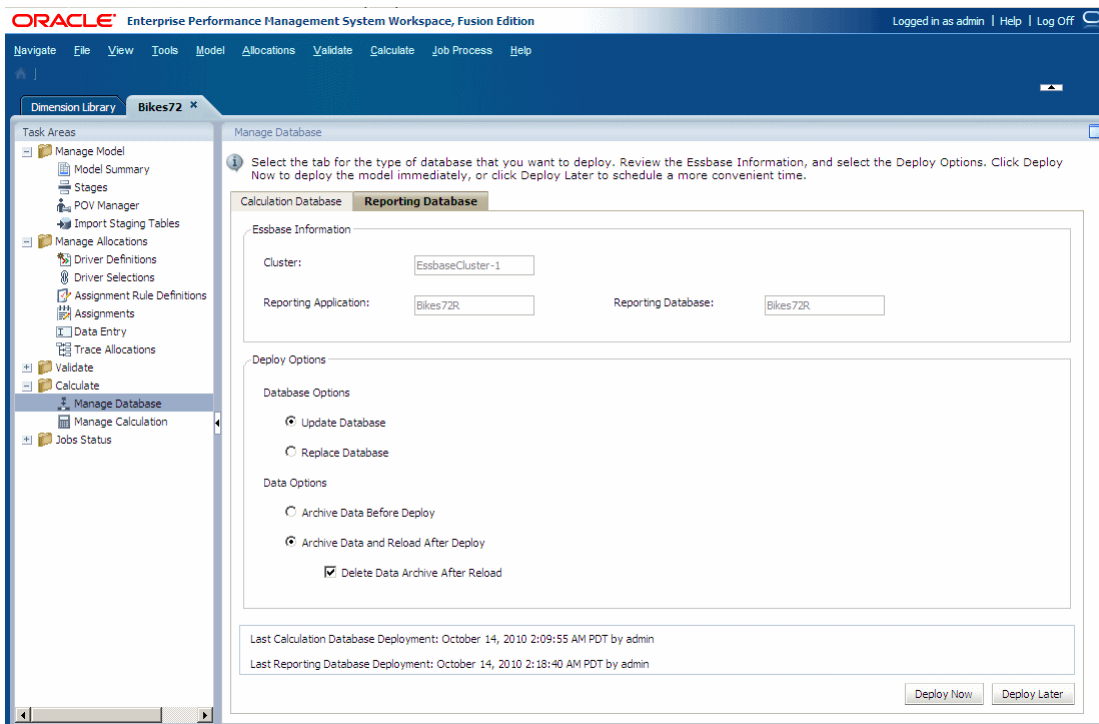
レポート用データベースは、Essbase 集約ストレージ・オプション(ASO)を使用して作成します。すべての計算は、データベース・アウトラインを介して実行されます; 計算スクリプトは必要ありません。このオプションにより、取得時間が短縮され、拡張性が増します。

レポート用データベースを作成すると、Profitability and Cost Management モデルの次元情報を使用して集約ストレージ・オプションが生成されます。

配置で発生したすべてのエラーが hpcm.log に報告されます。

▶ 計算用データベースを配置するには:

- 1 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。  
「データベースの管理」画面の「計算用データベース」タブが表示されます。
- 2 「レポート用データベース」タブを選択します。



### 3 「Essbase 情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「Essbase サーバー」には、モデルを含む Essbase データベース・サーバーの名前が表示されます。
- 「レポート用アプリケーション」には、配置されるアプリケーションの名前が表示されます。
- 「レポート用アプリケーション」には、アプリケーションが配置される Essbase データベースの名前が表示されます。

### 4 「配置オプション」の下で、計算用データベースの配置のための「データベース・オプション」を選択します:

- データベースの初回配置時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- 既存のデータベースを再配置する場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- それ以降の配置では、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

### 5 「配置オプション」の下で、レポート用データベースの配置で使用する「データ・オプション」を選択します:

- 「配置前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レポート用データベースでは、レベル 0 のデータのみがエクスポートされます。レポート用データベースでは、データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- 「配置前にデータをアーカイブして配置後にリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的に

Essbase にインポートされます。レポート用データベースでは、ルール・ファイルは生成されません。

---

**注意** このオプションは、追加または削除される次元がない場合にのみ使用できます。次元の追加または削除は、Performance Management Architect で行うことも、Profitability and Cost Management でステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- **オプション:** 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
- 6 **オプション:** 「レポート・キューブの最終配置」で、以前の配置の日時を確認します。
- 7 **オプション:** 「後で配置」をクリックし、配置を実行する日時をスケジュールします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。

---

**注意** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

---

- 8 **オプション:** 「今すぐ配置」をクリックし、ただちにレポート用データベースを配置します。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー ID を示す確認メッセージが表示されます。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

- 9 **第 8 章「タスクフローの監視」** で説明されているように、タスクフロー ID を使用して配置の進行状況を監視します。

## 計算の管理

データベースを配置した後、モデルを計算できます。Profitability and Cost Management では、2 通りの計算が実行されます:

- 直接配賦では、ソースおよび宛先交差の直接割当ての結果を計算します。
- 系統では、相互の直接割当てではなく、間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

系統には直接配賦データが必要であるため、直接配賦データを最初に計算する必要があります。

操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。

---

**注意** モデルを計算する前に、費用、収益およびドライバ・データが Essbase にロードされていることを確認します; これらがロードされていない場合、計算スクリプトは空のデータ・セットを使用して実行されます。

---

次の手順を使用して計算を管理します:

- 148 ページの「計算(Calc)スクリプト」
- 148 ページの「直接配賦データの計算」
- 150 ページの「データの転送」
- 151 ページの「系統データ」
- 151 ページの「系統における複数のステージのコントリビューション・パスの計算」

## 計算(Calc)スクリプト

計算スクリプトは、モデルに必要なすべての計算が詳述されており、モデルごとに生成する必要があります。

費用、収益またはドライバ・データしか変更していない場合は、計算スクリプトを同じモデルに対して複数回使用できます。その他のモデル情報が変更された場合にスクリプトを再使用するには、新しい計算内容を反映するようスクリプトを再生成する必要があります。

計算スクリプトは、構成された Essbase サーバーが実行中であるマシン上の `$ARBORPATH/app/<アプリケーション名>/<データベース名>` ディレクトリに直接生成されます。管理者は、必要に応じて Essbase コンソールで計算スクリプトを表示できます。

## 直接配賦データの計算

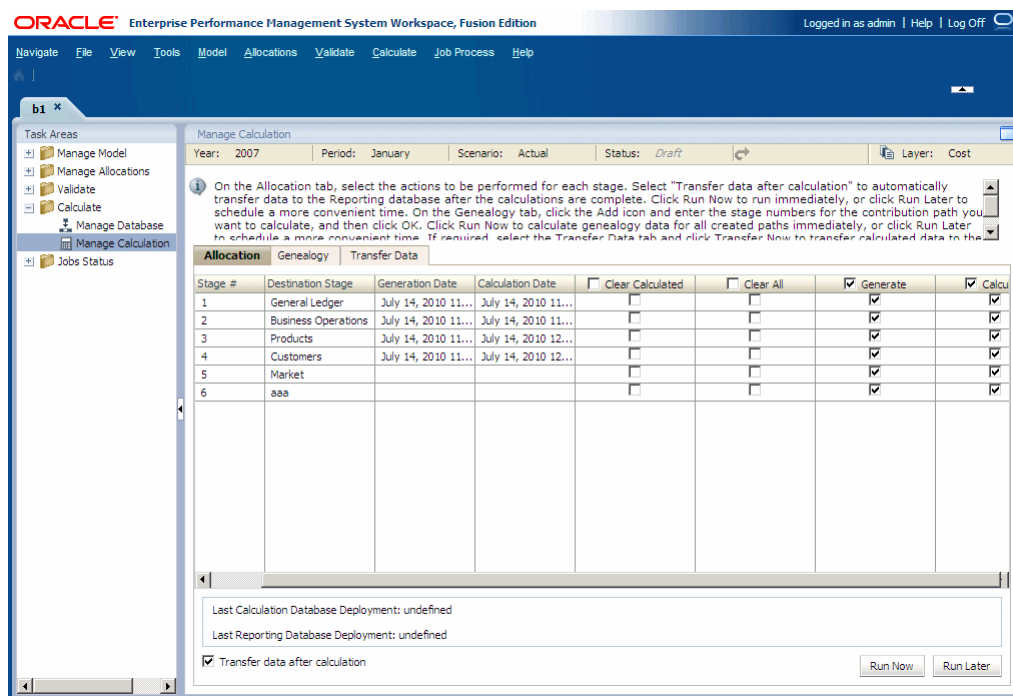
「計算の管理」画面の「配賦」タブは、ソース交差と宛先交差の直接割当ての結果を計算するために使用します。各レベルの結果は、その次のレベルの計算および結果に影響します。

このオプションから、計算スクリプトを生成して実行するステージを選択できます。選択した計算スクリプトが廃止されている場合は、警告メッセージが表示され、計算スクリプトを再生成する必要があります。

▶ 直接配賦データを計算するには:

1 「タスク領域」から、「計算」>「計算の管理」を選択します。

「計算の管理」画面の「配賦」タブが表示されます。



2 選択したステージに実行するアクションを選択します:

- 「計算済の消去」は前の計算済データを削除します
- 「すべて消去」は既存のデータを削除します
- 「生成」は計算スクリプトを生成します
- 「計算」はデータを計算します

3 オプション: 計算データベースおよびレポート用データベースの最終配置日時を確認できます。

4 オプション: 計算の終了後に、コストと収益の両方のデータを自動的にレポート用データベースに転送するには、「計算後にデータを転送」を選択します。ステージの貸借一致レポートを表示する場合や、検証レポートを生成する場合は、計算済データを ASO レポート・データベースに転送する必要があります。

5 次のいずれかのタスクを実行します:

- 「後で実行」をクリックすると、計算スクリプトの配置、計算の実行、またはデータの消去を行う日付および時刻をスケジュールできます。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。

**注:** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

- 「今すぐ実行」をクリックすると、ただちに計算スクリプトの配置、計算の実行、またはデータの消去を行うことができます。確認メッセージに、ジョブが開始されたことが示され、割り当てられたタスクフロー ID が特定されます。

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

- 6 第8章「タスクフローの監視」で説明されているように、タスクフロー ID を使用して配置の進行状況を監視します。
- 7 計算用データベースの計算後、150 ページの「データの転送」の説明に従って、データをレポート用データベースに転送します。

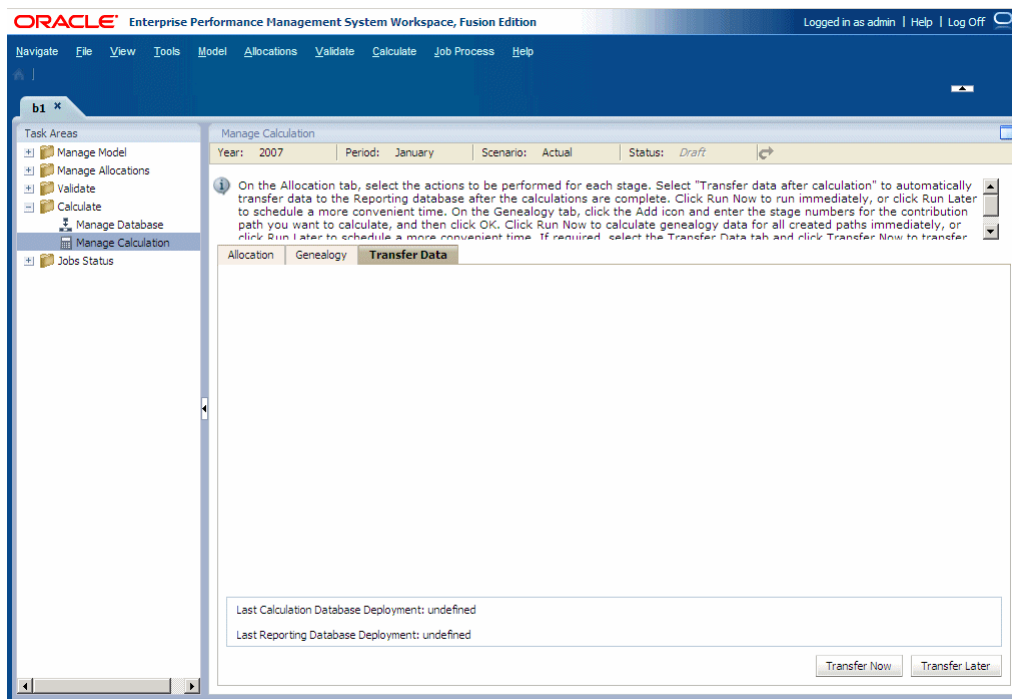
## データの転送

レポート用データベースを配置後、1 つまたは複数の POV について、計算した配賦データをレポート用データベースに転送します。配賦および系統など、すべてのレベル 0 データが、転送されます。

**注：** レポート用データベースにデータを転送するには、事前に計算用データベースを計算しておく必要があります。

▶ データをレポート用データベースに転送するには:

- 1 「タスク領域」から、「計算」>「計算の管理」を選択します。  
「計算の管理」画面が表示されます。
- 2 データを転送する POV およびレイヤーを選択します。
- 3 「データの転送」タブを選択し、計算したデータをレポート用データベースにコピーします。



- 4 次のいずれかのタスクを実行します:
  - 「後で転送」をクリックし、転送を実行する日時をスケジュールします。  
161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。
  - 「今すぐ転送」をクリックし、ただちに転送を実行します。

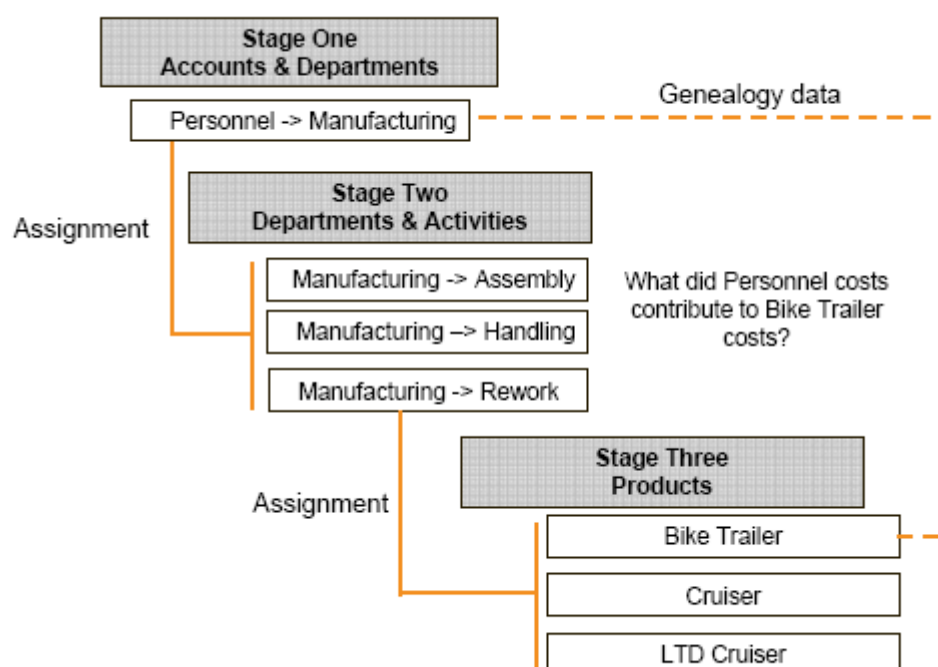
**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

- 5 データ転送が完了後、Web Analysis、Financial Reporting、Microsoft Excel などのレポート作成および分析ツールを使用し、レポートを作成して結果を表示します。165ページの「レポートの実行について」を参照してください。

## システムデータ

相互に直接割り当てられているのではなく間接的な関係を持つソース交差と宛先交差の配賦の詳細が、システムデータで計算されます。このため、あるレベルの結果が次のレベルの結果に影響しない場合がありますが、下位のいずれかの交差には必ず影響します。費用レイヤーと収入レイヤーの両方に対して、システムを計算できます。

たとえば、次のダイアグラムでは、モデルのステージ1における人事および製造部門の結果は、ステージ3のバイク・トレーラの費用に影響します。



## システムにおける複数のステージのコントリビューション・パスの計算

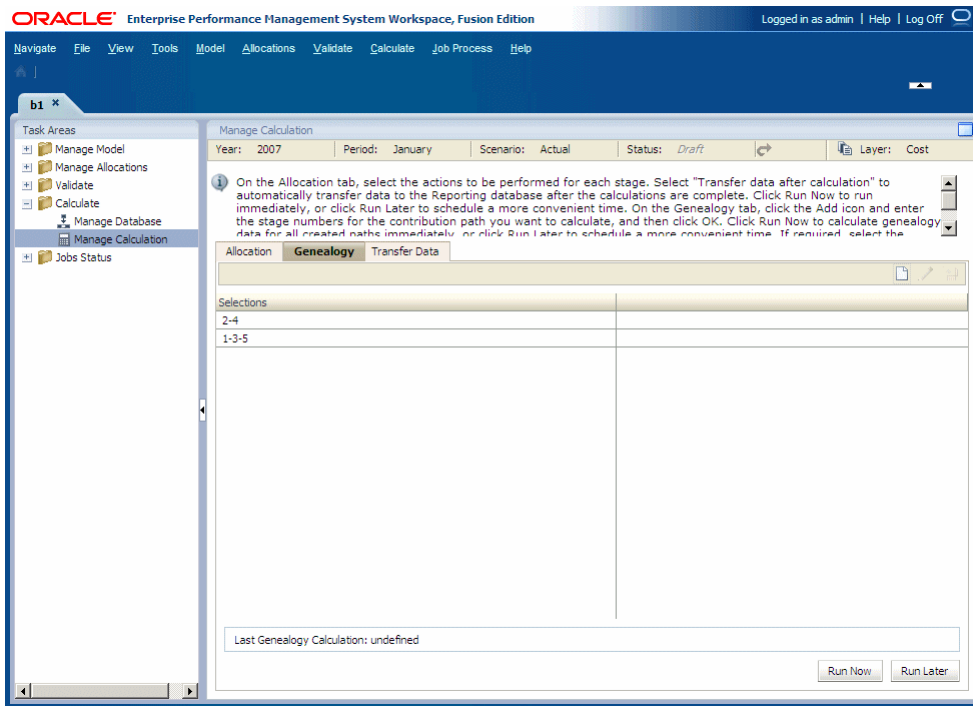
システムを計算する際、複数のステージの組合せによるコントリビューションを分析するためのデータを生成できます。この機能によって、あるステージの値が以降のステージの結果に与える影響の確認が可能になり、それらの値が通過する中間ステージを把握できるようになります。


システムデータは複数のパスに対して計算されます。計算を実行する際のレイヤーの選択に応じて、費用または収益のどちらかが1回の実行で計算されます。1回のシステム計算で両方のレイヤーを実行することはできません。

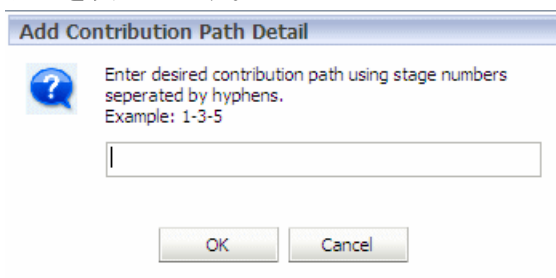
系統の計算の実行後、すべてのステージ選択のデータは保存され、後から画面に戻ったときに最後のステージ選択の組合せを表示できます。新しい系統の計算を実行すると、前に計算したすべての系統データは消去され、新しい結果に置き換えられます。

▶ 複数のステージによるコントリビューションをトレースするには:

- 1 オプション: 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択して有効なステージの名前および番号を表示します。
- 2 「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択します。
- 3 「系統」タブを選択します。



- 4 「追加」  をクリックして、コントリビューション・パスの追加ダイアログ・ボックスを表示します。



- 5 必要なコントリビューション・パスのステージ番号をハイフンで区切ってテキスト・ボックスに入力し、「OK」をクリックします。

コントリビューション・レポートに含めるためにステージを選択する際は、次の制限が適用されます:

- 少なくとも2つのステージを入力する必要があります。
- 有効なステージ番号を昇順にハイフンで区切って入力する必要があります。たとえば、「1-3-5」や「2-4」のようになります。



- 各ステージ番号は、コントリビューション・パスに1度のみ入力します。
- 系統計算に選択された最初のステージと最後のステージの間に少なくとも1つのステージが必要です。たとえば、"2-3"は無効な選択になります。

コントリビューション・パスが「系統」タブの「選択」に一覧表示されます。

**注：** 系統の最終計算の日付が表示されます。その計算のデータは保存され、次の系統の計算まで参照できます。

#### 6 計算を実行するオプションを選択します：

- 都合のよい時間にタスクが実行されるようスケジュールする場合は、「後で実行」をクリックします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。
- ただちに操作を実行する場合は、「今すぐ実行」をクリックします。

計算を最適化し、複数のパスが同時に計算されるようにするため、すべての計算が一度に実行されます。

#### 7 「はい」をクリックします。

ジョブが開始したとタスクフロー ID を示す情報メッセージが表示されます。

#### 8 タスクフロー ID を書き取って、「OK」をクリックします。

#### 9 「タスク領域」から、「ジョブのステータス」、「検索タスク」の順に選択してタスクの進行状況を監視します。

#### 10 タスクフローが完了したら、Essbase データベースで結果を確認します。

#### 11 選択したレポート・ツールでコントリビューション・レポートを作成して、計算結果を表示します。



## この章の内容

タスクフローの管理 .....	155
タスクフロー情報の表示 .....	157
タスクフローのステータスの表示 .....	158
タスクの詳細の表示 .....	160
タスクフローのスケジュール .....	161

## タスクフローの管理

タスクフローを使用すると、ビジネス・プロセスの全体または一部を自動化できます。タスクは、一連のプロシージャ・ルールに従って、特定のタスクフロー参加者から別の参加者に渡されます。**Profitability and Cost Management** では、次のような場合にタスクフローが作成されます:

- ステージング・テーブルがインポートされている
- POV データがコピーされている
- 計算データベースが配置されている
- レポート・データベースが配置されている
- 計算スクリプトおよびシステムスクリプトが生成されて実行された場合
- データが計算用データベースからレポート・データベースに転送されている

**注:** タスクフローは、モデルのコンテンツまたは構造を検証するときには使用できません。

タスクフロー ID は各タスクに対して自動的に生成されます。タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。タスクフローには、1 つまたは複数のステップが含まれます。各タスクフロー・ステップは、**Profitability and Cost Management** での 1 つのアクションを表します:

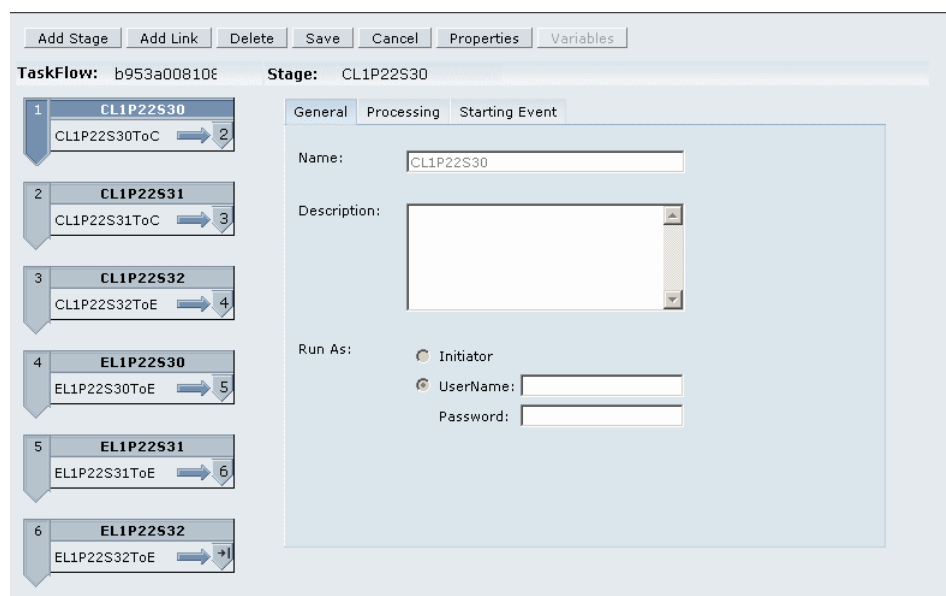
- ワンステップのタスクフローは、1 つのアクション(Essbase データベースの生成など)を実行します。
- マルチステップのタスクフローは、複数のアクション(計算スクリプトの生成または実行処理など)を実行します。

図 1 では、6 つのステップが含まれたマルチステップ・タスクフローの例が示されています:

- スクリプトを作成する3つのステップ(「C」で始まるステップ)
- スクリプトを実行する3つのステップ(「E」で始まるステップ)

**注:** タスクフロー・ステップ番号は、ステージのシーケンスではなくタスクのシーケンスを表しています。

図1 マルチステップのタスクフロー例



タスクフローを開始すると、タスクフロー・ステップが作成され、タスクフローID(例、wf-1201275329264)が割り当てられます。IDにより、タスクフローの進行状況を監視できます。タスクフロー・インスタンスを開始するたびに、新しいタスクフローIDが作成されます。タスクフローは、中断または再開すると、常にステップ1から開始されます。

タスクフロー・ステップは、最初のステップから順に実行されます。1つのステップの結果が生成されると、次のステップが開始されます。タスクフローのすべてのステップが実行されたときに初めてステータスが完了となります。

「ジョブのステータス」オプションを使用すると、タスクフローのステータスおよび詳細を表示したり、1度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

「ジョブ・プロセス」監視オプションにアクセスするには、次の条件を満たしている必要があります:

- Profitability and Cost Management が外部認証および Shared Services 機能を使用するように構成されている必要があります。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- タスクフロー・ユーザーがタスクフロー操作を実行するには、次に示す Shared Services のいずれかの役割が割り当てられている必要があります:
  - タスクフローの管理 - タスクフローの作成と編集が許可されます。

- タスクフローの実行 - タスクフローの実行と表示のみが許可されます。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

**注：** Shared Services のどちらの役割もグローバル・ユーザーの役割です。これらの役割を割り当てられたユーザーは、任意のアプリケーションや製品のタスクフローを変更または実行できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割セキュリティ・ガイド』を参照してください。

- 「ジョブのステータス」オプションで詳細を表示するには、計算スクリプトおよびモデルの計算または生成によってタスクフローが作成されている必要があります。第7章「計算モデル」を参照してください。

---

**注意** 各タスクフロー画面でステップおよびリンクを追加または削除して、新しいタスクフローを作成することもできますが、Profitability and Cost Management タスクフローを変更しないことをお勧めします。その他の製品の EPM Workspace タスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

---

タスクフローを監視およびスケジュールするには、次の手順を使用します：

- 157 ページの「タスクフロー情報の表示」
- 158 ページの「タスクフローのステータスの表示」
- 160 ページの「タスクの詳細の表示」
- 161 ページの「タスクフローのスケジュール」

## タスクフロー情報の表示

タスクフローのリスト(要約)には、選択されているアプリケーションの既存のタスクフローと各タスクフローの基本的な詳細が表示されます。

▶ タスクフロー情報を表示するには：

- 1 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

タスクフローのリスト(要約)画面が表示されます。

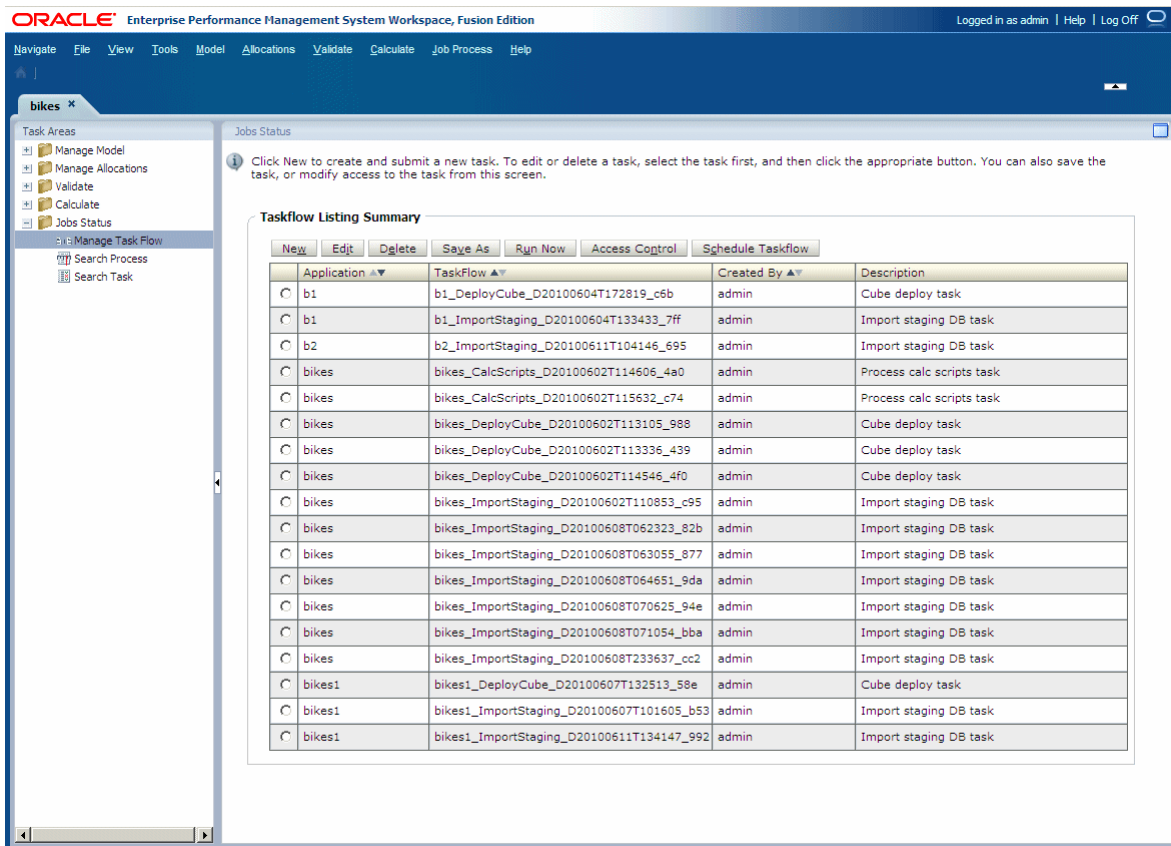
要約には、選択されているアプリケーションに存在する各タスクフローについて、次の情報が表示されます：

- 「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- 「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が表示されます。

たとえば、HPM\_ImportStaging\_382728be43623bc2 という生成されたタスクフロー番号が表示された場合、HPM は製品名、ImportStaging はタスク、

382728be43623bc2 は生成されたアプリケーション・インスタンス ID を表します。

- 「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーの ID が表示されます。
- 「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。



- 2 オプション: タスクフローの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「タスクフローのスケジュール」をクリックすると、タスクの実行をより都合のよい時間または日付にスケジュールできます。
- 3 タスクフローのリスト(要約)画面を使用して、タスクフローの削除やタスクフローの実行のスケジュールなど、様々なアクションを実行します。EPM Workspace タスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

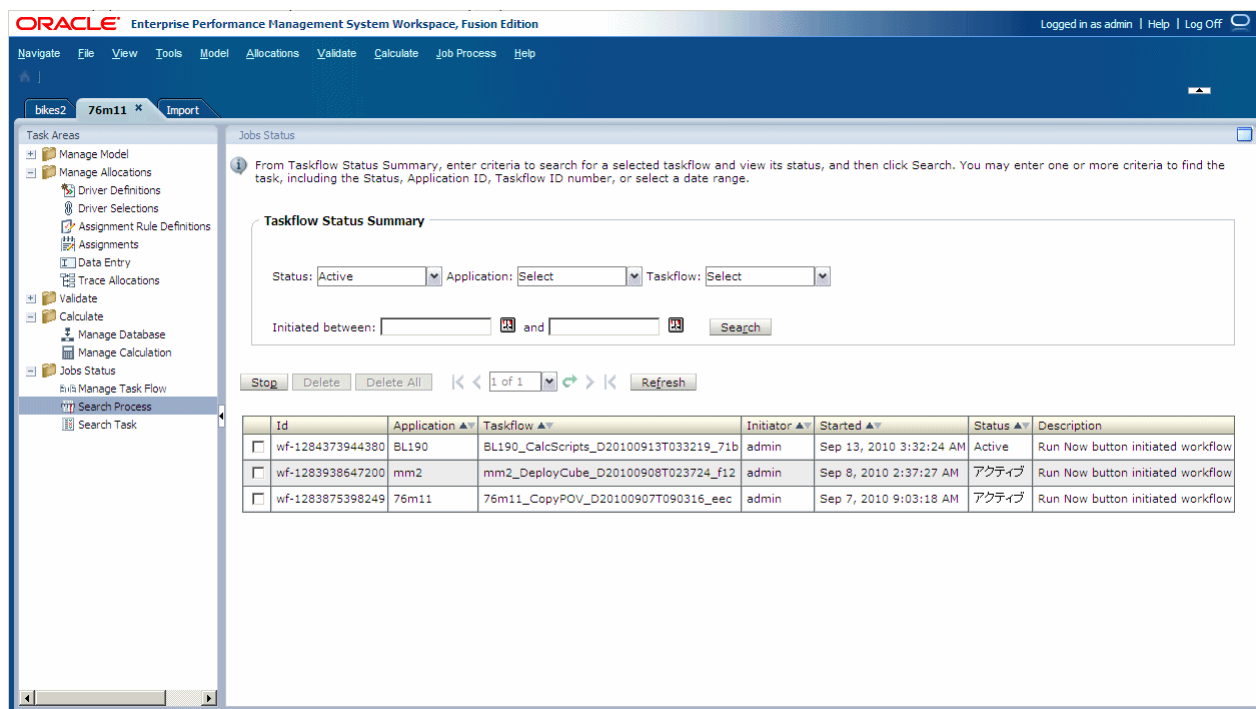
## タスクフローのステータスの表示

タスクフロー・ステータス(要約)画面では、既存のタスクフローのステータスを表示または更新できます。また、タスクフロー・リストをフィルタ処理し、特定のステータスまたは日付範囲を持つタスクフローを表示することもできます。


生成されるタスクフロー・ステップごとに、参加者 ID が生成されます。関連する参加者の要約の詳細を表示するには、個々のタスクフローをドリルダウンします。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

- 1 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「検索プロセス」の順に選択します。  
タスクフロー・ステータス(要約)画面が表示されます。



## 2 表示するタスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:

1. 「ステータス」で、表示するタスクフローのステータスを選択します:
  - アクティブ
  - 完了
  - 停止済
  - すべて
2. 「アプリケーション」で、アプリケーション ID を選択します。
3. 「タスクフロー」で、タスクフロー ID を選択します。
4. 「開始期間」で、「カレンダー」をクリックし、検索範囲の開始日と終了日を選択します。

**注:** 必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的にして結果を絞り込みます。

## 3 「検索」をクリックします。

検索結果は、画面の下部に表示されます:

- ID (これは、タスクフローに自動的に生成された参加者 ID です。)
- アプリケーション ID
- タスクフロー ID
- タスクフローの開始元
- タスクフローの実行が開始された時刻
- タスクフローの現在のステータス
- タスクフローの説明

- 4 **オプション:** 「リフレッシュ」 をクリックし、ステータス情報を更新します。
- 5 **オプション:** マルチステップ・タスクフローの現在実行されているステップを終了するには、該当するタスクフローの横にあるチェック・ボックスをクリックし、「停止」 をクリックします。

選択したステップの結果がアプリケーションから戻されると、タスクフローは停止します。それまでのステップの結果が破棄されることはありません;ただし、タスクフローを再実行すると、最初のステップから開始されます。

- 6 **オプション:** タスクフローの詳細およびステータスを表示するには、タスクフロー名をダブルクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、タスクの詳細およびステータスが示されます。

- 7 「取消し」 をクリックし、タスクフロー・ステータス(要約)に戻ります。

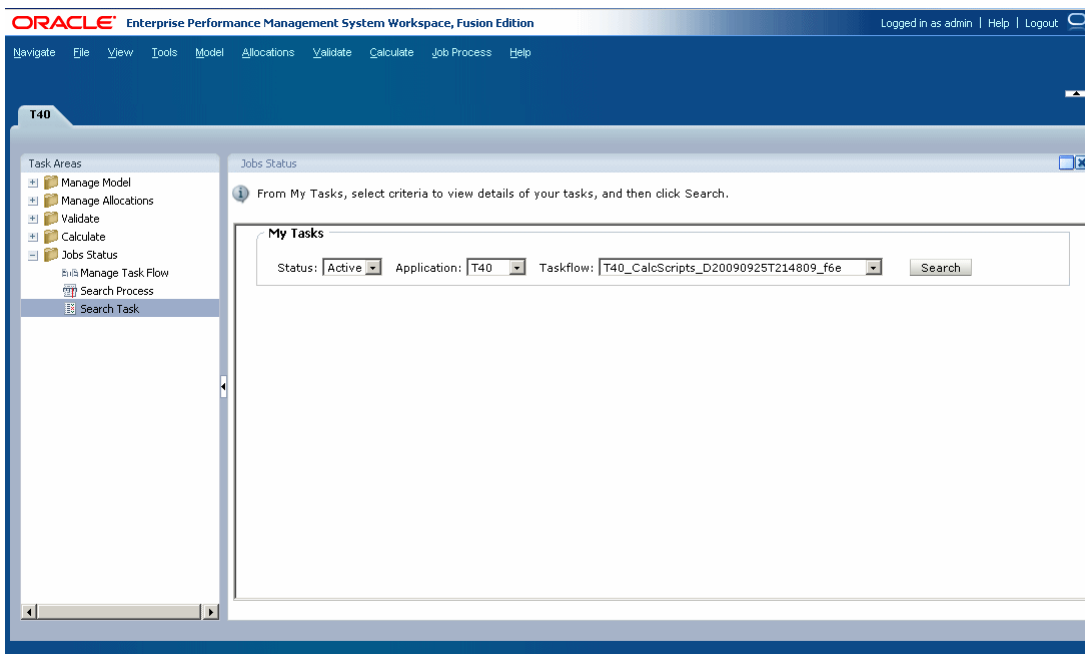
## タスクの詳細の表示

「タスクの詳細」 オプションを使用すると、既存のタスクフローの詳細を表示できます。

タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。

▶ タスクの詳細を表示するには:

- 1 「タスク領域」 から、「ジョブ・ステータス」、「タスクの検索」の順に選択します。「マイ・タスク」 画面が表示されます。



- 2 表示するタスクフローを検索するための検索条件を 1 つまたは複数選択します:
  1. 「ステータス」 で、「新規」、「アクティブ」、「完了」、「すべて」などのステータスを選択します。
  2. 「アプリケーション」 で、アプリケーション ID を選択します。



3. 「タスクフロー」で、生成されたタスクフロー ID を選択します。

**注：** 必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的に結果を絞り込みます。

3 「検索」をクリックします。

検索結果が表示されます。

4 **オプション:** 右向きまたは左向きの矢印を使用して、結果をスクロールします。現在のページ番号と合計ページ数が表示されます。

5 **オプション:** 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。

6 タスクフローを選択し、「ステータスの表示」をクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、ジョブの詳細および、タスクフロー内で選択されているステップの現在のステータスが示されます。

7 「取消し」をクリックし、「ジョブ・ステータス」画面に戻ります。

## タスクフローのスケジュール

1 度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

**注：** タスクフローをスケジュールするには、タスクを作成するときに「後で実行」オプションを選択しておく必要があります。

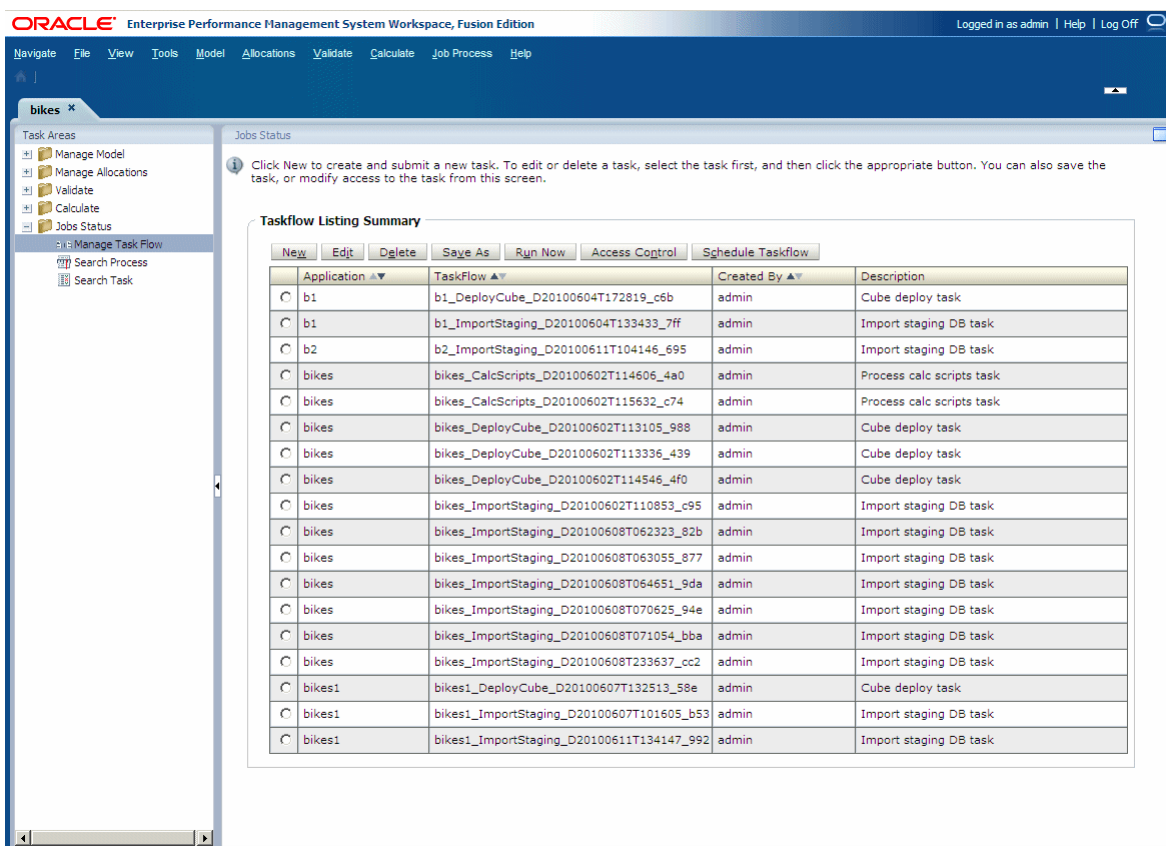
▶ タスクフローをスケジュールするには:

1 「タスク領域」から、「ジョブのステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

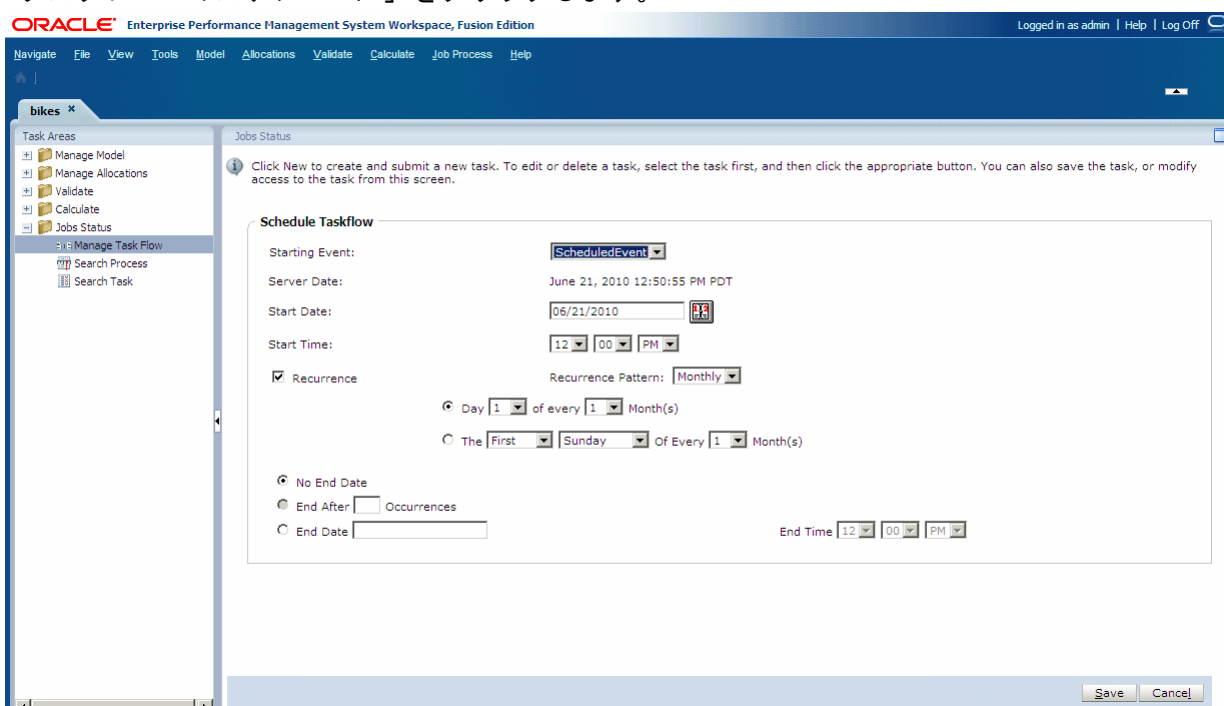
タスクフローのリスト(要約)画面が表示されます。要約には、既存の各タスクフローに関する次の情報が表示されます:


- <製品名>:<アプリケーション ID>というフォーマットのアプリケーション名。アプリケーション名の例: **HPM:382728be43623bc2**。ここで、**HPM** が製品名、**382728be43623bc2** が生成されたアプリケーション・インスタンス ID です。
- 生成されたタスクフロー番号
- タスクフローを作成したユーザーの ID
- タスクフローの目的に関する説明

**注：** タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。



- 2 タスクの作成時に「後で実行」オプションを選択したタスクフローを選択します。
- 3 「タスクフローのスケジュール」をクリックします。



- 4 「開始イベント」の下で「スケジュール済イベント」を選択します。  
「サーバーの日付」が表示されます。
- 5 「開始日」で、「カレンダー」をクリックし、タスクフローをスケジュールする日付を選択します。

- 6 「開始時刻」で、ドロップダウン・リストを使用し、タスクフローの開始をスケジュールする時刻を選択します。

時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

- 7 **オプション:** ジョブを繰り返し実行するようにスケジュールする手順は、次のとおりです:

1. 「繰り返し」を選択します。
2. 「繰り返しパターン」で、「月次」または「週次」などの頻度を選択します。
3. 繰り返しの設定を選択し、次の例に示すように必要な変数を入力します:
  - x か月ごとの月の第 x 日
  - x か月ごとの週の x 曜日

- 8 **オプション:** タスクフローを、手動で取り消されるか削除されるまで実行するようにスケジュールするには、「終了日なし」を選択します。

- 9 **オプション:** タスクフローを指定した回数実行するようにスケジュールするには、「x 回後に終了」を選択します。テキスト・ボックスにジョブを実行する回数を入力します。

**注:** このオプションは、「1 日ごと」または「1 週間ごと」の「繰り返し」スケジュールが選択されている場合にのみ使用できます。

- 10 **オプション:** 指定した日付までタスクフローを実行するには、「終了日」を選択し、最後に実行する日時を選択します:

1. 「終了日」で、「カレンダー」をクリックし、日付を選択します。

**注:** 「カレンダー」は、「終了日」オプションを選択している場合にのみ表示されます。

2. 「終了時間」で、最後に実行する時刻を選択します。時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

- 11 「保存」をクリックして、スケジュールしたジョブを保存します。

スケジュールどおりにタスクフローが実行されます。



## この章の内容

レポートの実行について.....	165
Essbase アウトラインおよびレポート作成.....	166
ステージ・データのレポート作成.....	167
直接配賦のレポート作成.....	168
配賦系統のレポート作成.....	169
Excel Spreadsheet Add-In を使用したレポート作成.....	170
Smart View を使用したレポート作成.....	171

## レポートの実行について

モデルを評価するための内部レポートがあります;たとえば、「ステージの貸借一致」画面やデータ入力ビューです。これらに加えて、「クエリーの管理」画面を使用して、Profitability and Cost Management によって作成された計算キューブやレポート・キューブに対して実行する Smart View クエリーを構築および管理できます。クエリー管理画面からクエリーを実行すると、クエリーの結果を含む Smart View が起動されます。詳細は、後続の項で説明します。

他の Oracle レポート・ツールまたはサードパーティのレポート・ツールを使用して、Essbase キューブについてレポートを作成し、計算結果を表示することもできます。

- Oracle Hyperion Web Analysis
- Oracle Hyperion Financial Reporting
- Microsoft Excel (Essbase スプレッドシート・アドインを使用)
- Smart View は単独で使用して Essbase キューブのレポートを作成することも、「クエリーの管理」画面からクエリーのコンテキストで起動することもできます。

これらのレポート・ツールを使用することで、必要な情報を希望どおりに表示するレポートを生成できます。この項では、レポートの構築に必要な手順について説明します。レポートの作成および実行方法の詳細は、使用するレポート・ツールのサポート・ドキュメントを参照してください。

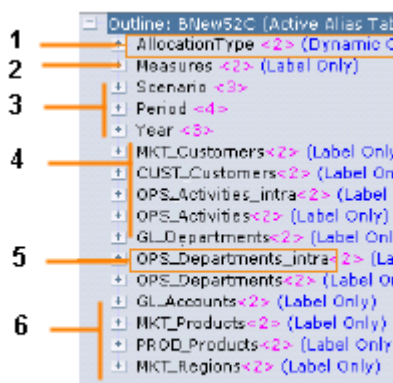
次の項を参照してください:

- 166 ページの「Essbase アウトラインおよびレポート作成」
- 167 ページの「ステージ・データのレポート作成」

- 168 ページの「直接配賦のレポート作成」
- 169 ページの「配賦システムのレポート作成」
- 170 ページの「Excel Spreadsheet Add-In を使用したレポート作成」

## Essbase アウトラインおよびレポート作成

Profitability and Cost Management モデルに作成された Essbase アウトラインには、各ステージのデータを保存する専用の次元があります。ステージは Essbase アウトライン内には存在しませんが、モデル内の次元およびメンバーを整理するのに使用されます。Profitability and Cost Management でステージを作成すると、次元が属するステージを識別するための接頭辞が定義され、アウトラインに表示されます。



前述の図に示された Essbase アウトラインの例には、次の特性があります:

1. AllocationType は、DirectAllocation または GenealogyAllocation データを識別します
2. メジャー次元は、モデルで使用されているメジャーを示します。
3. 少なくとも 1 つの POV 次元が選択可能です。
4. ステージ接頭辞によって、次元が属するステージが示されます。
5. \_intra 接尾辞によって、ステージ内割当てで使用される次元が識別されます。
6. モデルからのビジネス次元。

Essbase アウトラインの次元を使用し、必要に応じて様々なレベルの詳細および情報を含むレポートを作成します。レポートに含める次元は選択可能です。ただし、通常、次の次元は必須です:

- AllocationType 次元 - レポートに DirectAllocation または GenealogyData のどちらを含めるかを指定します。
- POV 次元
- メジャー次元
- ビジネス次元
- 属性次元

ステージ内配賦を許可するステージの場合、次元がステージ内配賦の一部であることがわかるように、Essbase によって\_intra 接尾辞が付けられます。たとえば、ステージ次元が OPS\_Products および OPS\_Activities である場合、ステージ内配賦の宛先データは OPS\_Departments\_intra および OPS\_Activities\_intra という次元に保存されます。

**注意** すべての Essbase アウトラインで、すべての次元の名前が一意であることを確認してください;一意でない場合は、アウトラインの作成が失敗します。たとえば、属性次元メンバーに標準の次元と同じ名前を付けることはできません。

## ステージ・データのレポート作成

レポートを生成し、個々のモデル・ステージの詳細を調べることができます。

### ステージ・データ・レポートの選択例

	A	B	C	D
1	Period	January	GL_Accounts	NoMember
2	Year	2008	GL_Departments	NoMember
3	Scenario	Actual	OPS_Departments_intra	NoMember
4			OPS_Activities_intra	NoMember
5	AllocationType	DirectAllocation	PRODS_Products	NoMember
6			CUST_Customers	NoMember
7			MKT_Customers	NoMember
8			MKT_Products	NoMember
9			MKT_Regions	NoMember
10				
11				
12	OPS_Departments	OPS_Activities	Measures	
13			CostReceivedPriorStage	CostInput
14	Assembly	Building		200
15	Assembly	Rework		150
16	Assembly	Testing		100

前述のレポート例は、ステージ・データ・レポートを作成するための次元のレイアウトを示しています:

1. DirectAllocation に設定された AllocationType
2. 他のステージの次元はすべて NoMember に設定されています。
3. ステージ次元

▶ ステージ・データのレポートを作成するには:

- 1 **第7章「計算モデル」**の説明に従って、モデルの Essbase キューブを生成および計算します。
- 2 使用しているレポート作成アプリケーションから、Essbase キューブに接続します。
- 3 次元を必要な構成にドラッグ・アンド・ドロップします。たとえば、ソース・ステージ交差を行に、宛先ステージ交差を列に、またはその逆に配置することができます。
- 4 ソース・ステージの各次元からメンバーを選択し、レポートを作成するソース交差を定義します。

- 5 宛先ステージの各次元からメンバーを選択し、レポートを作成する宛先交差を定義します。
- 6 AllocationType 次元から、**DirectAllocation** を選択します。
- 7 各 POV 次元からメンバーを選択します。
- 8 メジャー次元から、レポートを作成するメジャーを選択します。第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」を参照してください。
- 9 その他すべての次元については、**NoMember** を選択します。
- 10 レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

## 直接配賦のレポート作成

直接配賦とは、ソースと宛先の交差が割当てによって直接リンクされている配賦のことです。

直接配賦レポートの選択例

	A	B	C	D	E
1	Period	January		GL_Accounts	NoMember
2	Year	2008		GL_Departments	NoMember
3	Scenario	Actual		OPS_Departments_intra	NoMember
4				OPS_Activities_intra	NoMember
5	AllocationType	DirectAllocation		CUST_Customers	NoMember
6	Measure	CostReceivedPriorStage		MKT_Products	NoMember
7				MKT_Regions	NoMember
8					
9					
10	OPS_Departments	OPS_Activity	PROD_Products		
11					
12			Bike Trailer	Standard Cruiser	LTD Cruiser
13	Assembly	Building	5000	3600	4100
14	Assembly	Testing	300	270	325
15	Assembly	Rework	800	600	460

前述のレポート例は、直接配賦データ・レポートを作成するために使用する次元のレイアウトを示しています:

1. DirectAllocation に設定された AllocationType
2. 他のステージの次元はすべて NoMember に設定されています。
3. ソースのステージ交差
4. 宛先のステージ交差

▶ 直接配賦レポートを作成するには:

- 1 第 7 章「計算モデル」の説明に従って、モデルの Essbase キューブを生成および計算します。
- 2 使用しているレポート作成アプリケーションから、Essbase キューブに接続します。
- 3 「ソース・ステージ」で、レポートを作成する各次元からメンバーを選択します。
- 4 「宛先ステージ」で、レポートを作成する各次元からメンバーを選択します。

**注:** ステージ内配賦が存在する場合は、\_intra という接尾辞を付けた次元を使用して、宛先交差を指定します。



- 5 AllocationType 次元から、**DirectAllocation** を選択します。
- 6 各 POV 次元からメンバーを選択します。
- 7 メジャー次元から、レポートを作成するメジャーを選択します。第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」を参照してください。
- 8 その他すべての次元については、**NoMember** を選択します。
- 9 レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

## 配賦システムのレポート作成

配賦システムレポートでは、対応付けられた割当てには存在しないが間接的な関係を持つソースと宛先の交差の配賦詳細を計算します。

### 配賦システムレポートの選択例

	A	B	C	D
1	Period	January	OPS_Departments	NoMember
2	Year	2008	OPS_Activities	NoMember
3	Scenario	Actual	CUST_Customers	NoMember
4			OPS_Departments_intra	NoMember
5	AllocationType	GenealogyAllocation	OPS_Activities_intra	NoMember
6	Measure	CostReceivedPriorStage	MKT_Customers	NoMember
7			MKT_Products	NoMember
8			MKT_Regions	NoMember
9				
10	GL_Departments	GL_Accounts	PROD_Products	
11			LTD Cruiser	STD Cruiser
12	Assembly	Personnel		200
13	Assembly	Personnel		150
14	Assembly	Personnel		200

前述のレポート例は、配賦システムレポートを作成するために使用する次元のレイアウトを示しています:

1. GenealogyAllocation に設定された AllocationType
2. 他のステージの次元はすべて NoMember に設定されています。
3. 開始点の交差
4. 終了点の交差

▶ 配賦システムのレポートを作成するには:

- 1 第 7 章「計算モデル」の説明に従って、モデルの Essbase キューブを生成および計算します。
- 2 使用しているレポート作成アプリケーションから、Essbase キューブに接続します。
- 3 「ソース・ステージ」で、開始点であるステージの各次元からメンバーを選択します。
- 4 「宛先ステージ」で、終了点であるステージの各次元からメンバーを選択します。

**注：** ステージ内配賦が存在する場合は、\_intra という接尾辞を付けた次元を使用して、宛先交差を指定します。

- 5 AllocationType 次元から、**GenealogyAllocation** を選択します。
- 6 メジャー次元から、レポートを作成するメジャーを選択します。第 11 章「標準 Profitability のメジャー次元」を参照してください。
- 7 各 POV 次元からメンバーを選択します。
- 8 開始点ステージと終了点ステージの間にあるステージの次元を含め、その他すべての次元については、**NoMember** を選択します。
- 9 レポート作成アプリケーションの説明書を参照し、レポートの作成を実行します。

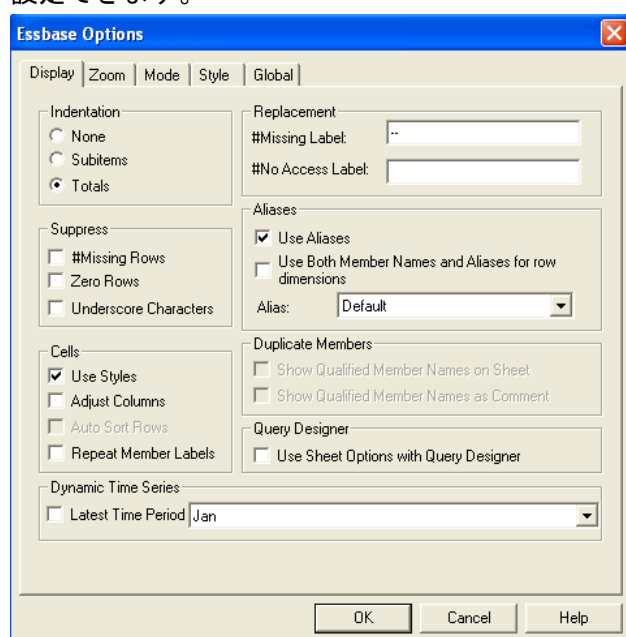
## Excel Spreadsheet Add-In を使用したレポート作成

Essbase Excel Spreadsheet Add-In がインストールされている場合は、Microsoft Excel からレポートを生成できます。

Excel Spreadsheet Add-In の使用方法の詳細は、『Oracle Essbase Spreadsheet Add-in ユーザー・ガイド』を参照してください。

▶ Excel Spreadsheet Add-In を使用してレポートを作成するには:

- 1 第 7 章「計算モデル」の説明に従って、モデルの Essbase キューブを生成します。
- 2 Microsoft Excel で、「Essbase」、「接続」の順に選択し、Essbase にログインします。
- 3 「Essbase ログイン」ダイアログ・ボックスの「アプリケーション・データベース」リストから、レポートを生成するキューブを選択します。
- 4 **オプション:** 「Essbase」、「オプションの選択」、「表示」の順に選択し、レポートの表示をカスタマイズします。別名の使用、#Missing 行の非表示、インデントなどを設定できます。



- 5 「Essbase」、「取得」の順に選択し、選択されているキューブのすべての次元をロードします。
- 6 レポートに必要な関連付けに次元をドラッグ・アンド・ドロップします。
- 7 各次元をドリルダウンして、レポートに表示するレベルを表示します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1				Market				
2				Sales	COGS			
3	Jan	Budget	Cola	5550	2020			
4			Diet Cola	2600	1280			
5			Caffeine Free Cola	1200	510			
6			Colas	8980	3810			
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								

- 8 オプション: フィールドが編集可能な場合は、必要に応じて値を変更します。
- 9 オプション: 変更した値を元のキューブに保存するには、次の手順を行います:
  1. 「Essbase」、「ロック」の順に選択し、値をロックします。
  2. 「Essbase」、「送信」の順に選択し、変更した値をキューブに送信します。

## Smart View を使用したレポート作成

Smart View は、Essbase などのデータ・ソースに対して、Microsoft Office インタフェースを提供します。Smart View をインストールすると、Office 製品のツールバーに Hyperion メニューが表示されます。この Hyperion メニューにより、Excel、Word または PowerPoint から Essbase に接続したり、Smart View の機能にアクセスできます。生成したレポートは、グリッド、チャートまたはスクロール可能なテーブルとして表示できます。

次の手順は、レポート作成プロセスの概要になります。Smart View を設定および使用して結果を表示する方法の詳細は、『Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。

- ▶ Smart View for Office を使用してレポートを作成するには:
  - 1 第 7 章「計算モデル」の説明に従って、モデルの Essbase キューブを生成および計算します
  - 2 Microsoft Excel を開きます。

- 3 Smart View で、「Hyperion」、「接続マネージャ」の順に選択し、Essbase データベースに接続します。『Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
- 4 『Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition ユーザー・ガイド』の説明に従って、レポートを作成します。

## この章の内容

カスタム・クエリーの作成.....	174
カスタム・クエリーの編集.....	178
Smart View クエリーの複製.....	181
Smart View クエリーの削除.....	181
「ステージの貸借一致」画面からのクエリーの実行 .....	181

Smart View 統合は、データ管理に関するヘルプを提供し、配賦データの診断を実行し、配賦データと系統データの両方の分析を可能にするために、標準 Profitability モデルでのみ使用可能です。さらに、Smart View 統合では、ステージ貸借一致から起動できる、コンテキスト依存の調査ツールが用意されています。

Smart View クエリーではユーザーは Profitability and Cost Management データのビューへすばやくアクセスできます。クエリーは計算用データベースまたはレポート用データベースのいずれに対しても定義でき、Smart View を起動した後は、グリッドを分析用に使用できます。データの入力も計算用データベースに対して実行できます。

「クエリーの管理」画面を使用すると、クエリーのタイプを選択した後、グリッドと Smart View POV を使用してクエリーを見直すことができます。クエリーは保存して再利用、または他の Profitability and Cost Management のユーザーによりクローニングできます。クエリーはライフサイクル管理を使用して、エクスポートや再インポートもできます。

デフォルトのクエリーは選択したクエリー・タイプに応じて異なるビューを提供します。各クエリーでは選択したタイプに対し選択を追加できます。たとえば、ドライバ・メジャーのクエリー・タイプでは、ドライバの場所(「ソース」、「割当て」、「宛先」)と、次元レイアウトおよびメンバーの選択画面に表示される次元のデフォルトを完了するためのステージの組合せを指定することがユーザーに求められます。

事前定義の Smart View 統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示され、あるステージから別のステージに提供された値が存在します。入力または配賦データについて詳細にドリル・ダウンできます。たとえば、割当ての実行後に未割当コストへドリルダウンしたり、または同じ実行で使用された入力データを確認することができます。

任意の次元または次元メンバーの名前が変更または削除された場合、それらの次元を参照している Smart View クエリーは無効になります。Smart View クエリーの

検証画面ですべてのクエリーを検証し、無効なクエリーがあればエラー・メッセージを表示します。

管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされたユーザーのみが、クエリーを作成、編集、コピー、または削除できます。管理者、パワー・ユーザー、対話型ユーザーがアプリケーションからクエリーを起動できます。

## カスタム・クエリーの作成

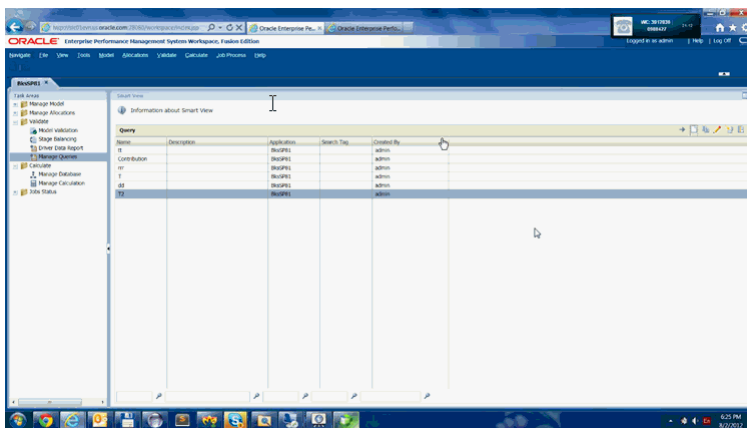
▶ クエリーを作成するには:


1 クエリーを作成する前に、次の製品がインストールおよび構成され、実行していることを確認します。

- Provider Services
- Shared Services
- Essbase
- Microsoft Excel がクライアント・マシンに Smart View とともにインストールされている

2 「タスク領域」から、「レポート」、「クエリーの管理」の順に選択します。

「クエリーの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存のクエリーが表示されます。



3 クエリー・ウィザードを開くには、「追加」をクリックします。

**Step 1: Query options**

Name:  Description:

Application:

Database:  Search Tag:

Type:

Driver Measures Location:

Source Stage:

Destination Stage:

Smart View Options

Suppress #Missing

Use Dimension Aliases

< Back   Next >   Cancel

4 「手順 1: 「クエリー」 オプション」で、新しいクエリーの情報を次のように入力します。

- クエリーの「名前」
- オプション: クエリーの「説明」
- ドロップダウン・リストからクエリーに使用する「アプリケーション」を選択します
- ドロップダウン・リストからクエリーに使用する「データベース」を選択します。
  - 「計算」 (BSO)
  - 「レポート」 (ASO)
- オプション: Smart View の「クエリー」メイン画面でクエリーの並べ替えに使用する記述的な「検索タグ」を入力します。

5 「タイプ」で、作成するクエリーのタイプを選択します。

- 「ドライバ・メジャー」
- 「ステージ・メジャー」
- 「コントリビューション」
- 「カスタム」

選択したタイプに応じて、追加のクエリー・オプションがその選択を反映して変更されます。表 8 を参照してください。

6 選択したタイプに基づいて「クエリー・オプション」を選択します。

表 8 「クエリー・タイプ」オプション

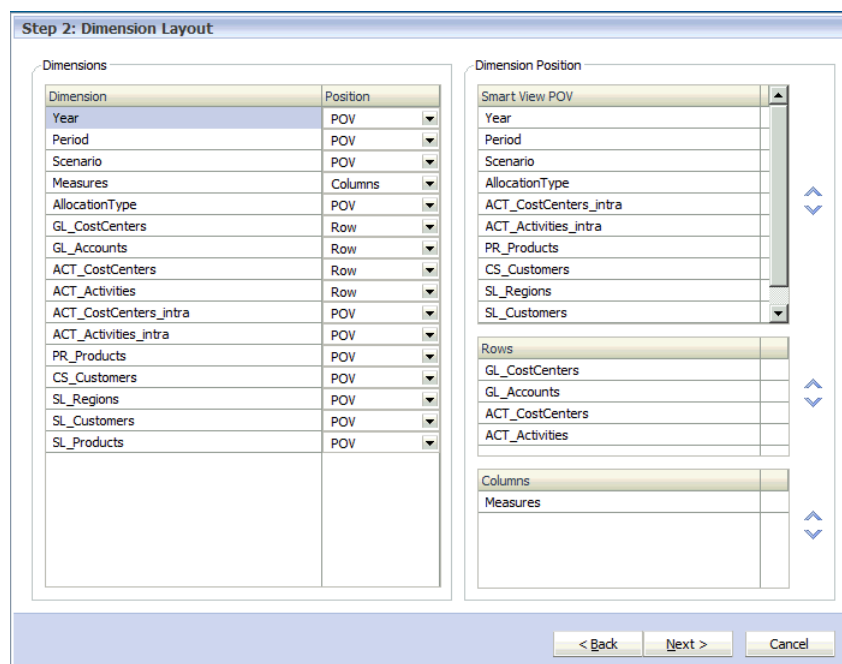
選択したクエリー・タイプ	タイプ	クエリー・オプション
ドライバ・メジャー	割当て	ソース・ステージと宛先ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	ソース	ソース・ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	宛先	宛先ステージを選択します。
ドライバ・メジャー	グローバル	N/A
ステージ・メジャー		クエリーに使用するステージを選択します。
コントリビューション	直接配賦	ソース・ステージと宛先ステージを選択します。
コントリビューション	系統	コントリビューション・パスを選択します(たとえば 1-3-5)。
カスタム		必要に応じて選択します。デフォルトは必要ありません。

- 7 **オプション:** 必要な場合、Smart View の最初のクエリに対するデータの抑制オプションを設定する、「Smart View オプション」で「#Missing の抑制」を選択します。

**注:** 「#Missing の抑制」を選択した場合は、Smart View のオプションは、すべてのクエリーではなく、最初のクエリーの実行に対してのみ設定されます。後続のデータへのドリルのオプションを設定するには、Smart View のオプションを手動で設定します。

- 8 **オプション:** 「Smart View オプション」で、「次元別名の使用」を選択して、クエリー内のすべての次元に割り当てられた別名を表示します。
- 9 「次」をクリックします。

手順 2 - 次元レイアウトが表示されます。



- 10 各「次元」に対し、「次元」の下で、ドロップダウン・リストを使用して画面の次元位置列の次元の配置に対する「位置」を選択します。



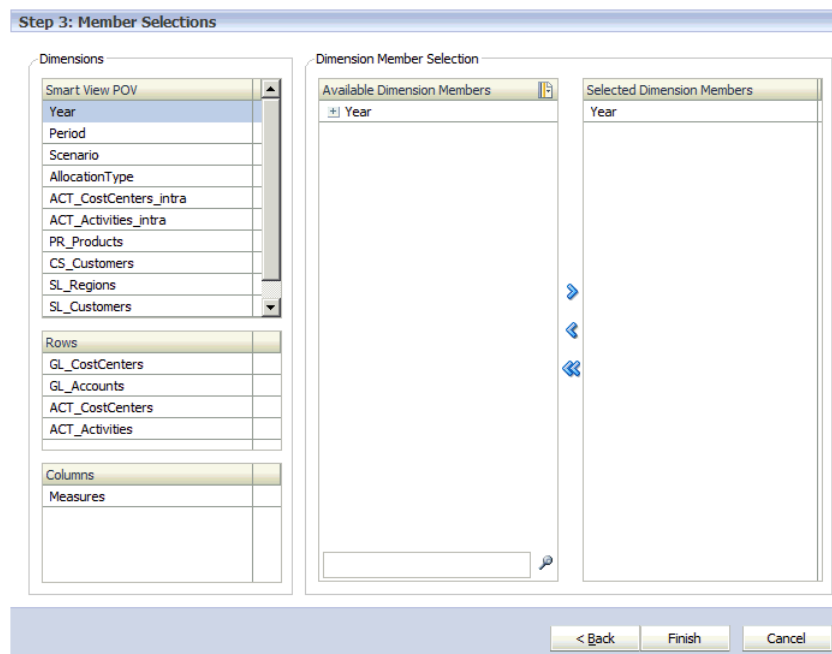
- 「POV」
- 「行」
- 「列」


デフォルトでは、アプリケーション・アウトラインのすべての次元が表示され、作成しているクエリーのタイプに適したデフォルトに選択が設定されます。

たとえば、特定のステージに対するステージ・メジャーを選択すると、そのステージの次元が「行」セクションに表示され、最初の階層の最上位のメンバーが各ステージ次元に対して事前に選択されます。他のステージ次元は「Smart View POV」セクションに配置され、各ステージから「NoMember」メンバーが選択されます。

- 11 オプション:** 「Smart View POV」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を変更します。
- 12 オプション:** 「行」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を変更します。
- 13 オプション:** 「列」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を変更します。
- 14 「次」** をクリックします。

手順 3 - 「メンバー選択」が表示されます。「Smart View POV」、「行」および「列」のすべての次元が「次元レイアウト」画面で定義された順序で表示されます。矢印を使用して、リスト内を上下にスクロールします。



- 15 「次元メンバーの選択」** で、「追加」矢印  を使用して、クエリーに含める次元メンバーを「選択済次元メンバー」列に移動します。

代替階層および NoMember メンバーを含む、すべての次元メンバーがリストに表示されます。レベルに制限がないため、代替階層、共有または基本メンバー、任意のメンバーを選択できます。

[Ctrl]キーを使用して複数の次元を選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。

#### 16 「終了」をクリックします。

新しいクエリーが「クエリーの管理」画面に追加されます。

**注：** クエリーを実行する前に、データベースを配置する必要があります。クエリーを実行する前にデータベースを計算する必要がない場合でも、計算されていないと結果が欠落します。

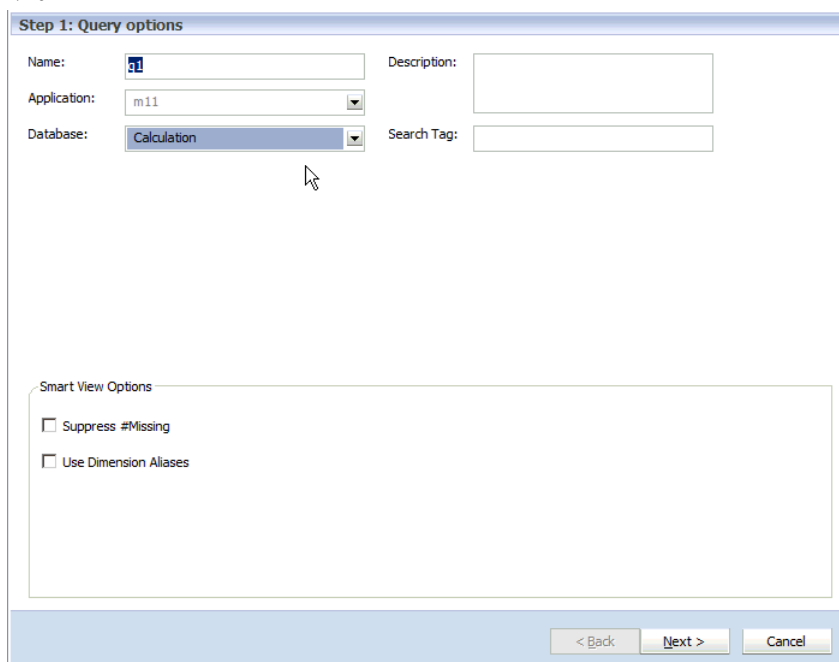
## カスタム・クエリーの編集

▶ クエリーを編集するには:

### 1 「タスク領域」から、「レポート」、「クエリーの管理」の順に選択します。

「クエリーの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存のクエリーが表示されます。

### 2 クエリー・ウィザードを開くには、「クエリーの編集」ボタンをクリックします。



Step 1: Query options

Name:  Description:

Application:

Database:  Search Tag:

Smart View Options

Suppress #Missing

Use Dimension Aliases

< Back Next > Cancel

### 3 「手順 1: 「クエリー・オプション」で、次のフィールドを変更してクエリーを変更します。

- クエリーの「名前」
- オプション: クエリーの「説明」
- ドロップダウン・リストからクエリーに使用する別の「データベース」を選択します。
  - 「計算」(BSO)

- 「レポート」 (ASO)
- **オプション:** Smart View の「クエリー」メイン画面でクエリーの並べ替えに使用する記述的な「検索タグ」を入力します。

**注:** 「クエリー・タイプ」または「クエリー・オプション」は変更できません。タイプを変更するには、新しいクエリーを作成します。

- 4 オプション:** 必要な場合、Smart View の最初のクエリに対するデータの抑制オプションを設定する、「Smart View オプション」で「#Missing の抑制」を選択します。

**注:** 「#Missing の抑制」を選択した場合は、Smart View のオプションは、すべてのクエリーではなく、最初のクエリーの実行に対してのみ設定されます。後続のデータへのドリルのオプションを設定するには、Oracle Hyperion Smart View for Office のオプションを手動で設定します。

- 5 オプション:** 必要に応じて、「Smart View オプション」で、「次元別名の使用」を選択して、クエリー内のすべての次元に割り当てられた別名を表示します。
- 6 「次」をクリックします。**

手順 2 - 「次元レイアウト」画面が表示されます。

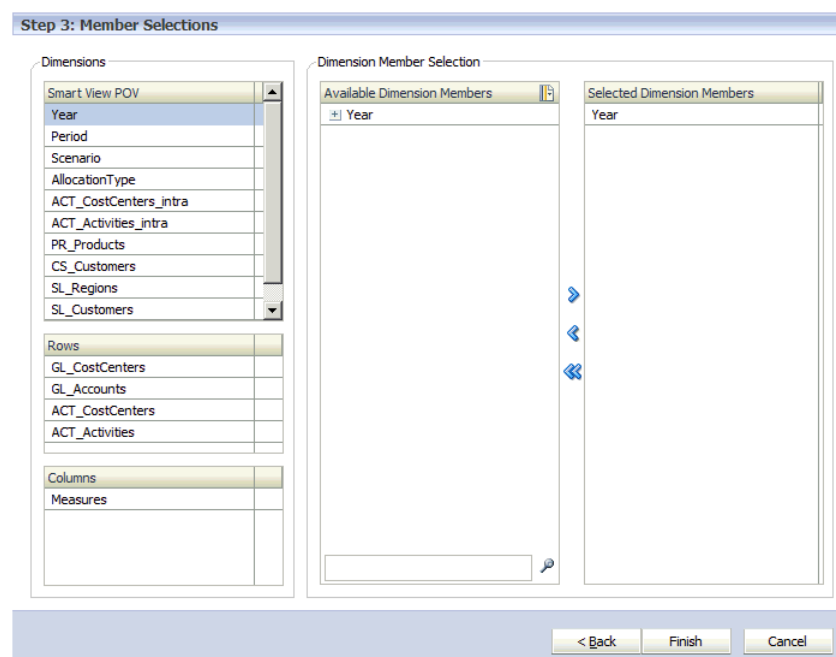
- 7 各「次元」に対し、「次元」の下で、ドロップダウン・リストを使用して画面の次元位置列の次元の配置に対する「位置」を選択します。**
  - 「Smart View POV」
  - 「行」
  - 「列」


デフォルトでは、アプリケーション・アウトラインのすべての次元が表示され、作成しているクエリーのタイプに適したデフォルトに選択が設定されます。

たとえば、特定のステージに対するステージ・メジャーを選択すると、そのステージの次元が「行」セクションに表示され、最初の階層の最上位のメンバーが各ステージ次元に対して事前に選択されます。他のステージ次元は「Smart View POV」セクションに配置され、各ステージから「NoMember」メンバーが選択されます。

- 8 **オプション:** 「Smart View POV」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を調整します。
- 9 **オプション:** 「行」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を調整します。
- 10 **オプション:** 「列」セクションの「次元位置」で、上矢印および下矢印を使用して、クエリーのハイライトされている次元の位置を調整します。
- 11 「次」をクリックします。

手順 3 - 「メンバー選択」が表示されます。「Smart View POV」、「行」および「列」のすべての次元が「次元レイアウト」画面で定義された順序で表示されます。矢印を使用して、リスト内を上下にスクロールします。



- 12 「次元メンバーの選択」で、「追加」矢印  を使用して、クエリーに含める次元メンバーを「選択済次元メンバー」列に移動します。

代替階層および NoMember メンバーを含む、すべての次元メンバーがリストに表示されます。レベルに制限がないため、代替階層、共有または基本メンバー、任意のメンバーを選択できます。

[Ctrl]キーを使用して複数の次元を選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。

- 13 「終了」をクリックします。


変更されたクエリーが保存され、「クエリーの管理」画面で使用可能になります。

## Smart View クエリーの複製

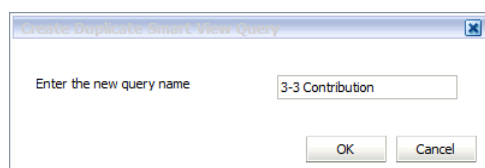
▶ Smart View クエリーを複製するには:

- 1 「タスク領域」から、「レポート」、「クエリーの管理」の順に選択します。

「クエリーの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存のクエリーが表示されます。

- 2 「クエリーの編集」ボタン  をクリックします。

Smart View クエリーの複製の作成ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 3 新しいクエリーの名前を入力し、「OK」をクリックします。

新しいクエリーが保存され、「クエリーの管理」画面のリストに追加されます。


## Smart View クエリーの削除

▶ Smart View クエリーを削除するには:

- 1 他のユーザーがこのクエリーを必要としていないことを確認します。

- 2 「タスク領域」から、「レポート」、「クエリーの管理」の順に選択します。

「クエリーの管理」画面が表示され、ユーザーが管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている全アプリケーションに対するすべての既存のクエリーが表示されます。

- 3 「クエリー・リスト」から削除するクエリーを選択し、「削除」ボタン  をクリックします。

選択したクエリーの削除を確認するメッセージが表示されます。

- 4 「はい」をクリックします。

選択したクエリーが「クエリーの管理」画面から削除されます。

## 「ステージの貸借一致」画面からのクエリーの実行

事前定義済のクエリー統合を「ステージの貸借一致」画面から起動することもできます。起動データ・ポイントは、「ステージの貸借一致」画面でハイパーリンクとして表示されます。列内のハイパーリンクは、あるステージから別のステージに提供された値を示します。

ハイパーリンクをクリックすると、即座に分析機能にアクセスして、計算を分析し、領域に修復が必要かどうか、情報の矛盾や欠落の詳細を公開する必要があるかどうかを判断します。

クエリーに表示されるデータは常にレポート用データベースを開きます。

▶ 「ステージの貸借一致」画面を使用してクエリーにアクセスするには:


1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、クエリーが作成されたアプリケーションを選択します。

2 クエリーを実行する前にデータベースを配置します。

クエリーを実行する前にデータベースを計算する必要はありません。ただし、一部の結果が欠落することを認識しておく必要があります。

3 「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。

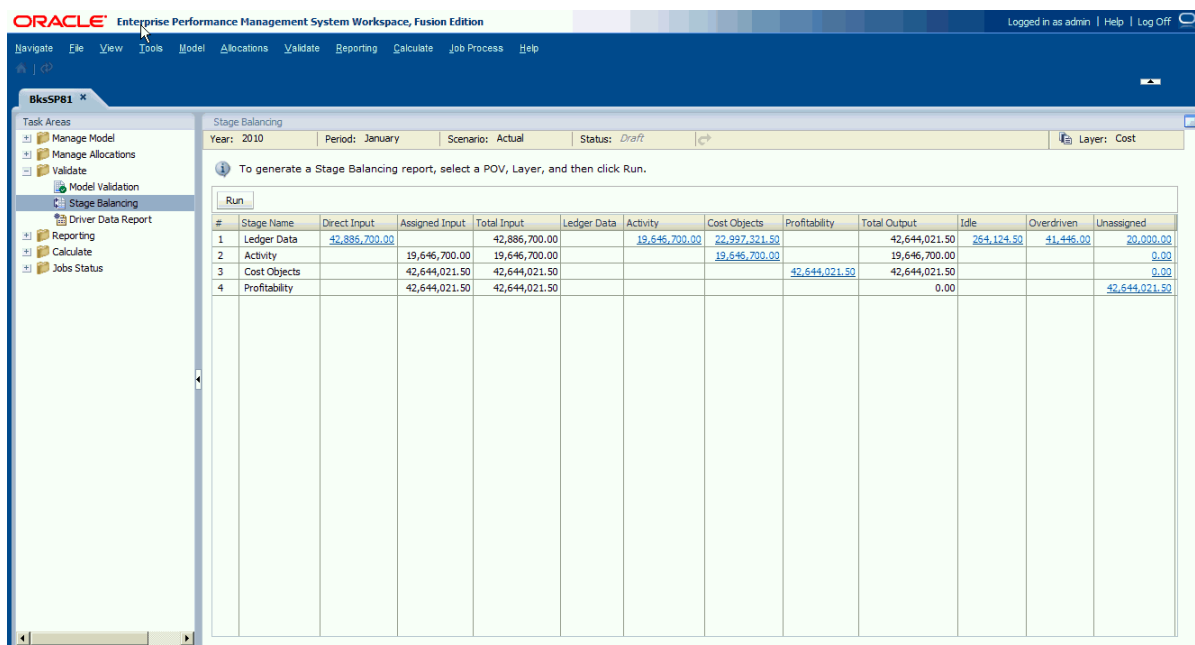
「ステージの貸借一致」画面が表示されます。

4 POV とレイヤーを選択し、「起動」ボタン  をクリックします。

選択した POV の「ステージの貸借一致」レポートが表示され、アクティブなリンクがハイライト表示されます。デフォルトでは、次のハイパーリンクを使用できます。

- 直接入力
- アイドル
- オーバードライブ
- 未割当ての列

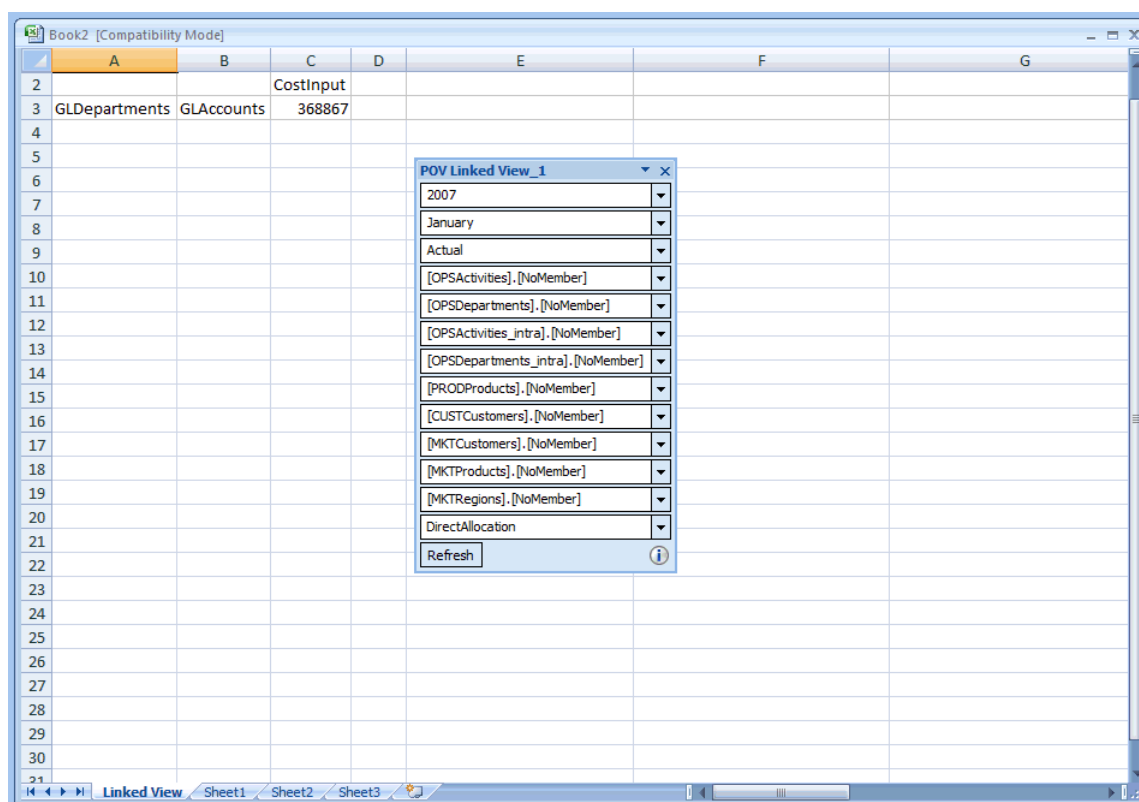
追加の列にもハイパーリンクが含まれている場合があります。列内のハイパーリンクは、あるステージから別のステージに提供された値を示します。あるステージから別のステージへのコントリビューションが存在しない場合は、交差が空です。



#	Stage Name	Direct Input	Assigned Input	Total Input	Ledger Data	Activity	Cost Objects	Profitability	Total Output	Idle	Overdriven	Unassigned
1	Ledger Data	42,886,700.00		42,886,700.00		19,646,700.00	22,997,321.50		42,644,021.50	264,124.50	41,446.00	20,000.00
2	Activity		19,646,700.00	19,646,700.00			19,646,700.00		19,646,700.00			0.00
3	Cost Objects		42,644,021.50	42,644,021.50				42,644,021.50	42,644,021.50			0.00
4	Profitability		42,644,021.50	42,644,021.50					0.00			42,644,021.50

- 5 ハイパーリンクをクリックすると、現在選択している POV の Essbase の交差部に対する結果が表示されます。

結果には、選択したメンバーのすべての交差部に対する、デフォルトのハイパーリンク (CostReceivedPriorStage など) の合計が表示されます。結果はレポート用データベースから取得されるので、すべての値は自動的に集約されます。



- 6 オプション: 現在の POV を変更するには、「POV\_Linked\_View」ペインで、現在の POV に対してリストされた次元の横にある下向き矢印をクリックし、省略符号(...)をクリックして、「メンバー・セレクタ」を開きます。変更するメンバーを選択し、「リフレッシュ」をクリックして、POV 変更をアクティブ化します。
- 7 クエリーの結果を確認します。
- 8 オプション: 特定の交差を表示するには、「Essbase」タブの「ズーム」コマンドを使用して、特定の交差までドリルダウンするか戻ります。





# 11

## 標準Profitabilityのメジャー次元

### この章の内容

標準メジャー次元について.....	185
ドライバ・メジャー.....	185
レポート・メジャー.....	186
費用レイヤー配賦メジャー.....	187
収益レイヤー配賦メジャー.....	189

### 標準メジャー次元について

メジャー次元は Performance Management Architect からインポートされます。モデルの構築、検証、計算に必要な次元およびメンバーが含まれています。

標準のメジャー次元は定義済ですが、ユーザーは「UserDefinedDriverMeasures」メンバーの下の階層にユーザー定義のドライバ・メジャーを追加することもできます。

**注意** メジャー次元のシステム・メンバーは編集しないでください。変更により、データが欠落したりモデルが破損する場合があります。

### ドライバ・メジャー

ドライバ・メジャーは、ドライバ・タイプの作成で使用されます。

表9 ドライバ・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
FixedDriverValue	FixedDV	固定ドライバ値パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Rate	Rate	レート・パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Quantity	Qty	数量パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Weight	Weight	加重パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
Percentage	Percent	パーセンテージ・ドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
CalculatedDriverValue	CDV	割当てで使用されるドライバ式の結果であるメジャー	計算済
TotalDriverValue	TDV	配賦式 $\text{Driver Value}/\text{TotalDriverValue}(\text{DV}/\text{TDV})$ で分母として使用されるメジャー	計算済
EffectiveTotalDriverValue	EffTDV	ドライバの定義時に「アイドルを許可」ボックスが選択されているドライバの有効なドライバ合計を保管するために使用されるメジャー。	計算済
OverrideTotalDriverValue	OvrtdTV	配賦式の分母として TotalDriverValue メジャーを上書きするユーザー入力値です。このメンバーが、アイドル計算が実行される原因となります。	入力
TotalDriverValueAfterReciprocals	TDVAftRcp	相互割当てにソースが含まれている場合の、非相互ステージ内配賦、およびステージ後配賦に関する配賦式の分母として使用されるメジャーです	計算済
IdleDriverValue	IdleDV	IdleCost の計算用のドライバ値(DV)として使用されるメジャー	計算済
UserDefinedDriverMeasures	N/A	<p>メンバー UserDefinedDriverMeasures は、アプリケーション固有のユーザー定義のドライバ・メジャーが保管される場所です。</p> <p>ASOMember DataStorage および BSOMember DataStorage プロパティは、次のように設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- このメンバーに子がない場合、<b>StoreData</b> に設定します。</li> <li>- このメンバーにメンバーが子として追加されるときに、これらの子に集計記号 IGNORE がある場合、<b>LabelOnly</b> に設定します。</li> </ul> <p><b>注:</b> すべてのドライバ・メジャーはアウトライン内で一意である必要があります。アウトライン内の次元では既存のドライバ・メジャーの名前を他のメンバーの名前として使用しないでください(システム次元、POV 次元およびビジネス次元を含む)。これらを使用すると、「データの入力」画面に値が正しく表示されません。</p>	N/A

## レポート・メジャー

レポート・メジャーは、計算済の値および入力済の値を使用して、モデルの総費用および総収益のレポートを生成するために使用します。レベル 0 でないレポート・メジャーはすべて計算されます。

表 10 レポート・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
GrossCost	GrossCost	使用可能なすべての入力を含む、交差の費用合計: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入力値</li> <li>● ステージ前割当て</li> <li>● 相互割当てを含むステージ内割当て</li> </ul> この計算は、交差の真の費用合計を表します。	計算済
StandardCost		標準基準ドライバの場合、 $\text{StandardCostRate} * \text{TotalDriverValue}$ で計算された費用	計算済
StandardRevenue		標準基準ドライバの場合、 $\text{StandardRevenueRate} * \text{TotalDriverValue}$ で計算された収益	計算済
InitialCost	InitialCost	入力費用およびステージ前からの割当て時に受け取られた費用を含む、ステージ内費用または相互費用が計算される前の交差の費用。	計算済
NetCostAfterIntraStage	NetCostAftInt	すべてのステージ内費用割当てを含む、交差の費用	計算済
GrossRevenue	GrossRev	使用可能なすべての入力を含む、交差の収益合計: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入力値</li> <li>● ステージ前割当て</li> <li>● 相互割当てを含むステージ内割当て。</li> </ul> この計算は、交差の真の収益合計を表します。	計算済
InitialRevenue	InitialRev	入力収益およびステージ前からの割当て時に受け取られた収益を含む、ステージ内収益または相互収益が計算される前の交差の収益。	計算済
NetRevenueAfterIntraStage	NetRevAftInt	すべてのタイプのステージ内収益割当てを計上した後の交差の収益	計算済
Profit	Profit	選択した交差について計算された収益の値。この値は、次の計算の結果です: $\text{NetRevenueForAssignment} - \text{NetCostForAssignment}$	計算済

## 費用レイヤー配賦メジャー

費用レイヤー配賦メジャーは、計算済費用および入力済費用の直接配賦を制御するために使用します。

表 11 費用レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
UnassignedCost	UnAsgCost	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の費用の残り。	計算済
CostAssigned	CostAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedIntraStage	CostAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedPostStage	CostAsgPost	ステージ後宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
OverDrivenCost	OverDrivenCost	標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計が NetCostForAssignment より大きい場合、期限を過ぎた金額は OverDrivenCost に転記されます。	計算済
IdleCost	IdleCost	アイドル費用は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます: <ul style="list-style-type: none"> <li>実績基準ドライバの場合、アイドル費用は次の配賦式を使用して生成されます: <math>\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math></li> <li>標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計が NetCostForAssignment より小さいとアイドル費用が生成されます。</li> </ul>	計算済
NetCostForAssignment	NetCostAsg	前ステージ割当て、ステージ内割当ておよび相互割当てをすべて計上した後で割当てに使用できる総費用。 DataStorage (BSO) プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
GrossReceivedCost	GrRecCost	相互費用およびユーザー入力費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てから割り当てられたすべての費用合計 DataStorage (BSO) プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
StandardCostRate	StandardCostRate	標準基準ドライバの場合、ユーザーは標準の費用レートを割り当て、標準基準の費用ドライバの計算で使用する値を次のように入力します: $\text{CostReceivedPriorStage} = \text{StandardCostRate} * \text{TotalDriverValue}$	入力
CostInput	CostInput	交差のユーザー入力の費用値	入力

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
CostReceived	CostRec	相互割当てから発生した費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てによって交差に割り当てられたすべての費用合計  DataStorage (BSO)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
CostReceivedPriorStage	CostRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた費用合計	計算済
CostReceivedIntraStage	CostRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての費用合計	計算済
NetReciprocalCost	NetRcpCost	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な金額に対する相互割当ての正味の影響  DataStorage (BSO)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
ReciprocalCostAssigned	RcpCostAsg	相互割当てから受け取る費用を除く、相互宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
ReciprocalCostReceived	RcpCostRec	相互宛先から受け取る費用合計	計算済
ReciprocalIntermediate Cost	RcpIntCost	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算済
CostPerDrvUnit	Cost Per Driver Unit	このメジャーは、AllocationMeasures の子です。  この式では、割当て費用(CostAssigned)を全ドライバ値の合計(TotalDriverValue)で除算して、ドライバ値の1単位当たりの費用を計算します。	計算済
UnitCost	Unit Cost。	このメジャーは、AllocationMeasures の子です。  この式では、ソース交差の費用金額(NetCostForAssignment)をユーザーが入力した数量で除算して、1単位当たりの費用を計算します。	計算済

## 収益レイヤー配賦メジャー

収益レイヤー配賦メジャーは、計算済および入力済の収益の直接配賦を制御するために使用します。

表 12 収益レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
UnassignedRevenue	UnAsgRev	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の収益の残り	計算済
RevenueAssigned	RevAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
OverDrivenRevenue		標準基準ドライバの場合で、収益合計が <code>NetRevenueForAssignment</code> より大きい場合、期限を過ぎた金額は <code>OverDrivenRevenue</code> に転記されます。	計算済
RevenueAssignedIntraStage	RevAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
RevenueAssignedPostStage	RevAsgPos	ステージ後宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
IdleRevenue	IdleRev	アイドル収益は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます: <ul style="list-style-type: none"> <li>実績基準ドライバの場合、アイドル収益は次の配賦式を使用して生成されます:  <math display="block">\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math> </li> <li>標準基準ドライバの場合、割り当てられる収益合計が <code>NetRevenueForAssignment</code> より小さいとアイドル収益が生成されます。</li> </ul>	計算済
NetRevenueForAssignment	NetRevAsg	すべてのステージ前割当て、ステージ内割当ておよび相互割当てを計上した後に割当て可能な収益合計。 DataStorage (BS0)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
GrossReceivedRevenue	GrRecRev	相互割当て収益およびユーザー入力収益を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てから割り当てられたすべての収益合計 DataStorage (BS0)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算済
StandardRevenueRate	StandardRevenueRate	標準基準ドライバの場合、ユーザーは標準の収益レートを割り当て、標準基準の収益ドライバの計算で使用する値を次のように入力します: $\text{RevenueReceivedPriorStage} = \text{StandardRevenueRate} * \text{TotalDriverValue}$	入力
RevenueInput	RevInput	交差のユーザー入力の収益値。 収益カテゴリを <code>RevenueInput</code> 下の階層として定義し、保管します。 DataStorage (BS0)プロパティを「StoreData」に設定します。	入力

メンバー名	別名	説明	計算 済/ 入力
RevenueReceived	RevRec	相互費用から発生した収益を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てによって交差に割り当てられたすべての収益合計  DataStorage (BS0)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算 済
RevenueReceivedPriorStage	RevRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた収益合計	計算 済
RevenueReceivedIntraStage	RecRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての収益合計	計算 済
NetReciprocalRevenue	NetRcpRev	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な収益金額に対する相互割当ての正味の影響  DataStorage (BS0)プロパティを「StoreData」に設定します。	計算 済
ReciprocalRevenue Assigned	RcpRevRec	相互割当てから受け取る収益を除く、相互宛先へ割り当てられる収益合計	計算 済
ReciprocalRevenue Received	RcpRevAsg	相互宛先から受け取る収益合計	計算 済
ReciprocalIntermediateRevenue	RcpIntRev	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算 済





# 12

## 標準Profitabilityでの AllocationType次元

AllocationType 次元は、Performance Management Architect からインポートされます。この次元を使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。

**注：** 必要に応じて、AllocationType 次元の名前は変更できます。

Profitability and Cost Management によって作成される Essbase アウトラインでは、AllocationType 次元には次のメンバーが含まれます：

- **AllAllocations** には、次の子メンバーが含まれます：
    - **DirectAllocation** には、モデル内で指定したソース交差と宛先交差間で直接配賦された計算済データが保管されます。直接配賦は、ユーザーによって割当てとして定義される必要があります。
    - **GenealogyAllocation** には、モデル内の様々な関連交差間の間接リンクで計算された配賦システムが保管されます。たとえば、ステージ 1-3-5 を選択した場合：
      - ステージ 1-3 には直接のおよび間接的な配賦が含まれます
      - ステージ 3-5 には間接的な配賦のみが含まれます
- システム配賦は、ユーザーによって直接は定義されませんが、複数の直接配賦のために存在します。たとえば、A-B-C 配賦システムデータが存在するのは、A から B(A-B)および B から C(B-C)への直接配賦が存在するためです。
- **SysAllocVar1** には、仮想リンクでのステージ内割当ての値が保管されます。この値は、同じステージの別のノードに配賦されており、DirectAllocation メンバーですでに使用可能な値の一部です。
  - **SysAllocVar2** は、DirectAllocation、Genealogy Allocation および SysAllocVar1 のソース・リンクの合計を取得するために使用されます。
  - **SysAllocVar3** には、システム内で使用される計算済システムデータが保管されます。たとえば、ステージ 1-3-5 を選択した場合：
    - ステージ 1-3 には直接のおよび間接的な配賦が含まれます
    - ステージ 3-5 には間接的な配賦のみが含まれます

---

**注意** このメンバーは内部使用のみです。このメンバーは、レポートには使用しないでください。

---

- **TotalAllocation** は、DirectAllocation、GenealogyAllocation および SysAllocVar3 のソース・リンクの合計を動的に計算します。
- **IndirectAllocation** は、GenealogyAllocation および SysAllocVar3 のソース・リンクの合計を動的に計算します。

これらの次元内のデータは変更できず、Performance Management Architect または Profitability and Cost Management では表示されません。

---

**注意** この次元のシステム・メンバーは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

---

ユーザーがウィザードを使用してアプリケーションを作成し、「ローカル次元の自動作成」を選択すると、AllocationType 次元は自動的に生成されます。「ブランク・アプリケーションの作成」を選択する場合、ユーザー独自の次元を作成し、AllocationType 次元タイプを選択する必要があります。

レポートを作成する場合、AllocationType 次元を使用して、取得する配賦データのタイプを指定できます。

---

## 第 III 部

# 詳細 Profitability モデルの操作

---

詳細 Profitability モデルの操作の内容：

- 詳細 Profitability and Cost Management のモデルとシナリオについて
- 詳細 Profitability and Cost Management の次元
- 詳細 Profitability モデルの管理
- 詳細 Profitability 配賦の管理
- 詳細 Profitability モデルの検証
- 詳細 Profitability モデルの計算
- 詳細 Profitability のジョブ・ステータスの監視



# 13

## 詳細Profitability and Cost Managementのモデルとシナリオについて

### この章の内容

詳細 Profitability モデル作成の手順 .....	198
詳細 Profitability and Cost Management ワークスペース .....	200

モデルとは、組織の一部または全部を表現したものです。Profitability and Cost Management モデルを使用することで、企業内の費用および収益に影響を与えるプロセスや活動を正確にトレースできます。

モデルは、次の要素で構成されています：

- ステージは、組織における収益または費用のソース配賦と宛先配賦を編成します。
- 次元は、値を取得および保存するためのビジネス・データの編成に使用されるデータ・カテゴリです。標準 Profitability and Cost Management 内では、次のタイプの次元が使用されます：
  - MeasuresDetailed 配賦次元などのシステム次元。
  - メジャー次元には、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバー(収益のメジャー、ドライバ定義など)が含まれています。
  - ビジネス次元 - モデルの各ステージ内のオブジェクト(製品、顧客、地域など)を記述します。次元とメンバーはモデルの基盤となります。
  - POV 次元は、年、シナリオ、期間またはバージョンなど、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。バージョン次元を使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンは、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブの作成に使用できます。
  - 別名次元は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。
  - 属性次元を使用すると、次元メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特性を示します。
- ドライバは、費用または収益のソース値の計算および配賦方法を定義します。選択されているドライバは、次元全体に適用することも、階層の一部、単一のメンバー、さらには単一の交差に適用することもできます。
- ソースまたは宛先メンバー選択を定義する割当てルール
- ソース・データを宛先にマッピングする割当て

- 複数のソースから複数の宛先への配賦を定義する複数ソース計算ルール。
- 個別の割当てを実行する単一ソース計算ルール。複数ソース・ルールの例外として動作します。
- 計算ルールは、ソース、宛先およびドライバをカプセル化する計算アーティファクトのスーパー・セットです。これを使用すると、ソース、宛先およびドライバを使用して幅広い割当てを作成でき、個々の割当てを予約して、この計算ルールの例外を作成します。
- ユーザー定義のリレーショナル・データベースからインポートされる財務データ。

MeasuresDetailed、ビジネス、メジャーおよび POV 次元は、Performance Management Architect で作成され、Profitability and Cost Management リレーショナル・データベースに配置されます。ステージ、ドライバ、ドライバ選択、割当ておよび計算ルールは、Profitability and Cost Management で作成されます。

一部の Performance Management Architect の次元タイプは、Profitability and Cost Management のモデルで使用できます:

- 勘定科目
- エンティティ
- バージョン
- 時間
- 国
- 通貨

これらの Performance Management Architect 次元タイプは、Essbase の次元タイプに対応しており、Profitability and Cost Management でビジネス次元または POV 次元として使用される次元を作成するために使用されます。

これらの次元タイプの使用については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administration Guide を参照してください。

## 詳細 Profitability モデル作成の手順

詳細 Profitability and Cost Management モデルの作成は、次の手順で行う必要があります:

1. 詳細 Profitability and Cost Management を作成する前に、データベース管理者に依頼して、リレーショナル・テーブル(物理テーブルとビュー)を保持するモデル・スキーマと、サポート詳細を保持する参照テーブルを作成します。
2. Performance Management Architect で詳細 Profitability アプリケーションを作成します。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。
3. 詳細 Profitability アプリケーションとして使用するモデル・データ・スキーマを選択します。215 ページの「[詳細モデル・データ・スキーマの選択](#)」を参照してください。

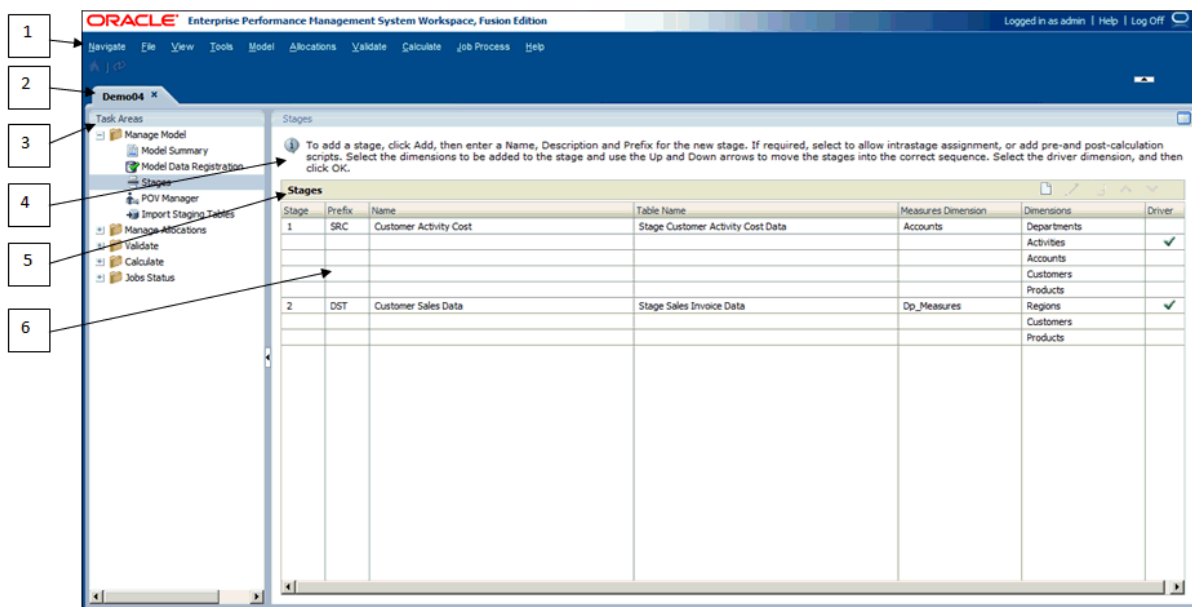
4. 「モデル・データの登録」を使用して、ソースと宛先のメジャー次元を選択し、テーブルを登録します。既存のデータベース・テーブルからアプリケーションに列をマッピングします。メイン・テーブルに追加のサポート詳細を提供する、関連付けられた参照テーブルに結合します。217 ページの「[詳細 Profitability モデル・データの登録](#)」を参照してください。
5. モデルに対するソースおよび宛先モデル・ステージを作成します。登録されたテーブルを選択し、ステージに適用する次元を割り当てます。233 ページの「[詳細 Profitability ステージの管理](#)」を参照してください。
6. モデル・データの登録のモデル検証を実行します。第 17 章「[詳細 Profitability モデルの検証](#)」を参照してください。
7. 各 POV 次元のメンバーを選択して(「年」、「期間」、「シナリオ」など)、モデルの視点(POV)を作成します。239 ページの「[詳細 Profitability の視点\(POV\)の操作](#)」を参照してください。
8. データを計算する方法を指定するためのドライバ定義を作成します。251 ページの「[詳細 Profitability ドライバの定義](#)」を参照してください。
9. モデルは、計算ルールを中心に展開するトップダウンのアプローチです。279 ページの「[計算ルールの操作](#)」を参照してください。
10. 複数ソース割当て計算ルールと、対応するソースと宛先の割当てルールを作成します。280 ページの「[計算ルールの追加](#)」を参照してください。
11. 「オプション:」 複数ソース計算ルールの例外として割当てルールの選択を作成するには:
  - 選択したドライバ次元のメンバーまたは交差にドライバを割り当てます。260 ページの「[詳細 Profitability ドライバの選択](#)」を参照してください。
  - 割当てルールおよび割当てを作成し、計算値を配賦する場所を指定します。  
次の項を参照してください:
    - 272 ページの「[割当てルールの作成](#)」
    - 274 ページの「[詳細 Profitability での割当ての操作](#)」
    - 271 ページの「[詳細 Profitability 割当てルールの操作](#)」
12. 複数ソース計算ルールを使用して、複数の割当てとドライバの選択を作成することをお勧めします。280 ページの「[計算ルールの追加](#)」を参照してください。  
オプションで、バルク・エディタも使用できます。264 ページの「[バルク・エディタの操作](#)」を参照してください。
13. **オプション:** 単一ソース割当て計算ルールを作成して、実行の例外として作成された一連の割当てルールの選択を取得し、それらをいつ実行するかを制御します。279 ページの「[計算ルールの操作](#)」を参照してください。
14. モデル構造を検証し、割当てが完全に行われているかどうか、あるいは未使用のドライバがないかどうか、などの検証ルールに適合していることを確認します。第 17 章「[詳細 Profitability モデルの検証](#)」を参照してください。
- 15.

16. 計算を実行してモデルで結果を生成します。第 18 章「詳細 Profitability モデルの計算」を参照してください。
17. 発行およびスケジュール済ジョブのステータスを監視します。第 19 章「詳細 Profitability のジョブ・ステータスの監視」を参照してください。
18. ステージ貸借一致レポートを実行します。必要に応じて、モデルやデータの編集と修正を行い、計算を再実行します。288 ページの「詳細 Profitability ステージの貸借一致レポート」を参照してください。
19. レポート・ビューを使用して、カスタム・レポートを作成します。291 ページの「詳細 Profitability レポート・ビューの配置」を参照してください。

## 詳細 Profitability and Cost Management ワークスペース

EPM Workspace からアクセス可能な Profitability and Cost Management ワークスペースには、2つのメイン領域があります:

- 「タスク領域」ペインでは、モデルの構築、検証および計算、または結果のレポートに必要なプロセスに移動できます。
- コンテンツ・ペインでは、タスク情報を表示したり、データを入力または変更できます。また、モデルおよびそのデータの作成やメンテナンスに関連したタスクも実行できます。



Profitability and Cost Management ワークスペースには、次のアイテムがあります:

1. ウィンドウの上部にある Performance Management Architect のメイン・メニューには、共通の EPM Workspace メニュー・オプション(「ナビゲート」、「ファイル」、「表示」、「ツール」)に加えて、Profitability and Cost Management メイン・メニュー・オプション(「モデル」、「配賦」、「検証」、「計算」、「ジョブのステータス」、「ヘルプ」)が表示されます。



2. 「アプリケーション名」タブに、現在アクティブなアプリケーションの名前が表示されます。
3. 「タスク領域」は、モデル構造の構築、変更、検証、およびモデルの計算に必要なタスクの選択に使用します。レポートを生成することもできます。

**注：** タスク領域を変更する際、現在の次元に存在するメンバー選択の状態は保持されます。この機能により、POV、およびメンバーを再選択せずに画面間を移動できます。メンバー選択の状態は、ユーザーが変更するまで変わりません。

4. 情報バーには、現在選択されているタスクに関する簡単な説明が表示されます。
5. タイトル・バーに、現在コンテンツ・ペインに表示されているウィンドウの名前が表示されます。
6. 「コンテンツ」ペインには、「ステージ」または「ドライバ定義」など、現在選択されているタスクの画面が表示されます。



## この章の内容

詳細 Profitability の次元について.....	203
詳細 Profitability の次元タイプ.....	205
MeasuresDetailed 次元.....	205
詳細 Profitability の EPMA POV 次元 .....	207
詳細 Profitability の非 EPMA 次元.....	207
詳細 Profitability の別名次元.....	207
ビジネス次元.....	209
属性次元.....	211

## 詳細 Profitability の次元について

詳細 Profitability では、詳細 Profitability アプリケーションの開始点として既存のリレーショナル・データベースを使用できます。Performance Management Architect で詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションを作成したら、使用する Performance Management Architect アプリケーションを詳細 Profitability に配置します。

**注意** Performance Management Architect と詳細 Profitability and Cost Management の環境は、Performance Management Architect や詳細 Profitability and Cost Management、クライアントのデータ・モデルについても十分な実務経験がある、熟練のデータベース管理者またはシステム管理者が作成および管理することをお勧めします。

EPMA 次元は、Performance Management Architect で作成および管理しますが、詳細 Profitability モデル内で使用するには事前に作成しておく必要があります。

Performance Management Architect により、Profitability and Cost Management 管理者は、別の製品から既存の次元およびメンバーを選択することや、モデル専用に次元およびメンバーを新しく作成することもできます。汎用のデータを、Planning など複数の製品およびアプリケーションで共有および更新できます。配置後に、詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションで次元とそのメンバーを使用できるようになります。

Performance Management Architect で作成された次元とメンバーは、ビジネス・モデルの構造要素を表します。

Performance Management Architect の次元は共有またはローカルとして存在します:

- 共有次元は、Performance Management Architect の「共有ライブラリ」に存在し、複数のアプリケーションで使用できます。
- ローカル次元は、詳細 Profitability and Cost Management などの 1 つのアプリケーション内のみ存在する、分離された独立次元です。これらの次元は、これらが作成されているアプリケーションに対してのみ使用されます。

作成できる次元およびメンバーの数に制限はありませんが、次元構造が大きくなると、パフォーマンス上の問題が発生します。

---

**注意** モデリング・プロセスの開始後は次元を追加または削除しないことをお薦めしますが、新しい次元またはメンバーが追加または削除された場合には、アプリケーションを再配置する必要があります。詳細 Profitability アプリケーションで次元またはメンバーを削除する際には、その操作によってモデル・データ登録が変更され、モデルが無効になる場合があるため、特に注意が必要です。

---

詳細 Profitability アプリケーションの作成時に、次の次元を選択します。

- MeasuresDetailed (必須)
- 少なくとも 1 つの EPMA POV 次元(必須)
- 少なくとも 1 つのビジネス次元(必須)
- 別名(オプション)
- 属性次元(オプション)

詳細 Profitability で、ステージ・テーブルごとにユーザー定義のメジャー次元を登録する必要があります。これらのユーザー定義メジャー次元は Performance Management Architect ビジネス次元です。アプリケーションごとに 2 つのメジャー次元のみが登録されます。

- 1 つは、登録されるソース・ステージ・テーブルとそれに結合された参照テーブルのソース・メジャーです。
- もう 1 つは、登録された宛先ステージ・テーブルとそれに結合された参照テーブルの宛先メジャーです。

両方のステージに同じメジャーを使用することも、2 つの異なるメジャーを選択することもできます。217 ページの「[詳細 Profitability モデル・データの登録](#)」を参照してください。

---

**注意** 次元メンバーがモデル・データ登録に登録されていない場合は、モデル検証に失敗します。

---

Performance Management Architect による次元の作成、管理、操作の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。

次元とメンバーの次元の命名規則については、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。

次の項を参照してください:

- [205 ページの「詳細 Profitability の次元タイプ」](#)
- [205 ページの「MeasuresDetailed 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の EPMA POV 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の非 EPMA 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の別名次元」](#)
- [209 ページの「ビジネス次元」](#)
- [211 ページの「属性次元」](#)

## 詳細 Profitability の次元タイプ

「次元タイプ」は、次元のプロパティで、定義済の機能をアプリケーションで使用可能にします。次元タイプの特定の特性により、次元の動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architect および他の EPM Workspace 製品で特定の次元タイプを共有できるため、Oracle Hyperion Planning など様々な製品の次元の機能を活用できます。

**注：** 次元アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。Oracle Essbase Database Administrator's Guide の Essbase 命名規則に関する項を参照して最新の規則を確認することをお勧めします。

詳細 Profitability and Cost Management の次元の詳細は、次の各項を参照してください:

- [205 ページの「MeasuresDetailed 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の EPMA POV 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の非 EPMA 次元」](#)
- [207 ページの「詳細 Profitability の別名次元」](#)
- [209 ページの「ビジネス次元」](#)
- [211 ページの「属性次元」](#)

次元とメンバーの作成および管理の手順は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect 管理者ガイド』を参照してください。

## MeasuresDetailed 次元

MeasuresDetailed 次元は予約済の次元で、ステージの貸借一致やその他の検証アクティビティ(コントリビューション、調整など)をサポートするために必要な配賦

メンバーが含まれます。MeasuresDetailed 次元には、ドライバ・メジャーが含まれません。

MeasuresDetailed 次元は、Performance Management Architect で詳細 Profitability アプリケーションが作成される際に選択されます。単一選択ですが、次のメジャーが含まれます。

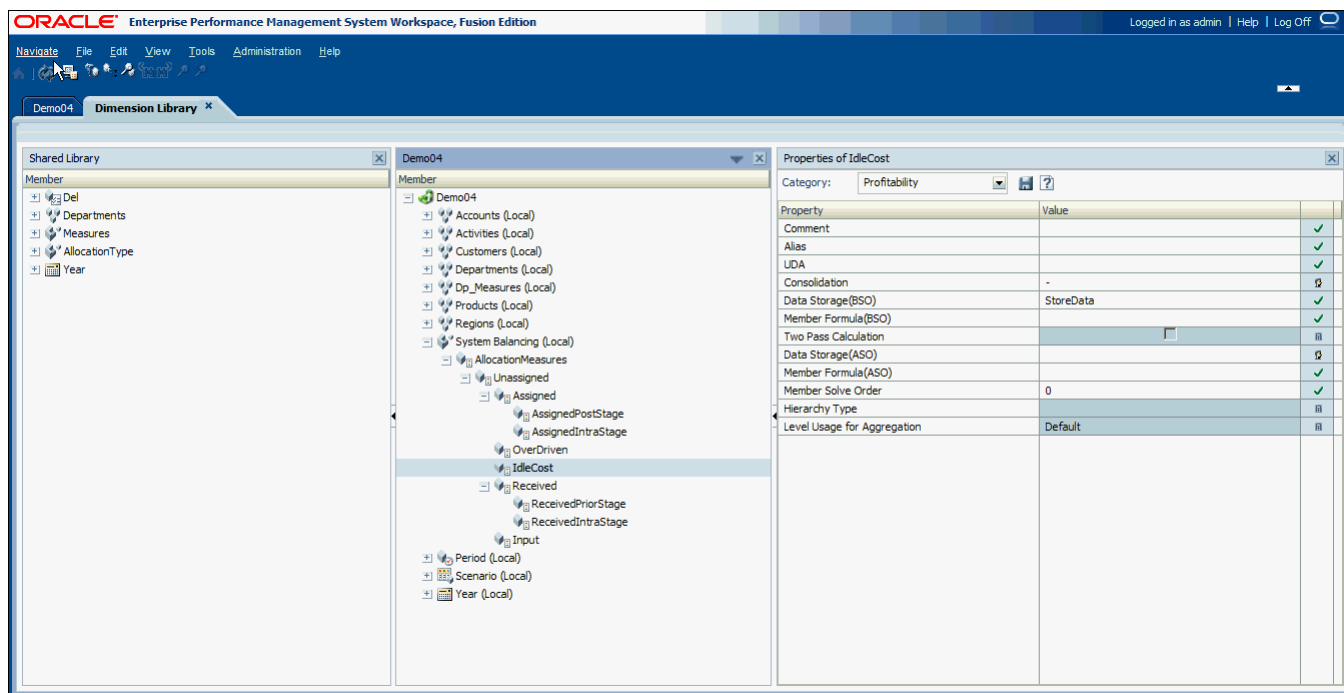
次元メンバー	式または計算結果
未割当て	入力 + 受信 - 割当て済 - アイドル + オーバードライブの結果
割当て:	
● AssignedPostStage	宛先ステージに割り当てられているすべての金額の合計
● AssignedIntraStage	詳細 Profitability では使用しない
OverDriven	計算したすべての OverDriven 値の合計
IdleCost	宛先に割り当てられていない入力が IdleCost の値です。IdleCost の計算結果は、ドライバ・タイプに応じて割り当てられます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 比率ベースのドライバで「アイドルを許可」が選択されている場合、IdleCost は <math>\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math> の式を使用して生成されます。</li> <li>● レートベースのドライバでは、配賦値の合計がソース・オブジェクトの入力値より小さい場合に IdleCost が生成されます。</li> </ul>
受信	
● ReceivedPriorStage	ソース・ステージから受信された計算値
● ReceivedIntraStage	詳細 Profitability では使用しない
入力	入力にロードされた外部データ。この金額は変更しないでください。

Performance Management Architect の次元ライブラリにある MeasuresDetailed 次元は、システム貸借一致の AllocationMeasures で表示できます。

**注意** この次元のメンバーは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

▶ MeasuresDetailed 次元のメンバーを表示には:

- 1 EPM Workspace から、「ナビゲート」、「管理」、「次元ライブラリ」の順に選択します。
- 2 アプリケーション列で、「システム貸借一致」、「AllocationMeasures」、「未割当て」の順に展開し、MeasuresDetailed 次元を表示します。



- 「未割当て」の下にある各次元を選択し、「プロパティ」列で関連付けられたプロパティを表示します。

## 詳細 Profitability の EPMA POV 次元

EPMA POV 次元は Performance Management Architect で管理され、年、シナリオ、期間、バージョンなど、モデルの特定の視点またはバージョンを定義する際に使用されます。EPMA POV 次元は、Performance Management Architect で詳細 Profitability アプリケーションを作成する際に選択されます。

バージョン次元を使用すると、モデルの複数のバージョンを保持できます。これらのバージョンを使用して、モデルの代替シナリオや仮定シナリオ、または異なるパースペクティブを作成できます。

## 詳細 Profitability の非 EPMA 次元

非 EPMA 次元は、ID、日付、監査情報のように、配賦に必要なだが常に変化しているオブジェクトです。これらの次元は、Performance Management Architect では管理されませんが、選択したモデル・データ・スキーマには存在します。これらの次元はモデル・データの登録時にも「非 EPMA 次元」としてマッピングされ、システムによって識別されます。

これらの列には、宛先割当てルール内のデータ・フィルタ内でアクセスできます。

## 詳細 Profitability の別名次元

別名次元は、次元の定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を

簡単に識別できるようになります。1つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義の次元メンバーに割り当てることができます。別名次元は、Performance Management Architect で詳細 Profitability アプリケーションを作成する際に選択されます。

**注：** 別名は重複できません。

詳細 Profitability and Cost Management の場合、別名は Performance Management Architect で設定する必要があります。別名次元の作成の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect 管理者ガイド』を参照してください。

---

**注意** アプリケーションが Profitability and Cost Management に再配置されるまでは、別名の関連付けを Performance Management Architect で削除しても、モデルからは削除されません。

---

インストール後、Default 別名テーブルが使用可能になります。再配置後は、「ドライバの選択」や「割当て」など、共通メンバー・セレクトアを使用するすべての画面で別名を表示できます。「別名の表示」オプションが選択されていると、検索およびフィルタ処理の使用が可能になります。

**注：** 別名ビューは「ドライバの選択」セレクトアには含まれません(このセレクトアには、ドライバの選択を追加または変更するときに、「ドライバ定義」画面または「ドライバの選択」画面からアクセスできます)。

▶ 別名を表示するには:

- 1 アプリケーションから、共通メンバー・セレクトアを使用する任意の画面(「ドライバの選択」や「割当て」など)を選択します。
- 2 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスで「メンバー・セレクトア」をクリックし、「別名の表示」を選択します。

**注：** 「メンバー・セレクトア」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー Product は、メンバー・リストで [product] と表示されます。



Assignments			
Year:	2010	Period:	January
Scenario:	Actual	Status:	
ⓘ Under Source, select a Stage and dimension intersection. Under Destination, select a Stage and dimension intersection.			
Source	Stage: General Ledger		
Accounts	Departments	FinancialElement	Driver
[AllAccounts]	[AllDepartments]	[AllFinancialElement]	
[General and Admin]	Corporate	Input	Rate
[Selling]	Sales	NetCostForAssign	
[Commission]	Marketing	Rate	
[Storage]	Warehouse		
[Warehouse]	Shipping		
[Delivery]	NoDepartments		
[NoAccounts]			

## ビジネス次元

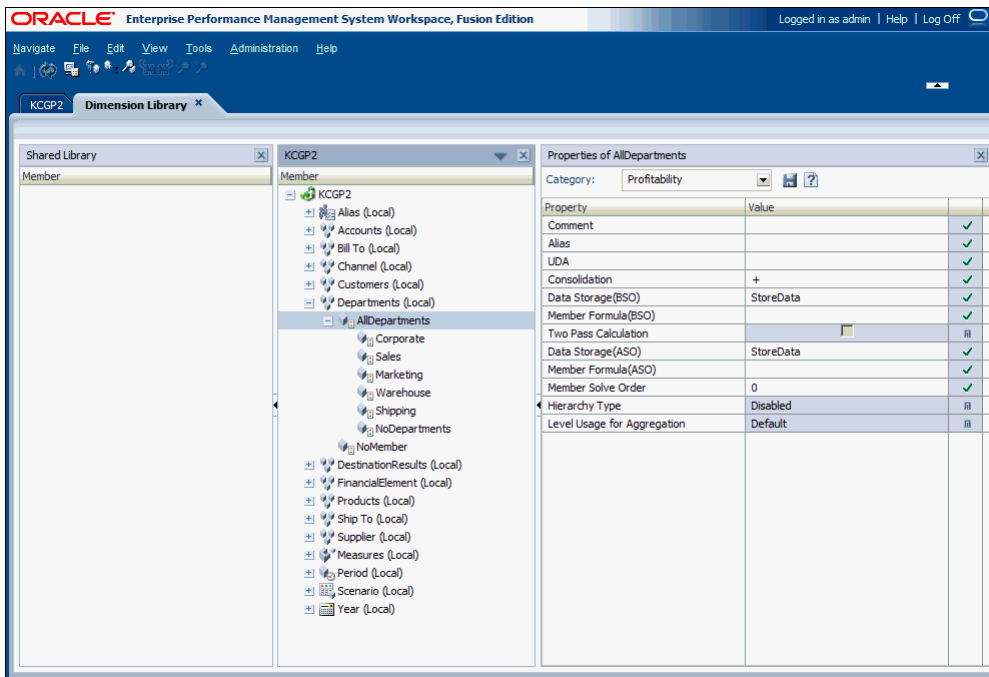
モデルのビジネス次元には、製品タイプ、販売地域、製造プロセス、一般会計の勘定科目、給与計算、部署、アクティビティ、場所、顧客、製品など、ビジネスまたは組織の要件に特に関連する情報が保管されるメンバーが含まれています。これらは、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります。

ユーザーが詳細 Profitability アプリケーションを作成するときに、少なくとも1つのビジネス次元タイプを定義する必要があります。

アプリケーションのソースおよび宛先ステージを定義するとき、1つ以上のビジネス次元がメジャー次元として使用されます。これらの次元はモデル・データ登録時に、ソースまたは宛先のメジャー次元として識別されます。

## ビジネス次元メタデータの要件

アプリケーションでビジネス次元を作成する際には、様々な制限に従う必要があります。ビジネス次元階層が正しく設定されていない場合は、アプリケーションの作成に問題が発生する場合があります。



ビジネス次元を作成する場合、次の要件が適用されます:

- 通常、Gen1 次元名の下にある最初の世代 2 の子は、ALL メンバーに設定されます。たとえば、Departments 次元の場合は AllDepartments になります。

プライマリ階層は、最初の世代 2 の子の下でホストされます。割当モデリングでは最初の世代 2 階層のみが使用され、この階層に共有メンバーを含めることはできません。

**注意** 最初の世代 2 メンバーのみが Profitability and Cost Management に表示されます。

- 次元の Gen1 メンバーの次のプロパティは LABEL\_ONLY に設定する必要があります:
  - DataStorage(BSO)
  - DataStorage(ASO)
- 追加の世代 2 メンバーは代替階層をホストできますが、これらの階層は割当モデリングでは使用されません。次元が代替階層をホストする場合は、DimensionHierarchyType を「使用可能」に設定し、最初の世代 2 メンバーの階層タイプを「保管済」、共有メンバーを含む代替階層の世代 2 メンバーを「動的」に設定します。

これらの代替階層は、Profitability and Cost Management モデリング画面には表示されません。

- 階層内の最後の世代 2 の子は常に NoMember であるとともに、集計が IGNORE (~) に設定されている必要があります。NoMember メンバーが必要です。

**注:** NoMember メンバーは、Performance Management Architect によって自動的に追加されるため、ADS ファイルまたはフラット・ファイルに作成する必要はありません。このメンバーは削除しないでください。

## 属性次元

属性次元はビジネス次元に関連付けられ、次元メンバーの属性または品質に基づく分析を可能にします。属性は、製品のサイズ、色など、データの特徴を示します。

属性機能を使用して、次元の観点からのみでなく、それらの次元の特徴、つまり属性の観点からもデータを取得して分析できます。たとえば、製品の収益性をサイズやパッケージに基づいて分析でき、さらに各市場地域の人口サイズなどの分析市場属性に組み込むことで、より効果的な結論を下すことができます。



## この章の内容

モデルの管理について.....	213
詳細 Profitability モデルの要約の操作.....	214
詳細 Profitability モデル・データの登録.....	217
詳細 Profitability ステージの管理.....	233
詳細 Profitability の視点(POV)の操作.....	239
詳細 Profitability のステージング・テーブルのインポート.....	247

## モデルの管理について

モデルの管理オプションは、モデルの上位レベル構造を構築したり、モデルのプリファレンスおよび接続を制御するために使用します。

- 「モデルの要約」から、システム情報を表示したり、モデル・レベルのプリファレンスを設定できます。
- 「モデル・データの登録」で、既存のテーブルをアプリケーションにマッピングします。
- 「ステージ」から、モデルのソース・ステージと宛先ステージに適用されるビジネス次元を割り当てます。
- 視点(POV)は、モデルの様々なバージョンを作成するために使用します;たとえば、予算の数値と実績の数値の比較を格納したり、様々な変更による最終損益への影響を測定するシナリオを実行します。
- インポート・ステージング・テーブルを使用すると、ドライバ定義、ドライバ選択、割当てなどのモデル情報を詳細 Profitability and Cost Management にロードするインポート構成を実行できます。

モデルの管理については、次の項を参照してください:

- 214 ページの「[詳細 Profitability モデルの要約の操作](#)」
- 217 ページの「[詳細 Profitability モデル・データの登録](#)」
- 233 ページの「[詳細 Profitability ステージの管理](#)」
- 239 ページの「[詳細 Profitability の視点\(POV\)の操作](#)」
- 247 ページの「[詳細 Profitability のステージング・テーブルのインポート](#)」

# 詳細 Profitability モデルの要約の操作

詳細 Profitability 「モデルの要約」では、選択されたアプリケーションのシステム詳細情報が表示され、モデル・レベルのプリファレンスを変更できます。

参照:

- 214 ページの「詳細モデル・システム情報タブ」
- 215 ページの「詳細モデル・データ・スキーマの選択」

## 詳細モデル・システム情報タブ

詳細システム情報タブには、リレーショナル・データベース、Essbase 接続、承認されたユーザーおよび関連付けられたシステム・コンポーネントなどの、選択されたモデルの詳細が表示されます。

大部分のシステム情報は読取り専用です。

▶ 「システム情報」タブにアクセスするには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示する詳細アプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。

「システム情報」タブが表示されます。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace interface. The main window displays the 'System Information' tab for a model named 'BksDP30'. The interface is divided into several sections:

- Profitability RDB Information:** Servers: stm10207.us.oracle.com, Database: sc14076\_193, Schema Version: 1.20
- Essbase Information:** Clusters: EssbaseCluster-1, Source Application: BksDP30S, Source Database: BksDP30S, Contribution Application: BksDP30C, Contribution Database: BksDP30C, Destination Application: BksDP30D, Destination Database: BksDP30D
- User Information:** User ID: admin, Role: Application Creator, Planning Application Creator, Financial Management Manager, Manage Taskflows, Project Manager, Dimension Editor, Profitability Application Creator, Run Integrations, Provisioning Manager, Create Integrations, Financial Management Administrator, Calculation Manager Administrator, Essbase Application Creator, EPMA Administrator, Financial Management Application Creator, Administrator, Financial Management Calculation Manager Administrator, Run Taskflows Administrator, Financial Management Calculation Manager Administrator, LCM Designer, LCM
- System Components Information:** A table listing system components, clusters, ports, and versions.

System	Cluster	HTTP Port	HTTPS Port	Version/Build
Enterprise Performance Management Architect	sc14076.hyperion.com	19000	19443	11.1.2.3.000.1881
Profitability and Cost Management	sc14076.hyperion.com	19000	19443	11.1.2.3.000.193
Analytical Provider Services	sc14076.hyperion.com	19000	19443	11.1.2.0
Shared Services	sc14076.hyperion.com	19000	19443	11.1.2.0

表 13 「システム情報」タブ

タブ領域	説明
Profitability RDB の情報	リレーショナル・データベース(RDB)サーバー、およびモデル・データが置かれたデータベースの名前。選択したアプリケーションで使用されているスキーマのバージョンも表示されます。
Essbase 情報	<p>オプションの 3 つのレポート・キューブ(ソース・ステージ、コントリビューションおよび宛先ステージ)に対応する Essbase のアプリケーション名およびデータベース名。<a href="#">291 ページの「詳細 Profitability データベースの管理」</a>を参照してください。</p> <p>オプションのレポート・キューブに対応する Essbase のアプリケーションとデータベースの名前を入力または変更します。</p>
ユーザー情報	<p>「ユーザー情報」の「データベース」フィールドには、Profitability and Cost Management データベースへのアクセス権があるユーザーのユーザー ID と、そのユーザーに関連するすべてのセキュリティ役割が表示されます。</p> <p><b>注：</b> このユーザーに、データベースとアプリケーションへのアクセス権が付与されていることを確認してください。詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide を参照してください。</p>
システム・コンポーネントの情報	<p>インストールに含まれる各コンポーネントの次のような詳細:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>システム</b> - EPM コンポーネントの名前が表示されます。</li> <li>● <b>クラスタ</b> - コンポーネントをホストしているサーバーまたはクラスタの名前が表示されます。</li> <li>● <b>HTTP ポート</b> - コンポーネントで使用しているポートが表示されます。</li> <li>● <b>HTTPS ポート</b> - コンポーネントで使用しているセキュアなポートが表示されます(使用可能な場合)。</li> <li>● <b>バージョン/ビルド</b> - リストされたコンポーネントのバージョンとビルド番号が表示されます。</li> </ul>

列ヘッダーをクリックして、リストをソートできます。「システム」および「ホスト」はアルファベット順にソートされ、ポートおよびバージョン/ビルドは数値順にソートされます。

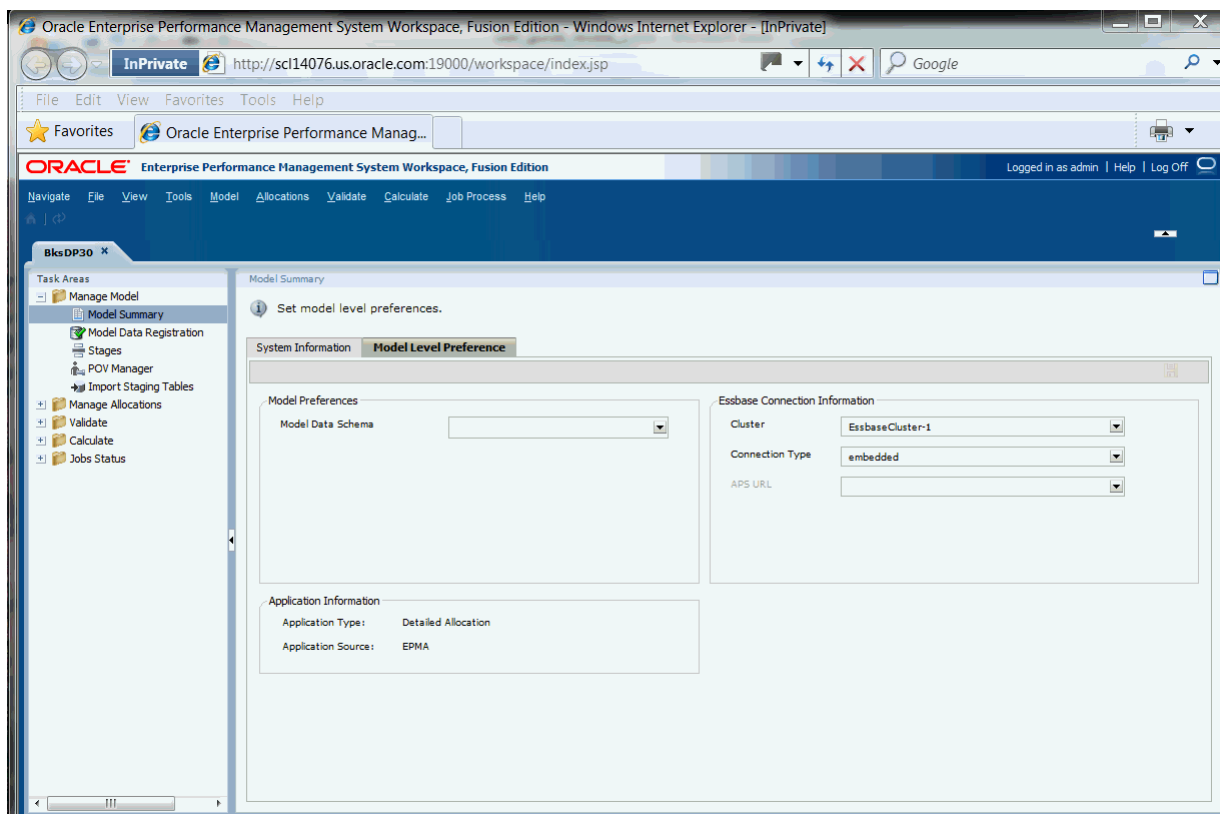
## 詳細モデル・データ・スキーマの選択

アプリケーションに関連付けるモデル・データ・スキーマを選択するには、「モデル・レベルのプリファレンス」タブを使用します。表示プリファレンスを使用するようにアプリケーションをカスタマイズできます。「モデル・レベルのプリファレンス」タブの設定はモデル全体に適用されます。

このタブには、Profitability and Cost Management アプリケーションのタイプも「詳細」として表示されます。

▶ モデル・レベルのプリファレンスを設定するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「モデルの管理」、「モデルの要約」、続いて「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。



- 3 「モデル・レベルのプリファレンス」タブの「モデル・プリファレンス」で、この詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションに使用する「モデル・データ・スキーマ」を選択します。
- 4 「Essbase 接続情報」で、モデルの Essbase 接続情報を入力します。必須の入力情報については、表 14 で説明します。

表 14 Essbase 接続情報


設定	アクション
クラスタ	Essbase データベースへの接続を提供する Essbase サーバーの論理名を選択します。この名前が指し示す Essbase サーバーは、クラスタ化されている場合とクラスタ化されていない場合があります。
接続タイプ	接続のタイプを選択します： <ul style="list-style-type: none"> <li>● 埋込み</li> <li>● APS</li> </ul> <p>Oracle Hyperion Provider Services Administration Guide を参照してください。</p>
APS URL	「接続タイプ」として「APS」が選択されている場合にのみアクティブになります。 <p>Oracle Hyperion Provider Services が実行されているサーバーの論理 Web アプリケーション(LWA)を表す APS の URL を選択します。</p> <p>構成中に、使用可能な APS サーバーが Shared Services レジストリに登録されます。</p> <p>デフォルトでは、APS URL は <code>http://localhost:13080/aps/JAPI.</code> に設定されています。</p>

- 5 「アプリケーション情報」の下に、「アプリケーション・タイプ」および「アプリケーション・ソース」が表示されます。



「アプリケーション・タイプ」は「配賦割当て」、「アプリケーション・ソース」は「EPMA」または「ネイティブ」です。

アプリケーションを Performance Management Architect または代替アプリケーション管理で作成すると、アプリケーション・タイプとアプリケーション・ソースが選択され、変更することはできません。

6 「保存」をクリックします。

## 詳細 Profitability モデル・データの登録

詳細 Profitability and Cost Management では、データを入力して完全新規のアプリケーションを作成するかわりに、既存のデータベース・テーブルをアプリケーションのデータ・ソースとして使用することができます。既存のテーブルを効果的に使用するには、モデル・データ登録プロセスを通じて、詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションにマッピングする必要があります。データベース・テーブルまたはビューを登録してアプリケーション内で使用することも、既存の登録を編集または削除することもできます。

---

**注意** 「モデル・データの登録」は、データベースの概念をよく理解していて経験もあり、Performance Management Architect と顧客のモデル・データについても実務知識を有しているデータベース管理者、またはシステム管理者が実行することをお勧めします。

---

詳細 Profitability モデルに含まれるのは、2つのステージのみです。テーブルの登録に必要な最初の手順は、ソース・ステージと宛先ステージのメジャー次元を選択することです。アプリケーションのソース・メジャー次元または宛先メジャー次元として使用できるのは、通常または汎用のビジネス次元のみです。ビジネス・データの構造に応じて、ソース・ステージと宛先ステージの両方に同じ次元を使用することも、ステージごとに別のメジャー次元を使用することもできます。

- 登録されるすべてのソース・ステージ・テーブルと、その結合された参照テーブルは、ソース・メジャー次元を使用します。
- 登録されるすべての宛先ステージ・テーブルと、その結合された参照テーブルは、宛先メジャー次元を使用します。

モデル・データ・スキーマで作成されているビューも登録できます：

- 任意のビューのソース・ステージ・テーブルと参照テーブルを登録できます
- 宛先ステージ・テーブルは、結合のない単純な更新可能ビューのみを登録できます。

---

**注意** ビューによって参照されるテーブルは、どのスキーマにあってもかまいませんが、Profitability and Cost Management の製品スキーマに登録する各テーブルから、必要なデータベース・アクセス権を発行する必要があります。詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。

---

モデル・データ登録を使用して、ソース・ステージと宛先ステージに割り当てられるテーブルを識別し、そのテーブルの列を Performance Management Architect のアプリケーションに定義したメジャーおよび次元にマッピングします。各列を登録するとき、次のいずれかのタイプに割り当てます。

- EPMA POV 次元 - Performance Management Architect によって管理されます。
- EPMA 次元 - Performance Management Architect によって管理されます。これらは、前の項で説明したビジネス次元です。
- 非 EPMA 次元 - Performance Management Architect では管理されないが、選択したモデル・データ・スキーマには存在する次元。
- メジャー - 選択したソースおよび宛先のメジャー次元のメンバー。
- 監査列:
  - 監査: 最終変更者
  - 監査: 最終変更日

Performance Management Architect の次元と POV 次元は、直接マップできます。非 EPMA 次元は、ID、日付、監査情報、きわめて大きな次元など、配賦に必要なだが Performance Management Architect によって管理されない次元です。これらもシステムによって識別されるように、マップする必要があります。これらの列には、宛先割当てルールのデータ・フィルタ内でアクセスできます。

ソースまたは宛先ステージのテーブルに参照テーブルを結合すると、論理的な「ステージ・ビジネス・オブジェクト」を生成できます。これは、メインのステージ・テーブルでは直接使用できないメジャーおよび次元の列または値を含むように拡張できるオブジェクトです。Profitability and Cost Management の管理者は、モデル・データ登録で結合定義を設定する必要があります。

次の項を参照してください:

- [218 ページの「モデル・データの登録」](#)
- [226 ページの「列のマッピング」](#)
- [229 ページの「参照テーブルの結合」](#)
- [232 ページの「モデル・データの登録の要約の確認」](#)

## モデル・データの登録

テーブルの登録に必要な最初の手順は、ソース・ステージと宛先ステージのメジャー次元を選択することです。各ステージに対して同じメジャーを選択することも、ステージごとに異なるメジャーを選択することもできます。

---

**注意** ソースと宛先の両方に対して選択したメジャーは、モデル・データの登録またはドライバが存在するかぎり変更できません。ソース・ステージ・メジャーまたは宛先ステージ・メジャーに新しい値を選択するには、選択したアプリケーションのすべての登録およびドライバを削除する必要があります。

---

メジャーに様々なタイプのデータ(たとえば、人数の数値対通貨値)が含まれていると、異なる値タイプが正しく区別されないためにステージの貸借一致レポートに不正確な結果が示される可能性があります。

正しい結果を取得して、「ステージの貸借一致」ビューの結果の正確さを保証するには、次のように統計メジャーを配置します:

- 垂直および水平のソース・テーブルでは、結合された参照テーブルにすべての統計メジャーを配置します。
- ソース・テーブル(垂直または水平)に統計メジャーを直接配置するには、ソース・メジャー・タイプという新しい次元を作成し、この入力メンバーをすべての非統計メジャー・メンバーに割り当てます。

作成と管理については、次の項を参照してください:

- [219 ページの「新しいモデル・データの登録の作成」](#)
- [224 ページの「既存のモデル・データの登録の変更」](#)
- [225 ページの「既存のモデル・データの登録のコピー」](#)
- [225 ページの「既存のモデル・データの登録の削除」](#)

## 新しいモデル・データの登録の作成

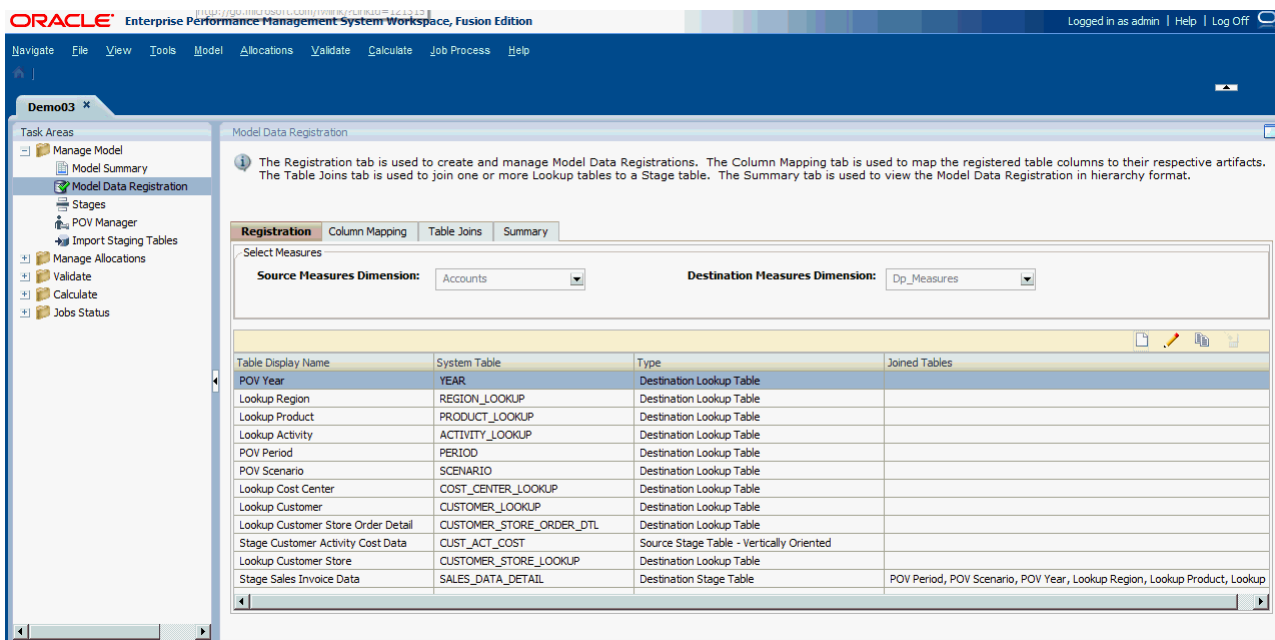
詳細 Profitability アプリケーションのデータ・ソースとして使用する外部テーブルを指定し、新しいテーブル名を適用して、使用するテーブル・タイプを選択する必要があります。

外部テーブルは、水平方向でも垂直方向でもかまいません。ソース・ステージ・テーブルに対して、登録するテーブルに使用するタイプまたは方向を指定できます。宛先テーブルおよび参照テーブルは変更できず、水平方向のみで示されます。

▶ 新しいモデル・データの登録テーブルを作成するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。

「モデル・データの登録」画面が表示されます。



### 3 「登録」タブの「メジャーの選択」で、「ソース・メジャー次元」と「宛先メジャー次元」のドロップダウン・リストからそれぞれメジャー次元を選択します。

各ステージに対して同じメジャー次元を選択することも、ステージごとに異なるメジャー次元を選択することもできます。

- 登録されるすべてのソース・ステージ・テーブルと、その結合された参照テーブルは、ソース・メジャー次元を使用します。
- 登録されるすべての宛先ステージ・テーブルと、その結合された参照テーブルは、宛先メジャー次元を使用します。

ソースまたは宛先のメジャー次元として使用できるのは、ビジネス次元のみです。別名、属性、非 EPMA 次元は使用できません。

**注意** ソースと宛先の両方のステージに対して選択したメジャーは、モデル・データの登録またはドライバが存在するかぎり変更できません。

### 4 「登録」タブで、「新しいテーブルの追加」をクリックします。

手順 1: テーブルの選択ウィザードが表示されます。

**Step 1: Select Table**

**i** Select available external tables, then change the display name, add a description, and select the table usage. Table Usages can be: Source Stage (Horizontal), Source Stage (Vertical), Destination Stage (Horizontal), or Lookup Table (Horizontal).

External Table

Table Name

Description

Table Type

< Back   Next >   Cancel

- 5 「外部テーブル」から、データ・ソースとして使用する既存のテーブルまたはビューの名前を選択します。このリストには、ユーザーが読取りまたは書込みのアクセス権を持っているすべての外部テーブルが表示されます。

**注：** 大文字、数字、"\_"または"\$"のみを名前に使用するテーブルと列を登録します。無効な名前のテーブルまたは列は、選択対象として表示されません。

- 6 「テーブル名」で、登録済のテーブルにわかりやすい名前を入力します。

- 7 **オプション:** テーブルの用途や内容について簡単な説明を入力します。

- 8 「テーブル・タイプ」から、登録するテーブルのタイプと方向を選択します:

- ソース・ステージ・テーブル - 水平方向: メジャーはテーブルで別の列に格納されます。個別のメジャーに1つの列が対応します。
- ソース・ステージ・テーブル - 垂直方向: メジャーの値はテーブルで別の行に格納されます。メジャー値が1つの列、メジャー ID がメジャー次元列に含まれます。
- 宛先ステージ・テーブル
- ソース参照テーブル
- 宛先参照テーブル

**注：** 使用可能な参照テーブルのタイプは、「登録」タブで選択したメジャーによって異なります。個別に2つのメジャー次元を登録する場合、「テーブル・タイプ」の選択肢は2つのみです(「ソース参照テーブル」および「宛先参照テーブル」)。

同じメジャー次元が選択されていると、使用できる「テーブル・タイプ」は1つのみです(「参照テーブル」)。

- 9 「次」をクリックします。

「手順 2: 列の選択」画面が表示されます。

### Step 2: Select Columns

- i** Select the columns you wish to use by moving them from the Available Columns to the Selected Columns. Only columns that adhere to our naming conventions, ones that contain no spaces and have letters that are either all upper case or all lower case (no mixed case) will appear in the Available Columns shuttle.

Table Details

Table Name: Accounts	Table Type: Source Lookup Table
External Table: ACCOUNT_LOOKUP	Measures Dimension: Accounts


  

Available Columns	Selected Columns
ACCOUNT_ID	
ACCOUNT_NAME	
ACCOUNT_TYPE	
SOURCE_SYSTEM	

> < <<

< Back Next > Cancel

10 「使用可能な列」で、最終テーブルで使用する列を登録中のテーブルから選択し、

「追加」の矢印  をクリックして選択内容を「選択した列」に移動します。

リストから一度に複数の列を選択できます:

- 列の範囲を選択する場合は、[Shift]キーを押しながら、範囲の先頭の列と末尾の列を選択します。
- 複数の任意の列を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の列を1つずつ選択します。

**注：** 大文字、数字、"\_"または"\$"のみを名前に使用するテーブルと列を登録します。無効な名前のテーブルまたは列は、選択対象として表示されません。

11 「次」をクリックします。

「手順 3: 列のマッピング」画面が表示され、選択したテーブルの詳細がリストされます。

### Step 3: Map Columns

- i** Map your selected columns to one of the available column types. Available Column Types are: Managed by EPMA (EPMA Dimension, EPMA Measure, or EPMA POV Dimension) or Audit (Last Updated Time, Last Updated By, Created By, or Created Date).

Table Details

Table Name: Accounts	Table Type: Source Lookup Table
External Table: ACCOUNT_LOOKUP	Measures Dimension: Accounts

Select Column Types

Selected Columns	Column Type
ACCOUNT_ID	<input type="text"/>
ACCOUNT_TYPE	<input type="text"/>

< Back Next > Cancel

12 「列タイプの選択」で、「選択した列」を使用可能な列タイプにマップします:

- EPMA POV 次元
- EPMA 次元
- 非 EPMA 次元
- メジャー
- 監査: 最終変更者
- 監査: 最終変更日

13 「次」をクリックします。

「手順 4: 非 EPMA 列の名前変更」画面が開き、ID、日付、監査などの非 EPMA 次元および監査次元がある場合には表示されます。非 EPMA 次元または監査次元がない場合、リストは空白です。

**Step 4: Rename non-EPMA columns**

Select the Column Type to map to EPMA Objects. For columns of type Modeling, select the EPMA Dimension to map to for each row, and for columns of type Measure, select the actual Measure Member for each row

**Table Details**

Table Name: Accounts      Table Type: Source Lookup Table  
 External Table: ACCOUNT\_LOOKUP      Measures Dimension: Accounts

**Rename non-EPMA Dimension Columns**

Selected Columns	Non-EPMA Dimension/Audit	Column Name
ACCOUNT_TYPE	Non-EPMA Dimension	ACCOUNT_TYPE

< Back    Next >    Cancel

14 「オプション:」以前に選択した非 EPMA 次元および監査次元と関連付けられたユーザー・フレンドリーな新しい名前を「列名」の下に入力します。こうすると、次元が使いやすくなります。

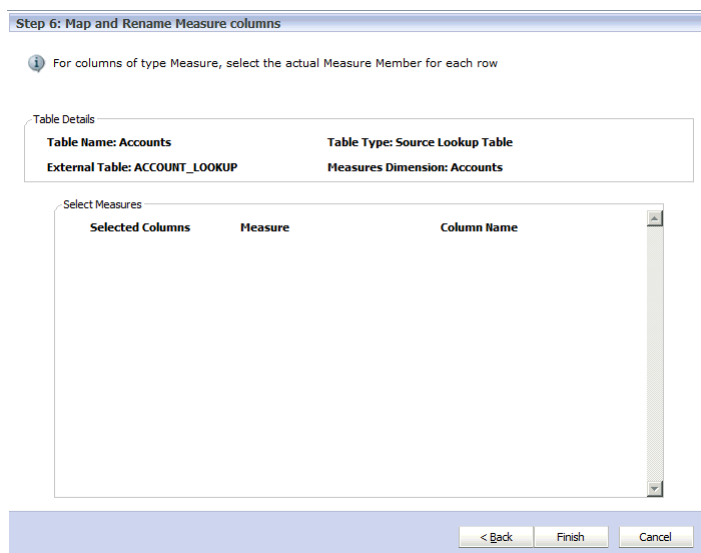
15 「次」をクリックします。

「手順 5: EPMA 列のマップと名前変更」画面が表示されます。

16 「次元/POV」で、手順 12 において EPMA POV 次元または EPMA 次元として設定したすべての列を、既存の Performance Management Architect 次元にマップします。選択した次元/POV が自動的に「列名」に表示されます。この値は必要に応じて変更できます。

17 「次」をクリックします。

「手順 6: メジャー列のマップと名前変更」画面が表示されます。




18 「メジャー」で、メジャー・タイプの列に対して行ごとの実際のメジャー・メンバーを選択します。選択したメジャーが自動的に「列名」に表示されます。この値は必要に応じて変更できます。

19 「終了」をクリックします。

テーブルが登録され、「登録」タブで登録済テーブルのリストに表示されます。

## 既存のモデル・データの登録の変更

▶ 既存のモデル・データの登録テーブルを変更するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「登録」タブで変更するテーブルを選択し、「テーブルの編集」をクリックします。
- 4 オプション: 「テーブルの選択」画面で、テーブル名および説明などのテーブルに関する情報を変更し、「次」をクリックします。

**注:** 外部テーブルの選択、テーブル・タイプは変更できません。

- 5 オプション: 「列の選択」画面で、「追加」矢印と「削除」矢印を使用して「選択した列」に選択内容を移動し、列の選択を変更します。

リストから一度に複数の列を選択できます:

- 列の範囲を選択する場合は、[Shift]キーを押しながら、範囲の先頭の列と末尾の列を選択します。
- 複数の任意の列を選択するには、[Ctrl]キーを押しながら一連の列を1つずつ選択します。

- 6 「次」をクリックします。



- 7 **オプション:**「列のマッピング」画面で、新しく選択した列の使用可能な列タイプへのマッピングを変更し、「次」をクリックします。

「手順 4: 非 EPMA 列の名前変更」画面が開き、非 EPMA 次元がある場合には表示されます。非 EPMA 次元がない場合には何も表示されません。

- 8 **オプション:**新しく選択した非 EPMA 列を変更し、「次」をクリックします。

- 9 **オプション:**「EPMA 列のマッピングと名前変更」画面で、Performance Management Architect によって管理される列に対して「次元/POV」または「列名」で次元または POV を変更し、「次」をクリックします。

- 10 **オプション:**「メジャー列のマッピングと名前変更」画面で、「メジャー」のメジャー・タイプ列に対して、行の実際のメジャー・メンバーを変更し、「終了」をクリックします。


テーブルに対する変更が登録されます。

## 既存のモデル・データの登録のコピー

- ▶ 既存のモデル・データの登録テーブルをコピーして新しいモデル・データの登録を作成するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。

- 3 「登録」タブでコピーするテーブルを選択し、「テーブルの複製」をクリックします。



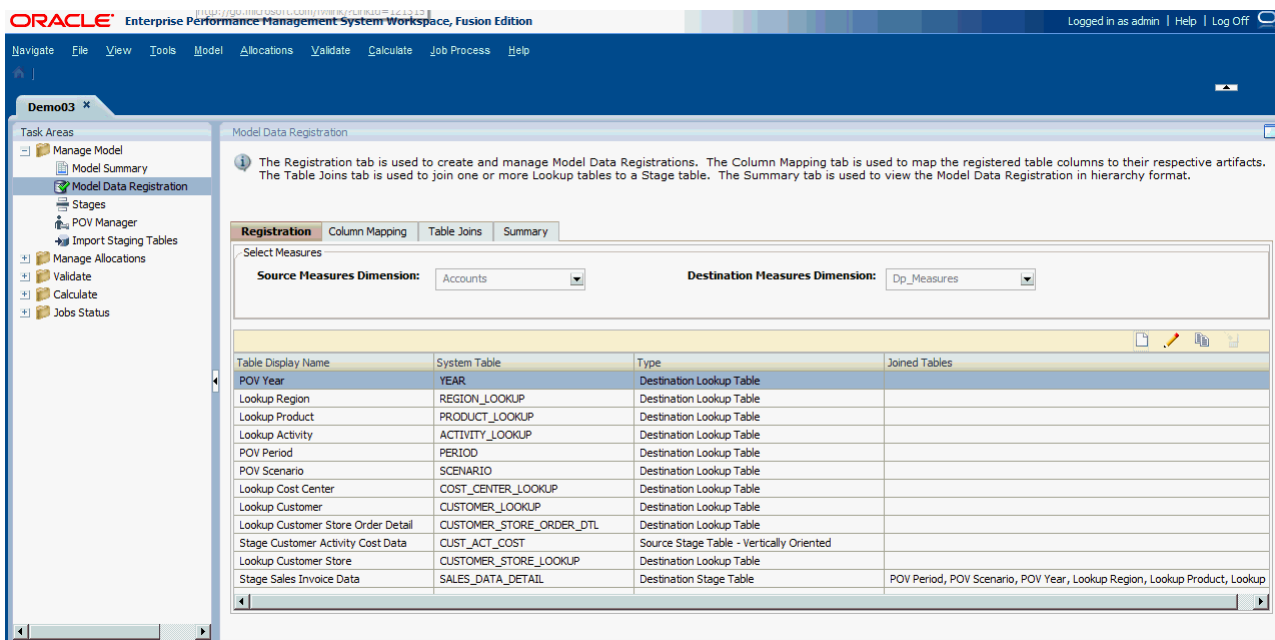
- 4 「テーブルの複製の作成」ダイアログ・ボックスで新しいテーブルの名前を入力し、「OK」をクリックします。


## 既存のモデル・データの登録の削除

- ▶ 既存のモデル・データの登録テーブルを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。



3 「登録」タブで削除するテーブルを選択し、「テーブルの削除」をクリックします。

4 確認ダイアログ「選択したテーブルを削除しようとしています。続行しますか?」が表示されたら、削除を確認します。

選択したテーブルのモデル・データの登録情報が削除されます。

## 列のマッピング

「列マッピング」タブは、登録されているテーブルの列を、選択したテーブルのそれぞれの次元にマップする際に使用します。

次の項を参照してください:

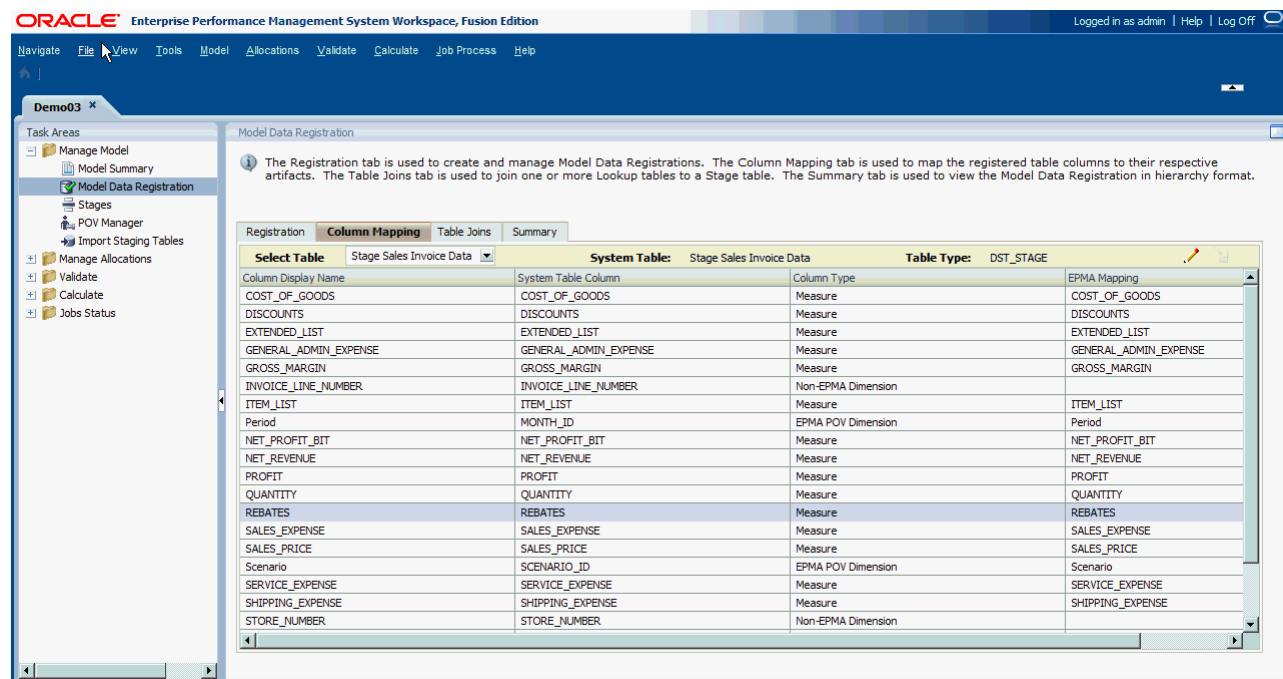
- [226 ページの「列マッピングの表示」](#)
- [227 ページの「列マッピングの変更」](#)
- [228 ページの「列マッピングの削除」](#)

## 列マッピングの表示

▶ 列マッピングを表示するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「列マッピング」タブを選択します。
- 4 「テーブルの選択」で、列マッピングを表示するステージ・テーブルを選択します。

関連する「システム・テーブル」および「テーブル・タイプ」が表示されます。




## 5 列マッピングを確認します:

- 「列の表示名」には、列に割り当てられた表示名が表示されます
- 「システム・テーブルの列」には、選択したシステム・テーブルの列の名前が表示されます
- 「列のタイプ」には、列がマップされているタイプが表示されます:
  - EPMA POV 次元
  - EPMA 次元
  - 非 EPMA 次元
  - メジャー
  - 監査: 最終変更者
  - 監査: 最終変更日
- 「EPMA マッピング」には、列がマッピングされている EPMA 次元または EPMA 次元メンバーが表示されます。


## 列マッピングの変更

▶ 列マッピングを変更するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「列マッピング」タブを選択します。

- 4 「テーブルの選択」で、列マッピングを変更するステージ・テーブルを選択します。
- 5 「列の表示名」で、変更する列を選択し、「列マッピングの編集」をクリックします  
「非 EPMA 列の名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 6 「列名」で、変更する非 EPMA 次元のそれぞれについて列名を変更し、「次」をクリックします。アプリケーションに非 EPMA 次元が含まれていない場合、この画面は空白です。  
「EPMA 列のマッピングと名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 7 「列名」で、変更する各 EPMA 列の名前を変更します。  
「次元/POV」で、選択した次元を変更でき、必要に応じて、「次へ」をクリックします。  
「メジャー列のマッピングと名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 8 「メジャー」で、各列に使用する実際のメンバーを選択し、「終了」をクリックします。  
列の変更がすべて適用されます。

## 列マッピングの削除

- ▶ 列マッピングを削除するには:
- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
  - 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
  - 3 「列マッピング」タブを選択します。
  - 4 「テーブルの選択」で、列マッピングを削除するステージ・テーブルを選択します。  
関連する「システム・テーブル」および「テーブル・タイプ」が表示されます。
  - 5 「列の表示名」で、削除するマッピングを含む列の名前を選択し、「列マッピングの削除」をクリックします  
選択した列のマッピングが削除されます。

# 参照テーブルの結合

## サブトピック

- [参照テーブルへのテーブルの結合](#)
- [参照テーブル結合の編集](#)
- [参照テーブル結合の削除](#)

ソース・テーブルとして指定されたステージ・テーブルでは、テーブル内で十分なサポート詳細情報を得られない場合もあります。参照テーブルは、顧客の既存テーブルのうち、ソース・テーブルまたは宛先テーブルに結合できるテーブルであり、ステージ・テーブルの内容を拡張して追加の情報またはデータを提供できます。

テーブルをステージ・テーブルに結合できるのは、そのテーブルがステージ・テーブルと同じメジャー・リストとメジャー次元を使用する場合です。たとえば、1つ以上の列がソース・メジャー次元のメンバー値にマッピングされているソース参照テーブルが該当します。

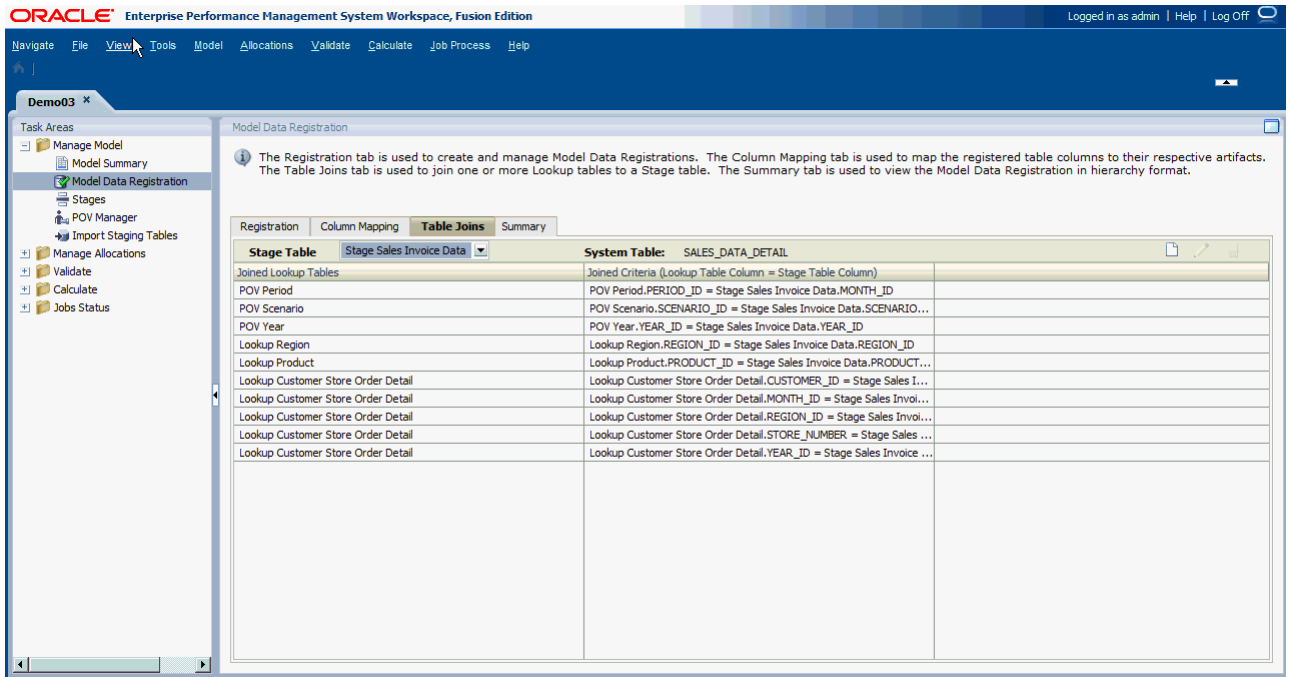
参照テーブルごとに、選択したステージ・テーブルでは計算と処理時間が増加します。計算に伴う参照テーブルの数が多くなればなるほど、処理時間も長くなります。計算には、すべての参照テーブルが関連するわけではありません。たとえば、ステージ・テーブルに10個のテーブルを結合した場合でも、ドライバがそのうち3つのテーブルしか使用していなければ、処理に影響するのはその3つのテーブルのみです。


## 参照テーブルへのテーブルの結合

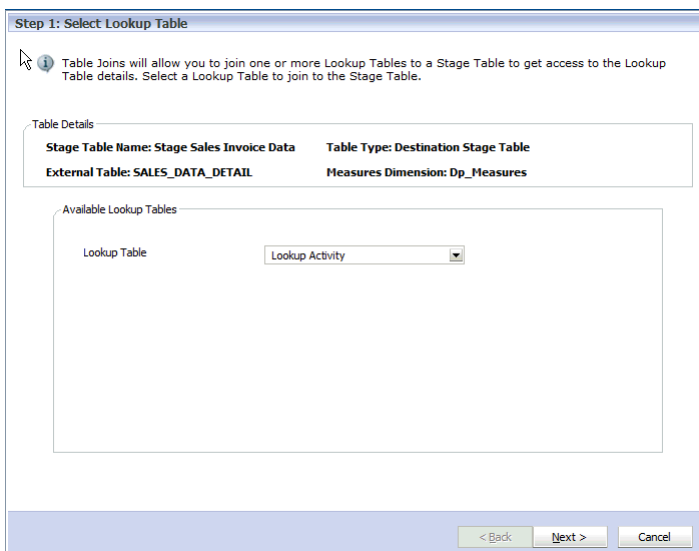
▶ 参照テーブルにテーブルを結合するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「テーブルの結合」タブを選択します。
- 4 「ステージ・テーブル」から、参照テーブルを結合するステージ・テーブルを選択します。

現在ステージ・テーブルに結合されているテーブルのリストが表示されます。



5 「テーブルの結合の作成」  をクリックします。



6 「参照テーブルの選択」 ウィザードで、「使用可能な参照テーブル」の「参照テーブル」ドロップダウン・リストから、選択したステージ・テーブルに結合する参照テーブルを選択し、「次」をクリックします。

## Step 2: Join Lookup Table to Stage Table



Join the Stage Table to the Lookup Table by selecting the corresponding Join columns for each table selected in the prior steps. Use the optional Create/Delete buttons to add another join condition for the selected Stage/Lookup tables.

Table Details	
Stage Table Name: Stage Sales Invoice Data	Table Type: Destination Stage Table
External Table: SALES_DATA_DETAIL	Measures Dimension: Dp_Measures
Lookup Table Name: Lookup Activity	Table Type: Destination Lookup Table
External Table: ACTIVITY_LOOKUP	

Join Details	
<b>Stage Table and Columns</b>	<b>Lookup Table and Columns</b>
<input type="checkbox"/> Stage Sales Invoice	= Lookup Activity

< Back Finish Cancel


- 「参照テーブルとステージ・テーブルの結合」ウィザードの「ジョブの詳細」で、「新しい条件の追加」をクリックし、別のテーブル結合をステージ・テーブルに追加します。
- 「ステージ・テーブルと列」からステージ・テーブル列を選択し、「参照テーブルと列」から参照テーブル列を選択します。
- オプション:** 「ジョブの詳細」で、結合条件を選択して、「条件の削除」をクリックし、選択した条件を削除します。
- 「終了」をクリックします。

## 参照テーブル結合の編集

▶ 参照テーブル結合を編集するには:

- EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 「テーブルの結合」タブを選択します。
- 「ステージ・テーブル」から、参照テーブルを結合するステージ・テーブルを選択します。

現在ステージ・テーブルに結合されているテーブルのリストが表示されます。

- 「テーブルの結合の編集」をクリックします。
- 「参照テーブルの選択」ウィザードで、選択した参照テーブルを確認し、「次」をクリックします。
- オプション:** 「手順 2: 参照テーブルとステージ・テーブルの結合」ウィザードの「ジョブの詳細」で、「ステージ・テーブルと列」または関連する「参照テーブルと列」の選択内容を、必要に応じて変更します。
- 「終了」をクリックします。


## 参照テーブル結合の削除

▶ 結合されたテーブルを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「テーブルの結合」タブを選択します。
- 4 「ステージ・テーブル」から、参照テーブルの関連付けを削除するステージ・テーブルを選択します。

現在ステージ・テーブルに結合されているテーブルのリストが表示されます。

- 5 「結合された参照テーブル」で、ステージ・テーブルから削除する結合された条件を選択します。

- 6 「テーブルの結合の削除」をクリックし、ステージ・テーブルから選択した結合条件を削除します。

結合された条件がリストから削除されます。

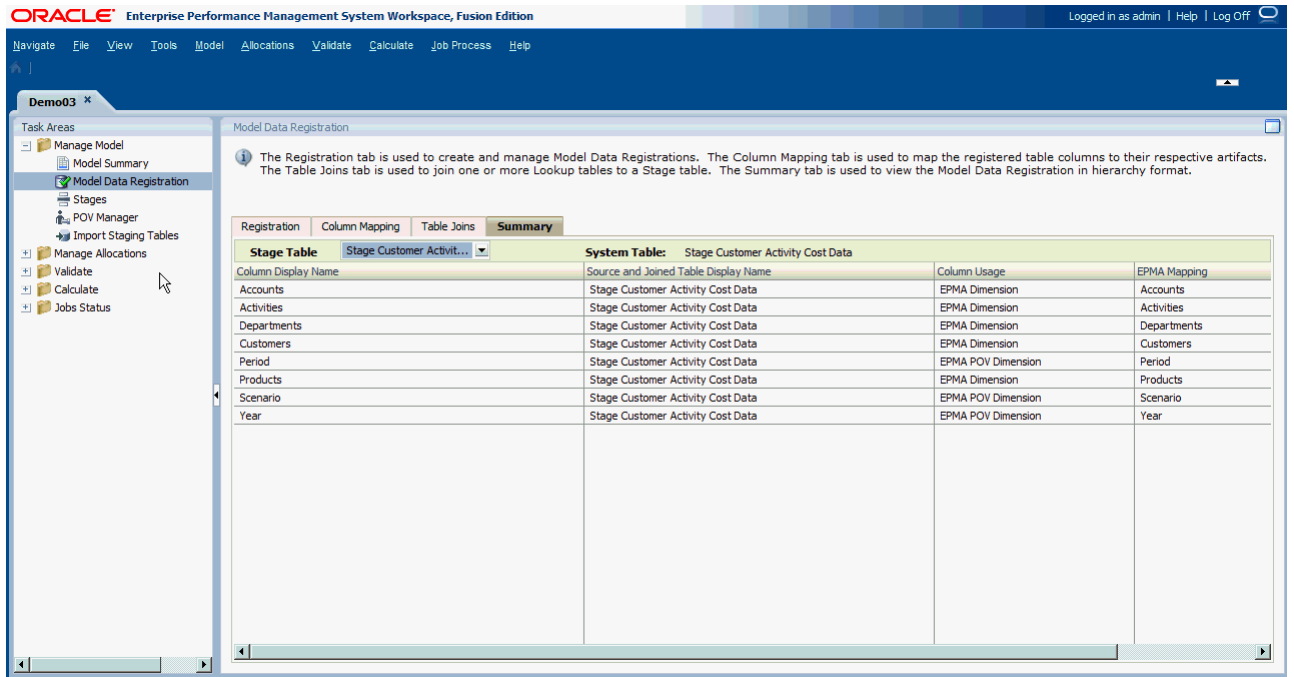
## モデル・データの登録の要約の確認

「モデル・データの登録」画面の「要約」タブには、関連付けられている参照テーブルやマッピングなどを含む、完成したソースまたは宛先のステージ・テーブルの詳細が表示されます。

▶ ステージ・テーブルの要約を表示するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデル・データの登録」の順に選択します。
- 3 「要約」タブを選択します。





4 「ステージ・テーブル」で、登録されているステージ・テーブルのリストから、詳細を表示するステージ・テーブルを選択します。

画面に、選択したテーブルの詳細が表示されます。

5 選択したテーブルの詳細を、「要約」タブで確認します:

- 「列の表示名」には、列に割り当てられた名前が表示されます
- 「ソース・テーブルおよび結合されたテーブルの表示名」には、ソースに割り当てられたテーブルと、それに対応する結合されたテーブルの名前が表示されます
- 「列の使用方法」には、列がマップされているタイプが表示されます:
  - EPMA POV 次元
  - EPMA 次元
  - 非 EPMA 次元
  - メジャー
  - 監査: 最終変更者
  - 監査: 最終変更日
- 「EPMA マッピング」には、列がマップされている EPMA 次元またはメンバーが表示されます。

## 詳細 Profitability ステージの管理

詳細 Profitability and Cost Management では、モデルに 2 つのステージのみが存在します:

- ソース・ステージには、Performance Management Architect で管理される次元を最大 5 つまで含めることができ、そのソースとしては、モデル・データの登録から水平方向または垂直方向のソース・ステージ・テーブルを使用できま

す。5つのソース・ステージ次元のうち1つは、テーブル登録の最初に指定した「ソース・メジャー次元」である必要があります。

- 宛先ステージには、Profitability and Cost Management で管理される次元と通常のビジネス次元を最大 25 まで含めることができますが、モデル・データの登録からの水平方向の宛先ステージ・テーブルである必要があります。

**注：** 非 EPMA 管理の次元は、ステージ次元として定義できません。宛先ステージによって使用することはできますが、宛先ステージ割当てルールのデータ・フィルタでのみです。

Performance Management Architect で新しいアプリケーションを作成し、それを Profitability and Cost Management に配置する際には、「ステージ」画面を使用してソース・ステージ(ステージ 1)と宛先ステージ(ステージ 2)を作成します。詳細 Profitability アプリケーションでは、ソース・ステージと宛先ステージの特性、要件および検証が異なります。標準 Profitability アプリケーションとは異なり、これらのステージがソースと宛先の両方として機能することはできません。

2つのステージの設定後は、どちらか一方のステージを削除しないかぎり、モデル・データの登録後に新しいステージを追加することはできません。[238 ページの「詳細 Profitability モデル・ステージの削除」](#)を参照してください。

次の手順を参照してください:

- [234 ページの「詳細 Profitability モデル・ステージの追加」](#)
- [237 ページの「詳細 Profitability モデル・ステージの変更」](#)
- [238 ページの「詳細 Profitability モデル・ステージの削除」](#)

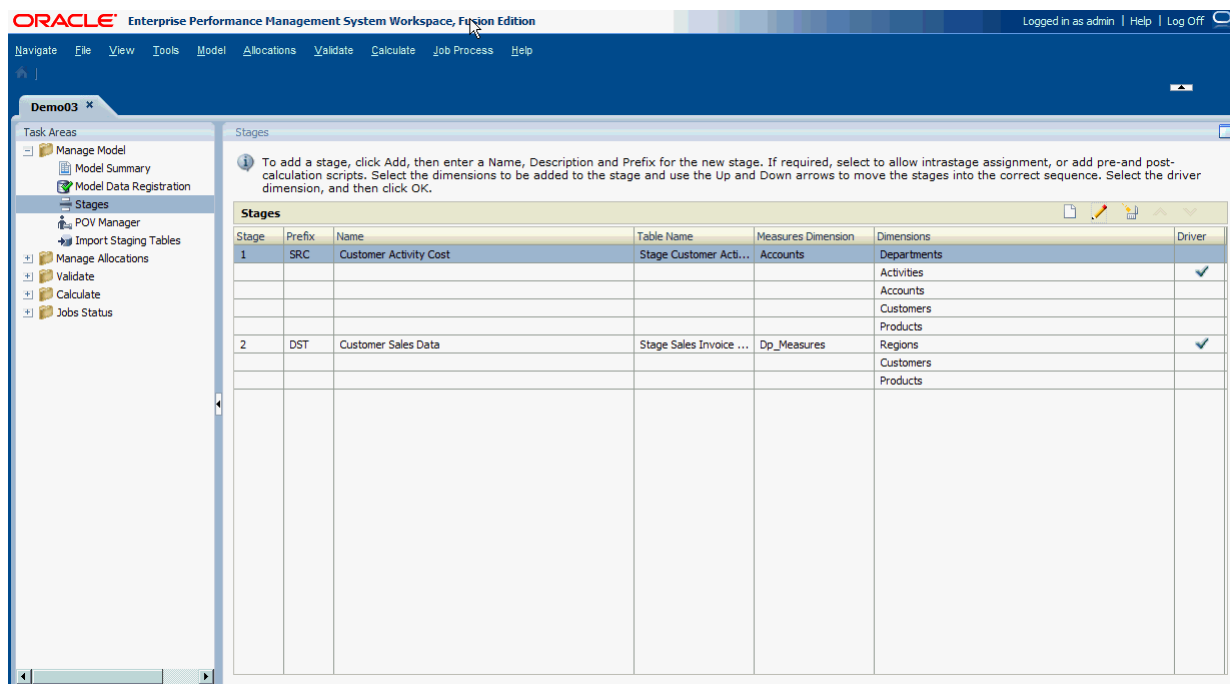
## 詳細 Profitability モデル・ステージの追加

詳細 Profitability モデルに存在するのは、2つのステージのみです。

両方のステージがすでに存在する場合、このオプションは使用できません。


▶ モデル・ステージを追加するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます:

- 「ステージ」にはステージの順序が表示されます。ステージの順序で、ステージがソースまたは宛先のいずれであるかが決まります。
- 「接頭辞」は、ステージの作成時に入力されたステージ接頭辞です。この値により、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かを示すことができます。
- 「名前」には、ステージに割り当てられた名前、通常は「顧客アクティビティ費用」や「顧客販売データ」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
- 「テーブル名」は、登録されたテーブルに割り当てられた表示名です。
- 「メジャー次元」には、「モデル・データの登録」中に「ステージ」に選択されたメジャー次元が表示されます。
- 「次元」には、ステージに含まれる次元が表示されます。
- ステージに選択されている「ドライバ」次元には、チェックマークが付きます。

3 2つのステージがまだ存在しない場合には、「ステージの追加」をクリックします。

「ステージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Stage

Name:

Description:

Prefix:

Table Name:

Measures Dimension: Accounts

Order	Dimension	Driver
1	Departments	<input type="radio"/>
2	Activities	<input checked="" type="radio"/>
3	Accounts	<input type="radio"/>
4	Customers	<input type="radio"/>
5	Products	<input type="radio"/>

Help OK Cancel

#### 4 ステージの次の詳細を入力します:

- ステージに割り当てる「名前」を入力します。名前は通常、「顧客アクティビティ費用」や「顧客販売データ」など、ステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表します。
- 「接頭辞」を選択し、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かなどを指定することができます。
- 「オプション:」 ステージの用途や内容について簡単な説明を入力します。
- 「モデル・データの登録」中に割り当てられる「テーブル名」を選択します。
- 「メジャー次元」で、「モデル・データの登録」中に、選択したステージに関連付けられるメジャー次元を検証します。

#### 5 「ステージの次元」で「追加」をクリックし、次元をステージに追加します。

**注:** 選択したステージの次元を追加する場合は、モデル・データ登録時にソース・ステージの次元の1つとして定義したソースのメジャー次元も追加する必要があります。宛先ステージの定義に、宛先メジャー次元は含めないでください。

#### 6 手順5を繰り返し、選択したステージに各次元を追加します。ソース・ステージでは最大5つの次元、宛先ステージでは最大25個の次元を追加できます。

#### 7 オプション: 「順序」の下で次元を選択し、「上へ」 および「下へ」の矢印を使用して次元を適切な順序に移動します。矢印を使用してすべての次元を移動します。

#### 8 「ドライバ」で、選択したステージのドライバである次元を選択します。指定したドライバにはチェックマークが付きます。

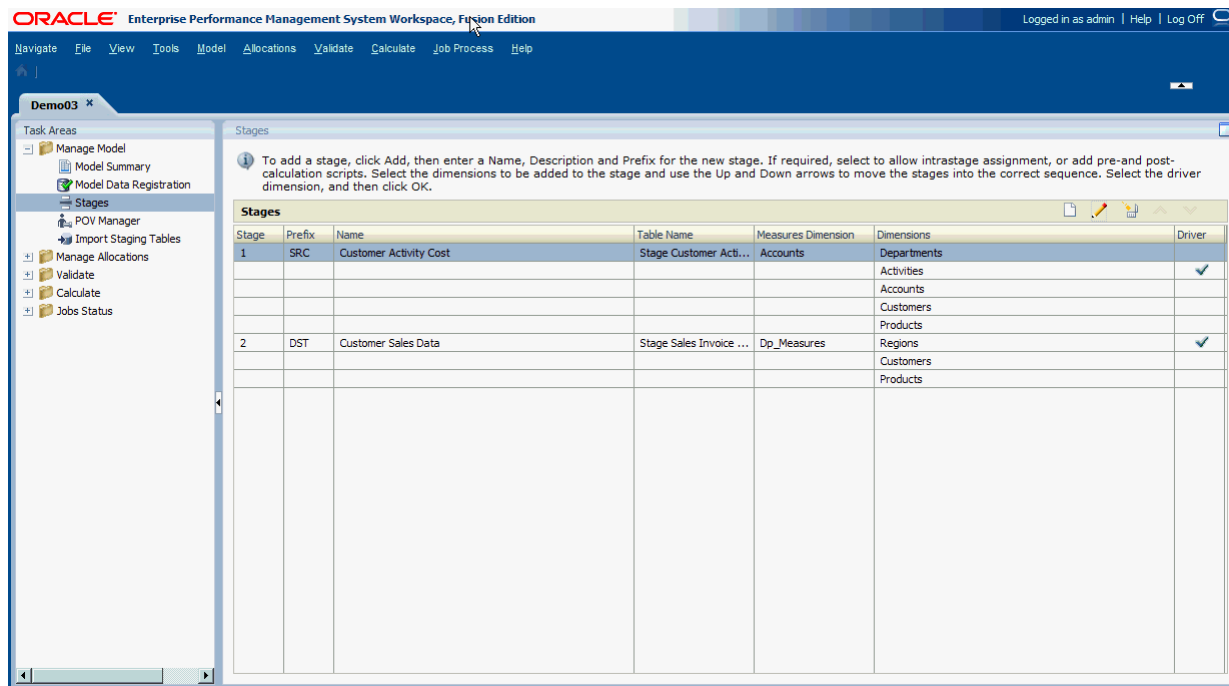
#### 9 「OK」をクリックします。

## 詳細 Profitability モデル・ステージの変更


モデル・ステージは簡単に変更できます。

▶ モデル・ステージを変更するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。



ステージ・ウィンドウには、選択したステージに関する次の情報が表示されます:

- 「ステージ」には、2つのステージの順序が表示されます。
  - 「接頭辞」では、ステージがソース(SRC)か宛先(DST)かが示されます。
  - 「名前」には、ステージの名前、通常は「総勘定元帳」や「営業活動」など、そのステージのビジネス機能やビジネス・プロセスを表す名前が表示されます。
  - 「テーブル名」は、MDR テーブルに割り当てられた表示名です。
  - 「メジャー次元」には、「モデル・データの登録」中に「ステージ」に選択されたメジャー次元が表示されます。
  - 「次元」には、ステージに含まれる次元が表示されます。
  - ステージの「ドライバ」次元には、チェックマークが付きます。
- 3 変更するステージを選択し、「ステージの編集」をクリックします。「ステージ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Stage

Name:

Description:


Prefix:




Table Name:

Measures Dimension: Accounts

Order	Dimension	Driver
1	Departments	<input type="radio"/>
2	Activities	<input checked="" type="radio"/>
3	Accounts	<input type="radio"/>
4	Customers	<input type="radio"/>
5	Products	<input type="radio"/>

Help OK Cancel

- 4 次の項目のいずれかまたはすべてを変更します:
  - 名前
  - 説明
  - 接頭辞
  - テーブル名
- 5 **オプション:** 次元を追加するには、「ステージの次元」で「追加」をクリックして新しい行を追加し、ステージに追加する次元を選択します。追加する各次元について繰り返します。
 

**注:** 選択したステージに次元を追加する際には、ソース・ステージの次元の1つとして、定義済のソース・メジャー次元も追加する必要があります。宛先ステージの定義に、宛先メジャー次元は含めないでください。
- 6 **オプション:** 「ステージの次元」で次元を選択し、「削除」をクリックすると、その次元がステージから削除されます。削除する各次元について繰り返します。
- 7 **オプション:** 「順序」の下で次元を選択し、「上へ」および「下へ」の矢印を使用して次元を適切な順序に移動します。矢印を使用してすべての次元を移動します。
- 8 「ドライバ」で、選択したステージのドライバである次元を選択します。指定したドライバにはチェックマークが付きます。
- 9 「OK」をクリックします。

## 詳細 Profitability モデル・ステージの削除

詳細 Profitability では、使用可能な次元の数などの特性、要件および検証がソース・ステージと宛先ステージで異なるため、互換的に使用することはできません。

両方のステージが存在する場合に、ステージ1を先に削除することはできません。ステージ2がステージ1になるため、宛先ステージがソース・ステージとなり、ソース・ステージに適用されている制限に違反する可能性があるためです。



---

**注意** 選択したステージに関するドライバ選択、ドライバ選択の例外、計算ルール、割当てルールの選択も削除されます。

---

必要なステージを削除した後、234ページの「[詳細 Profitability モデル・ステージの追加](#)」の説明に従って、新しいステージを追加できます。

▶ モデル・ステージを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択します。
- 3 「ステージ」画面で、削除するステージ2(宛先ステージ)を選択します。
- 4 「ステージの削除」をクリックします。  
メッセージにより、削除を確認するよう求められます。
- 5 オプション: 「ステージ」画面で、削除するステージ1(ソース・ステージ)を選択します。
- 6 「ステージの削除」をクリックします。  
メッセージにより、削除を確認するよう求められます。

## 詳細 Profitability の視点(POV)の操作

モデルの視点(POV)は、選択された期間(年、期間、シナリオなど)用に、モデル情報の特殊なビューを提供します。

組織の POV 次元の名前と構造は完全にカスタマイズできます。Profitability and Cost Management のほぼすべてのアクティビティにおいて、最初の手順は POV を選択することです。

モデルには、1つ以上の POV 次元が必要です。まず POV 次元を定義し、次にこれらの次元の名前を定義します。計算は、各月または状況に固有のデータ、ドライバの選択および割当てを使用して行われます。

代表的な POV には「年」、「期間」および「シナリオ」が含まれます。少なくとも1つの POV 次元が必要であり、最大4つ作成できます。POV 次元のメンバーはユーザー定義であり、モデリングや仮定分析において多様な POV の組合せを提供します。

POV が「ドラフト」ステータスに設定されている場合のみ、モデルは編集可能になります。POV は新しいドライバ、条件あるいはメンバーを反映するように変更でき、新しいシナリオを試すことができます。これらのシナリオを比較することにより、変更点がプロセスや最終結果にどのように影響するのかを評価できます。

また、複数の POV バージョンを作成できるため、同一の POV の異なるバージョンを保持することで、モデルの変更点をもたらす影響を監視したり、同一モデルの異なるバージョンを追跡することが可能です。

POV の詳細は、次の項を参照してください:

- [57 ページの「POV 次元」](#)
- [57 ページの「POV のステータス」](#)
- [58 ページの「バージョン次元」](#)
- [58 ページの「標準 Profitability POV の管理」](#)

## POV 次元

視点(POV)の次元はモデルの特定のバージョン、あるいはモデルに対する特定の視点を表すために使用します。各モデルには、少なくとも 1 つの次元を POV 次元に指定する必要があります。POV 次元には、モデルに必要な任意の項目を選択できます。POV 次元として使用される代表的な例を次に示します:

- 期間 - モデルのベースを任意の時間単位(四半期、月、年次、年など)にできるため、時系列で戦略や変更を分析したり、在庫や償却を監視できます。
- 年 - 暦上の年を指定してデータを収集します。
- シナリオ - 特定の期間と一連の条件に対する、モデルの新しいバージョンを表示します

## POV のステータス

現在モデルが編集あるいは表示可能であるかどうかを示すために、POV に対してステータスを設定する必要があります。

POV のステータスは次のいずれかの状態に設定します:

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。
- アーカイブ済 - モデルを表示し、動的レポートを生成します。モデルは編集できません。

## バージョン次元

特定の POV を使用し、同じ POV の別バージョンを作成できます。これにより、モデルへの変更の影響を監視したり、同じモデルの異なるバージョンを追跡できます。

バージョン次元は次のタスクで使用します:

- 1 つのモデルの複数の繰返しを、少しずつ異なるバージョンで作成します。
- 仮定に基づいた予測結果や、ベスト・ケース・シナリオかワースト・ケース・シナリオかを決定する仮定シナリオをモデル化



- 簡単に目標を設定する

バージョン次元内の様々な要素を変更することで、元のモデルを変更せずに変更結果を調べることができます。

## 詳細 Profitability POV の操作

POV は年、期間、シナリオ、ステータスなどの指定されたスナップショット用の、モデルの特別なバージョンを表示します。

新しい POV が追加されると、ステータスは自動的に「ドラフト」に設定され、POV が編集できるようになります。

モデルには、1 つ以上の POV 次元が必要です;ただし、1 つのモデルに対して複数の POV 組合せを作成できます。選択した POV は EPM Workspace ユーザー・プリファレンスとして保存できます。また、POV をコピーして、新しいレポート期間や異なるシナリオ用にモデルを作成することも可能です。[243 ページの「POV のコピー」](#)を参照してください。

モデルで使用可能な POV は、アプリケーションで定義された POV 次元に応じて決まりますが、すべての POV が割当てやデータ入力用にそのまま使用できるわけではありません。POV をモデルに追加するまで、POV にドライバを割り当てたりデータをロードすることはできません。

各 POV 組合せについて、次のモデル要素を指定する必要があります:

- ドライバの選択
- 割当ておよび計算ルール

POV を操作するには、次の手順を使用してください:

- [241 ページの「POV の追加」](#)
- [243 ページの「POV のステータスの変更」](#)
- [243 ページの「POV のコピー」](#)
- [245 ページの「POV およびすべてのアーティファクトの削除」](#)
- [246 ページの「選択したオブジェクトの POV からの削除」](#)

### POV の追加

年、期間、シナリオおよびステータスなど、選択したモデルのスナップショットに対するモデルの情報や計算を表示するには、POV を追加します。

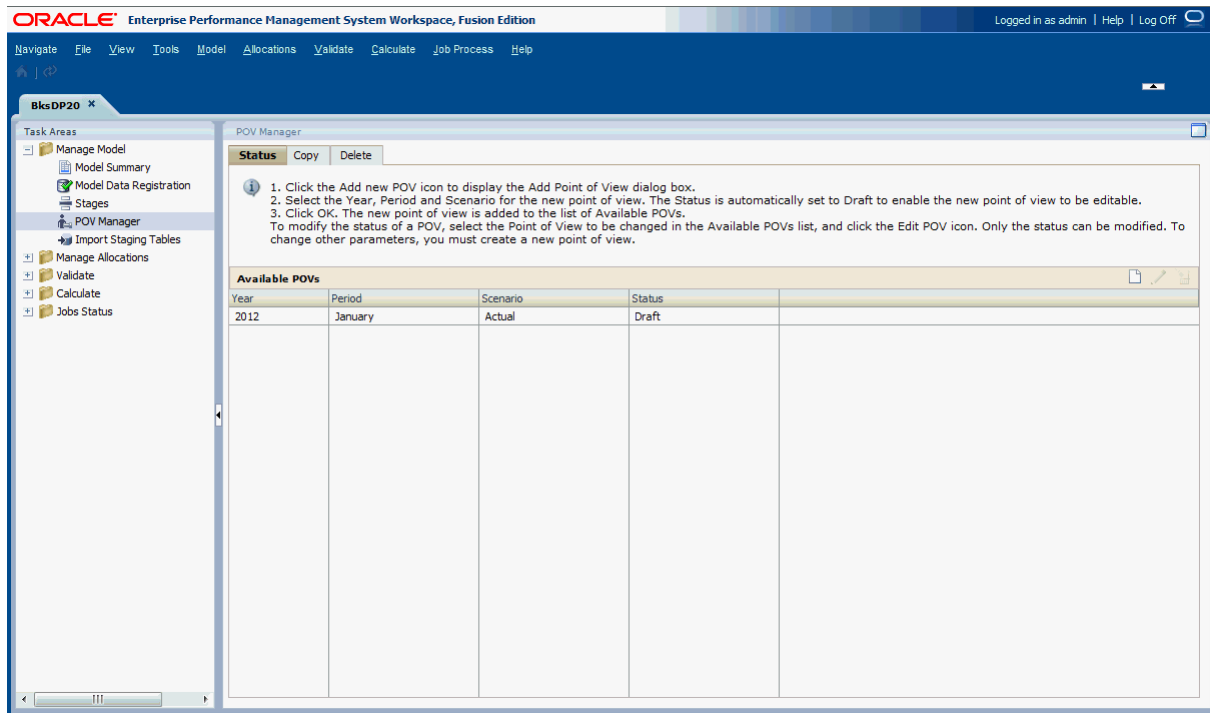
モデルで使用可能なパラメータの値は Performance Management Architect アプリケーションに設定されています。

**注:** POV は、POV 管理に追加されないかぎり、他のタスク・ウィンドウからアクセスできません。

▶ POV を追加するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。



- 3 「新規 POV の追加」  をクリックします。

「視点の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Year:	2011
Period:	January
Scenario:	Actual
Status:	Draft

- 4 新しい POV を表示するためのモデルのパラメータ(「年」、「期間」、「シナリオ」など)を選択します。

新しい POV のため「ステータス」は読取り専用で、モデルを構築および編集できるように、自動的に「ドラフト」に設定されます。

- 5 「OK」 をクリックします。

POV がリストに追加されます。

## POV のステータスの変更

POV のステータスはモデルが編集または表示可能かどうかを示します。モデルは、POV のステータスが「ドラフト」に設定されている場合のみ、編集可能です。モデルの完成後、POV のステータスを変更してモデルを変更できないようにします。

**注：** POV のステータスのみを変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しい POV を作成する必要があります。

POV のステータスは次のいずれかの値に設定できます：

- ドラフト - モデルを構築または編集し、動的レポートを生成します。
- 公開済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。
- アーカイブ済 - モデルを表示したり動的レポートを生成します。

モデルを編集するためにステータスを「ドラフト」に戻すことは、いつでも可能です。

**注：** POV に変更を加えると、ステータスのみを変更されます；ただし、ステータスが「公開済」または「アーカイブ済」に設定されている場合は、モデルは計算不能になっています。

▶ POV ステータスを変更するには：

1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。

3 変更する POV を選択し、「POV の編集」 をクリックします。

4 「ステータス」の下で新しいステータスを選択します：

- ドラフト
- 発行済
- アーカイブ済

POV のステータスのみを変更できます。他のパラメータを変更する場合は、新しい POV を作成する必要があります。

5 「OK」をクリックします。

## POV のコピー

POV をコピーすることで、新しいモデルやシナリオの開始ポイントにしたり、既存のモデルを使用して仮定シナリオを試行できます。

たとえば、前の期間からドライバの選択と割当てをコピーして期間を作成したり、実際のシナリオからデータをコピーして、予測シナリオ用のシード・データを作成できます。

POV をコピーするには、コピーする情報を含んだソース POV と、データの複製先となる宛先のターゲット POV が必要です。「POV の管理」画面の「ステータス」タブに表示されている、ステータスが「ドラフト」の POV にのみ、情報をコピーできます。

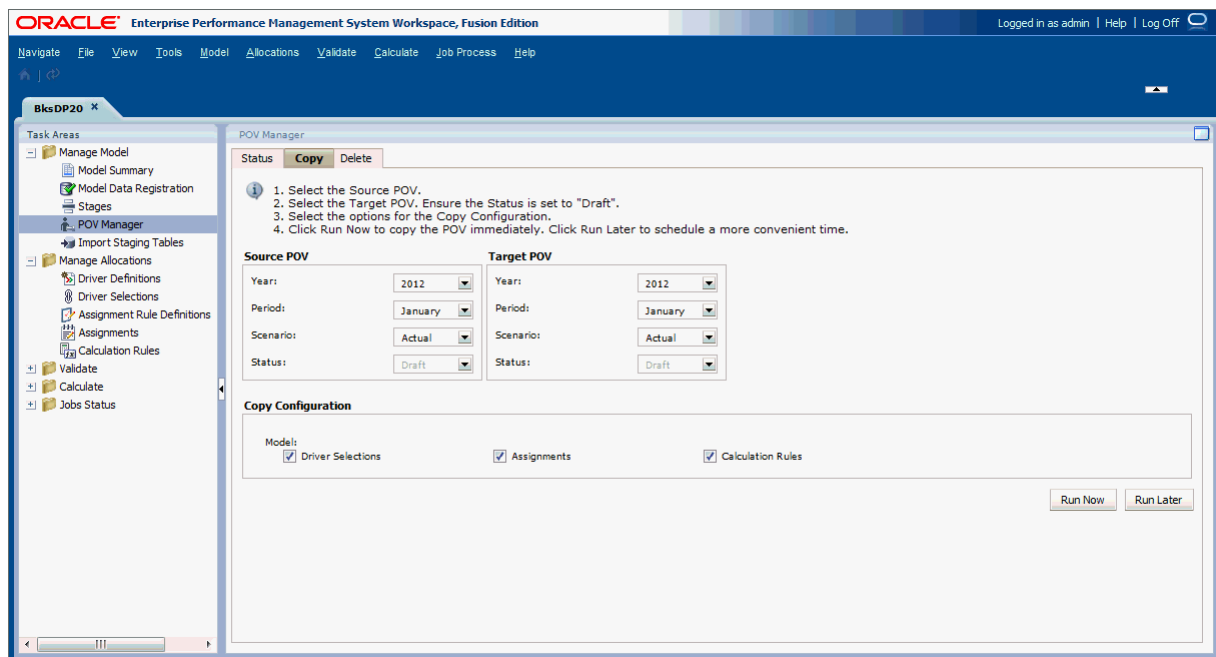
▶ POV をコピーするには:

1 **オプション:** 必要な場合は、POV 管理画面の「ステータス」タブで POV を作成して、このターゲット POV をコピー操作で使用します。詳細は、[241 ページの「POV の追加」](#)を参照してください。

2 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

POV マネージャ・ウィンドウの「ステータス」タブが表示されます。既存のすべての POV が示されます。

3 「POV マネージャ」から、「コピー」タブを選択します。



4 「ソース POV」の下で、コピーする POV を選択します。

**注:** ソースのステータスは、POV に割り当てられたステータスに自動的に設定され、この画面では変更できません。

5 「ターゲット POV」の下で、コピーする POV の宛先になる POV を選択します。

---

**注意** ターゲット POV は、ステータスが「ドラフト」の有効な POV として、「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブに存在している必要があります。そうでない場合、コピー操作は開始されません。

---

6 「構成のコピー」の下で、コピーする POV の要素を選択します:

- 「モデル」で、「ドライバの選択」、「割当て」、「計算ルール」、またはすべてを選択します。

これらのオプションは、新しい POV で必要となる情報を選択するために用意されています。

#### 7 次のいずれかのタスクを実行します:

- 「後で実行」をクリックし、POV をコピーする日時をスケジュールします。[161 ページの「タスクフローのスケジュール」](#)を参照してください。

**注:** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

- 「今すぐ実行」をクリックして、POV をすぐにコピーします。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフロー ID が示されます。ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「検索タスク」の順に選択します。[305 ページの「ジョブ・ライブラリ」](#)を参照してください。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

#### 8 コピーが完了したら、ターゲット POV の下のコピーされた情報を確認します。

## POV およびすべてのアーティファクトの削除

「POV マネージャ」画面の「ステータス」タブからは、POV 全体を削除できます。POV を削除すると、関連する割当てとドライバ選択を含む、POV 内のすべてのオブジェクトが削除されます。

POV 全体は削除せず、選択したオブジェクトのみを POV から削除する場合は、[246 ページの「選択したオブジェクトの POV からの削除」](#)を参照してください。

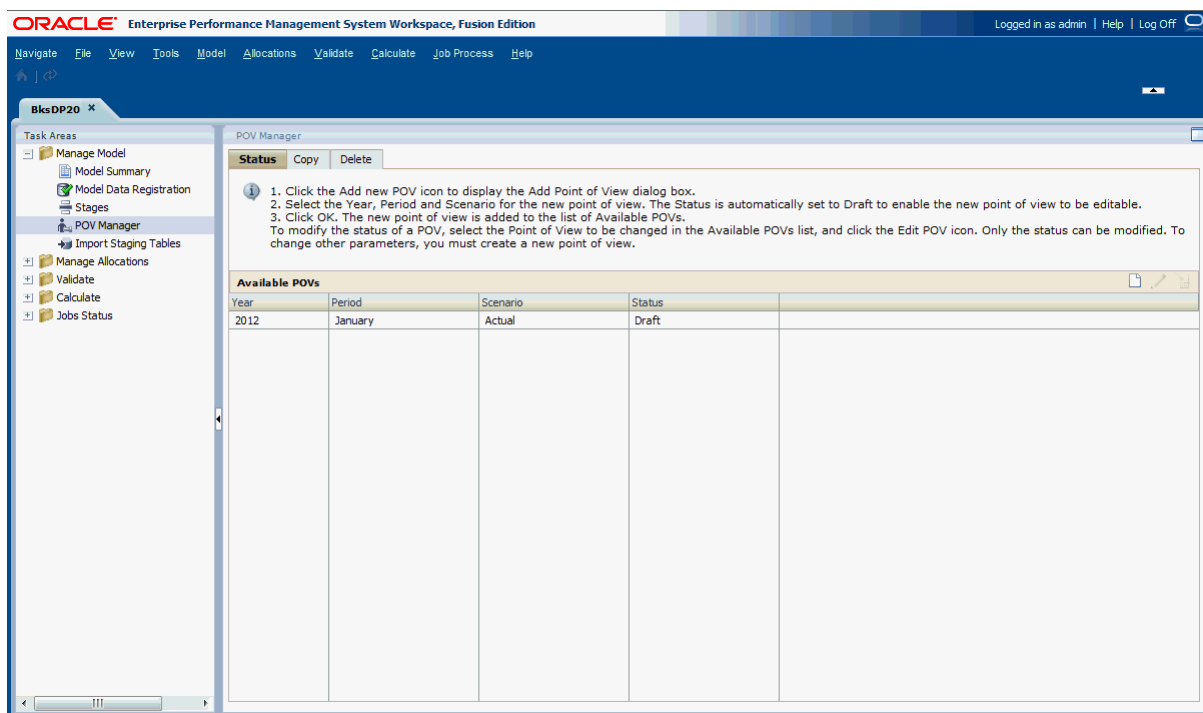
---

**注意** POV を削除する前に EPM Workspace にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

➤ POV および関連する割当てやドライバの選択を削除するには:

- 1 他のユーザーがその POV と内容を必要としていないことを確認します。
- 2 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 3 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。  
「POV マネージャ」画面が表示されます。
- 4 「ステータス」タブを選択します。



5 「使用可能な POV」で、削除する POV を選択します。

6 「POV の削除」  をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

---

**注意** POV を削除すると、POV 内のすべてのオブジェクトが削除されます。

---

7 「はい」をクリックして削除を確認します。

POV はリストから削除され、以後は選択できなくなります。

## 選択したオブジェクトの POV からの削除

「POV マネージャ」画面の「削除」タブを使用すると、POV 全体は削除せずに、選択したオブジェクトを POV から削除できます。

関連付けられた割当てやドライバの選択も含む POV 全体を削除する場合は、[245 ページの「POV およびすべてのアーティファクトの削除」](#)を参照してください。

---

**注意** POV を削除する前に EPM Workspace にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

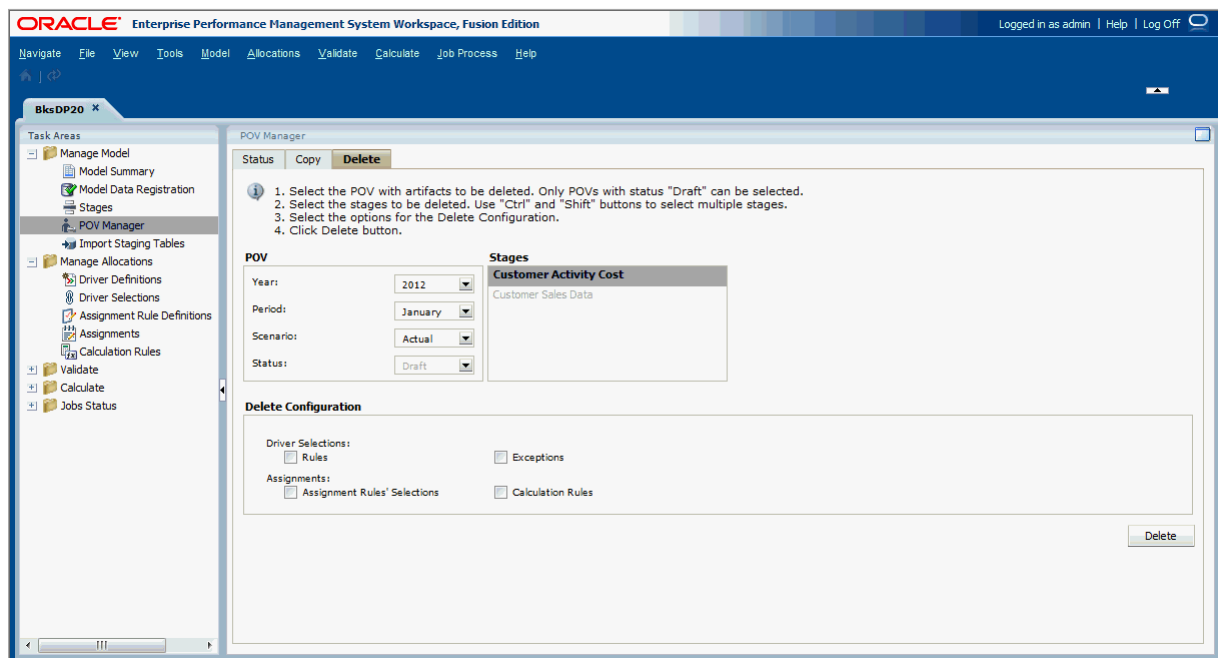
---

▶ 選択したオブジェクトを POV から削除するには:

- 1 他のユーザーがその POV と内容を必要としていないことを確認します。
- 2 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 3 「タスク領域」から「モデルの管理」、「POV マネージャ」の順に選択します。

「POV マネージャ」画面が表示されます。

#### 4 「削除」タブを選択します。



#### 5 「POV」で、削除するアーティファクトを含む POV を選択します。

#### 6 「ステージ」で、削除するアーティファクトを含むステージを選択します。

#### 7 「構成の削除」の下で、削除する構成の要素を選択します:

- 「ドライバの選択」(「ルール」または「例外」、あるいはその両方)
- 「割当て」(割当てルールの選択または「計算ルール」、あるいはその両方)。

#### 8 「削除」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

#### 9 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

選択したレコードが削除されます。選択の内容や削除されたレコード数など、操作の記録を確認するには hpcm.log を参照してください。

## 詳細 Profitability のステージング・テーブルのインポート

データとモデル情報は Profitability and Cost Management に直接入力できます;ただし、データの入力には多大な時間が必要になります。アプリケーションへ容易にデータを入力するには、一連のインポート・ステージング・テーブルとインポート構成を使用して、モデル定義(POV、ドライバ、ドライバ選択、割当てルールの選択、計算ルールなど)を Profitability and Cost Management へ直接インポートできます。

**注:** 次元、費用およびドライバ・データはステージング・テーブルからインポートできません。

モデル・データは複数のソースからインポートされます:

- モデル構造とメタデータ(メジャーと次元)は、Performance Management Architect から EPM Workspace を経由してインポートされます。
- モデル定義データはステージング・テーブルからインポートされます。
- モデル・データおよびアプリケーションは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理を使用してインポートできます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理ガイド』を参照してください。
- モデル・データは Oracle Enterprise Performance Management System を使用してインポートされます

---

**注意** データまたはアーティファクトをインポートする前に EPM Workspace にデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

---

ステージング・テーブルをインポートするには、インポートするテーブルを指定するインポート構成を作成する必要があります。構成は保存でき、同一のデータ・セットを何回もインポートするために利用できます。モデル全体をインポートする場合は、テーブル依存関係が存在していて適用されます;ただし、モデルのセクションのみをインポートする場合は、これらの依存関係は適用されません

ステージング・テーブルとインポート構成の作成手順の詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。



## この章の内容

詳細 Profitability 配賦について.....	249
詳細 Profitability のドライバと式の定義.....	249
詳細 Profitability ドライバの操作.....	259
バルク・エディタの操作.....	264
詳細 Profitability 割当てルール of 操作.....	271
詳細 Profitability での割当て of 操作.....	274
計算ルール of 操作.....	279

## 詳細 Profitability 配賦について

詳細 Profitability and Cost Management では、配賦により、モデル全体の値が特定の勘定科目または要素へどのように配分されるかを制御できます。各配賦の資金の計算方法を決定するため、ドライバが使用されます。モデル内の資金フローにあわせて、計算結果がソースから宛先に割り当てられます。

配賦の管理の詳細は、次の項を参照してください:

- 249 ページの「詳細 Profitability のドライバと式の定義」
- 251 ページの「詳細 Profitability ドライバの定義」
- 259 ページの「詳細 Profitability ドライバの操作」
- 264 ページの「バルク・エディタの操作」
- 271 ページの「詳細 Profitability 割当てルール of 操作」
- 274 ページの「詳細 Profitability での割当て of 操作」
- 279 ページの「計算ルール of 操作」

## 詳細 Profitability のドライバと式の定義

ドライバは、詳細 Profitability and Cost Management モデルにおけるオブジェクト間で配賦を制御する際に使用されます。ドライバは、割当て、ソース・データおよびドライバ・データとともに機能して、システム計算を制御する完全な命令とデータを構築します。

割当てがソースから宛先へのデータの方向を決定するのに対して、これらの割当てに関連するドライバは配賦の値を計算するために使用されます。ドライバは、ソース値を宛先に配賦する式を提供します。ドライバ・メジャーおよびドライバ

式では、変数を使用してモデル要素を表したり、算術オペランドを使用してドライバ値を計算できるため、モデルの柔軟性が向上します。ドライバは、ステージに直接は関連付けられません。

**注：** 配賦に使用されるドライバが変更または削除された場合には、モデルを再計算する必要があります。

モデルに必要な各ドライバについて、次のタスクを実行します：

- 事前定義済とカスタムどちらのドライバがアプリケーションに必要なかを決定します。303 ページの「[ドライバ操作タイプ](#)」を参照してください。
- SQL 構文に基づいてドライバ式を生成します。250 ページの「[ドライバ式](#)」を参照してください。
- 特定の順序でドライバを実行する場合には、251 ページの「[ドライバ優先度シーケンス](#)」を参照してください。
- 新しいドライバと、関連する式を定義します。251 ページの「[詳細 Profitability ドライバの定義](#)」を参照してください。
- 選択したメジャーにドライバを関連付けます。259 ページの「[詳細 Profitability ドライバの操作](#)」を参照してください。

## ドライバ式

ドライバ式には、宛先に転記される結果の計算に使用される変数、関数および数値のあらゆる組合せを含めることができます。式は、SQL 構文に従って数学的にも構文的にも正しくなければなりません。また、使用されるメジャーはその基準に基づいて検証されるとおり、モデル・データ登録に適切に登録されている必要があります。

各ドライバ・タイプには、キーボードと「挿入」ボタンを使用して「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスで作成されるドライバ式が含まれます。ドライバ値を計算するために作成される式には、単純なものから、条件ステートメントを含む複雑なものまであります。

「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスで、キーボードと「挿入」ボタンを使用して、値を計算するための SQL 式を構築します。

「挿入」ボタンを使用して、ソース・メジャーまたは宛先メジャーをドライバ式に追加することができます。ドライバ式は、=destination.headcount という単純な形でも、ソース・メジャーと宛先メジャー、数学関数、SQL でサポートされている関数などを組み合わせた複雑な形でも指定できます。

要素間に関数(オペランド)を使用して、式の計算を制御します。標準オペランドには、次のようなものがあります：

- 加算(+)
- 減算(-)
- 乗算(\*)
- 除算(/)

たとえば、「計算済メジャー」演算タイプの計算式は、次のように書かれます。

```
(Destination."MATERIALS_EXPENSE"+Destination."SALES_EXPENSE"+Destination."SERVICE_EXPENSE"  
+Destination."GENERAL_ADMIN_EXPENSE"+Destination."SHIPPING_EXPENSE")
```

具体的なコマンドと手順については、MS SQL のドキュメントを参照してください。

## ドライバ優先度シーケンス

ビジネス・モデルによっては、ドライバが1つ以上の計算済メジャーを式で使用することがあります。依存関係によって、制御されたシーケンスによる配賦の計算が必要な場合があります。優先度シーケンス・ドライバを使用することで、どの配賦を最初に計算するかを定義できます。

たとえば、ドライバ優先度を設定することで、ドライバ B を使用するソース A の前にドライバ A を使用するソース A が計算されるようにできます。

ドライバを定義するときは、「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスに「シーケンス優先度」を入力します。優先度の数値が小さいドライバに関連付けられているソースは、優先度の数値が大きいドライバに関連付けられているソースより先に解決されます。デフォルト値は 100 に設定されていますが、この値は変更できます。最も高い優先度は 1 です。シーケンス優先度は正の整数として入力する必要があります。同じ優先度のドライバに関連付けられているソースは、特定の順序では処理されません。

ドライバのシーケンス優先度を変更した場合は、計算順序が変更される可能性がありますので、モデルを再計算する必要があります。

## 詳細 Profitability ドライバの定義

ドライバの操作方法の詳細は、次の手順を参照してください:

- [251 ページの「比率ベースのドライバの操作」](#)
- [255 ページの「レートベースのドライバの操作」](#)
- [259 ページの「TBD 計算済メジャー・ドライバの操作」](#)

## 比率ベースのドライバの操作

比率ベースのドライバでは、次の式を使用してソースから宛先ステージへの配賦を実行できます:

ドライバ値の合計に対するドライバ値の比率

ソース/宛先の組合せごとにドライバ式の結果を計算し、ソース値を比率として宛先に配賦します。

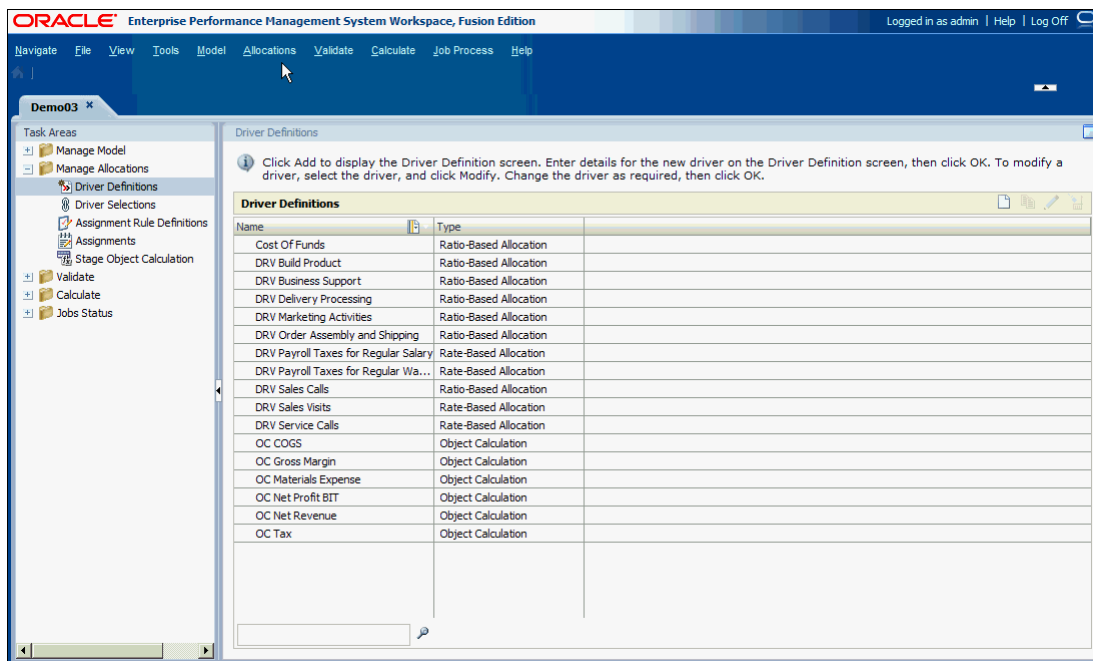
次の手順を参照してください:


- 252 ページの「比率ベースのドライバの定義」
- 254 ページの「比率ベースのドライバの変更」
- 254 ページの「比率ベースのドライバの削除」

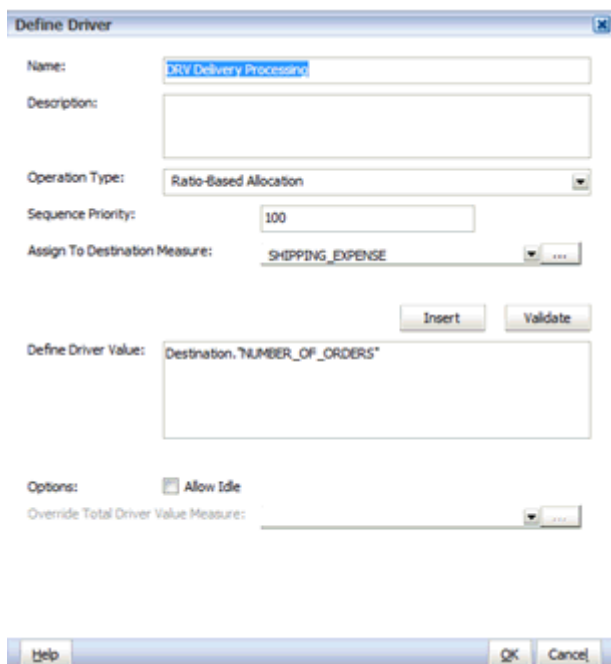
## 比率ベースのドライバの定義

▶ 比率ベースのドライバを定義するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。



- 3 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」 をクリックします。




- 4 「演算タイプ」で、「比率ベースの配賦」を選択します。
- 5 「名前」で、新しいドライバに一意の名前を入力します。

---

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

---

- 6 **オプション:** 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。
- 7 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。詳細は、[251 ページの「ドライバ優先度シーケンス」](#)を参照してください。
- 8 「宛先メジャーへの割当て」で、「参照」ボタン  をクリックし、ドライバが配賦値を書き込む宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。
- 9 「ドライバ値の定義」で、ドライバが実行されるとき「ドライバ値」の値を決定するドライバ式を入力します。


キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成できます。式には、ソースと宛先の組合せが必要です。ドライバ式は、=destination.headcount という単純な形でも、ソース・メジャーと宛先メジャー、数学関数、SQL でサポートされている関数などを組み合わせた複雑な形でも指定できます。

「挿入」セレクタを使用するには:

1. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクタを表示します。
2. ドロップダウン・リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

使用可能なメジャーのリストに選択が反映されます。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

3. 次元メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニュー  を使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。

**注:** 「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。


4. 「OK」をクリックします。

- 10 式を入力した後、「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。


- 11 **オプション:** このドライバでアイドル値を許可する場合には、「オプション」で、「アイドルを許可」を選択します。

このオプションを選択した場合に、ソースで上書きが検出されると、その値が比率の分母として使用されます。

- 12 **オプション:** 「アイドルを許可」を選択した場合は、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」で「参照」ボタンをクリックし、ソースで上書きが検出された場合に比率の分母として使用するメジャーを選択します。
- 13 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。
- 14 ドライバを1つまたは複数の次元メンバーに関連付けます。[259 ページの「詳細 Profitability ドライバの操作」](#)を参照してください。

## 比率ベースのドライバの変更

▶ 比率ベースのドライバを変更するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 「ドライバの編集」をクリックします。
- 4 「ドライバの定義」で、選択したドライバについて次のパラメータのいずれかを変更します:
  - 名前
  - 説明
  - 操作タイプ
  - シーケンス優先度
  - 宛先メジャーへの割当て

---

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

---

- 5 **オプション:** 「ドライバ値の定義」でドライバ式を変更し、「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。
- 6 **オプション:** 「オプション」で、「アイドルを許可」の選択と、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」を変更します。
- 7 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。


## 比率ベースのドライバの削除

---

**注意** ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択と複数ソース割当て計算ルールも削除されます。

---

▶ 比率ベースのドライバを削除するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 削除するドライバを選択します。
- 4 「ドライバの削除」をクリックします。
- 5 確認メッセージで「はい」をクリックすると、ドライバが削除されます。

## レートベースのドライバの操作

レートベースのドライバ・タイプは、次の式を使用してソースから宛先への単位レートとボリューム・ドライバの両方を計算し、その結果をドライバ定義で指定したメジャーの宛先に配賦します:

$\text{Driver Unit Rate (Currency)} * \text{Volume Parameter}$

この結果を貸借一致に使用し、未割当ての値が決定されます。配賦された値の合計がソースの入力値より大きい場合には、オーバードライブ量のメジャーでその差異が取得されます。

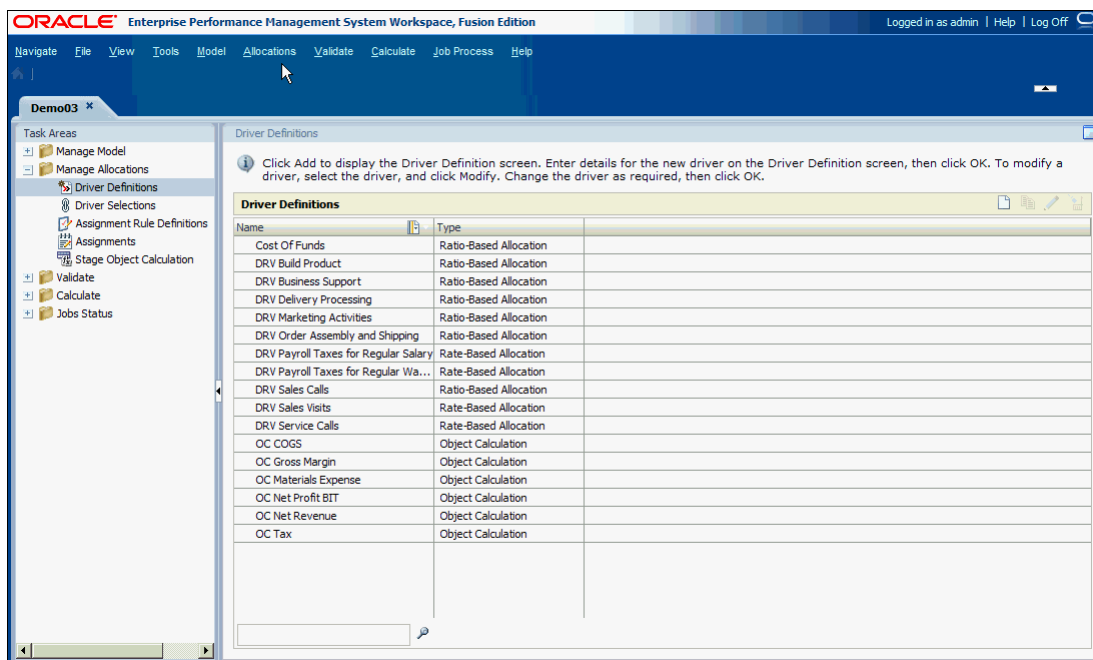
次の手順を参照してください:


- [255 ページの「レートベースのドライバの定義」](#)
- [258 ページの「レートベースのドライバの変更」](#)
- [259 ページの「レートベースのドライバの削除」](#)

## レートベースのドライバの定義

▶ レートベースのドライバを定義するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。  
「ドライバ定義」ウィンドウが表示されます。



- 3 「ドライバ定義」で、「新規ドライバの追加」をクリックします。  
「ドライバの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。


- 4 「演算タイプ」で、「レート・ベースの配賦」を選択します。  
5 「名前」で、新しいドライバに一意的名前を入力します。

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

- 6 オプション: 「説明」で、ドライバの目的に関する簡単な説明を入力します。



7 「シーケンス優先度」で、計算の優先度を正の整数で入力します。デフォルトでは、100が表示されます。最も高い優先度は1です。詳細は、[251 ページの「ドライバ優先度シーケンス」](#)を参照してください。

8 「宛先メンバーへの割当て」で、「参照」ボタンをクリックし、ドライバが配賦値を書き込む宛先メジャーを選択して「OK」をクリックします。

**注：** 参照メジャーが「宛先メジャーへの割当て」で選択されると、対応する検証エラーが「モデル検証」の「ドライバ」タブに表示されます。

9 「レートの定義」で、式(レート\*ボリューム)に適用するレートを入力します。


実際のレートを入力することも、キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成することもできます。

「挿入」セレクトを使用するには:

1. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトを表示します。
2. ドロップダウン・リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

「使用可能なメジャー」のリストは、その場所のリストで選択した内容によって異なります。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

3. 次元メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニューを使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。

**注：** 「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。

4. 「OK」をクリックします。

10 式を入力して「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

11 「ボリュームの定義」で、式(レート\*ボリューム)で使用するボリュームを入力します。


具体的なボリュームを入力することも、キーボードと「挿入」ボタンを使用して式を作成することもできます。

「挿入」セレクトを使用するには:

1. 「挿入」をクリックし、ドライバに使用可能なメジャーの「挿入」セレクトを表示します。
2. リストからモデル内のステージを選択します。このステージにメジャーが「ソース」または「宛先」を適用します。

「使用可能なメジャー」のリストは、その場所のドロップダウン・リストで選択した内容によって異なります。たとえば、「ソース」を選択した場合は、ソース・メジャーのみが表示されます。

3. 次元メンバー・リストから、式のメジャーを選択します。

コンテキスト・メニュー  を使用して、メンバーの表示をフィルタまたは変更します。

**注：**「フィルタ」と「ソート」は、「グリッド・ビュー」を選択したときにのみ使用できます。

4. 「OK」をクリックします。

## 12 式を入力して「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

## 13 「OK」をクリックして、新しいドライバを保存します。

## 14 ドライバを1つまたは複数の次元メンバーに関連付けます。259 ページの「[詳細 Profitability ドライバの操作](#)」を参照してください。

## レートベースのドライバの変更

▶ レートベースのドライバを変更するには:

### 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを変更するアプリケーションを選択します。

### 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。

### 3 「ドライバの編集」 をクリックします。

### 4 選択したドライバについて、次のパラメータのいずれかを変更します:

- 名前
- 説明
- 操作タイプ
- シーケンス優先度
- 宛先メンバーへの割当て

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

### 5 オプション: 「レートの定義」で式のレートを変更し、「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。続行する前にエラーを処理します。

### 6 オプション: 「ボリュームの定義」で式のボリュームを変更し、「検証」をクリックします。

SQL ドライバ式が検証され、成功メッセージが表示されます。エラーは、続行する前に対処する必要があります。

7 「OK」をクリックして、変更したドライバを保存します。

変更したドライバを計算結果に適用する場合は、モデルを再計算する必要があります。


## レートベースのドライバの削除

---

**注意** ドライバを削除すると、削除されたドライバを使用したすべてのドライバの選択も削除されます。

---

▶ レートベースのドライバを削除するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、削除するドライバを含むアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 「ドライバ定義」で、削除するドライバを選択します。
- 4 「削除」 をクリックします。
- 5 確認メッセージで「はい」をクリックすると、ドライバが削除されます。

## TBD 計算済メジャー・ドライバの操作

### 詳細 Profitability ドライバの操作

ドライバは、作成後、適用する次元メンバーに割り当てる必要があります。ソース・ステージには、最大5つの次元が使用できます。

値を配賦するには、値が含まれる交差にドライバを関連付ける必要があります。割当てまたは割当てルールを含む交差に対してドライバが割り当てられていないと、モデルの検証時に「欠落しているドライバ割当て」というエラーが作成されます。

- [260 ページの「詳細 Profitability ドライバの選択」](#)
- [262 ページの「単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の作成」](#)
- [263 ページの「詳細 Profitability ドライバの選択の削除」](#)
- [264 ページの「単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の削除」](#)
- [265 ページの「単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加」](#)
- [268 ページの「複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除」](#)

### 複製ドライバの作成

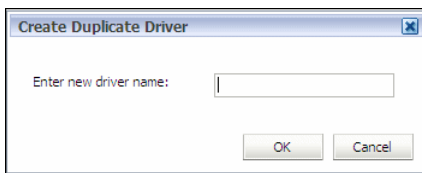
「ドライバの複製の作成」オプションを使用すると、既存のドライバ定義をコピーし、ドライバに新しい名前を割り当てることができます。ドライバのタイプで記載したように、コピーは必要に応じて変更できます。

このオプションを使用することにより、「ドライバ定義」ダイアログ・ボックスを再度開かなくても多くの類似ドライバを迅速に作成できるようになりました。

▶ 既存のドライバ定義から新しいドライバを作成するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ドライバを作成するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバ定義」の順に選択します。
- 3 新しいドライバ定義のテンプレートとして使用するドライバを選択します。  
任意のドライバのタイプを選択できます。

- 4 「ドライバの複製の作成」をクリックします。



- 5 新しいドライバの名前を入力し、「OK」をクリックします。

新しいドライバが「ドライバ定義」のリストに追加され、ドライバのタイプと情報は元のドライバと同じになります。

---

**注意** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をドライバ名に使用しないでください。インポート操作が失敗する原因になることがあります。最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

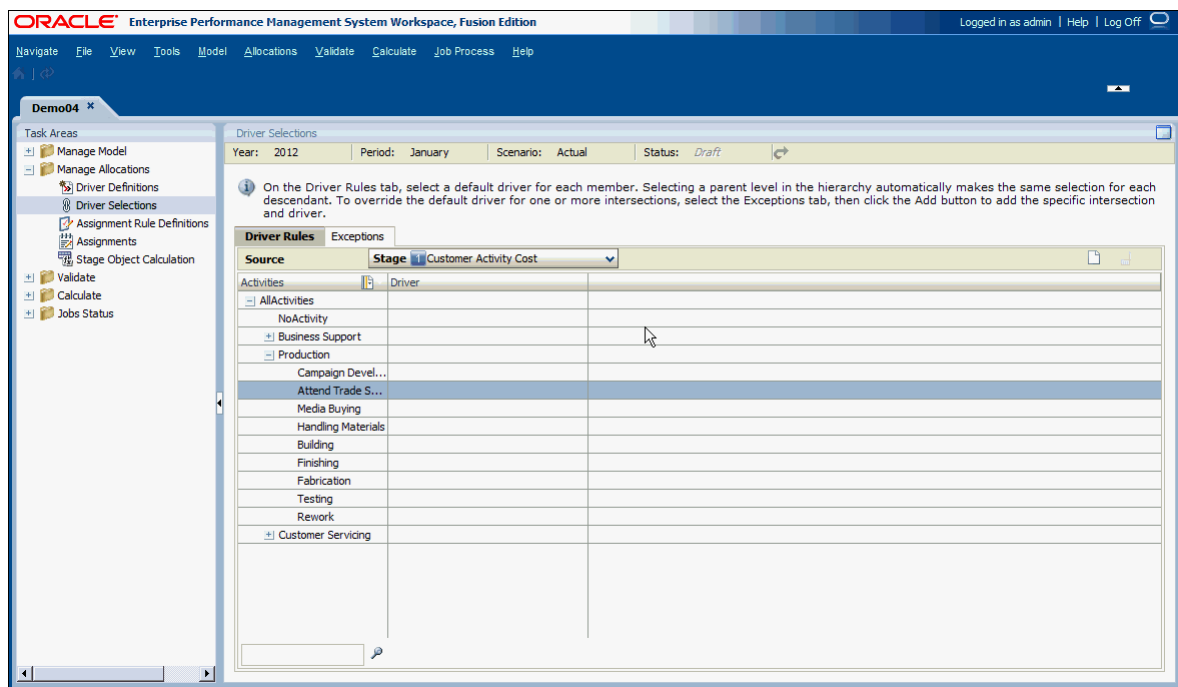
---




- 6 必要に応じて、ドライバを変更します。

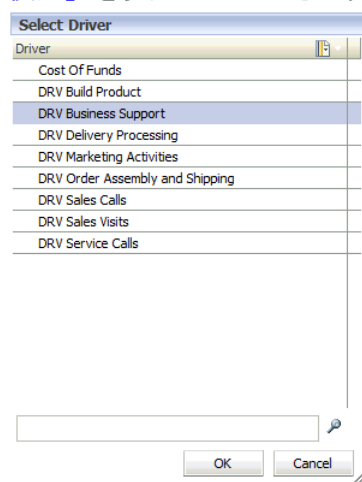
## 詳細 Profitability ドライバの選択

▶ ドライバを割り当てるには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。




- 3 POV を選択して、「POV ステータスのロード」  をクリックします。
- 4 「ドライバ・ルール」タブの「ソース」で、選択したソース・ステージを表示します。  
 選択したステージのドライバ次元が最初の列に表示され、ドライバ次元内のすべての次元メンバーがその下にリストされます。
- 5 次元の下で、デフォルト・ドライバを適用する次元メンバーを選択します。親レベルは、ステージまたは階層の一部の親になります。
- 6 「ドライバ」で、セルをダブルクリックしてセレクタ・ボタン  を表示するか、「追加」  をクリックして、共通メンバー・セレクタから次元メンバーのドライバを選択し、「OK」をクリックします。24 ページの「共通メンバー・セレクタの使用」を参照してください。



ドライバが親に適用されると、同じドライバが自動的にすべての子孫に継承されます。

- 7 「オプション:」 継承されたドライバ以外のドライバをメンバーに対して選択するには、次の手順を行います:


1. 親次元メンバーを展開します。
2. 異なるドライバを必要とするメンバーを選択します。
3. 「ドライバ」で、セルをダブルクリックしてセクタ・ボタンを表示するか、「追加」をクリックして、共通メンバー・セクタから選択した次元メンバーの代替ドライバを選択し、「OK」をクリックします。24 ページの「共通メンバー・セクタの使用」を参照してください。

ドライバの選択が自動的に保存されます。

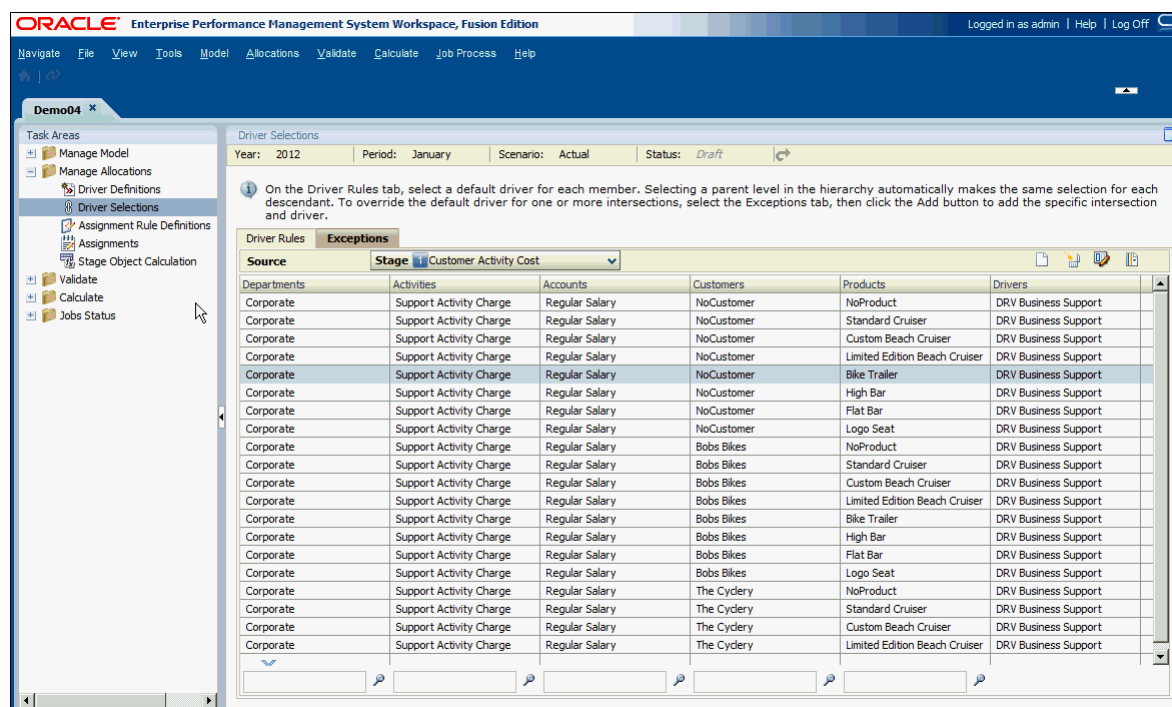
- 8 オプション: 単一の交差にドライバを設定するには、262 ページの「単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の作成」を参照してください。

## 単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の作成

▶ 単一交差のドライバを選択するには:


- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- 3 「POV」を選択し、「実行」をクリックします。
- 4 「例外」タブを選択します。

「ソース」の下に、ソース・ステージが表示されます。




The screenshot shows the Oracle Enterprise Performance Management System Workspace, Fusion Edition. The main window is titled "Driver Selections" and displays a grid of data under the "Exceptions" tab. The grid has columns for Source, Stage, Customer Activity Cost, Departments, Activities, Accounts, Customers, Products, and Drivers. The data rows show various combinations of these attributes, such as Corporate, Support Activity Charge, Regular Salary, NoCustomer, and NoProduct, leading to Drivers like DRV Business Support.

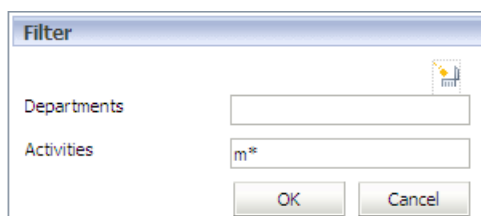
Source	Stage	Customer Activity Cost	Departments	Activities	Accounts	Customers	Products	Drivers
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	NoProduct				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Standard Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Custom Beach Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Limited Edition Beach Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Bike Trailer				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	High Bar				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Flat Bar				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Logo Seat				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoProduct	NoProduct				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Standard Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Custom Beach Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Limited Edition Beach Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Bike Trailer				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	High Bar				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Flat Bar				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Logo Seat				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	NoProduct				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Standard Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Custom Beach Cruiser				DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Limited Edition Beach Cruiser				DRV Business Support

- 5 オプション: 「例外」タブで「グリッド・オプション」をクリックすると、使用可能なドライバの例外のリストをフィルタ処理できます。

1. 必要に応じて、「別名の表示」または「名前の表示」を選択します。


2. 「フィルタ」  をクリックして、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。
3. 1つ以上の次元に対するフィルタ条件を入力します。

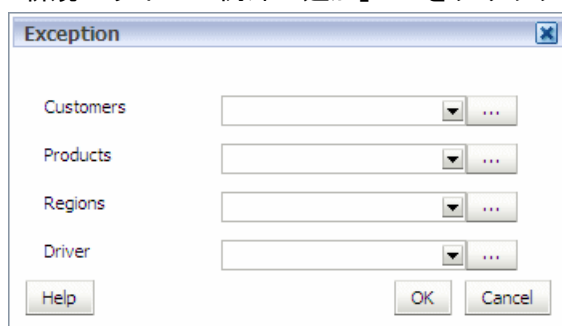
必要なメンバーの正確な名前または別名を入力するか、メンバーの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、"M"の文字で始まる次元のすべてのメンバーを検索するには、"M\*"と入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。




The image shows a dialog box titled "Filter". It has two input fields: "Departments" and "Activities". The "Activities" field contains the text "m\*". There are "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

4. 「OK」をクリックします。  
フィルタ条件を満たすアイテムのみが「例外」タブに表示されます。

- 6 「新規ドライバの例外の追加」  をクリックします。



The image shows a dialog box titled "Exception". It has four dropdown menus labeled "Customers", "Products", "Regions", and "Driver". Each dropdown menu has a small "..." button to its right. There are "Help", "OK", and "Cancel" buttons at the bottom.



- 7 「例外」ダイアログ・ボックスに一覧表示された各次元で、セクタ・ボタン  をクリックし、例外ドライバを適用する必要がある特定の交差に必要なメンバーを選択します。  
[24 ページの「共通メンバー・セクタの使用」](#)を参照してください。
- 8 「ドライバ」で、交差の例外ドライバを選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

## 詳細 Profitability ドライバの選択の削除

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

▶ 選択したドライバを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。



- 3 POV を選択し、「実行」  をクリックします。  
「ドライバ・ルール」タブの「ソース」で、ソース・ステージが選択されます。
- 4 削除するドライバの選択が含まれる行を選択します。
- 5 「ドライバ・ルールの削除」  をクリックします。
- 6 「はい」をクリックして、ドライバの削除を確認します。

## 単一の交差に対する詳細 Profitability ドライバの選択の削除

削除する交差を選択します。その交差全体が「例外」タブから削除されます。

ドライバの選択を削除した後、新しいドライバを選択しないと、ドライバの選択がない割当てが存在することを示すエラーが検証中に報告されます。

▶ 単一交差のドライバの選択を削除する手順は、次のとおりです:

- 1 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。
- 2 POV を選択し、「実行」  をクリックします。
- 3 「例外」タブを選択します。  
「ソース」の下で、ソース・ステージが選択されます。
- 4 削除する交差を選択します。
- 5 「ドライバ例外の削除」  をクリックします。
- 6 「はい」をクリックして削除を確認します。

## バルク・エディタの操作

「ドライバの選択」、「例外」または「割当て」画面のバルク・エディタを使用すると、個々に作成しなくても複数のドライバ選択や割当てを簡単かつ効率的に作成できます。

バルク編集は、ドライバと割当ての両方に対して実行できます。バルク編集は1回かぎり使用するもので、保存されません。生成したバルク編集を再実行することはできません。操作ごとに新しいバルク編集を作成する必要があります。

---

**注意** 意図した更新をバルク編集では実行できない場合、ステージをクリアして再構築することができます。

---

バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成する必要があります。

次の手順を参照してください:



- 265 ページの「単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加」
- 268 ページの「複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除」
- 269 ページの「複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加」
- 270 ページの「複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除」

## 単一ドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加

バルク・エディタを使用して、1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールに追加します。

▶ バルク編集を使用してドライバの選択を追加するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- 3 「例外」タブを選択します。

The screenshot shows the Oracle EPM Workspace Fusion Edition interface. The main window is titled "Driver Selections" and displays a table of driver rules. The table has the following columns: Source, Stage, Accounts, Customers, Products, and Drivers. The data rows show various combinations of these categories, such as Corporate, Support Activity Charge, Regular Salary, NoCustomer, and Standard Cruiser. A "Bulk Editor" icon is visible at the bottom of the table.

Source	Stage	Accounts	Customers	Products	Drivers
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support

- 4 「バルク・エディタを開く」  をクリックします

Step 1: Select Edit Type

Edit Type:

Comment:


< Back   Next >   Cancel

- 5 オプション: 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
- 6 「編集タイプ」で「ドライバの追加」を選択し、「次」をクリックします。

Step 2: Select Sources

Available Source Rules:		Selected Source Rules:	
Name	Search Tag	Name	
Apply All Building Activities		Apply All Building Activities	
Apply DRV Sales Order Proc			
Apply Ship and Order Assembly			
Apply Business Support Driver			
Apply Coop Funds			
Apply Marketing Drivers			
Apply Service Calls			
Apply Sales Calls			
Apply Handle Materials			➤
Apply Rework			⬅
Apply Fabrication			⬅
Apply Testing			⬅
Apply Sales Visits			
Test Caos			
Test Caos 2			

< Back   Next >   Cancel

- 7 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」から、選択したドライバを適用するソース・ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。
- 8 オプション: 「情報」 をクリックすると、選択したステージ・ルールの説明が表示されます。
- 9 「次」をクリックします。

Step 3: Define Edit

Available Drivers:	Selected Driver:
Name	Name
Cost Of Funds	DRV Build Product
DRV Build Product	
DRV Business Support	
DRV Delivery Processing	
DRV Marketing Activities	
DRV Order Assembly and Shipping	
DRV Sales Calls	
DRV Sales Visits	
DRV Service Calls	

< Back   Next >   Cancel

- 10 「編集の定義」の「使用可能なドライバ」で、バルク編集に関連付けるドライバの名前を選択します。選択できるドライバは1つのみです。
- 11 選択したドライバを矢印キーで「選択済ドライバ」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したドライバが適用される選択済ソースが表示されます。
- 「次のドライバの追加」に、選択したソースに適用されるドライバが表示されます。

Step 4: Summary

For these Sources:	Add this Driver:
Name	Name
Apply All Building Activities	DRV Build Product

< Back   Finish   Cancel

12 「終了」をクリックします。

選択したソース・ルールによって定義されたソースは、選択したドライバで更新されます。

13 **オプション:** バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 複数ソース・ステージ・ルールのドライバの削除

バルク・エディタを使用して、1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールから削除します。

▶ 1つのドライバを複数のソース・ステージ・ルールから削除するには:

1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。

3 「例外」タブを選択します。


4 「バルク・エディタを開く」 をクリックします

5 **オプション:** 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。

6 「編集タイプ」で「ドライバの削除」を選択し、「次」をクリックします。

7 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」で、バルク編集を適用するステージ・ルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

- **オプション:** 「ステージ全体の選択」をクリックし、ステージ上のすべてのノード交差を選択します。

- **オプション:** 「情報」 をクリックすると、選択したステージ・ルールの説明が表示されます。

8 「次」をクリックします。

9 「編集の定義」の「使用可能なドライバ」で、削除するドライバを選択します。

「すべてのドライバの削除」をクリックすると、削除するドライバをすべて選択できます。

10 選択したドライバを矢印キーで「選択済ドライバ」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したドライバが削除される元の選択済ソースが表示されます。

- 「次のドライバの削除」に、削除するドライバが表示されます。

11 「終了」をクリックします。

**注意** バルク編集による削除を実行するときは、十分に気をつけてください。「終了」をクリックしたときにも削除確認は表示されず、バルク編集による削除を取り消す機会がありません。ソース・ステージ・ルールで定義されたソースから選択されたドライバは、すぐに削除されます。

12 **オプション:** バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。


## 複数ソース・ステージ・ルールへの割当てルールの追加

バルク・エディタを使用して、宛先ステージ・ルールを複数ソース・ステージ・ルールに追加します。

▶ 宛先ステージ・ルールを複数ソース・ステージ・ルールに追加するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「ドライバの選択」の順に選択します。
- 3 「例外」タブを選択します。

Source	Stage	Customer Activity Cost	Departments	Activities	Accounts	Customers	Products	Drivers
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	NoCustomer	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Bike Trailer	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	High Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Flat Bar	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Bobs Bikes	Logo Seat	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	NoProduct	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Standard Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Custom Beach Cruiser	DRV Business Support
Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	Corporate	Support Activity Charge	Regular Salary	The Cyclery	Limited Edition Beach Cruiser	DRV Business Support

- 4 「バルク・エディタを開く」  をクリックします
- 5 **オプション:** 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
- 6 「編集タイプ」で「割当てルールの追加」を選択し、「次」をクリックします。

- 7 「ソースの選択」タブの「使用可能なソース・ルール」から、追加するソース・ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。

「情報」 をクリックすると、選択した割当てルールの説明が表示されます。

- 8 「次」をクリックします。

手順 3: 「編集の定義」が表示されます。

- 9 「編集の定義」タブの「使用可能な宛先ルール」から、追加する宛先ステージ割当てルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済宛先ルール」列に移動します。

- 10 「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択したソース割当てルールが表示されます。
- 「次の宛先ルールの追加」で、選択した宛先割当てルールが表示されます。

- 11 「終了」をクリックします。


選択したソース・ステージが更新されます。


- 12 **オプション:** バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 複数ソース・ステージ・ルールの割当てルールの削除

バルク・エディタを使用して、複数ソース・ステージ・ルールから割当てルールの削除を行います。

▶ 複数ソース・ステージ・ルールから割当てルールの削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「ドライバの選択」を選択します。
- 3 「例外」タブを選択します。
- 4 「バルク・エディタを開く」 をクリックします
- 5 **オプション:** 「編集タイプの選択」の「コメント」に、バルク編集の説明的な名前を入力します。この名前は「ジョブ・ライブラリ」画面で、選択したバルク編集タスクに表示されます。
- 6 「編集タイプ」で「割当てルールの削除」を選択し、「次」をクリックします。  
手順 2: 「ソースの選択」が表示されます。
- 7 「ソースの選択」の「使用可能なソース・ルール」で、削除するステージ・ルールを選択し、矢印キーを使用して「選択済ソース・ルール」列に移動します。
  - **オプション:** 「ステージ全体の選択」をクリックし、ステージ上のすべてのノード交差を選択します。

- **オプション:** 「情報」  をクリックすると、選択したステージ・ルール  
の説明が表示されます。

8 「次」をクリックします。

9 「編集の定義」タブの「使用可能なドライバ」で、削除する宛先割当てルールを選択します。

「すべてのルールの削除」をクリックすると、使用可能な宛先割当てルールをすべて削除対象として選択できます。

10 選択した宛先割当てルールを矢印キーで「選択済宛先ルール」に移動し、「次」をクリックします。

「バルク編集」の「要約」画面が表示されます:

- 「次のソースの場合」に、選択した選択済宛先ルールが削除される元の選択済ソースが表示されます。
- 「次の割当てルールの削除」で、削除する宛先割当てルールが表示されず。

11 「終了」をクリックすると、選択した割当てルールが削除されます。

---

**注意** バルク編集による削除を実行するときは、十分に気をつけてください。「終了」をクリックしたときにも削除確認は表示されず、バルク編集による削除を取り消す機会がありません。ソース・ステージ・ルールで定義されたソースから選択された割当てルールは、すぐに削除されます。

---

12 **オプション:** バルク更新の結果を表示するには、データベースのレポートを生成します。

## 詳細 Profitability 割当てルールの操作

割当てルールは、計算結果が転記される宛先を定義します。同じパラメータを使用する複数の割当てがモデルに含まれていることがよくあります。類似する複数の割当てを簡単に作成するには、割当てパラメータを指定する割当てルールを作成し、再利用します。

割当てルールは、メンバー・セットとオプションのフィルタ・セットの集合です。フィルタは、次元に適用される条件の集合です。次の1つ以上の条件に基づいて、割当てルールが作成されます:

- 次元階層の特定のブランチ内のメンバーシップ
- メンバー名
- メンバーの別名

「割当てルールの定義」画面から使用可能な割当てルール・ウィザードでは、割当てルールを作成できます。個々のソース割当てルールの選択を作成するか、またはバルク・エディタを使用して、「割当て」画面から一度に多くの割当てルールの選択を作成することができます。264 ページの「バルク・エディタの操作」を参照してください。





割当てルールは個々の割当てを多数作成したり管理する労力を削減する一方、時間経過によるメタデータの変更にも対応しています。これにより、ルール定義で取り込んだ元のビジネス・ロジックが正しい割当て関係を継続して生成できるようになります。

次の手順を参照してください:

- [272 ページの「割当てルールの作成」](#)
- [273 ページの「詳細 Profitability 割当てルールの複製」](#)
- [273 ページの「割当てルールの変更」](#)
- [274 ページの「割当てルールの削除」](#)

## 割当てルールの作成

▶ 割当てルールを作成するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。  
「割当てルールの定義」画面が表示され、既存の割当てルールの「名前」、「説明」、「ステージ」、「検索タグ」と、作成者の ID が表示されます。
- 3 「新規割当てルールの追加」  をクリックします。
- 4 「割当てルール」ダイアログ・ボックスの「名前」に、新しい割当てルールの名前を入力します。
- 5 「ステージ」で、割当てルールのステージを選択します。  
関連付けられた次元が、「次元の選択」に表示されます。
- 6 オプション: 「説明」で、新しい割当てルールの目的や内容について説明を入力します。
- 7 オプション: 後でルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。
- 8 「次元の選択」で、選択したステージの次元を確認します。
- 9 「定義済メンバー」列で、メンバーを定義する次元のセルをクリックします。  
選択した次元のメンバーが「次元メンバーの選択」に表示されます。「コンテキスト・メニュー」ボタン  を使用して、ビューの変更や、次元メンバーのリストのフィルタまたはソートを行います。
- 10 「次元メンバーの選択」で、新しい割当てルールに含めるメンバーを選択し、「追加」矢印アイコン  をクリックして「選択済次元メンバー」列に移動します。  
「フィルタ」  をクリックして、必要な場合は、選択した 0 レベル以外のメンバーをフィルタします。[27 ページの「フィルタの使用」](#)を参照してください。非 EPMA 次元は、「データ・フィルタ」タブで確認できます(宛先割当てルールの場合)。
- 11 「OK」をクリックします。




「割当てルールの定義」に割当てルールが追加されます。

## 詳細 Profitability 割当てルールの複製

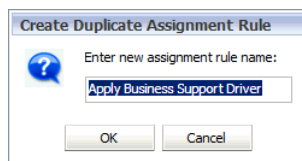
類似の割当てルールを簡単に作成するために、既存の割当てルールを複製して編集することで新しい割当てルールを作成することができます。

▶ 割当てルールを複製するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。  
「割当てルールの定義」画面が表示され、既存の割当てルールの「名前」、「説明」、「ステージ」、「検索タグ」と、作成者の ID が表示されます。
- 3 新しい割当てルールのテンプレートとして使用する割当てルールを選択します。

- 4 「ルールの複製の作成」をクリックします。

「割当てルールの複製の作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 5 「割当てルールの複製の作成」ダイアログ・ボックスで、新しい割当てルールの名前を入力し、「OK」をクリックします。

複製された割当てルールが「割当てルールの定義」画面の「割当てルールの定義」リストに追加されます。

- 6 必要に応じて新しい割当てルールを変更します。[273 ページの「割当てルールの変更」](#)を参照してください。

## 割当てルールの変更

▶ 割当てルールを変更するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。
- 3 「割当てルールの定義」画面で、変更する割当てルールを選択します。

- 4 「割当てルールの編集」をクリックします。

- 5 「割当てルール」ダイアログ・ボックスで、次の要素を変更します。

- 名前
- 説明
- 検索タグ


- 次元メンバーの選択
- データ・フィルタ(宛先の割当てルール用)
- カスタム SQL フィルタ([宛先の割当てルール用])

#### 6 「OK」をクリックします。

変更した割当てルールが保存され、「割当てルールの定義」画面のリストに表示されます。

## 割当てルールの削除

▶ 割当てルールを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当てルールの定義」の順に選択します。
- 3 「割当てルールの定義」画面で、削除する割当てルールを選択します。
- 4 「割当てルールの削除」  をクリックします。

---

**注意** ルールとルール選択が削除されるため、割当てルールを削除すると、モデル・データの計算に影響があります。

---

- 5 「確認」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックし、割当てルールの削除を確定します。

選択した割当てルールが削除され、「割当てルールの定義」画面の「割当てルールの定義」リストからなくなります。

## 詳細 Profitability での割当ての操作

割当ては、ソースから宛先へのデータのフローを定義します。各割当ては、選択したソース・ステージと、割当ての宛先に割り当てられるソース値から結果への計算を実行するドライバとの組合せです。

詳細 Profitability では、ソース交差を1つ以上の割当てルールにマッピングすることによって割当ての宛先が定義されます。明示的に定義される宛先は、詳細 Profitability ではサポートされません。また、複数回使用できる割当てルールを作成することもできます。271 ページの「[詳細 Profitability 割当てルールの操作](#)」を参照してください。

割当ての操作方法の詳細は、次の項を参照してください:


- [275 ページの「割当ての作成」](#)
- [279 ページの「割当ての削除」](#)

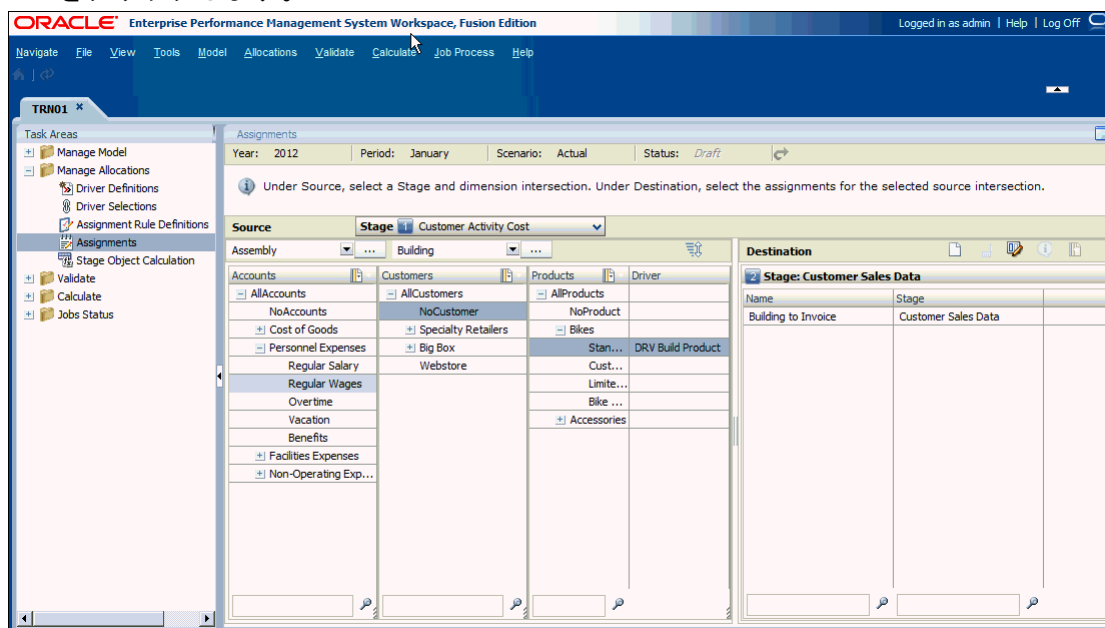
## 割当ての作成

要素を見落とすことがないように、プロセスまたは配賦に使用するすべての割当てを順番に作成することをお勧めします。すべての割当てを作成後、モデルの構造を検証し、必要なドライバ選択が欠落していないことを確認します。

▶ 割当てを作成するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」>「割当て」を選択します。
- 3 「割当て」画面で、選択したモデルの POV を選択し、「POV ステータスのロード」

 をクリックします。




- 4 「ソース」で、各次元からメンバーを選択し、割当てのソースの交差を作成します。ソース・ステージがあらかじめ選択されます。


ソース・ステージの最初から2つの次元が、表示されている次元のすぐ上に表示され、ソース・ステージの最後の3つの次元は完全なメンバー・リストとともに表示されます。


**注:** 階層のメンバーを検索するには、列の下部にあるテキスト・ボックスにメンバー名を入力し、「検索」をクリックします。

- 5 オプション: 「割当て」画面に表示される次元を並べ替えるには、「次元の並替え」


 をクリックします。

矢印キーを使用して、次元を必要な順序で上下に移動させ、「OK」をクリックします。元の順序に戻すには、「デフォルトの順序を使用」をクリックします。

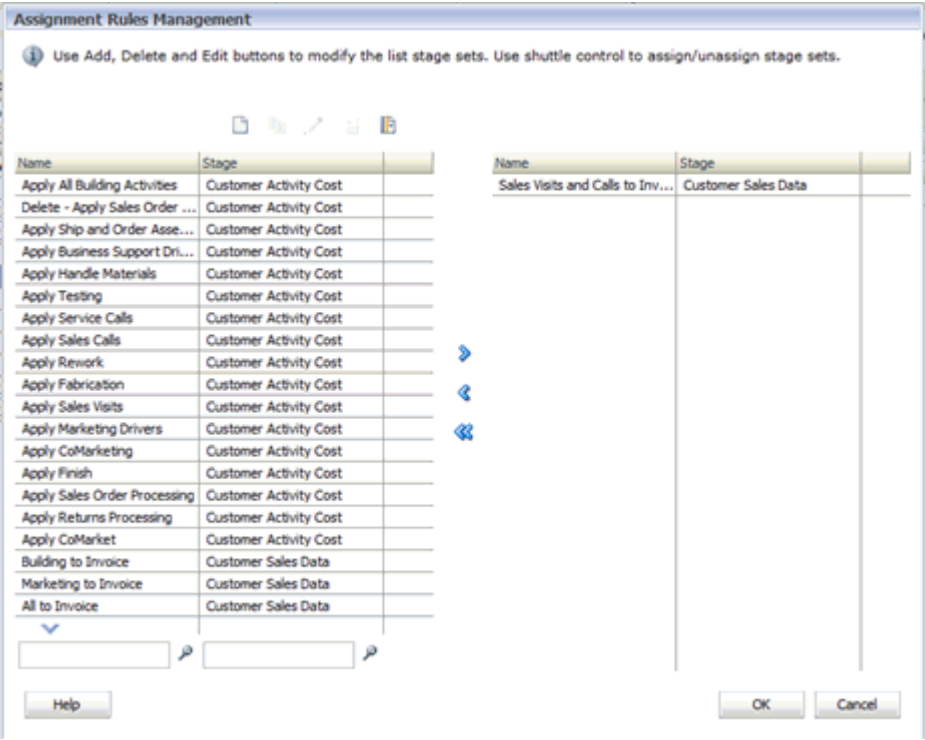
- 6 オプション: 「宛先」の下で「メンバー・セレクタ」 を選択すると、使用可能な宛先のリストをフィルタ処理できます:

1. 「フィルタ」  を選択して、「フィルタ」ダイアログ・ボックスを表示します。
2. 「名前」または「ステージ」にフィルタ条件を入力し、「OK」をクリックします。

必要なアイテムの正確な名前を入力するか、アイテムの範囲を選択するワイルドカードとして末尾にアスタリスク(\*)を使用する、または任意の1文字を選択する疑問符(?)を末尾に使用します。たとえば、文字"M"で始まるすべての宛先割当てルールを検索するには、「名前」フィールドに"M\*"を入力します。文字の前にアスタリスクを入力しても(たとえば"\*M")機能しません。


- 7 「宛先」で、「割当てルール管理を開く」  をクリックします。

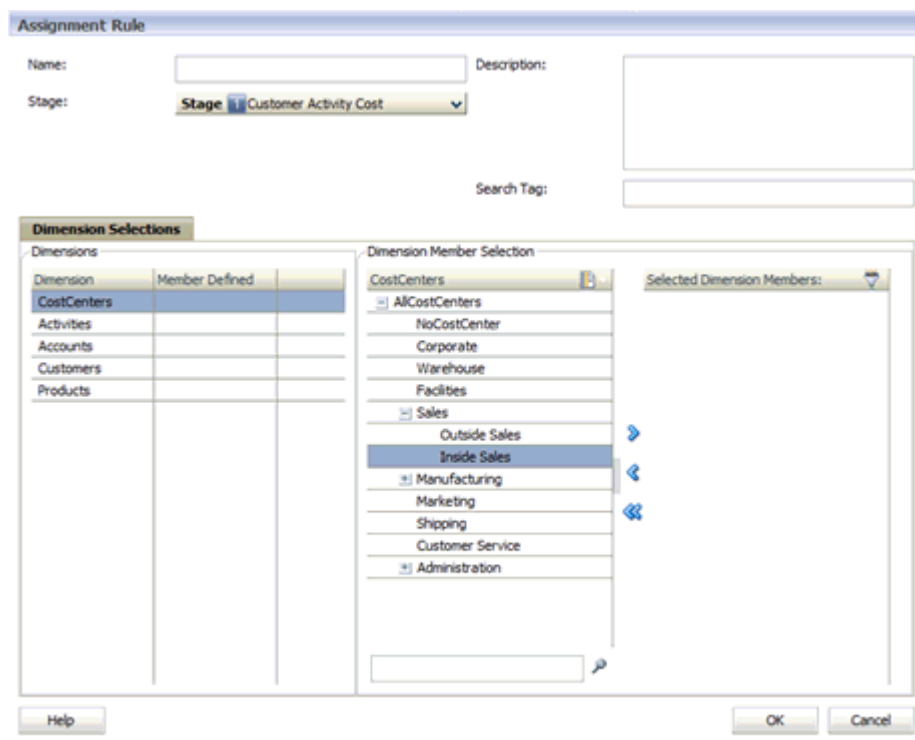
複数の割当てルールを追加するには、[264 ページの「バルク・エディタの操作」](#)を参照してください。



Name	Stage
Apply All Building Activities	Customer Activity Cost
Delete - Apply Sales Order ...	Customer Activity Cost
Apply Ship and Order Asse...	Customer Activity Cost
Apply Business Support Dri...	Customer Activity Cost
Apply Handle Materials	Customer Activity Cost
Apply Testing	Customer Activity Cost
Apply Service Calls	Customer Activity Cost
Apply Sales Calls	Customer Activity Cost
Apply Rework	Customer Activity Cost
Apply Fabrication	Customer Activity Cost
Apply Sales Visits	Customer Activity Cost
Apply Marketing Drivers	Customer Activity Cost
Apply CoMarketing	Customer Activity Cost
Apply Finish	Customer Activity Cost
Apply Sales Order Processing	Customer Activity Cost
Apply Returns Processing	Customer Activity Cost
Apply CoMarket	Customer Activity Cost
Building to Invoice	Customer Sales Data
Marketing to Invoice	Customer Sales Data
All to Invoice	Customer Sales Data

Name	Stage
Sales Visits and Calls to Inv...	Customer Sales Data

- 8 「割当てルール管理」画面で、「新規割当てルールの追加」  をクリックします。  
[272 ページの「割当てルールの作成」](#)を参照してください。



9 「割当てルール」画面で、新しい割当てルールの詳細を入力します。

- 「名前」に、新しい割当てルールの名前を入力します。
- 「ステージ」から、ステージを選択します。
- オプション: 「説明」で、新しい割当てルールの目的について説明を入力します。
- オプション: 後で割当てルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。

10 「次元」と「次元の選択」で、矢印キーを使用して次元メンバーを「選択済次元メンバー」列に移動します。

11 「オプション:」 「データ・フィルタ」タブで宛先ステージをフィルタ処理するには:

1. 「ステージ」から、宛先ステージを選択します。  
「データ・フィルタ」タブが表示されます。
2. 「データ・フィルタ」タブをクリックします。

Assignment Rule

Name:  Description:

Stage: **Stage** Customer Sales Data

Search Tag:

Dimension Selections **Data Filters**

Columns

Use Custom Filter

Dimension	Member Defined
Co-Marketing Expense	✓
Cost of Accounts Receivable	
Cost of Goods Sold	
Discount Amount	
Discount Rate	
Extended List	
General and Admin Expense	
Gross Margin	
Gross Profit	
Interest Expense	
Item List	
Materials Expense	
Net Profit	
Non-Operating Expense	
Operating Expense	
Operating Profit	

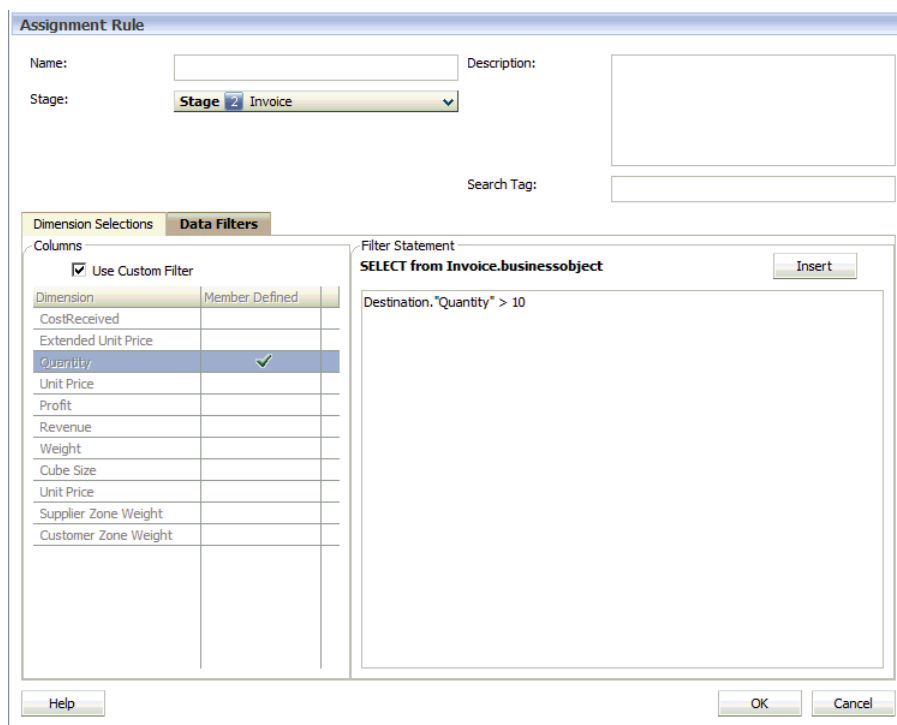
Operation	Value	Condition
>	2	

Help OK Cancel

- 「データ・フィルタ」タブの「列」で、割当てルールに使用する次元を選択します。

右ペインに「フィルタ・ステートメント」が表示されます。たとえば、「SELECT from Customer Zone Weight」など。

- オプション:** 標準タイプのフィルタを作成するには、各フィールドをダブルクリックしてフィルタのパラメータを入力します。
  - 「操作」で、使用する操作のタイプを選択します(<, >, 「等しい」, 「等しくない」など)。
  - 「値」で、フィールドをダブルクリックして適切な値を入力します。
  - 「条件」でフィールドをクリックし、ドロップダウン・リストから「OR」または「AND」を選択し、フィルタ・ステートメントを追加します。
- オプション:** カスタム・フィルタを作成するには、「カスタム・フィルタの使用」をクリックします。「フィルタ・ステートメント」と空白の編集ペインが表示されるので、数学的および構文的に正しいSQL式を入力します。



12 「OK」 をクリックします。



13 「割当てルール管理」 ダイアログ・ボックスで、矢印キーを使用して、ステージ・セットを選択し、「OK」 をクリックします。

「宛先」 列には、選択したステージ・セットが移入されます。

## 割当ての削除

必要に応じて割当てを削除できますが、変更を行うと財務フローとモデルの計算結果に影響するので注意してください。

▶ 割当てを削除するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「割当て」の順に選択します。
- 3 変更する割当てを含むモデルの POV を選択し、「POV ステータスのロード」  をクリックします。
- 4 「宛先」で、割当てを解除する割当てルールを選択します。
- 5 「割当てルールの割当て解除」  をクリックします。
- 6 確認メッセージで、「はい」をクリックして削除を確定します。

## 計算ルールの操作

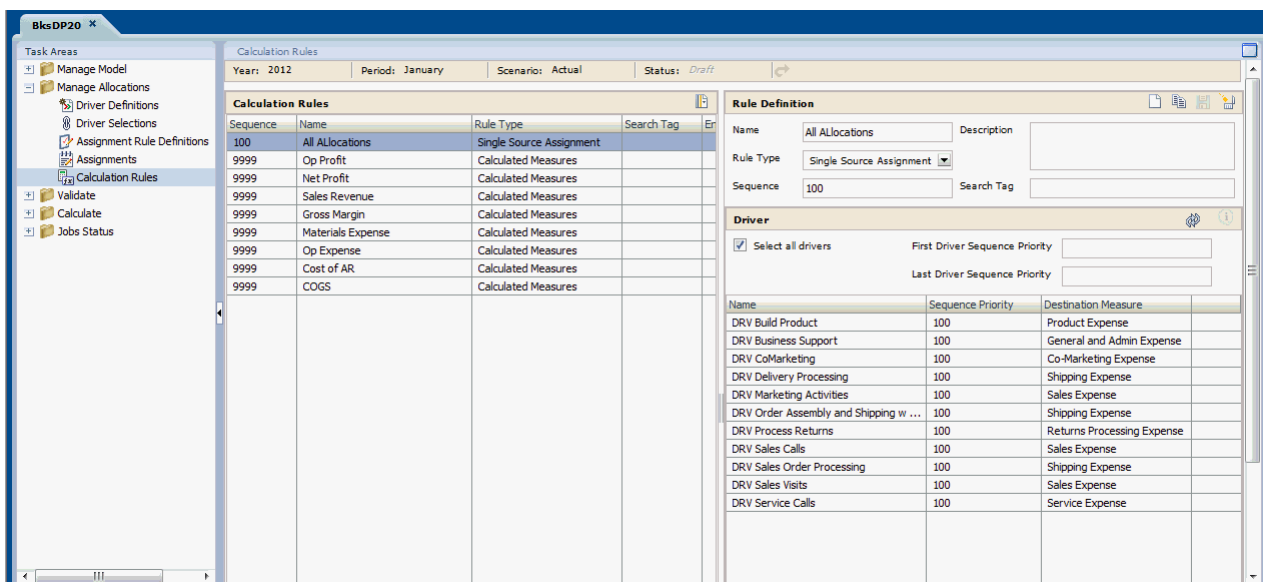
計算ルールは、計算アーティファクト、ソースのカプセル化、宛先、ドライバのスーパー・セットです。計算ルールを使用すると、ソース、宛先およびドライバ

を使用して幅広い割当てを作成でき、個々の割当てを予約して、この計算ルールの例外を作成します。

「計算ルール」の情報パネルには、ルールに関する基本的な情報が表示され、ルールに関する情報を計算ルール定義ペインに表示するコントロール・ポイントになっています。ここで計算ルールの定義と実行順序を制御することもできます。

「計算ルール」画面には、次の3つの領域があります。

- POV バー - 現在選択されている POV を表示します。計算ルールは POV ごとに異なります。POV の詳細は、239 ページの「[詳細 Profitability の視点\(POV\)の操作](#)」を参照してください。
- 「計算ルール」セクション - 計算ルールの基本的な情報を表示します。デフォルトの(および主に使用される)ソートは、計算ルール・シーケンス番号を使用します。このペインで計算ルールの順序を確認できますが、確認の目的で、他の列をソートおよびフィルタしてルールを分離することもできます。
- 「ルール定義」セクション - 「計算ルール」ペインでハイライトされた計算ルールの定義を表示します。



## 計算ルールの追加

計算ルール定義ペインには、ルールを定義するすべてのコンポーネントが表示されます。

▶ ルールを追加するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「配賦の管理」、「計算ルール」の順に選択します。
- 3 「ルール定義」セクションで「新規計算ルール」をクリックし、次のフィールドに入力します:
  - 「名前」に、計算ルールの名前を入力します。
  - 「ルール・タイプ」で、次のいずれかの値を選択します。



- 複数ソース割当て - 複数ソースから複数宛先への配賦を定義します; 1-5 のソース割当てルール、1-5 の宛先割当てルールおよび 1 ドライバが必要です。
- 計算済メジャー - 宛先メジャー値を変更するための基本的な算術計算を定義します; 1-5 の宛先割当てルールおよび 1-5 のドライバが必要です。
- 単一ソース割当て - 複数ソース・ルールの例外として動作する個々の割当てを実行します; 最初と最後のドライバ・シーケンス優先度を設定しているか、「すべてのドライバを選択」を選択する必要があります。
- 「シーケンス」に、0-9999 の数値を入力します。
- 「オプション:」 「説明」に、ルールの簡単な説明を入力します。
- 「オプション:」 後でルールの検索に使用する「検索タグ」を入力します。

#### 4 「ドライバ」セクションで次のいずれかを入力します:

- 「複数ソース割当て」 および 「計算済メジャー」 計算ルールの場合:  
「ドライバの追加」をクリックして既存のドライバを選択するか、「新規ドライバ」をクリックして新しいドライバを作成し、そのドライバをすぐに選択します。
- 「単一ソース割当て」 計算ルールの場合:
  - 「最初のドライバ・シーケンス優先度」と「最後のドライバ・シーケンス優先度」に、整数のドライバ・シーケンス優先度値を入力してドライバの範囲を指定します;
  - すべてのドライバを対象にするには「すべてのドライバを選択」を選択します

#### 5 「複数ソース割当て」の場合、「ソース」セクションで次のように設定します:

- 既存のソース割当てルールの場合: 「ソース割当てルールの追加」をクリックし、既存のソース割当てルールを「使用可能」リストから「選択済」リストに移動します。
- 新しいソース割当てルールの場合: 「新規ソース割当てルール」をクリックして選択します。

#### 6 「複数ソース割当て」 および 「計算済メジャー」 計算ルールの場合、「宛先」セクションで次のように設定します:

- 既存の宛先割当てルールの場合: 「宛先割当てルールの追加」をクリックし、既存の宛先割当てルールを「使用可能」リストから「選択済」リストに移動します
- 新しい宛先割当てルールの場合: 「新規宛先割当てルール」をクリックして選択します。

**注:** 「計算済メジャー」計算ルールの場合、「ソースと同じ」オプションが設定された宛先割当てルールは、使用可能な宛先割当てルールからフィルタ処理されます。

#### 7 「保存」をクリックします。ルール定義が「計算ルール」セクションに表示されます。

## 計算ルールの変更

▶ 計算ルールを変更するには:

1 「計算ルール」で、ルールを選択します。

2 「ルール定義」で、次のフィールドを変更します:

- 名前
- ルール・タイプ
- シーケンス
- 説明
- 検索タグ

3 「ドライバ」では次のように設定します:

- 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合:
  - 選択したドライバの変更またはドライバの追加: 「ドライバの追加」をクリックして既存のドライバを選択するか、「新規ドライバ」をクリックして新しいドライバを作成して、そのドライバを選択します。
  - 選択したドライバの変更: 「ドライバの編集」をクリックします。
  - 選択したドライバの削除: 「選択したドライバの削除」をクリックします
- 「単一ソース割当て」計算ルールの場合:
  - 「最初のドライバ・シーケンス優先度」と「最後のドライバ・シーケンス優先度」のドライバ・シーケンス優先度の値を変更します
  - 「すべてのドライバを選択」オプションの状態を変更します

4 「複数ソース割当て」計算ルールの場合「ソース」で次のように設定します:

- 選択したソース割当てルールの変更またはソース割当てルールの追加: 「ソース割当てルールの追加」をクリックして既存のソース割当てルールを選択するか、「新規ソース割当てルール」を選択して新しいソース割当てルールを作成し、そのルールを選択します。
- 選択したソース割当てルールの変更: 「ソース割当てルールの編集」をクリックします。
- 選択したソース割当てルールの削除: 「選択したソース割当てルールの削除」をクリックします

5 「複数ソース割当て」および「計算済メジャー」計算ルールの場合は「宛先」で次のように設定します:


- 選択した宛先割当てルールの変更または宛先割当てルールの追加: 「ソース割当てルールの追加」をクリックして既存の宛先割当てルールを選択するか、「新規宛先割当てルール」を選択して新しいソース割当てルールを作成し、そのルールを選択します。
- 選択した宛先割当てルールの変更: 「宛先割当てルールの編集」をクリックします。

- 選択した宛先割当てルール削除: 「選択した宛先割当てルール削除」をクリックします

6 「計算ルールの保存」をクリックします。


## 計算ルールの削除

▶ 計算ルールを削除するには:

- 1 「計算ルール」セクションで、ルールを選択します。
- 2 「ルール定義」セクションで、「計算ルールの削除」をクリックします。
- 3 「はい」をクリックして削除を確認します。

## 計算ルールのコピー

▶ 計算ルールをコピーするには:

- 1 「計算ルール」セクションで、ルールを選択します。
- 2 「ルール定義」セクションで、「計算ルールの複製」をクリックします。  
「計算ルールの複製の作成」ダイアログが開きます。
- 3 新しい計算ルール名を入力します。
- 4 「OK」をクリックします。



## この章の内容

詳細 Profitability の検証について.....	285
詳細 Profitability モデルの検証ルール .....	286
詳細 Profitability モデル構造の検証 .....	286
詳細 Profitability ステージの貸借一致レポート.....	288

## 詳細 Profitability の検証について

モデルはライフサイクルを通じて何回か検証する必要があります:

- モデル・データ登録が完了したら、モデルの残りの定義に進む前に、モデルで使用するテーブルがすべて正常に登録されていることを確認するためにモデル・データ登録のモデル検証を実行します。
- モデルを構築後、モデル検証を実行し、モデルの構造がモデリング・ルールに準拠していることを確認します。
- モデルの計算後、ソース・ステージと宛先ステージの貸借一致レポートを生成し、モデルのすべての貸方記入と借方記入が一致することを確認します。

「モデル検証」画面で使用できるタブは読取り専用で、詳細 Profitability モデル構造の問題がハイライトされます。

- モデル・データの登録
- ドライバ
- 計算ルール
- 未使用のドライバ
- 欠落しているドライバ割当て
- 割当てルール

エラーと欠落している情報が、対応する重大度とともに表示されます。モデル構造の検証サイクル中に発生したエラーは、モデルの構築または計算を続行する前に、修正する必要があります。

モデルに対して適切な検証を実行するには、次の項を参照してください:

- [286 ページの「詳細 Profitability モデルの検証ルール」](#)
- [286 ページの「詳細 Profitability モデル構造の検証」](#)
- [288 ページの「詳細 Profitability ステージの貸借一致レポート」](#)

- 289 ページの「未割当ての値」
- 289 ページの「アイドル能力」
- 289 ページの「OverDriven 値」
- 290 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」

## 詳細 Profitability モデルの検証ルール

モデルは、モデルを計算する前に、一連のモデル検証ルールと照合して、構造が健全であることが検証されます。構造検証では次の条件が満たされているかどうかチェックされます:

- データ・モデル登録が有効であり、完了している
- ドライバが正しく形成されている
- 計算ルールが正しい
- すべてのドライバが使用されている
- 欠落しているドライバ割当てがない
- 割当てルールが正しい

構造上のエラーがあれば、モデルを計算する前に解決する必要があります。エラーをすべて修正し、モデルを送信して再度検証します。エラーの修正および再検証を何度か行う必要がある場合もあります。

**ヒント:** 状況によっては、あるエラーを修正した結果、別の問題が発生することがあります。このため、修正を行うたびにモデルを再検証すると有効です。

## 詳細 Profitability モデル構造の検証

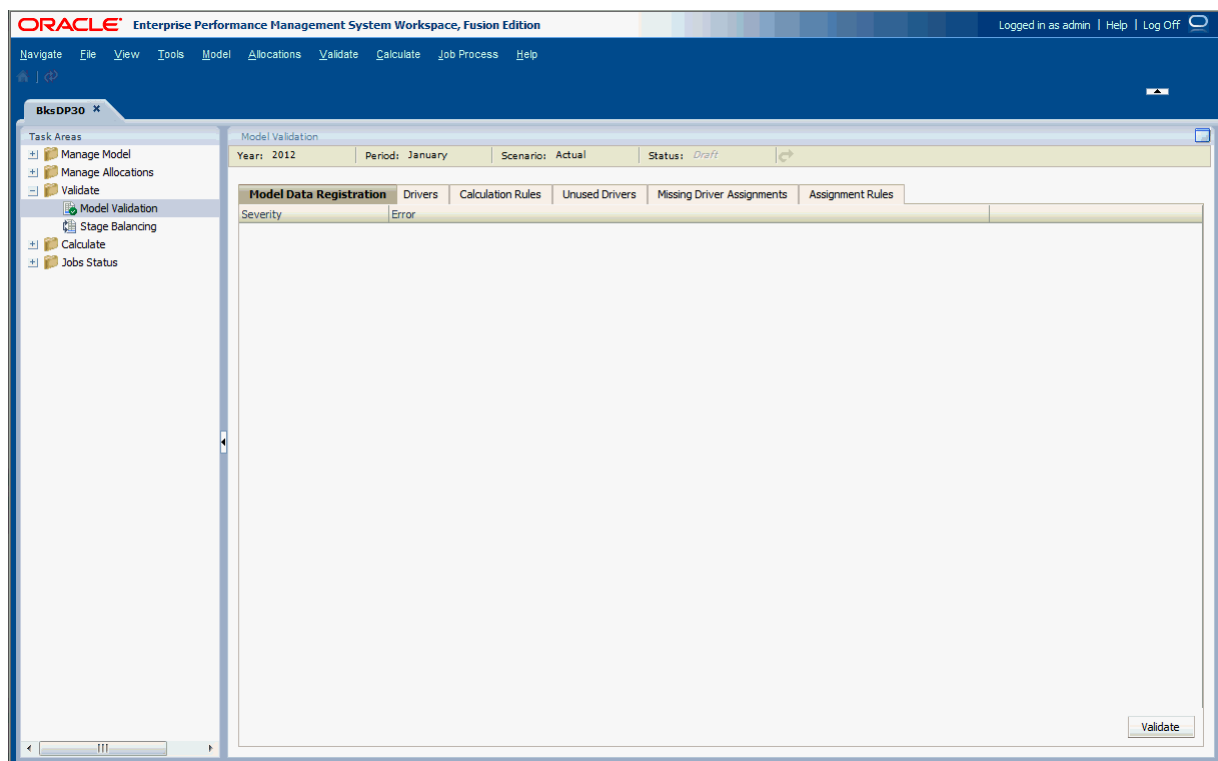
すべての必須モデリング・ルールが適用されていることを確認するために、計算の前に詳細 Profitability モデル構造を検証する必要があります。


「モデル検証」画面の各タブにある「検証」をクリックし、アプリケーションの各コンポーネントを評価します。タブごとに検証を実行すると、エラーまたは警告が表示されます。

モデルを正しく計算するには、モデル構造に含まれるエラーをすべて修正する必要があります。

▶ モデル・ステージを検証するには:

- 1 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「検証」、「モデル検証」の順に選択します。



3 「モデル検証」画面で、検証するモデルの POV を選択し、「POV ステータスのロード」 をクリックします。

4 次の各タブで「検証」をクリックし、検証を実行します。

- 列マッピングまたはメジャーに誤りがないかどうかを確認する場合は、「モデル・データの登録」タブを選択します。217 ページの「[詳細 Profitability モデル・データの登録](#)」を参照してください。
- ドライバにエラーがないかどうかを確認する場合は、「ドライバ」タブを選択します。251 ページの「[詳細 Profitability ドライバの定義](#)」を参照してください。
- 「計算ルール」タブを選択すると、無効な計算ルールがある場合に表示されます。279 ページの「[計算ルールの操作](#)」を参照してください。
- モデルに未割当てのドライバがないか、そのドライバが割当ての一部である必要があるかを確認する場合は、「未使用のドライバ」タブを選択します。ドライバを割り当てる必要がある場合は、259 ページの「[詳細 Profitability ドライバの操作](#)」を参照してください。
- ドライバの選択が欠落しているすべてのソースの交差を表示する場合は、「欠落しているドライバ割当て」タブを選択します。259 ページの「[詳細 Profitability ドライバの操作](#)」を参照してください。
- 無効な割当てルールを表示する場合は、「割当てルール」タブを選択します。271 ページの「[詳細 Profitability 割当てルールの操作](#)」を参照してください。

検証が終了すると、画面が更新されて結果が表示されます。

5 各タブで、エラーまたは警告の状態をすべて修正します。

- 6 すべてのタブのすべてのエラーを修正したら、エラーが検出されなくなるまで手順 1 からモデル検証を繰り返します。
- 7 検証の完了後、モデルを計算します。第 18 章「詳細 Profitability モデルの計算」を参照してください。

## 詳細 Profitability ステージの貸借一致レポート

モデルを計算後、「ステージの貸借一致」レポートを使用して、未割当ての費用を計上するため、入力値の貸借を一致させることで、実績を検証します。

ステージの貸借一致レポートを生成するには、次の条件が満たされている必要があります:

- データがロードされている必要があります
- モデル・データの登録と計算が済んでいる必要があります

「ステージの貸借一致」の構造には次の情報があります:

メジャー	説明
ステージ名	ソース・ステージの名前が表示されます。
入力	この値は、入力の貸借一致メジャーに関連付けられた値の要約です。
合計出力	ソース・ステージから割り当てられたすべての値の合計。 この値は、AssignedPostStage 貸借一致のメジャーに関連付けられます。
アイドル	宛先に割り当てられていない入力がある場合、IdleCost の値です。IdleCost の計算結果は、ドライバ・タイプに応じて割り当てられます: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 比率ベースのドライバで「アイドルを許可」が選択されている場合、IdleCost は <math>\text{IdleDriverValue} / \text{OverrideTotalDriverValue}</math> の式を使用して生成されます。</li> <li>● レートベースのドライバでは、配賦値の合計がソース・オブジェクトの入力値より小さい場合に IdleCost が生成されます。</li> </ul>
OverDriven	ステージの貸借一致レポートに表示される OverDriven 額は、計算された OverDriven 値の合計額です。 この金額が、OverDriven 貸借一致メジャーに関連付けられます。
未割当て	未割当て値の式は、次の計算と等しくなります: $\text{"合計入力"} - \text{"合計出力"} - \text{"アイドル"} + \text{OverDriven}$

ステージの貸借一致メジャーの詳細については、以下の項を参照してください:

- [289 ページの「アイドル能力」](#)
- [289 ページの「OverDriven 値」](#)
- [289 ページの「未割当ての値」](#)
- [290 ページの「ステージの貸借一致レポートの生成」](#)



## アイドル能力

フル能力またはフル容量という用語は、すべてのモデル・リソースがタスクまたは割当てを実行するために完全に使用されている状態を意味します。アイドル能力またはアイドル容量という用語は、モデル・リソースの一部が完全には使用されていない状態を示します。リソースを最大限に使用し、マシンのダウンタイムなどの非効率を監視するには、アイドル能力を追跡することを検討してください。

アイドル容量は、レートベースまたは比率ベースのドライバで作成されます。

- レートベースのドライバは、必要に応じて「アイドル」または「オーバードライブ」を自動的に作成します。
- 比率ベースのドライバは、「アイドルを許可」がチェックされている場合にのみアイドル容量を作成します。

アイドル能力を計算してレポートする機能は、ドライバを作成または変更するオプションを選択する際に、「アイドルを許可」チェック・ボックスを選択し、「ドライバ値メジャーの合計の上書き」を選択して値を配賦することによって設定します。「ドライバ値メジャーの合計の上書き」にある値が、配賦の比率の分母となります。

251 ページの「[詳細 Profitability ドライバの定義](#)」を参照してください。

ステージ貸借一致レポートでアイドル費用を表示するには、290 ページの「[ステージの貸借一致レポートの生成](#)」を参照してください。

## OverDriven 値

Profitability and Cost Management では、費用の移動先を制御する割当ての組合せと、移動する額を決定するドライバを使用して、ソースから宛先へ値を移動します。

宛先に実績以上の金額を移動することが可能です。OverDriven 値は超過した額であり、ソースからすべての宛先に移動された実績金額を超えます。OverDriven はメジャー次元の一部として報告されます。

ステージ貸借一致レポートで OverDriven 値を表示するには、290 ページの「[ステージの貸借一致レポートの生成](#)」を参照してください。

## 未割当ての値

モデル内の値はすべて、特定のアクティビティ、製品、アカウントなどに割り当てる必要がありますが、一部の金額は未配賦のままにすることができます。これらの値は、「未割当て」として報告されます。

モデルの作成方法によっては、これらの未割当て値を想定および許容することもできますが、そうしない場合は、配賦のエラーが発生し、修正する必要があります。これらの金額の配賦が必要かどうかを決定する必要があります。「未割当て」の値は、メジャー次元の一部として報告されます。

ステージ貸借一致レポートで「未割当て」の値を表示するには、290 ページの「[ステージの貸借一致レポートの生成](#)」を参照してください。

## ステージの貸借一致レポートの生成


▶ ステージの貸借一致レポートを生成するには:

1 次の条件が満たされたことを確認します:

- データ・モデルが登録されている
- モデル・データが読み込まれている
- モデルが正常に計算されている

2 EPM Workspace から「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

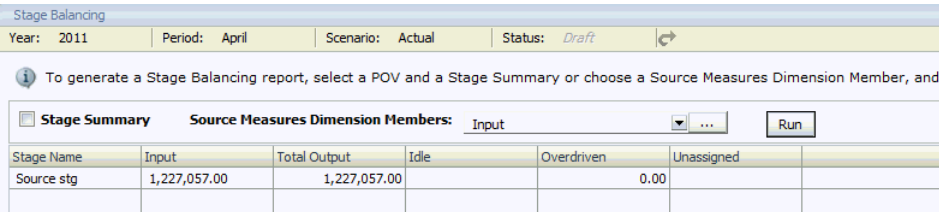
3 「タスク領域」から、「検証」、「ステージの貸借一致」の順に選択します。

4 「ステージの貸借一致」画面でモデルのPOVを選択し、「POVステータスのロード」をクリックします。

5 生成するステージ貸借一致レポートのタイプを選択します:

- 「ステージの要約」をクリックして、ソース・ステージ全体に対する貸借一致のアクティビティの要約を表示します。
- 「ソース・メジャー次元メンバー」セレクトから、選択したソース・メジャーに対する貸借一致アクティブの要約を表示するソース・メジャーを選択します。

6 「実行」をクリックしてレポートを生成します。



Stage Name	Input	Total Output	Idle	Overdriven	Unassigned
Source stg	1,227,057.00	1,227,057.00			0.00

7 レポートを確認し、次の1つまたは複数の検証方法を使用して結果を確認します:

- 入力合計 - 出力合計 - アイドル + オーバードライブ = 未割当ての値
- ソース・ステージにロードされた通貨または残高データの合計 = 入力
- 未割当ての値の合計 + アイドル - オーバードライブ = 入力

8 オプション: レポートを印刷するには、ブラウザのメニューで「ファイル」、「印刷」を選択します。

## この章の内容

詳細 Profitability データベースの管理 .....	291
詳細 Profitability の計算の管理 .....	300

モデルの構造とデータを検証した後、データベースを管理してモデルを計算することができます。

**注意** モデルの計算は、Performance Management Architect、詳細 Profitability and Cost Management、およびクライアントのモデル・データおよびデータベースについて実務知識を有している管理者またはパワー・ユーザーが実行することをお勧めします。

## 詳細 Profitability データベースの管理

次の項を参照してください:

- 291 ページの「詳細 Profitability レポート・ビューの配置」
- 294 ページの「詳細 Profitability ソース・ステージ・データベースの配置」
- 296 ページの「詳細 Profitability コントリビューション・データベースの配置」
- 298 ページの「詳細 Profitability 宛先ステージ・データベースの配置」

## 詳細 Profitability レポート・ビューの配置

モデルの構造とデータを検証した後、次元オブジェクトを配置してシステム生成のレポート・ビューを作成し、ビューを同期する必要があります。ビューは詳細 Profitability の製品スキーマに作成され、「モデル・レベルのプリファレンス」タブで選択したモデル・データ・スキーマに対するアクセス権が付与されます。

EPMA、POV、属性の各次元も含め、配置されたすべての Performance Management Architect 次元がリストされます。どの次元を含めるべきかを確認するには、アプリケーション・ライブラリでアプリケーションのリストを表示します。属性次元は、アプリケーションにある場合にのみ表示されます。

システム生成のレポート・ビューには次の 2 種類があります:

- レポート階層テーブル - 階層の祖先レベル(親、親の親など)ごとに 1 つの行が表示されます。

- レポート属性ビュー - 次元メンバーごとに 1 行が表示され、階層のすべてのレベルが含まれます(次元メンバーと、定義されている場合には次元属性)。次元メンバーは他の属性値と結合されます。

ビュー名とテーブル名は次の形式で生成されます。

<Product Name>\_<Application Name>\_<User-Defined Dimension Short Name><View/Table Type\_V> (ビューのみ)

例:

- HPMD\_DEMO\_ACCOUNTS\_HIER (階層テーブル)
- HPMD\_DEMO\_ACCOUNTS\_ATTR\_V (属性ビュー)

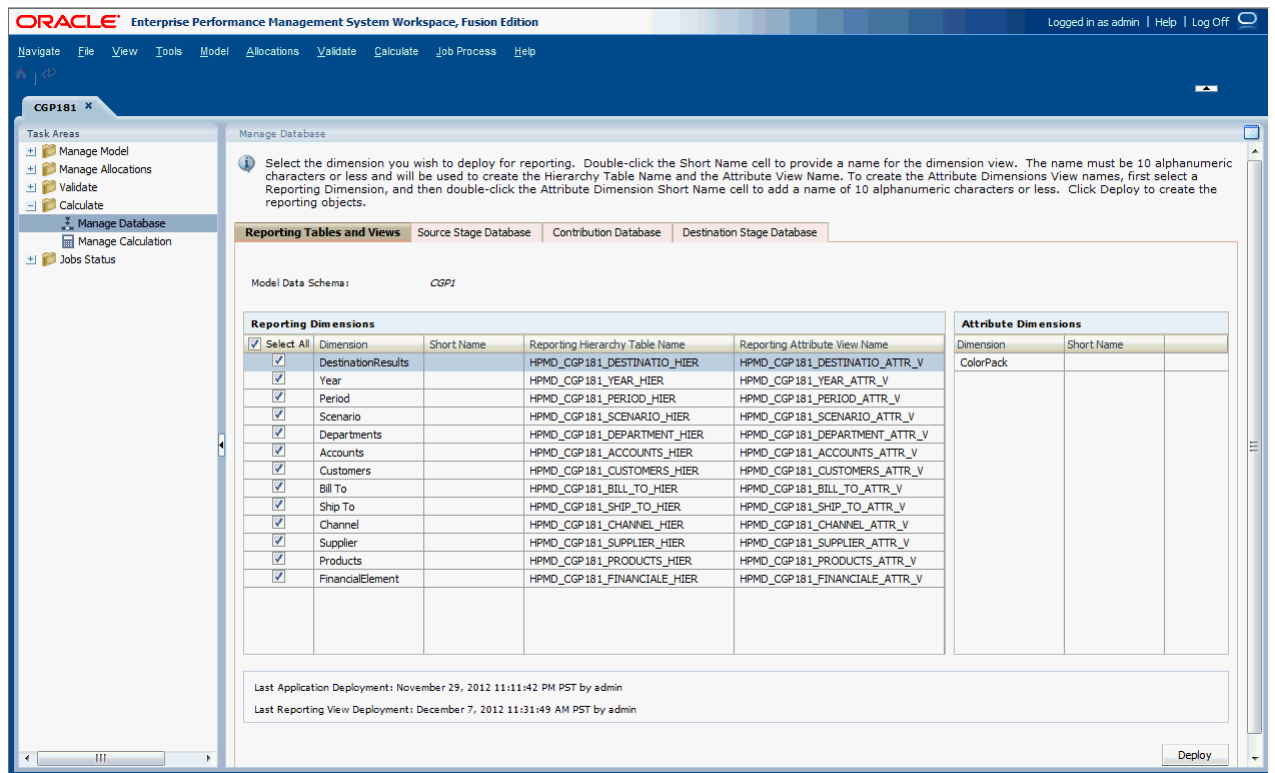
配置されたビューとテーブルはモデル・データ・スキーマの下にシノニムとして表示されます。これらのビューとテーブルはカスタム・レポートを作成するとき役に立ちます。

**注：** データは存続するため、Performance Management Architect で次元をメンテナンスした後でこれらのレポート用テーブルを再生成する必要があります。また、これらのテーブルの存続データをリフレッシュするように、次元の変更を Oracle Fusion Performance Management に再配置する必要があります。

レポート・ビューを作成するには、まず、Performance Management Architect にアプリケーションを配置します。配置した後、必要に応じて、ショート名を変更します。

▶ アプリケーション次元ビューを作成または再作成するには:

- 1 選択したアプリケーションが Performance Management Architect に配置されていることを確認します。手順については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect 管理者ガイド』を参照してください。
- 2 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、レポート・ビューを作成するアプリケーションを選択します。
- 3 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。



- 4 「データベースの管理」の「レポート用テーブルおよびビュー」タブで、「モデル・データ・スキーマ」を確認します。

使用するモデル・データ・スキーマではない場合、この画面で変更することはできません。「モデル・レベルのプリファレンス」タブに戻って、正しいものを選択する必要があります。215 ページの「詳細モデル・データ・スキーマの選択」を参照してください。

- 5 オプション: 「アプリケーションの最終配置」と「レポート・ビューの最終配置」で、表示される日付を確認します。

「レポート・ビューの最終配置」の日付が、「アプリケーションの最終配置」の日付より後でなければなりません。そうなっていない場合は、レポート・ビューを再配置してアプリケーションを同期します。

- 6 「レポート次元」ペインで、配置に含める次元を選択します。

- リストされたすべての次元を含めるには、「すべて選択」を選択します。
- 個々の次元のみを含める場合には、その次元のチェック・ボックスを選択します。

- 7 オプション: 選択した次元の「ショート名」で、セルをダブルクリックして編集用に開き、10 文字までのショート名を入力します。このショート名は、レポート・ビューの名前に利用されます。

デフォルトでは、次元名の最初の 10 文字がテーブルの生成時に使用されます。ショート名は、レポート・ビューの名前で使用されます。デフォルトでは、入力した文字はすべて大文字になります。

**注:** /、+、@などの特殊文字や制限された文字をショート名に使用しないでください。命名に関する最新の制限については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。

## 8 「配置」をクリックします。

配置されるビューは、Profitability and Cost Management のアプリケーション・テーブルに基づきます。

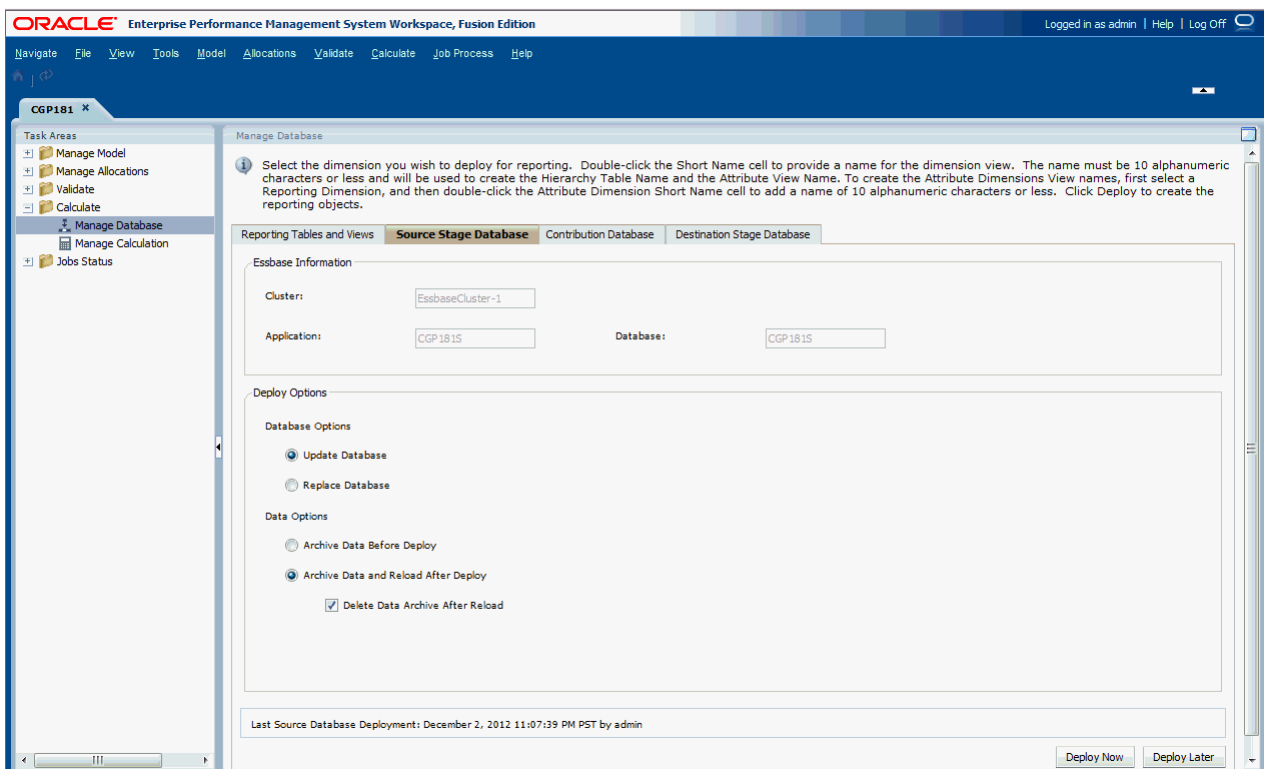
これらのビューは、Profitability and Cost Management の製品スキーマ上に作成され、モデル・データ・スキーマのレポート・ビューへのアクセス権が付与されます。詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。

# 詳細 Profitability ソース・ステージ・データベースの配置

▶ ソース・ステージ・データベースを配置するには:

## 1 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。

ソース・ステージデータベース・タブを選択します。



## 2 「Essbase 情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「クラスタ」には、モデルを含む Essbase データベース・クラスタの名前が表示されます。
- 「アプリケーション」には、アプリケーションが配置される Essbase アプリケーションの名前が表示されます。
- 「データベース」には、アプリケーションが配置される Essbase データベースの名前が表示されます。

## 3 「配置オプション」の下で、ソース・ステージ・データベースの配置のための「データベース・オプション」を選択します:

- データベースの初回配置時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- 既存のデータベースを再配置する場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- それ以降の配置では、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

4 「配置オプション」の下で、ソース・ステージ・データベースの配置で使用する「データ・オプション」を選択します:

- 「配置前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。計算用データベースでは、レベル0のデータのみがASOデータベースのためにエクスポートされます。データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的に Essbase にインポートされます。ASOデータベースでは、ルール・ファイルは生成されません。

---

**注意** このオプションは、追加または削除される次元がない場合にのみ使用できます。次元の追加または削除は、Performance Management Architect で行うことも、Profitability and Cost Management でステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- **オプション:** 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。

5 **オプション:** - 「後で配置」をクリックし、配置を実行する都合のよい日時をスケジュールします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。

---

**注意** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

---

6 **オプション:** 「今すぐ配置」をクリックし、ただちにソース・ステージ・データベースを配置します。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー ID を示す確認メッセージが表示されます。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

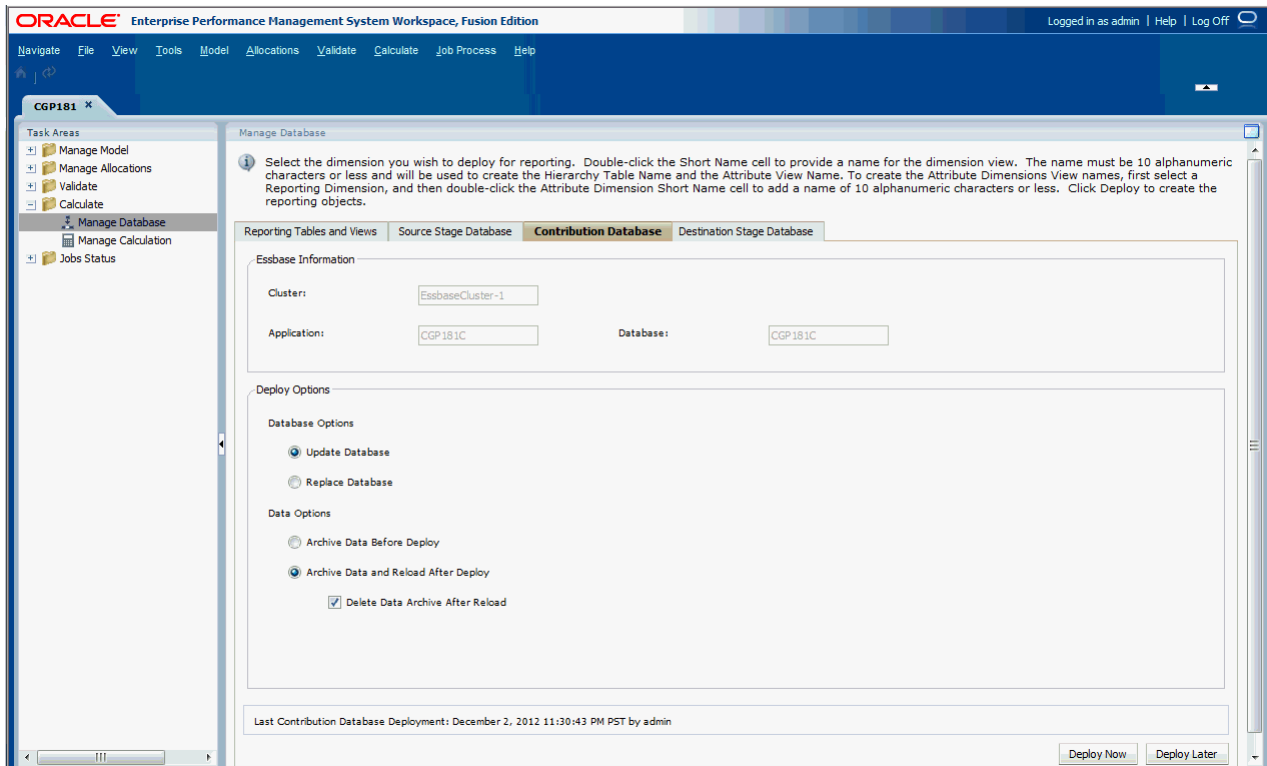
7 タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。

- 8 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポートが何らかの理由で失敗した場合は、配置の後でこのデータベースのデータ転送を再実行します。
- 9 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

## 詳細 Profitability コントリビューション・データベースの配置

▶ コントリビューション・データベースを配置するには:

- 1 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。「コントリビューション・データベース」タブを選択します。



- 2 「Essbase 情報」の下で、次の情報を確認します:
  - 「クラスタ」には、モデルを含む Essbase データベース・クラスタの名前が表示されます。
  - 「アプリケーション」には、アプリケーションが配置される Essbase アプリケーションの名前が表示されます。
  - 「データベース」には、アプリケーションが配置される Essbase データベースの名前が表示されます。
- 3 「配置オプション」の下で、コントリビューション・データベースの配置のための「データベース・オプション」を選択します:
  - データベースの初回配置時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
  - 既存のデータベースを再配置する場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベー



スに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されま  
す。

- それ以降の配置では、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

4 「配置オプション」の下で、「データベースの更新」データベース・オプションが  
選択されているコントリビューション・データベースの配置で使用する「データ・  
オプション」を選択します:

- 「配置前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケー  
ション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レベル0の  
データのみが ASO データベースのためにエクスポートされます。データ  
は常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエク  
スポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的に Essbase に  
インポートされます。ASO データベースでは、ルール・ファイルは生成さ  
れません。

---

**注意** このオプションは、追加または削除される次元がない場合にのみ使  
用できます。次元の追加または削除は、Performance Management  
Architect で行うことも、Profitability and Cost Management でステー  
ジを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- **オプション:** 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択してい  
る場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、デー  
タが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除  
されます。

5 **オプション:** - 「後で配置」をクリックし、配置を実行する都合のよい日時をスケ  
ジュールします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してくだ  
さい。

---

**注意** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタス  
クはスケジュールできなくなります。

---

6 **オプション:** 「今すぐ配置」をクリックし、ただちにコントリビューション・デー  
タベースを配置します。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー ID を示す確認  
メッセージが表示されます。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能  
性があります。

---

7 タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラ  
リ」の順に選択します。

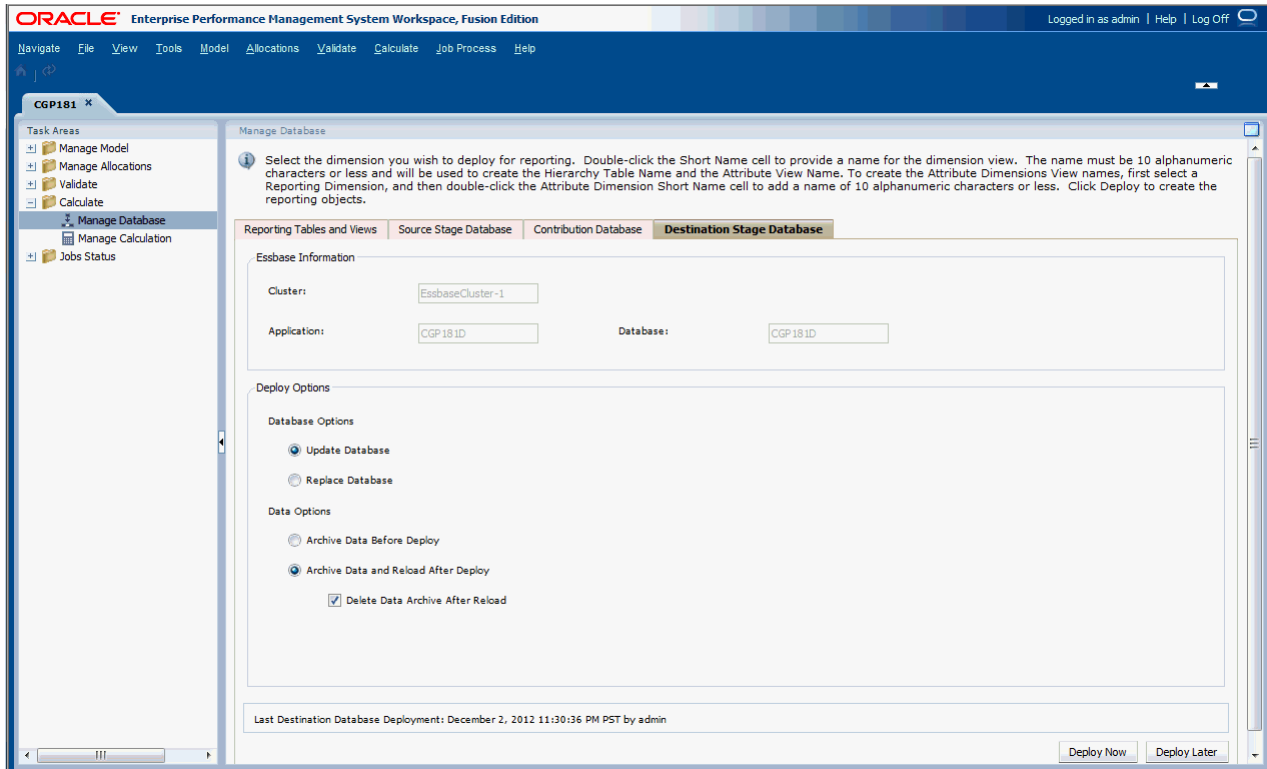
8 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポート  
が何らかの理由で失敗した場合は、配置の後でこのデータベースのデータ転送を  
再実行します。

9 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

# 詳細 Profitability 宛先ステージ・データベースの配置

▶ 宛先ステージデータベースを配置するには:

- 1 「タスク領域」から、「計算」>、「データベースの管理」を選択します。宛先ステージデータベース・タブを選択します。



- 2 「Essbase 情報」の下で、次の情報を確認します:

- 「クラスタ」には、モデルを含む Essbase データベース・クラスタの名前が表示されます。
- 「アプリケーション」には、アプリケーションが配置される Essbase アプリケーションの名前が表示されます。
- 「データベース」には、アプリケーションが配置される Essbase データベースの名前が表示されます。

- 3 「配置オプション」の下で、宛先ステージ・データベースの配置のための「データベース・オプション」を選択します:

- データベースの初回配置時には、すべての選択がグレー表示されます。このオプションにより、データベース全体が初めて作成されます。
- 既存のデータベースを再配置する場合、「データベースの更新」を選択すると、既存のアーティファクトおよびプロパティ設定が新しいデータベースに保持され、最新のメタデータを反映してアウトラインが変更されます。
- それ以降の配置では、「データベースの置換」を選択してデータベースとアプリケーションを完全に削除し、再作成します。

- 4 「配置オプション」の下で、「データベースの更新」データベース・オプションが選択されている宛先ステージ・データベースの配置で使用する「データ・オプション」を選択します:

- 「配置前にデータをアーカイブ」を選択すると、既存のデータがアプリケーション・データベース・フォルダにエクスポートされます。レベル0のデータのみがASOデータベースのためにエクスポートされます。データは常にネイティブ・フォーマットでエクスポートされます。
- 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択すると、以前にエクスポートしたデータ・ファイルを使用して、データは自動的に Essbase にインポートされます。ASOデータベースでは、ルール・ファイルは生成されません。

---

**注意** このオプションは、追加または削除される次元がない場合にのみ使用できます。次元の追加または削除は、Performance Management Architect で行うことも、Profitability and Cost Management でステージを追加、削除または変更することで行うこともできます。

---

- **オプション:** 「配置後にデータをアーカイブしてリロード」を選択している場合、「リロード後にデータ・アーカイブを削除」を選択すると、データが正常にリロードされた後にのみ、アーカイブ・データが自動的に削除されます。
- 5 **オプション:** - 「後で配置」をクリックし、配置を実行する都合のよい日時をスケジュールします。161 ページの「タスクフローのスケジュール」を参照してください。

---

**注意** タスクの作成時にこのオプションが選択されていない場合、そのタスクはスケジュールできなくなります。

---

- 6 **オプション:** 「今すぐ配置」をクリックし、ただちに宛先ステージ・データベースを配置します。

ジョブが開始されたこと、および割り当てられたタスクフロー ID を示す確認メッセージが表示されます。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては、長時間かかる可能性があります。

---

- 7 タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。
- 8 「データベースの置換」オプションが選択された場合、またはデータのインポートが何らかの理由で失敗した場合は、配置の後でこのデータベースのデータ転送を再実行します。
- 9 生成されたデータベースのデータ転送を実行します。

# 詳細 Profitability の計算の管理

## サブトピック

- [計算の管理](#)
- [ドライバ操作タイプ](#)
- [その他のプロセス・タイプ](#)

モデルの検証後、モデルを計算したり、カスタム・スクリプトなどの処理オプションを選択するか、異なるデータ POV を選択できます。

次のタブを参照してください。

- [300 ページの「計算の管理」](#)
- [303 ページの「ドライバ操作タイプ」](#)
- [303 ページの「その他のプロセス・タイプ」](#)

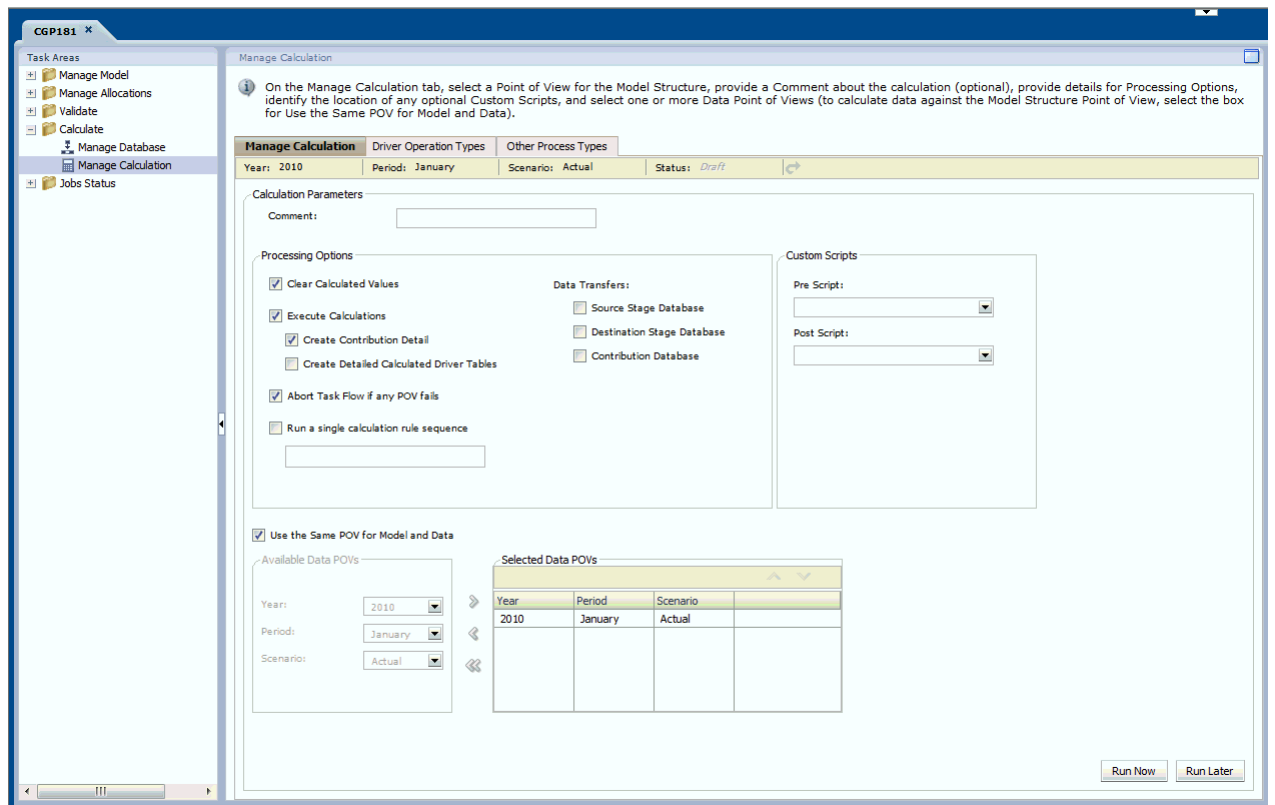
## 計算の管理


処理時間は、計算の選択内容によって異なります。操作は画面で直接実行することも、都合のよい日時をスケジュールすることもできます。

**注：** モデルの計算を実行すると、レポートで使用される 2 つのビュー、HPMD\_DEMO\_STAGE\_BALANCE\_V と HPMD\_DEMO\_LEVEL\_0\_CONTRIB\_V が作成されます。1 番目のビューには、ステージの貸借一致レポートで表示されるステージの貸借一致情報が含まれます。2 番目のビューには、レベル・ゼロにおけるソースと宛先の組合せごとのコントリビューション情報が含まれます。ステージ貸借一致ビューとレベル 0 のレポート・ビューは、カスタム・レポートを作成する際に役に立ちます。

▶ モデルを計算するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、計算するアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「計算」>「計算の管理」を選択します。



- 3 タスク・バーでモデルの POV を選択して、「POV ステータスのロード」  をクリックします。
- 4 オプション: 「計算パラメータ」の「コメント」に、この計算の簡単な説明または名前を入力します。
- 5 オプション: 「処理のオプション」で、「計算済の値を消去」をチェックすると、この計算を開始する前に以前の計算データが削除されます。
- 6 「計算の実行」で、この計算で生成する追加のデータ・タイプを選択します。
  - 計算のモデルにすべてのコントリビューションを含める場合は、「コントリビューションの詳細の作成」をチェックします。
  - 次のソース交差を処理する前に、計算されたドライバの値が格納される計算済ドライバ・テーブルを保持する場合は、「計算済ドライバ・テーブルの詳細の作成」をチェックします。

**注:** このオプションを選択すると、多数のテーブルが生成されるため、事前に十分なストレージ・スペースがあることを確認する必要があります。処理時間が長くなる場合もあることに注意してください。
- 7 オプション: 複数の POV を選択した場合は、「POV の失敗時にタスク・フローを中止」をチェックします。POV のいずれかが失敗した場合に計算が停止し、残りの POV は計算されません。
- 8 「単一の計算ルール・シーケンスの実行」を選択した場合は、個々のシーケンス番号を入力します。
- 9 「データの転送」の下で、データを転送する Essbase 分析データベースを選択します。

- 「ソース・ステージ・データベース:」 ステージ接頭辞付きのソース・ステージ次元(ソース・メジャー次元など)、属性次元(関連する場合)および MeasuresDetailed 次元を含みます。また、レベル 0 でのソース・ステージの詳細を含みます。
- 「コントリビューション・データベース」:ステージ接頭辞付きのソース・ステージ次元、ステージ接頭辞付きの宛先ステージ次元、MeasuresDetailed 次元、属性次元(関連する場合)を含みます。また、レベル 0 のコントリビューション・テーブルの詳細と 1 つのメジャー ReceivedPriorStage を含みます。
- 「宛先ステージ・データベース:」 ステージ接頭辞付きの宛先ステージ次元、宛先メジャー次元、属性次元(関連する場合)を含みます。また、レベル 0 メンバーに集計された宛先ステージ・テーブルのデータを含みます。

**10 オプション:** カスタム・スクリプトを使用する場合は、実行する計算前または計算後のスクリプトの名前を入力します。

カスタム・スクリプトは、HPM 製品スキーマの HPM\_SQL\_SCRIPT に格納されています。計算前または計算後のスクリプトについては、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド』を参照してください。

**11 オプション:** データへのアクセスに別の POV を使用する場合には、「モデルとデータに同じ POV を使用」でこのオプションをオフにします。そうしないと、画面の上部で選択した POV がモデルとデータの両方に使用されます。

データに異なる POV を設定するには:

1. 「モデルとデータに同じ POV を使用」チェック・ボックスをオフにして、POV の選択を有効にします。
2. 「使用可能なデータ POV」で、新しいデータ POV として年、期間、シナリオを選択します。
3. 矢印キーを使用して、「選択したデータ POV」で選択した POV を移動します。
4. [手順 11.2](#) と [手順 11.3](#) を繰り返し、追加のデータ POV を作成します。

**12 次のいずれかのオプションを使用してモデルを計算します。**

- 今後のスケジュール・データおよび実行時間の計算タスクを送信するには、「後で実行」をクリックします。確認メッセージに、ジョブが作成されたことと、割り当てられたタスクフロー ID が識別されたことが示されます。[314 ページの「詳細 Profitability タスクフローのスケジュール設定」](#)を参照してください。

**注:** タスクの作成時にこのオプションを選択していない場合、タスクはスケジュールできません。

- 「今すぐ実行」をクリックすると、計算がただちに実行されます。

確認メッセージに、ジョブが開始されたことと割り当てられたタスクフロー ID が示されます。タスク・ステータスを監視するには、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。

---

**注意** この操作は、モデルのサイズや複雑さによっては長時間かかる可能性があります。

---

## ドライバ操作タイプ

「計算の管理」画面の「ドライバ操作タイプ」タブには、詳細 Profitability の現在のドライバ操作タイプが表示されます。

---

**注意** このタブでは新しいドライバ操作タイプを作成しないでください。このタブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようになっています。変更すると、アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

---

「ドライバ操作タイプ」は、サポートされるドライバ操作を拡張するための管理機能です。パフォーマンスの問題や一意ドライバの課題を解決することができます。これを使用するには、高度な SQL の知識があり、データベース管理や、Profitability and Cost Management の詳細 Profitability アプリケーションのドキュメント化されていない機能について深く理解していることが必要です。カスタマ・サービスのリクエストに応じて Oracle から求められないかぎりこの機能は使用しないでください。

## その他のプロセス・タイプ

このリリースの詳細 Profitability では、2つの代替計算プロセス・タイプを使用できます。

- Oracle Database 11g (デフォルト)
- Oracle Database 10g

Oracle Database 10g を使用するように構成されているシステムの場合は、「その他のプロセス・タイプ」タブを使用して、データベースに適した計算プロセス・タイプを選択します。

---

**注意** 「その他のプロセス・タイプ」タブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようになっています。「その他のプロセス・タイプ」ではその他の変更を行わないようになっています。アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

---

詳細 Profitability で使用している Oracle Database のバージョンに応じ、この画面を使用してデータベースを正しいバージョンに変更してください。

▶ ご使用の Oracle Database のバージョンを変更するには:

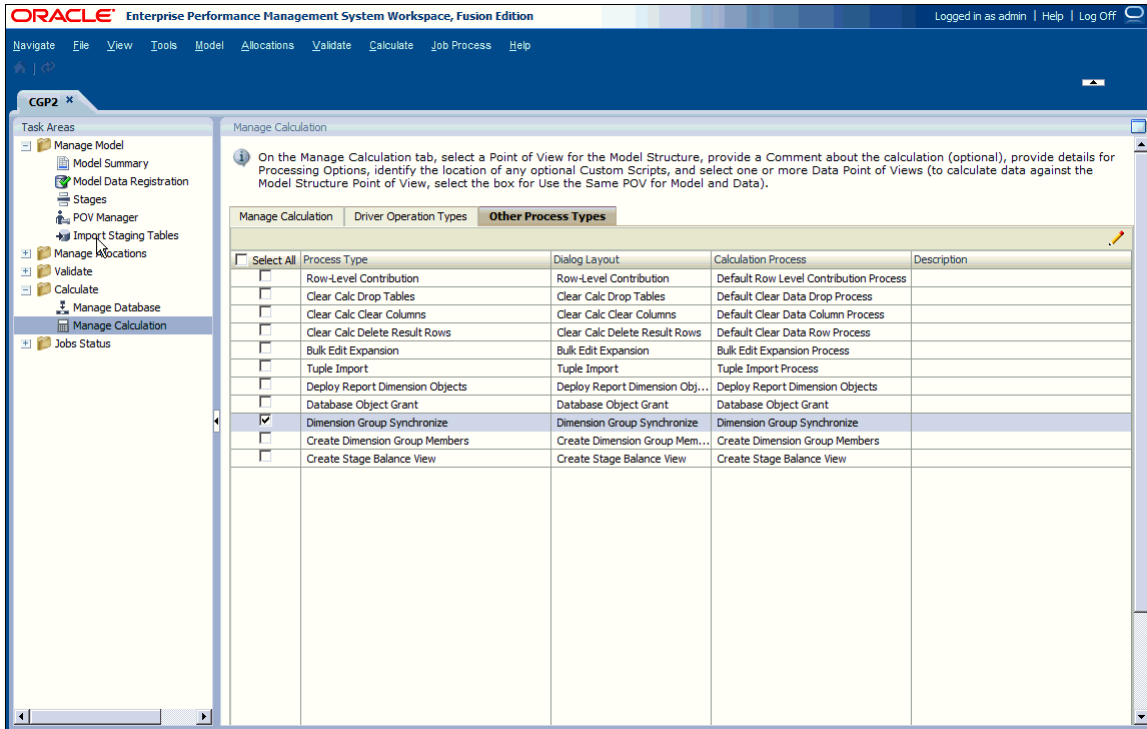
- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、Oracle Database のバージョンを変更するアプリケーションを選択します。

- 2 「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択し、「その他のプロセス・タイプ」タブを選択します。

注： このタブが表示されるのは、管理者ユーザーの役割が割り当てられている場合のみです。

- 3 「次元グループの同期」を選択し、「編集」  をクリックします。

「その他のプロセス・タイプの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 4 「計算プロセス」で、使用している Oracle Database の適切なオプションを選択します。
  - 次元グループの同期(Oracle 11g)
  - 次元グループの同期 10G (Oracle 10g)
- 5 「OK」をクリックして変更を保存します。



## この章の内容

<a href="#">ジョブ・ライブラリ</a> .....	305
<a href="#">詳細 Profitability タスクフローの管理</a> .....	309
<a href="#">詳細 Profitability タスクフロー情報の表示</a> .....	310
<a href="#">詳細 Profitability タスクフロー・ステータスの表示</a> .....	311
<a href="#">詳細 Profitability タスクの詳細の表示</a> .....	313
<a href="#">詳細 Profitability タスクフローのスケジュール設定</a> .....	314

## ジョブ・ライブラリ

「ジョブ・ライブラリ」には、詳細 Profitability アプリケーションのすべてのモデルおよびすべてのユーザーに対して現在発行されている、またはスケジュールされているジョブがリストされます。

「ジョブ・ライブラリ」の列をクリックして、「開始日」と「時間」、「アプリケーション名」、「ジョブ・タイプ」、「コメント」、「ユーザー」、「タスク・フロー ID」、「ステータス・メッセージ」を基準にしてジョブをソートします。再度クリックすると、逆順でソートします。

次の項を参照してください:

- [305 ページの「ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ」](#)
- [306 ページの「ジョブ・ライブラリの表示」](#)

## ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ

処理できるジョブには4つのタイプがあり、ジョブ・ライブラリでの「ジョブの詳細」情報は、ジョブ・タイプに応じて変化します。

- [305 ページの「配賦計算 - 詳細」](#)
- [306 ページの「バルク編集の適用」](#)
- [306 ページの「POV コピー」](#)
- [306 ページの「ImportConfiguration」](#)

## 配賦計算 - 詳細

配賦計算 - 詳細のジョブ・オプションには、計算の設定時に選択された「処理のオプション」、「カスタム・スクリプト」、「モデル」および「データ」の POV が表

示されます。ジョブが終了した日時が、画面の下部に ODL タスク ID とともに表示されます。300 ページの「詳細 Profitability の計算の管理」の「計算の管理」タブを参照してください。

## バルク編集の適用

バルク編集時に選択された POV と「選択項目の編集」(ソース・ルールと宛先ドライバまたは宛先ルール)が表示されます。264 ページの「バルク・エディタの操作」を参照してください。

The screenshot displays two panels from a software interface. The left panel, titled 'Job Details', contains a 'POV Options' section with a table for 'Model' and job status information. The right panel, titled 'Edit Selections', shows two columns for selecting source rules and destination drivers.

**Job Details:**

POV Options

Model:

Year	Period	Scenario	
2010	January	Actual	

Sources Impacted: 1

Job Finished: May 29, 2012 12:36:09 AM PDT

ODL Task ID: CGP2\_BulkEdit\_D20120529T003605\_e96

**Edit Selections**

For these Sources:

Source Rule Name
sr1

Add this Driver:

Destination Driver Name
Rate

## POV コピー

POV コピーの詳細が表示され、選択されたソースおよび宛先の POV と「構成のコピー」が表示されます。243 ページの「POV のコピー」を参照してください。

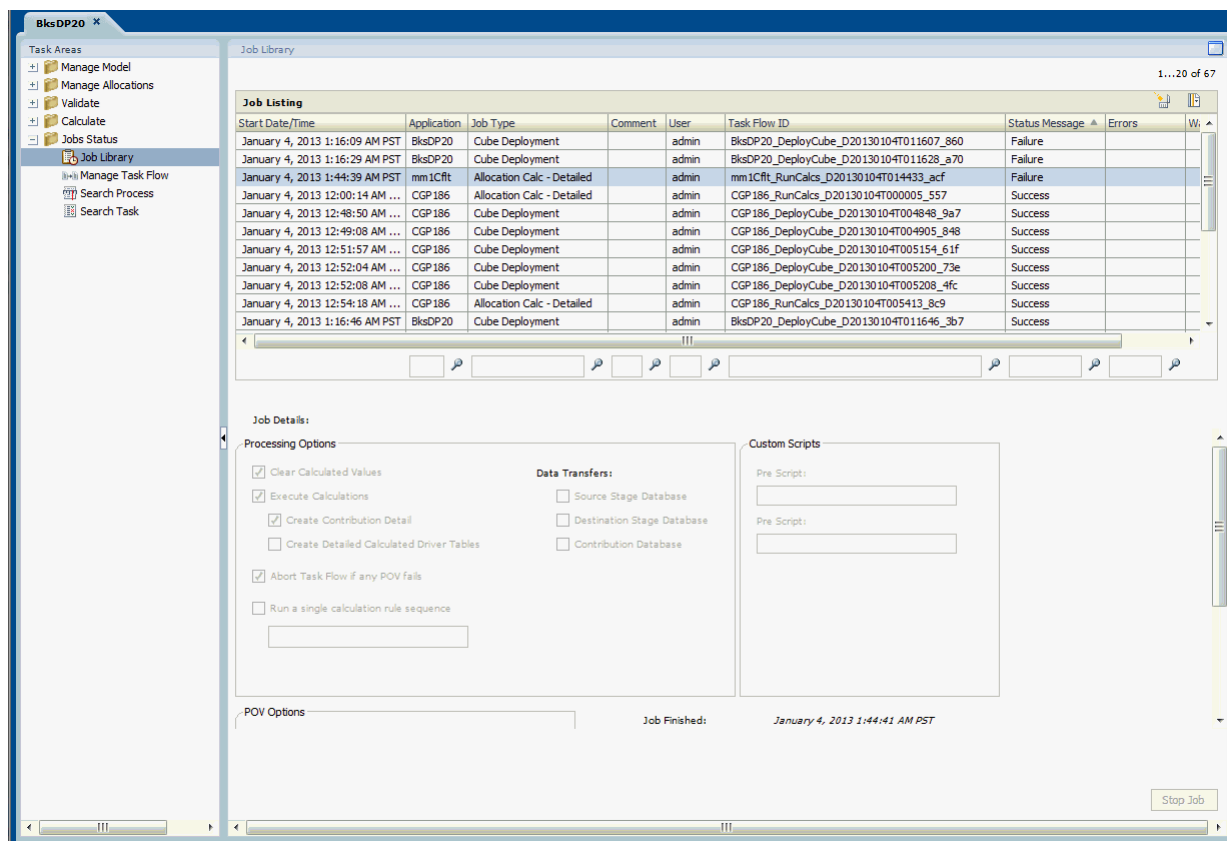
## ImportConfiguration

ImportConfiguration ジョブ・オプションには、「インポート構成」と「JDBC 接続」が表示されます。インポート対象として選択されたステージング・テーブルが表示されます。247 ページの「詳細 Profitability のステージング・テーブルのインポート」を参照してください。

## ジョブ・ライブラリの表示

▶ ジョブ・ライブラリを表示するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「ジョブ・ライブラリ」の順に選択します。



### 3 「ジョブ・リスト」には、各ジョブの情報が表示されます。

- 「開始日時」には、ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻が表示されます。
- 「アプリケーション」には、タスクが実行されているアプリケーションの名前が表示されます。
- 「ジョブ・タイプ」には、実行されるタスクのタイプが表示されます。
  - 配賦計算 - 詳細 - 計算が実行されます
  - バルク編集の適用 - バルク編集の機能を使用して、モデル要素が作成または削除されています
  - POV コピー - POV データがコピーされています
  - ImportConfiguration - ステージング・テーブルがインポートされています
  - キューブ配置
  - アプリケーションの作成
  - アプリケーションの複製
  - 事前更新分析
  - 次元の更新
  - アプリケーションの削除
- 「コメント」には、初期実行、バルク編集、ドライバの追加など特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細が表示されます。コメントはタスクの発行時に入力されます。

- 「ユーザー」には、処理するタスクを発行した個人のユーザー ID が示されます。
- 「タスク・フロー ID」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクの ID で、<application name>:<task name><generated taskflow number>. というフォーマットです。

たとえば、生成されるタスクフロー番号は、

**Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe**, のように表示されます。この場合、**Demo04** がアプリケーション名、**RunCalcs** がタスク、**D20111103T183447\_fbe** が生成されたタスクフローのインスタンス ID です。[309 ページの「詳細 Profitability タスクフローの管理」](#)を参照してください。

- 「ステータス」には、「実行中」、「成功」または「失敗」などの、タスクフローの現在のステータスに関するメッセージが表示されます。
- 「エラー」
- 「警告」

- 4 **オプション:** 「ジョブの詳細」の下で、ハイライトされたジョブの実行に使用されるジョブ・オプションを確認します。詳細のフォーマットは、ハイライトされているジョブ・タイプに応じて異なります。「処理のオプション」、「カスタム・スクリプト」、「POV オプション」は、該当する場合に表示されます。

詳細は、[305 ページの「ジョブ・ライブラリ・ジョブ・タイプ」](#)を参照してください。

- 5 **オプション:** ジョブを検索するには、各列の下部にある「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して検索します。[29 ページの「検索機能の使用」](#)を参照してください。

- 6 「ジョブの終了」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。

- 7 「ODL タスク ID」の下で、ハイライトされたジョブの ID を確認すると、エラーや警告メッセージを `hpcm.log` で探しやすくなります。

`hpcm.log` ファイルで、「検索」と「ODL タスク ID」を使用して、選択したジョブのロギング詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリーの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

- 8 **オプション:** 必要に応じて、「ジョブの停止」をクリックして、「実行中」ステータスのハイライトされたタスクを終了します。

---

**注意** ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

---

EPM Workspace タスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

## 詳細 Profitability タスクフローの管理

タスクフローを使用すると、ビジネス・プロセスの全体または一部を自動化できます。タスクは、一連のプロシージャ・ルールに従って、特定のタスクフロー参加者から別の参加者に渡されます。詳細 Profitability and Cost Management では、次のような場合にタスクフローが作成されます:

- ステージング・テーブルがインポートされている
- POV データがコピーされている
- 統計算が実行されている
- バルク編集の機能を使用して、モデル要素が作成または削除されている
- キューブ配置
- アプリケーションの作成
- アプリケーションの複製
- 事前更新分析
- 次元の更新
- アプリケーションの削除

**注:** タスクフローは、モデルのコンテンツまたは構造を検証するときには使用できません。

タスクフロー ID は各タスクに対して自動的に生成されます。タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。タスクフローには、1 つまたは複数のステップが含まれます。各タスクフロー・ステップは、Profitability and Cost Management での 1 つのアクションを表します。

タスクフローを開始すると、タスクフロー・ステップが作成され、タスクフロー ID (例、'Demo04\_RunCalcs\_D20111103T183447\_fbe') が割り当てられます。ID により、タスクフローの進行状況を監視できます。タスクフロー・インスタンスを開始するたびに、新しいタスクフロー ID が作成されます。タスクフローは、中断または再開すると、常にステップ 1 から開始されます。

タスクフロー・ステップは、最初のステップから順に実行されます。1 つのステップの結果が生成されると、次のステップが開始されます。タスクフローのすべてのステップが実行されたときに初めてステータスが完了となります。

「タスク領域」の「ジョブのステータス」オプションを使用すると、タスクフローのステータスおよび詳細を表示したり、1 度のみか繰り返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

「ジョブのステータス」監視オプションにアクセスするには、次の条件を満たしている必要があります:

- Profitability and Cost Management が外部認証および Shared Services 機能を使用するように構成されている必要があります。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- タスクフロー・ユーザーがタスクフロー操作を実行するには、次に示す Shared Services のいずれかの役割が割り当てられている必要があります:
  - タスクフローの管理 - タスクフローの作成と編集が許可されます。
  - タスクフローの実行 - タスクフローの実行と表示のみが許可されます。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。

**注：** Shared Services のどちらの役割もグローバル・ユーザーの役割です。これらの役割を割り当てられたユーザーは、任意のアプリケーションや製品のタスクフローを変更または実行できます。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割セキュリティ・ガイド』を参照してください。

---

**注意** 各「タスクフロー」画面でステップおよびリンクを追加または削除して、新しいタスクフローを作成することもできますが、詳細 Profitability and Cost Management タスクフローは変更しないことをお勧めします。その他の製品の EPM Workspace タスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

---

タスクフローを監視およびスケジュールするには、次の手順を使用します:

- [157 ページの「タスクフロー情報の表示」](#)
- [158 ページの「タスクフローのステータスの表示」](#)
- [160 ページの「タスクの詳細の表示」](#)
- [161 ページの「タスクフローのスケジュール」](#)

## 詳細 Profitability タスクフロー情報の表示

「タスクフローのリスト(要約)」には、選択されているアプリケーションの既存のタスクフローと各タスクフローの基本的な詳細が表示されます。

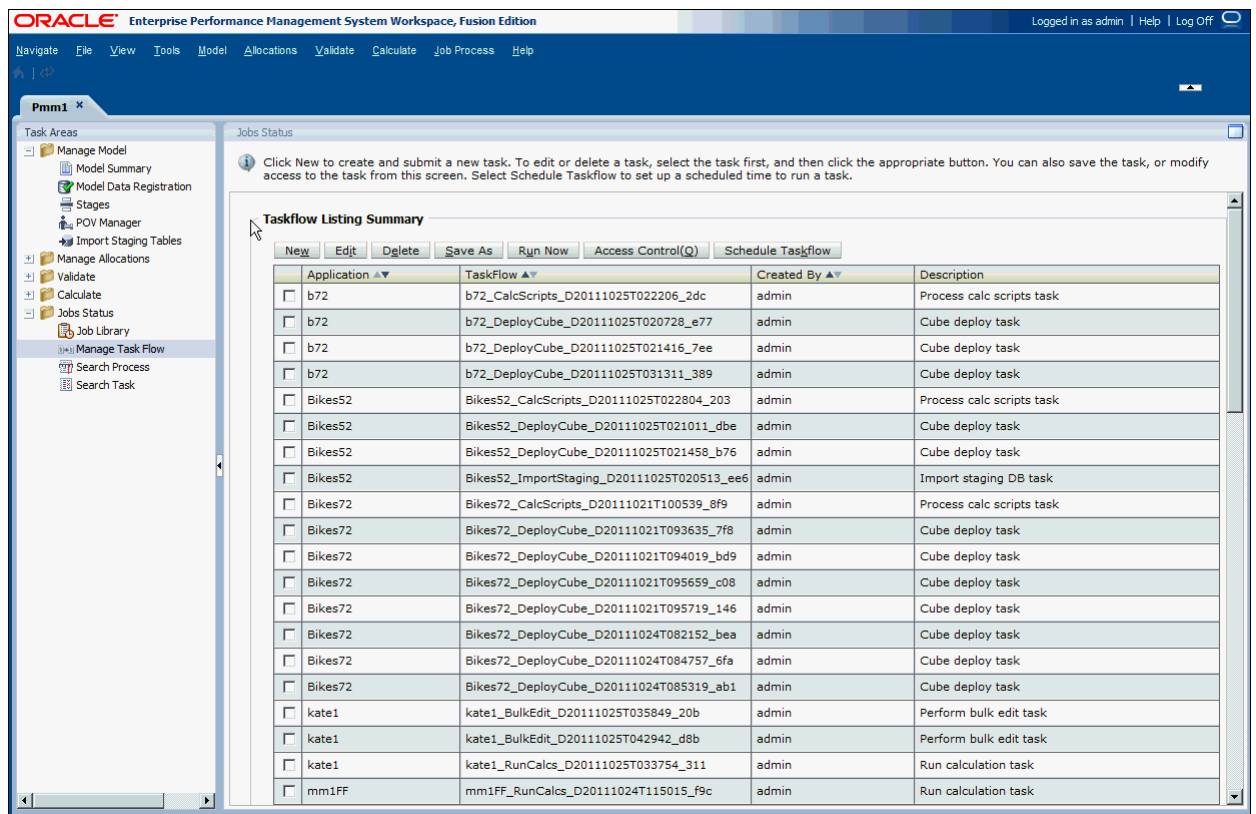
▶ タスクフロー情報を表示するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

要約には、選択されているアプリケーションに存在する各タスクフローについて、次の情報が表示されます:

- 「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- 「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が<アプリケーション名>:<タスク名><生成されたタスクフロー番号>という形式で表示されます。

- 「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーの ID が表示されます。
- 「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。



- 3 オプション: タスクフローの横にあるラジオ・ボタンをクリックし、「タスクフローのスケジュール」をクリックすると、タスクの実行をより都合のよい時間または日付にスケジュールできます。
- 4 タスクフローのリスト(要約)画面を使用して、タスクフローの削除やタスクフローの実行のスケジュールなど、様々なアクションを実行します。EPM Workspace タスクフローの使用の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

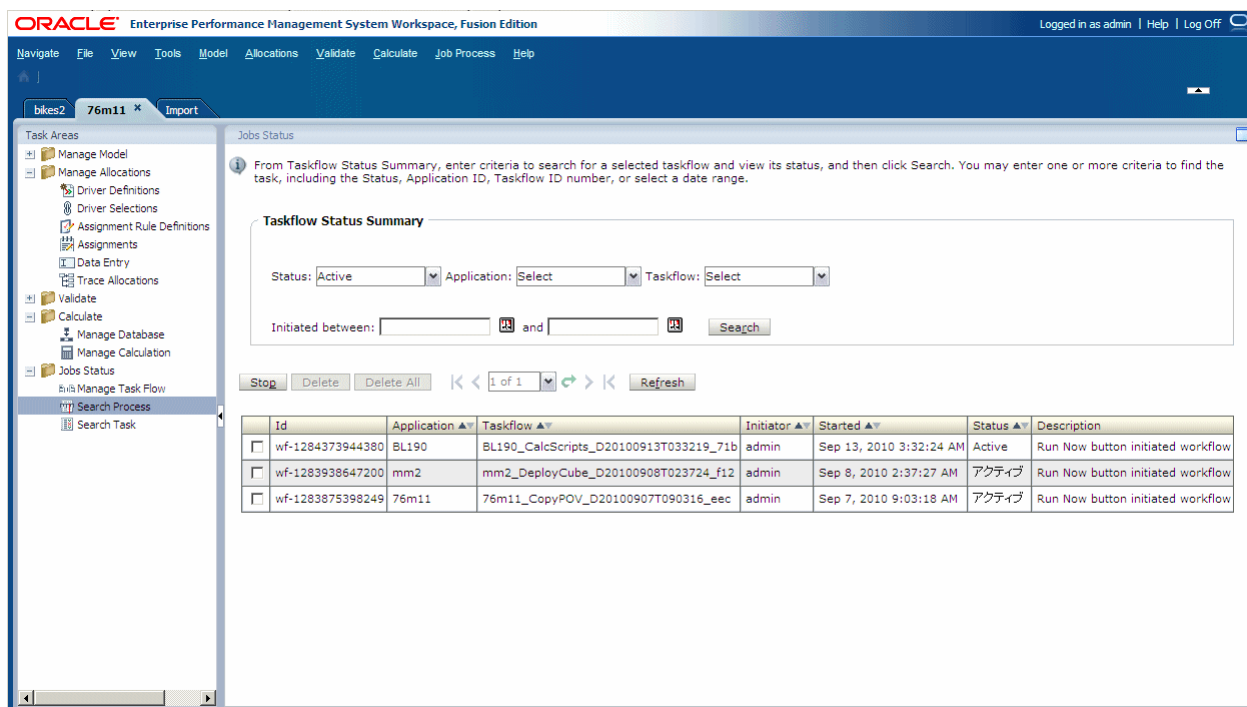
## 詳細 Profitability タスクフロー・ステータスの表示

タスクフロー・ステータス(要約)画面では、既存のタスクフローのステータスを表示または更新できます。また、タスクフロー・リストをフィルタ処理し、特定のステータスまたは日付範囲を持つタスクフローを表示することもできます。


生成されるタスクフロー・ステップごとに、参加者 ID が生成されます。関連する参加者の要約の詳細を表示するには、個々のタスクフローをドリルダウンします。

▶ タスクフローのステータスを表示するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「プロセスの検索」の順に選択します。



### 3 タスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:

1. 「ステータス」で、タスクフローのステータスを選択します:
  - アクティブ
  - 完了
  - 停止済
  - すべて
2. 「アプリケーション」で、アプリケーション ID を選択します。
3. 「タスクフロー」で、タスクフロー ID を選択します。
4. 「開始期間」で、「カレンダー」をクリックし、検索範囲の開始日と終了日を選択します。

**注:** 必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的に結果を絞り込みます。

### 4 「検索」をクリックします。

検索結果は、画面の下部に表示されます:

- ID (これは、タスクフローに自動的に生成された参加者 ID です。)
- アプリケーション ID
- タスクフロー ID
- タスクフローの開始元
- タスクフローの実行が開始された時刻
- タスクフローの現在のステータス
- タスクフローの説明



- 5 **オプション:** 「リフレッシュ」 をクリックし、ステータス情報を更新します。
- 6 **オプション:** マルチステップ・タスクフローの現在実行されているステップを終了するには、該当するタスクフローの横にあるチェック・ボックスを選択し、「停止」 をクリックします。

選択したステップの結果がアプリケーションから戻されると、タスクフローは停止します。それまでのステップの結果が破棄されることはありません。ただし、タスクフローを再実行すると、最初のステップから開始されます。

- 7 **オプション:** タスクフローの詳細およびステータスを表示するには、タスクフロー名をダブルクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、タスクの詳細およびステータスが示されます。

- 8 「取消し」 をクリックし、タスクフロー・ステータス(要約)に戻ります。

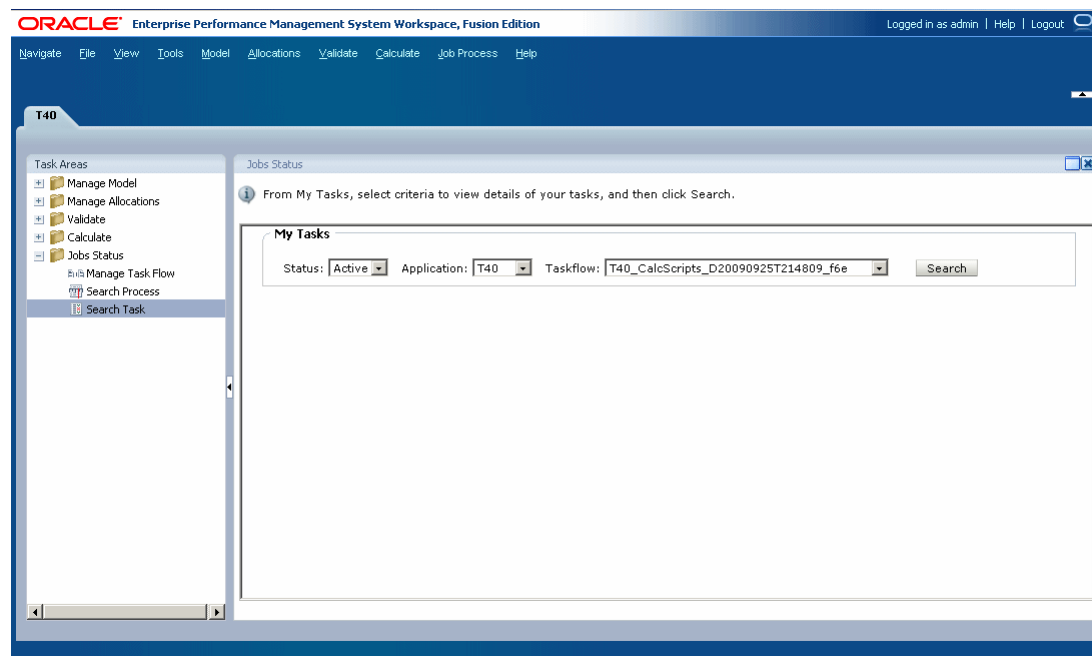
## 詳細 Profitability タスクの詳細の表示

「タスクの詳細」 オプションを使用すると、既存のタスクフローの詳細を表示できます。

タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。

▶ タスクの詳細を表示するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」 から、「ジョブ・ステータス」、「タスクの検索」の順に選択します。



- 3 「マイ・タスク」で、タスクフローを検索するための検索条件を1つまたは複数選択します:

1. 「ステータス」で、「新規」、「アクティブ」、「完了」、「すべて」などのステータスを選択します。

2. 「アプリケーション」で、アプリケーション ID を選択します。
3. 「タスクフロー」で、生成されたタスクフロー ID を選択します。

**注：** 必要に応じ、すべての検索フィールドを空白のままにしてすべてのタスクフローを表示するか、検索条件をできるかぎり具体的に結果を絞り込みます。

4 「検索」をクリックします。

検索結果が表示されます。

5 **オプション:** 右向きまたは左向きの矢印を使用して、結果をスクロールします。現在のページ番号と合計ページ数が表示されます。

6 **オプション:** 「リフレッシュ」をクリックし、ステータス情報を更新します。

7 タスクフローを選択し、「ステータスの表示」をクリックします。

タスクフロー参加者(要約)が表示され、ジョブの詳細および、タスクフロー内で選択されているステップの現在のステータスが示されます。

8 「取消し」をクリックし、「ジョブ・ステータス」画面に戻ります。

## 詳細 Profitability タスクフローのスケジュール設定

1 度のみか繰返し発生するタスクフローの実行をスケジュールできます。

**注：** タスクフローをスケジュールするには、タスクを作成するときに「後で実行」オプションを選択しておく必要があります。

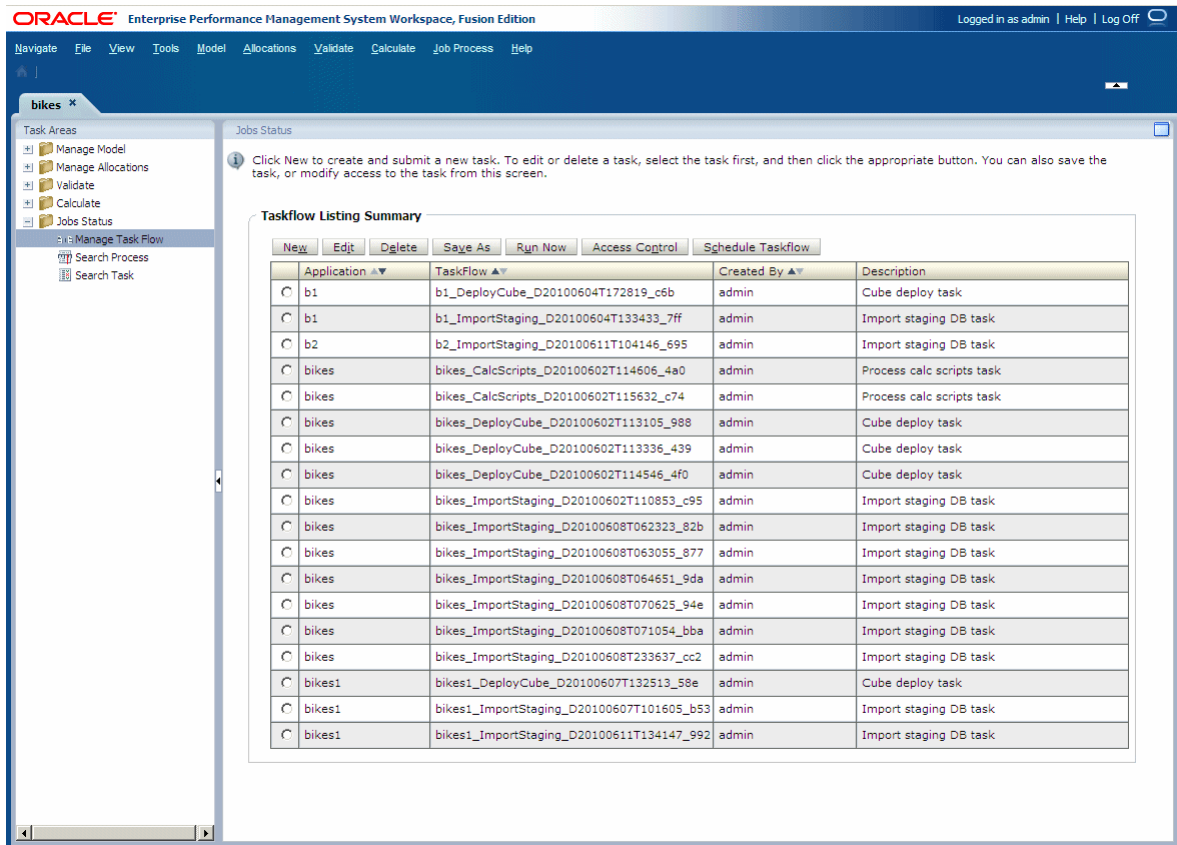
▶ タスクフローをスケジュールするには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、ジョブが発行されている対象のアプリケーションを選択します。
- 2 「タスク領域」から、「ジョブ・ステータス」、「タスク・フローの管理」の順に選択します。

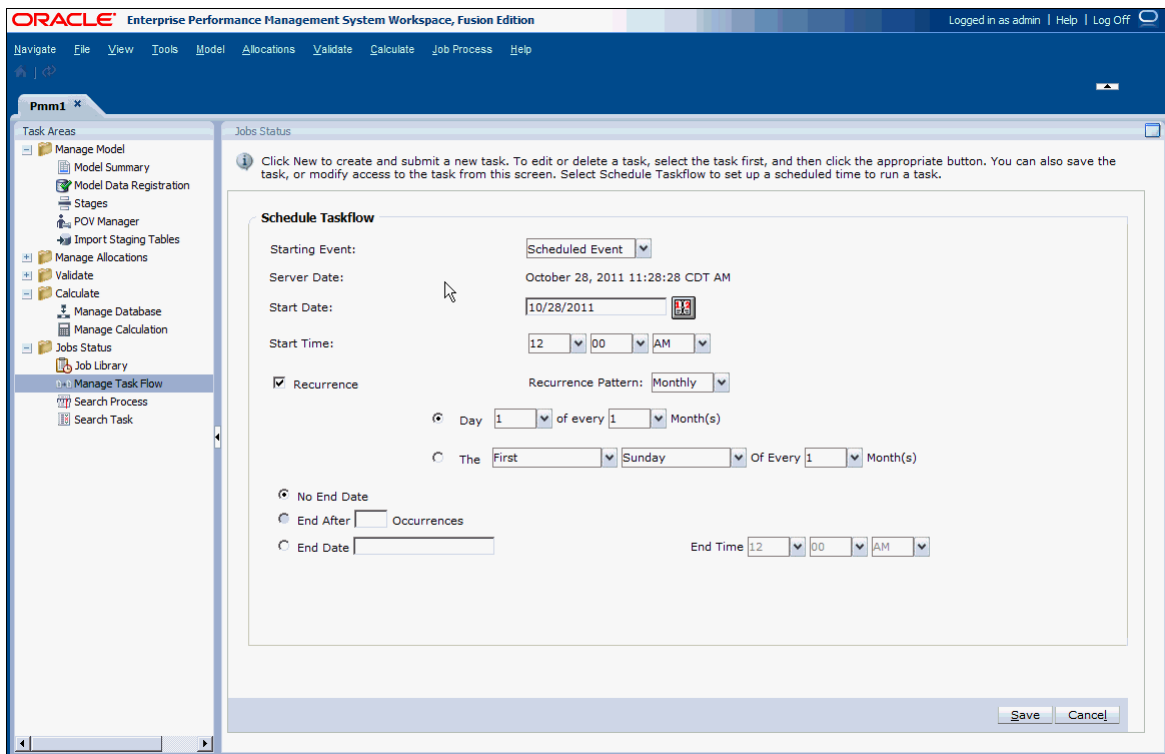
「タスクフローのリスト(要約)」画面には、既存の各タスクフローについて次の情報が表示されます。

- 「アプリケーション」には、アプリケーション名が表示されます。
- 「タスクフロー」には、生成されたタスクフロー番号が<アプリケーション名>:<タスク名><生成されたタスクフロー番号>という形式で表示されます。
- 「作成者」には、タスクフローを作成したユーザーの ID が表示されます。
- 「説明」には、タスクの簡単な説明が表示されます。


**注：** タスクを実行するたびに、新しいタスク ID が生成されます。



- 3 タスクの作成時に「後で実行」オプションを選択したタスクフローの横のチェック・ボックスを選択します。
- 4 「タスクフローのスケジュール」をクリックします。



- 5 「開始イベント」で、「スケジュール済イベント」を選択します。「サーバーの日付」が表示されます。

6 「開始日」で、「カレンダー」をクリックし、タスクフローの実行をスケジュールする日付を選択します。

7 「開始時刻」で、ドロップダウン・リストを使用し、タスクフローの開始をスケジュールする時刻を選択します。

時間および分を選択し、実行時間を午前または午後のいずれかに設定する必要があります。

8 **オプション:** ジョブを繰り返し実行するようにスケジュールする手順は、次のとおりです:

1. 「繰り返し」を選択します。
2. 「繰り返しパターン」で、「月次」または「週次」などの頻度を選択します。
3. 繰り返しの設定を選択し、次の例に示すように必要な変数を入力します:
  - x か月ごとの月の第 x 日
  - x か月ごとの週の x 曜日

9 **オプション:** タスクフローを、手動で取り消されるか削除されるまで実行するようにスケジュールするには、「終了日なし」を選択します。

10 **オプション:** タスクフローを指定した回数実行するようにスケジュールするには、「x 回後に終了」を選択します。テキスト・ボックスにジョブを実行する回数を入力します。

**注:** このオプションは、「1 日ごと」または「1 週間ごと」の「繰り返し」スケジュールが選択されている場合にのみ使用できます。

11 **オプション:** 指定した日付までタスクフローを実行するには、「終了日」を選択し、最後に実行する日時を選択します:

1. 「終了日」で、「カレンダー」をクリックし、日付を選択します。

**注:** 「カレンダー」は、「終了日」オプションを選択している場合にのみ表示されます。

2. 「終了時間」で、最後に実行する時刻を選択します。時間および分を選択し、午前または午後のいずれかを選択する必要があります。

12 「保存」をクリックして、スケジュールしたジョブを保存します。

スケジュールどおりにタスクフローが実行されます。



# Profitability and Cost Managementアプリケーション・マネージャ

## この付録の内容

マスター Essbase アプリケーション .....	318
マスター Essbase アプリケーションの構築 .....	324
Profitability and Cost Management アプリケーションの作成 .....	325
アプリケーションの編集 .....	327
アプリケーションの再登録 .....	328
アプリケーションの複製 .....	329
次元の更新 .....	329
アプリケーションの削除 .....	331
「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示 .....	332

Performance Management Architect をインストールできないインスタンスでは、Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャを Performance Management Architect のかわりに使用して、Profitability and Cost Management アプリケーションおよび次元を管理できます。

アプリケーション・マネージャの場合、Essbase を次元管理システム、または Profitability and Cost Management アプリケーションの次元のソースとして使用します。ユーザーは次元および次元メンバーをマスター Essbase アプリケーションに作成し、それを Profitability and Cost Management アプリケーションにインポートします。同じマスター・アプリケーションを使用して複数の Profitability and Cost Management アプリケーションを作成できます。アプリケーション・タイプ(「標準」または「詳細」)は、アプリケーションを配置するときにウィザードで設定します。Essbase マスター・アプリケーションからは取得されません。

Essbase または Performance Management Architect のいずれを使用して Profitability and Cost Management アプリケーションを作成しても、アプリケーションの動作に違いはありません。ただし、元の次元管理システムを使用してソースを変更できるだけです。

アプリケーション管理のホーム画面にアクセスするには、ユーザーは管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされている必要があります。管理者またはパワー・ユーザーが、アプリケーションの作成、編集、複製、削除、および次元の更新を行うことができます。

# マスター Essbase アプリケーション

## サブトピック

- [次元タイプ](#)
- [ユーザー定義属性](#)
- [ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)
- [BSO およびメンバー次元プロパティの指定](#)
- [カスタム・メジャー次元](#)

Profitability and Cost Management アプリケーション・マネージャを使用するには、Essbase でマスター・アプリケーションを作成し、Profitability and Cost Management の次元および次元のメンバー情報のソースを提供する必要があります。マスター・アプリケーションは ASO アプリケーションです。1つのアプリケーションを複数の Profitability and Cost Management アプリケーションのソースとして使用できます。

---

**注意** Essbase マスター・アプリケーションの次元を削除する、またはその名前を変更する場合、それらの次元を参照する、すでに配置済の Profitability and Cost Management アプリケーションでは、次元を正しく更新できなくなります。つまり、次元タイプを定義する UDA は方法にかかわらず変更しないでください。次元を削除または名前を変更する場合、既存の Profitability and Cost Management アプリケーションを引き続き必要に応じて更新できるように、別の Essbase マスター・データベースの作成を検討してください。事前更新分析オプションの既存の検証では、これらのケースはレポートされません。

---

マスター Essbase アプリケーションを配置するときに、ASO 次元メンバーとそのプロパティ (ASO の「ストレージ・タイプ」、ASO の「式」、「階層タイプ」など) は、Essbase に自動的に読み込まれます。手動の操作は不要です。

BSO 特有の次元およびメンバー・プロパティは配置中に自動的に読み込まれます。これを管理するには、BSO 次元メンバーおよびプロパティ (「式」、「データ・ストレージ」および「次元ストレージ・タイプ」など)、特定の Performance Management Architect 次元およびプロパティ (「POV 次元」など) のユーザー定義の属性次元 (UDA) を作成し、BSO データベースと Essbase を連携させる必要があります。

Essbase マスター・アプリケーションの Unicode プロパティセットにより、マスター・アプリケーションから配置された Profitability and Cost Management アプリケーションから作成された任意のレポート用データベースまたは計算用データベース・アプリケーションの Unicode プロパティが決定されます。

## 次元タイプ

マスター Essbase アプリケーションを作成する場合は、すべての次元を DIMTYPE UDA に割り当てる必要があります。

有効な次元タイプが [表 15](#) に表示されます。

表 15 次元タイプ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
配賦タイプ	DIMTYPE_ALLOCTYPE	<p>標準 Profitability の場合のみ、次の条件を使用して、<b>AllocationType</b> 次元を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーション・マネージャがメンバーを認識するように、Generation1 メンバーに"DIMTYPE_ALLOCTYPE"の UDA 値を割り当てます。メンバー名は何でもかまいませんが、UDA 値は説明のとおりを設定する必要があります。</li> <li>この次元のダミーのメンバーを 1 つ作成することで、Gen1 メンバーに子がない場合に、Essbase でアウトラインを保存できます。</li> </ul>
メジャー	DIMTYPE_MEASURES	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メジャー」次元を作成し、Generation1 メンバーに"DIMTYPE_MEASURES"の UDA の値を割り当てます。メンバー名は何でもかまいませんが、UDA 値は説明のとおりを設定する必要があります。</li> <li>この次元のダミーのメンバーを 1 つ作成することで、Gen1 メンバーに子がない場合に、Essbase でアウトラインを保存できます。</li> </ul> <p><b>注：</b> 標準 Profitability の場合のみ、カスタム・メジャー次元を使用するには <a href="#">324 ページの「カスタム・メジャー次元」</a> を参照してください。</p>
汎用(ビジネス)	DIMTYPE_GENERIC	ビジネス次元に DIMTYPE_GENERIC の UDA の値を割り当てます。
POV	<ul style="list-style-type: none"> <li>DIMTYPE_POV1</li> <li>DIMTYPE_POV2</li> <li>DIMTYPE_POV3</li> <li>DIMTYPE_POV4</li> </ul>	最大 4 つの <b>POV</b> 次元に対し、Generation1 メンバーの値を番号順に割り当てます。たとえば、DIMTYPE_POV1、DIMTYPE_POV2 などがあります。

## ユーザー定義属性

ユーザー定義属性(UDA)を使用すると、次元メンバーのテキスト属性に基づいた分析が可能になります。たとえば、New Products という UDA を追加できます。

選択したメンバーの UDA 名を入力します。

最大 256 文字までの英数字を入力できます。80 文字の制限が Unicode 対応のデータベースに適用されます。

すべての Essbase アウトラインで、すべての次元の名前が一意であることを確認してください;一意でない場合は、アウトラインの作成が失敗します。たとえば、属性次元メンバーに標準の次元と同じ名前を付けることはできません。

## ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

表 16 に表示される ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティは、配置中に Essbase に自動的に取り出されます。このプロパティとマスター Essbase アプリケーションの連携に、手動アクションは必要ありません。

表 16 Profitability and Cost Management ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
別名	別名	別名は、配置したアプリケーションに表示される次元メンバー名です。ルート・メンバーを除き、任意のメンバー別名が表示されます。
コメント	コメント	次元またはメンバーにコメントを入力できます。コメントには最大 255 文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場合)。
集計	集計	<p>メンバー集計プロパティは、子を親にロールアップする方法を指定します。</p> <p>現在のメンバーが次元または属性でない場合、次のいずれかの集計演算子がメンバーに割り当てられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● + (加算) - デフォルト</li> <li>● - (減算)</li> <li>● * (乗算)</li> <li>● / (除算)</li> <li>● % (パーセント)</li> <li>● ~ (集計では無視する)</li> <li>● ^ (集計しない)</li> <li>● NotUsed</li> </ul> <p><b>注：</b> 集約ストレージ・アウトライン(ASO)では、集計演算子の使用に一部制限があります。Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。</p>
データ・ストレージ(ASO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ASODimensionDataStorage (次元ルート・メンバーの場合)</li> <li>● ASOMemberDataStorage (次元メンバーの場合)</li> </ul>	<p>次元およびメンバーに使用できる ASO ストレージ・オプション。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● StoreData - データは次元とともに保管されます。</li> <li>● ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareData プロパティは、メンバーのみに適用されます。次元ルート・メンバーは共有できません。</li> <li>● NeverShare - この次元に関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子で複製されず。</li> </ul> <p><b>注：</b> このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● LabelOnly - この次元に関連付けられているデータはありません。</li> </ul>
次元式 (ASO)	ASODimensionFormula (次元ルート・メンバー用)	次元に適用される計算式。



プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
次元解決順	DimensionSolveOrder	選択した次元のソリューション・シーケンスの数値。たとえば、この次元を2番目に解決する場合は、「2」を入力します。
階層タイプ (次元のみ)	DimensionHierarchyType	「階層タイプ」プロパティは、Essbaseの集約ストレージ(ASO)データベースにのみ使用されます。 次元の階層のタイプは次のいずれかの値に設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「保管済」 - 次の集計記号を使用する次元メンバーの場合。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ + (加算)</li> <li>○ ~ (無視)</li> </ul> <p><b>注：</b> メンバーの親が LABEL_ONLY に設定されている場合、非集計演算子または無視(~)は、保管済階層にのみ使用できます。</p> </li> <li>● 「動的」 - 「加算」や「無視」などの集計記号を使用する次元メンバーの場合、または次元メンバーに式が含まれる場合。</li> <li>● 「使用可能」 - 代替階層をサポートする場合</li> </ul>
階層タイプ (メンバーのみ)	HierarchyType	メンバーに使用可能な階層のタイプ: <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「保管済」 (最初の Gen2 の子の場合)</li> <li>● 「動的」 (2番目以降の Gen2 の子の場合。2番目の Gen2 メンバーは代替階層をホスト可能)</li> <li>● 「なし」 (使用不可)</li> </ul>
メンバー式(ASO)	ASOMemberFormula	メンバーに適用される計算式。
メンバー解決順 (メンバーのみ)	MemberSolveOrder	選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このメンバーを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。 このプロパティは、ASO データベースのみに適用されます。 解決順が0のメンバーは、その次元の解決順序を継承します。 解決順が同じメンバーは、次元ソート順プロパティで別の値が指定されていないかぎり、その次元がデータベース・アウトラインに出現する順序で評価されます。 解決順のないメンバーは、解決順のあるメンバーの後に評価されます。
Unicode	Unicode	「Unicode」を選択して、アプリケーションを Unicode モードに設定します。Unicode モードのアプリケーションは複数の文字セットをサポートします。

## BSO およびメンバー次元プロパティの指定

マスター Essbase アプリケーションは ASO アプリケーションで、ASO 次元およびメンバーは配置中に自動的に読み取られます(320 ページの「ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ」)。ただし、BSO データベースおよび自動的に読み取ることのできない特別な次元およびメンバー(POV など)の操作には、BSO 特有のメンバー・プロパティが必要です。

これらの BSO および Oracle Hyperion EPM Architect の次元とメンバーを Essbase BSO データベースに含めるには、各次元を Profitability and Cost Management に配置するために Generation1 メンバーが必要です。マスター・アウトラインの次元の順番は、Profitability and Cost Management で生成されたアウトラインの次元の順序によって決まります。

表 17 にリストされている各次元およびメンバーに対して UDA を作成する必要があります。Essbase の操作に関する追加情報は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

---

**注意** 同じタイプの複数の UDA を Essbase の特定のメンバーに割り当てることはできません。Profitability and Cost Management の配置は使用する UDA タイプを認識していないため、整合性のない動作が発生するからです。たとえば、DIMTYPE\_POV1 と DIMTYPE\_POV2 の両方を同じメンバーに割り当てないでください。

---

アプリケーションに手動で割り当てる必要がある特別な UDA を必要とするプロパティについては、表 17 を参照してください。

**注：** UDA を使用して BSO が割り当てられるため、ユーザーが誤ってマスター Essbase データベースの互換性のない BSO プロパティを割り当てた場合、その後の Profitability and Cost Management でのレポート・キューブへの配置の操作が失敗する可能性があります。この状況が発生した場合は、レポート用データベースの配置で生成されたルール・ファイルとデータを手動でロードすることにより、互換性のない割当てを識別できます。

表 17 Profitability and Cost Management の次元およびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
データ・ストレージ(BSO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BSODimensionDataStorage (次元ルート・メンバー用)</li> <li>● BSOMemberDataStorage (次元メンバー用)</li> </ul>	<p><b>BSO データ・ストレージ</b>の場合、次の UDA のいずれかを次の子メンバーの Generation1 メンバーに割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● BSODS_LABELONLY</li> <li>● BSODS_NEVERSHARE</li> <li>● BSODS_SHAREDATA</li> <li>● BSODS_DYNCALANDSTORE</li> <li>● BSODS_DYNCALC</li> <li>● BSODS_STOREDATA</li> </ul> <p>UDA を設定する場合、BSO データ・ストレージのプロパティに割り当てられた値が存在しない場合、Profitability and Cost Management の配置では、次のデフォルト値が割り当てられるとみなします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Generation1 メンバーは “BSODS_LABELONLY” に割り当てられますが、次の例外があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ POV Generation1 メンバーが “BSODS_STOREDATA” に設定されている</li> <li>○ メジャー Generation1 メンバーが “BSODS_DYNCALC” に設定されている</li> </ul> </li> <li>● その他のすべてのメンバーが “BSODS_STOREDATA” に割り当てられている</li> </ul>
次元式 (BSO)	BSODimensionFormula (次元ルート・メンバー用)	<p>BSO 次元式の場合、ユーザーは Essbase マスター・データベースの BSO 次元式を指定できません。そのデータベースは ASO データベースである必要がある(したがって、マスター・データベースで使用可能な式属性は ASO 式である)からです。</p> <p>配置後、BSO 式を Essbase レポート用データベースに表示するには、BSO 次元式をレポート用データベースに直接手動で入力します。再配置する場合、BSO 式を再入力する必要があります。</p> <p>適切な BSO CALCULATOR 構文を使用します。</p>
次元ソート順	DimensionSortOrder	<p>数値を順番に入力して Profitability and Cost Management によって生成された Essbase アウトライン内の次元の順序を設定します。</p> <p>たとえば、この次元が Essbase アウトラインの 2 番目の次元である場合は、2 を入力します。</p> <p>次元ソート順は、別名次元と UDA 次元を除き、モデル内のすべての次元に設定されている必要があります。</p> <p>次元ソート順が連続しており、一意かつ 1 以上である必要があります。</p>
次元ストレージ・タイプ	DimensionStorageType	<p>「次元ストレージ・タイプ」プロパティは、Essbase のブロック・ストレージ(BSO)データベースにのみ使用されます。</p> <p>デフォルトでは、値は"SPARSE"に設定されます。</p> <p>DENSE 設定が必要な場合は、"DIMSTORETYPE_DENSE"の値を持つ UDA を Generation1 メンバーに割り当てます。</p>

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
メンバー式(BSO)	BSOMemberFormula	BSO メンバー式の場合、ユーザーは Essbase マスター・キューブの BSO メンバー式を指定できません。そのデータベースは ASO データベースである必要がある(したがって、マスター・キューブで使用可能な式属性は ASO 式である)からです。  配置後、BSO 式を Essbase レポート用データベースに表示するには、BSO 次元式をレポート用データベースに直接手動で入力します。再配置する場合、BSO 式を再入力する必要があります。  適切な BSO CALCULATOR 構文を使用します。
2 パス計算 (次元のみ)	BSO_TWOPASS (次元ルート・メンバー用)	BSO データベースの場合のみ、BSO_TWOPASS を指定すると、アウトラインを介した 2 番目のパスのメンバーが計算されます。
2 パス計算 (メンバーのみ)	BSO_TWOPASS	BSO データベースの場合のみ、BSO_TWOPASS を指定すると、アウトラインを介した 2 番目のパスのメンバーが計算されます。

## カスタム・メジャー次元

標準 Profitability の場合のみ、カスタム・メジャー・メンバーを使用する場合は、ドライバ・メジャーの下にある「UserDefinedDriverMeasures」メンバー名を作成し、そのメンバーの子としてカスタム・メンバーを追加します。アプリケーション・マネージャはそのカスタム・メンバーを「UserDefinedDriverMeasures」の子として配置されたメジャー階層に挿入します。

メンバー UserDefinedDriverMeasures は、アプリケーション固有のユーザー定義のドライバ・メジャーが保管される場所です。ASOMember DataStorage および BSOMember DataStorage プロパティは、次のように設定します:

- メンバーに子がない場合は、「StoreData」に設定します。
- このメンバーに子としてメンバーが追加され、これらのすべての子に集計記号 IGNORE がある場合、LabelOnly に設定します。

**注:** すべてのドライバ・メジャーはアウトライン内で一意である必要があります。アウトライン内の次元では既存のドライバ・メジャーの名前を他のメンバーの名前として使用しないでください(システム次元、POV 次元およびビジネス次元を含む); これらを使用すると、「データの入力」画面に値が正しく表示されません。

## マスター Essbase アプリケーションの構築

Essbase を使用して、次元および次元メンバーをマスター Essbase アプリケーションに作成すると、それを Profitability and Cost Management アプリケーションにインポートできます。

▶ マスター Essbase アプリケーションを作成するには:

1 次に示す、アプリケーション用の次元およびメンバーを生成するガイドラインを使用して、Profitability and Cost Management アプリケーション用のマスター Essbase データベースを作成します。

- 318 ページの「次元タイプ」
- 320 ページの「ASO 次元プロパティおよびメンバー・プロパティ」
- 321 ページの「BSO およびメンバー次元プロパティの指定」

Essbase アプリケーションおよびデータベースの作成の詳細は、Oracle Essbase Database Administrator's Guide を参照してください。

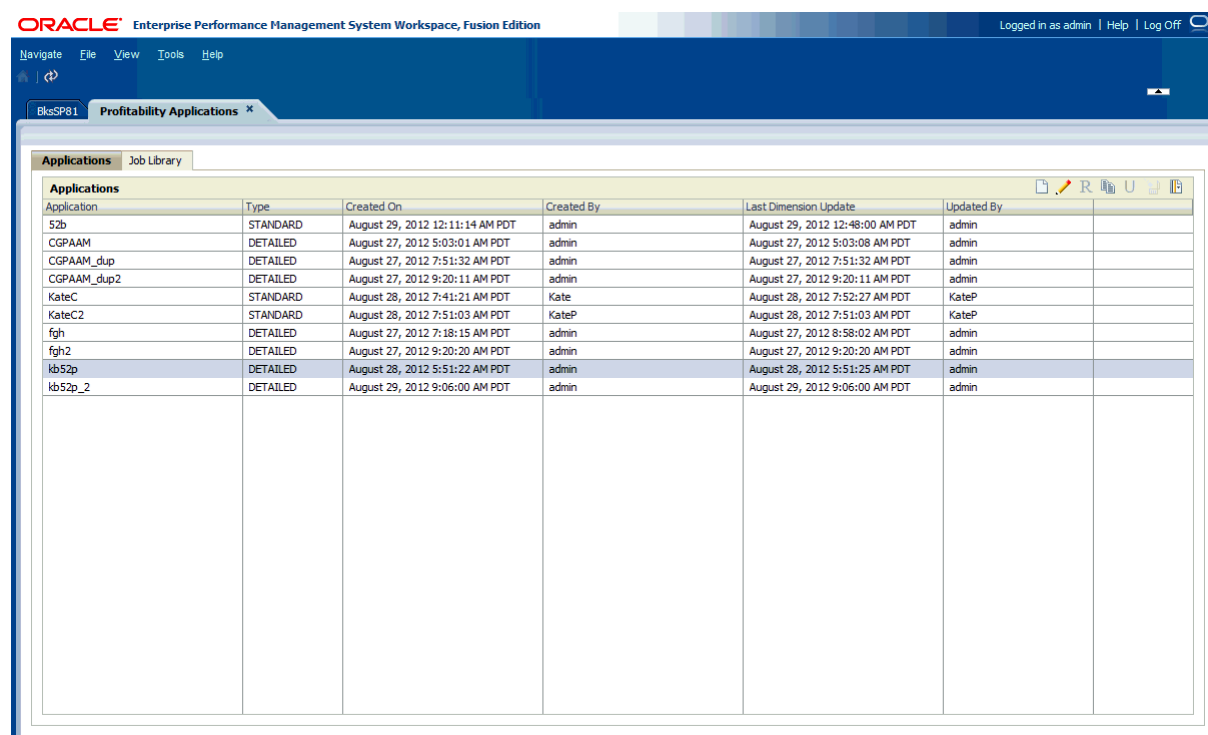
- 2 Profitability and Cost Management アプリケーションを作成するユーザーが、管理者またはパワー・ユーザーとしてプロビジョニングされていることを確認します。
- 3 325 ページの「Profitability and Cost Management アプリケーションの作成」で説明されているように、Profitability and Cost Management アプリケーションを作成します。

## Profitability and Cost Management アプリケーションの作成

▶ マスター・アプリケーションからアプリケーションを作成するには:

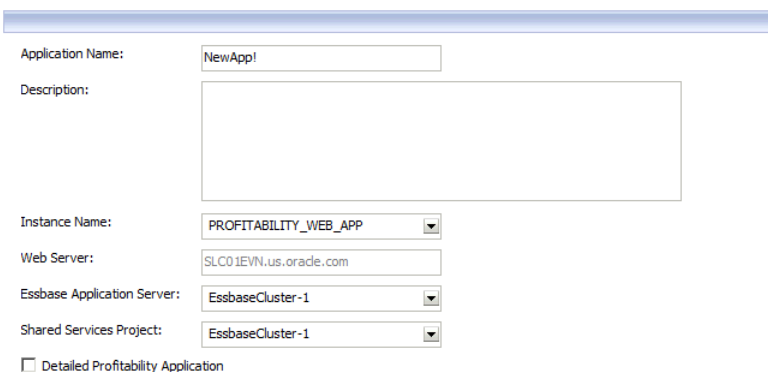
1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。この画面には使用できる「タスク領域」がありません。



Application	Type	Created On	Created By	Last Dimension Update	Updated By
S2b	STANDARD	August 29, 2012 12:11:14 AM PDT	admin	August 29, 2012 12:48:00 AM PDT	admin
CGPAAM	DETAILED	August 27, 2012 5:03:01 AM PDT	admin	August 27, 2012 5:03:08 AM PDT	admin
CGPAAM_dup	DETAILED	August 27, 2012 7:51:32 AM PDT	admin	August 27, 2012 7:51:32 AM PDT	admin
CGPAAM_dup2	DETAILED	August 27, 2012 9:20:11 AM PDT	admin	August 27, 2012 9:20:11 AM PDT	admin
KateC	STANDARD	August 28, 2012 7:41:21 AM PDT	Kate	August 28, 2012 7:52:27 AM PDT	KateP
KateC2	STANDARD	August 28, 2012 7:51:03 AM PDT	KateP	August 28, 2012 7:51:03 AM PDT	KateP
fgh	DETAILED	August 27, 2012 7:18:15 AM PDT	admin	August 27, 2012 8:58:02 AM PDT	admin
fgh2	DETAILED	August 27, 2012 9:20:20 AM PDT	admin	August 27, 2012 9:20:20 AM PDT	admin
kb5zp	DETAILED	August 28, 2012 5:51:22 AM PDT	admin	August 28, 2012 5:51:25 AM PDT	admin
kb5zp_2	DETAILED	August 29, 2012 9:06:00 AM PDT	admin	August 29, 2012 9:06:00 AM PDT	admin

## 2 「追加」ボタンをクリックしてアプリケーション・ウィザードを開きます。



The screenshot shows a web-based application wizard form. At the top, there is a blue header bar. Below it, the form contains several fields: 'Application Name' with the value 'NewApp!', a large 'Description' text area, 'Instance Name' with a dropdown menu showing 'PROFITABILITY\_WEB\_APP', 'Web Server' with the value 'SLC01EVN.us.oracle.com', 'Essbase Application Server' with a dropdown menu showing 'EssbaseCluster-1', and 'Shared Services Project' with a dropdown menu showing 'EssbaseCluster-1'. At the bottom left, there is a checkbox labeled 'Detailed Profitability Application' which is currently unchecked.

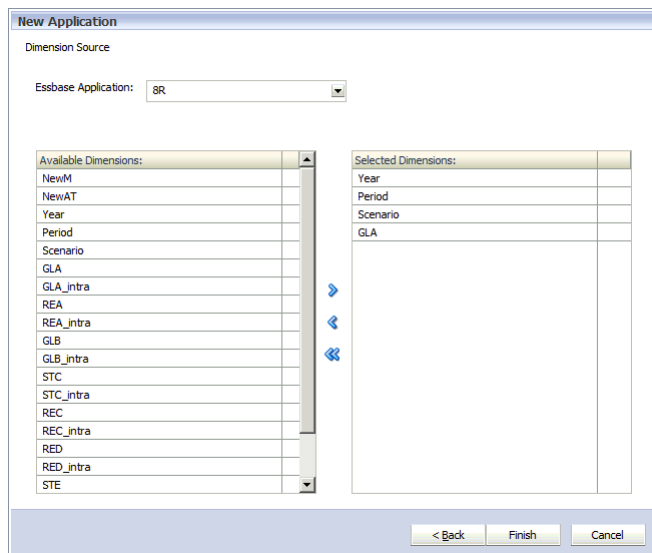



## 3 新規アプリケーション・ウィザードの最初の手順で、次の情報を入力します。

- クエリーの「アプリケーション名」
- オプション: アプリケーションの「説明」
- ドロップダウン・リストから「インスタンス名」を選択します。
- 「Web サーバー」のアドレスが表示されます
- ドロップダウンリストから「Essbase アプリケーション・サーバー」を選択します。
- ドロップダウンリストから「Shared Services プロジェクト」を選択します。
- オプション: 必要な場合は「詳細 Profitability」を選択します。デフォルトでは、アプリケーション・タイプは標準 Profitability だとみなされます。

## 4 「次」をクリックします。

新規アプリケーション・ウィザードの手順 2 が表示されます。



- 5 「Essbase アプリケーション」で、**Profitability and Cost Management** アプリケーションに使用する Essbase アプリケーションを選択します。
- 6 「使用可能な次元」で、「追加」矢印  を使用して、**Profitability and Cost Management** アプリケーションに含まれる次元メンバーを「選択した次元」列に移動します。  
[Ctrl]キーを使用して複数の次元を選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。
- 7 「終了」をクリックします。次のアクションが開始されます。
  - 新しいアプリケーションオブジェクトを作成する新規タスク・フローが開始します。「ジョブ・ライブラリ」タブで結果が表示できます。参照
  - ソース Essbase データベースの次元が検証されます。検証に問題がある場合は、タスク・フローが終了します。検証エラーを修正し、新しいアプリケーションを作成する手順を繰り返します。

検証が完了したら、新しいアプリケーションが「アプリケーション」タブに追加されます。


## アプリケーションの編集

「アプリケーションの説明」と「Shared Services プロジェクト」のみ変更できます。他のアプリケーションに関連する情報を変更する場合は、新しいアプリケーションを作成する必要があります。174 ページの「カスタム・クエリーの作成」を参照してください。

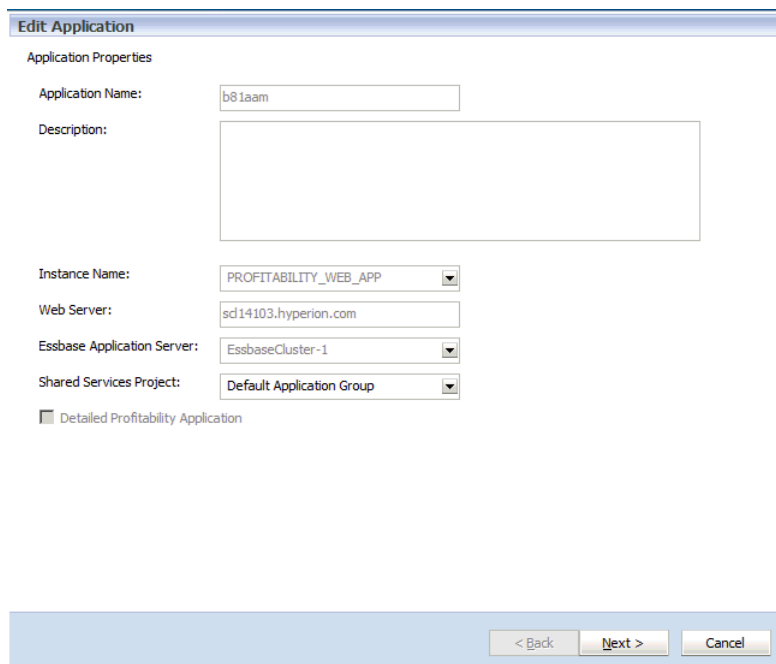
➤ アプリケーションを編集するには:

- 1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

- 2 変更するアプリケーションを選択して、「変更」ボタン  をクリックします。

「アプリケーションの説明」と「Shared Services プロジェクト」のみ変更できます。他のすべてのオプションはグレー表示になります。



3 「アプリケーション・ウィザード」の「編集」ウィンドウで、必要に応じて次の情報を変更します。

- 必要に応じて、「アプリケーションの説明」を変更
- ドロップダウン・リストから別の「Shared Services プロジェクト」を選択します。

4 「次」をクリックします。

「アプリケーション・ウィザード」の手順2が表示されます。

画面には選択した次元が移入され、修正することはできません。

5 「終了」をクリックします。


## アプリケーションの再登録

Oracle Hyperion Shared Services 内で新しいアプリケーションの登録は、アプリケーションの配置時に自動的に行われます。ただし、場合によっては、アプリケーションの再登録が必要になります。

▶ アプリケーションを再登録するには:

1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2 登録または再登録が必要なアプリケーションを選択し、「登録」ボタン  をクリックします。



登録を続行するかどうかの確認を要求する確認ダイアログが表示されます。

### 3 「OK」をクリックしてアプリケーションを登録します。

アプリケーションが再登録されたという確認メッセージが表示されます。

アプリケーションの登録の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。

## アプリケーションの複製

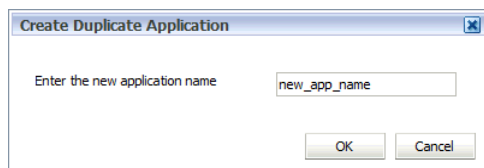
▶ アプリケーションを複製するには:

### 1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

### 2 「アプリケーション」タブで、複製するアプリケーションを選択し、「複製」ボタン をクリックします。

複製アプリケーションの作成ダイアログ・ボックスが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Create Duplicate Application". It contains a text input field with the placeholder text "Enter the new application name" and the value "new\_app\_name". Below the input field are two buttons: "OK" and "Cancel".

### 3 新規アプリケーションの名前を入力し、「OK」をクリックします。

「アプリケーション」の下に新しい名前で作成されたアプリケーションが追加されます。

## 次元の更新

Essbase データベースの次元または次元メンバーに、追加、削除、変更、または名前の変更など、変更が発生している場合、Profitability and Cost Management アプリケーションの次元を更新する必要があります。

---

**注意** Essbase マスター・アプリケーションの次元を削除する、またはその名前を変更する場合、それらの次元を参照する、すでに配置済の Profitability and Cost Management アプリケーションでは、次元を正しく更新できなくなります。次元を削除または名前を変更する場合、既存の Profitability and Cost Management アプリケーションを引き続き必要に応じて更新できるように、別の Essbase マスター・データベースの作成を検討してください。

---

「更新」ダイアログ・ボックスを使用して次元を更新するたびに、アプリケーションを検証し、更新するためのジョブ・エントリが「ジョブ・ライブラリ」に自動的に作成されます。

▶ Profitability and Cost Management アプリケーションの Essbase 次元を更新するには:

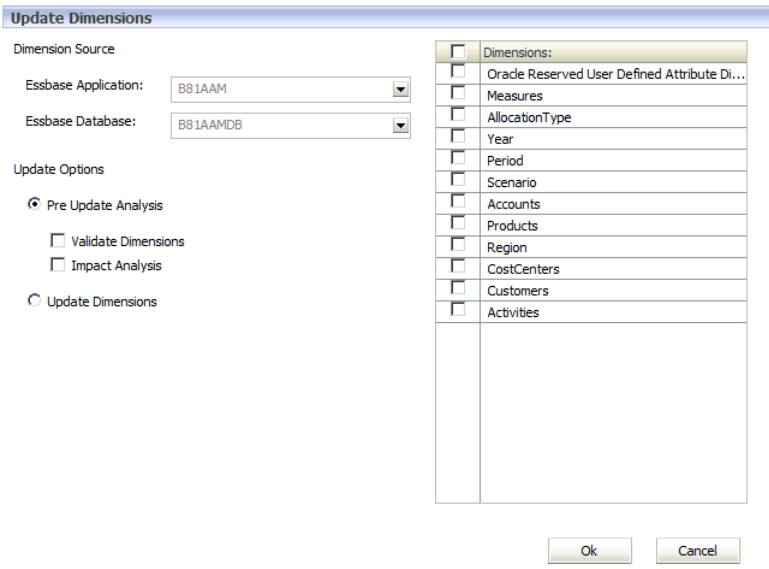
1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2 更新する必要がある次元および次元メンバーを含むアプリケーションを選択します。

3 「更新」ボタン  をクリックします。

「次元の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4 次元のステージング領域として使用されている「Essbase アプリケーション」を選択します。

5 次元のステージング領域として使用されている「Essbase データベース」を選択します。

6 「次元」の下で、更新する必要がある次元を選択します。すべての次元を選択するには、「次元」チェックボックスをオンにします。

7 オプション: 「Pre Update Analysis」の下で、「次元の検証」を選択し、各変更が有効であることを検証します。このオプションは、次元を更新しません。すべての次元が選択されると、このオプションはアプリケーション・レベルの次元の検証も実行します。

検証エラーおよび影響分析の結果が「ジョブ・ライブラリ」に表示されます。

8 オプション: 「事前更新分析」の下で、「影響分析」を選択し、配置中のモデルと Profitability and Cost Management の既存のモデル間の比較を実行します。■影響分析

| Impact Analysis が選択されている場合は、次元の検証オプションは使用できません。

次の情報が表示されます:

- 新しいメンバー
- 削除されたメンバー
- 親の再設定メンバー
- Level0 を持つメンバーの変更

検証エラーおよび影響分析の結果が「ジョブ・ライブラリ」に表示されます。

---

**注意** Essbase でメンバーの名前が変更された、または親が再設定された場合、影響分析に、削除されたメンバー、および新しいメンバーの両方が表示されます。さらに、名前の変更、または割当てルールの選択、「ドライバの選択」、「ドライバ例外」などの親の再設定操作中に削除されたメンバーを参照する任意のアーティファクトも削除されます。

---

- 9 **オプション:** 選択した次元の変更を更新するには、「次元の更新」をチェックし、「OK」をクリックします。


**注:** 変更された次元は検証され、例外がジョブ・ライブラリに報告されません。

## アプリケーションの削除

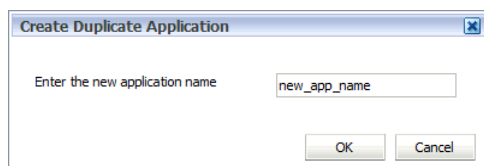
▶ アプリケーションを削除するには:


- 1 他のユーザーがこのアプリケーションを必要としていないことを確認します。
- 2 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

- 3 「アプリケーション」タブで、複製するアプリケーションを選択し、「複製」ボタン  をクリックします。

複製アプリケーションの作成ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 4 「クエリー・リスト」から削除するクエリーを選択し、「削除」ボタン  をクリックします。

選択したクエリーの削除を確認するメッセージが表示されます。

## 5 「はい」をクリックします。

選択したクエリーが「クエリーの管理」画面から削除されます。

# 「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示

「ジョブ・ライブラリ」では、既存のアプリケーションに対して実行中のジョブを含む、すべてのジョブのリストを提供します。グリッドをフィルタして、特定のタイプまたは特定のユーザーのジョブを分離できます。

▶ ジョブ・ライブラリを表示するには:

### 1 EPM ワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitability アプリケーション」の順に選択します。

「Profitability アプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

### 2 「ジョブ・ライブラリ」タブを選択します。

Start Date/Time	Application	Job Type	Comment	User	Task Flow ID	Status Message
December 13, 2011 8:41:15 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	remove ars	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T084115_79a	Success
December 13, 2011 8:39:44 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	add rs	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T083944_ab8	Success
December 13, 2011 8:39:19 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	descr	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T083918_884	Success
December 13, 2011 8:36:22 C...	KCGP2	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP2_RunCalcs_D20111213T083622_52f	Success
December 13, 2011 8:34:42 C...	KCGP2	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP2_RunCalcs_D20111213T083441_be7	Success
December 13, 2011 8:23:11 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T082310_7d3	Success
December 13, 2011 8:18:39 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081839_b07	Success
December 13, 2011 8:13:12 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081312_f28	Success
December 13, 2011 8:12:21 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081220_9ac	Success
December 13, 2011 8:08:59 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080859_a03	Success
December 13, 2011 8:07:44 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080744_c4a	Success
December 13, 2011 8:05:03 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080502_2af	Success

### 3 「ジョブ・リスト」には、各ジョブの情報が表示されます。

- 「開始日時」には、ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻が実行されます。
- 「アプリケーション」には、タスクが実行されているアプリケーションの名前が表示されます。
- 「ジョブ・タイプ」には、実行されるタスクのタイプが表示されます。次のオプションは Essbase データベースの更新および検証中、または Profitability and Cost Management へのインポート中に開始されたジョブに特有です。

- アプリケーションの作成
- 次元更新分析
- POV コピー - POV データがコピーされています
- 次元の更新
- 「コメント」には、特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細が表示されます。コメントはタスクの発行時に入力されます。
- 「ユーザー」には、処理するタスクを発行した個人のユーザー ID が示されます。
- 「タスク・フロー ID」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクの ID で、<application name>:<task name><generated taskflow number>. というフォーマットです。

たとえば、AppMgmt\_DeployApplication\_D20120824T08520\_5ed, という生成されたタスクフロー番号が表示された場合、AppMgmt はアプリケーション名、DeployApplication はタスク、D20120824T08520\_5ed は生成されたタスクフロー・インスタンス ID を表します。

- 「ステータス・メッセージ」には、「実行中」、「成功」または「失敗」などの、タスクフローの現在のステータスに関するメッセージが表示されます。
  - 「エラー」には、発行されたジョブのエラー条件が表示されます。
  - 「警告」には、発行されたジョブの警告が表示されます。
- 4 **オプション:** 「Job Messages」で、選択したジョブに関する追加の要約レベルの詳細を確認します。ジョブ・メッセージには、クリックするとポップアップ・ダイアログ・ボックスに詳細を表示することができる、ハイパーリンクが含まれることがあります。
  - 5 **オプション:** 「ジョブ・オプション」の下で、ジョブの開始時に行われた選択を確認します。
  - 6 **オプション:** ジョブを検索するには、各列の下部にある「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して検索します。
  - 7 「ジョブの終了」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。
  - 8 「ODL タスク ID」の下で、ハイライトされたジョブの ID を確認すると、エラーや警告メッセージを hpcm.log で探しやすくなります。

hpcm.log ファイルで、「検索」と「ODL タスク ID」を使用して、選択したジョブのロギング詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリーの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

- 9 **オプション:** 必要に応じて、「ジョブの停止」をクリックして、「実行中」ステータスのハイライトされたタスクを終了します。

---

**注意** ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

---

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace タスクフローの使用  
方法の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace  
User's Guide を参照してください。

# B

## 標準と詳細のProfitabilityアプリケーションの比較

次の表では、2つのタイプの Oracle Hyperion Profitability and Cost Management アプリケーションを比較しています。

- 標準 Profitability
- 詳細 Profitability

選択するアプリケーションのタイプは、組織のモデルを効果的に管理するために必要なモデリングのタイプによって異なります。アプリケーションに応じて、いずれか一方を使用できます。

表 18 標準と詳細の Profitability アプリケーションの比較

	標準	詳細
「一般的なアプリケーション情報」		
主な用途	原価開発	原価と収益の用途
フォーカス	拠出金分析	収益性分析
データベース	Oracle Essbase およびリレーショナル・データベース	リレーショナル・データベースのみ。 既存のカスタマ・データベースは詳細 Profitability にマッピングされます。
ターゲット・オブジェクトのボリューム	ターゲット・モデル・ステージで次元の交差によって定義される、10 万から 100 万単位の一意的ターゲット。  実用的な制限は次元のサイズに基づき、メンバーが 25,000 を超える次元は非常に大きいとみなされます。	ターゲット・テーブルの行数によって定義される、100 万から 1 億単位の一意的ターゲット。  ターゲットの行を一意的次元交差によって定義する必要がないため、次元のサイズに実質的な制限はありません。
「配賦」		
配賦のタイプ	マルチステップ配賦 たとえば、部門から部門、部門からアクティビティ、製品などへの配賦を追跡できます。	収益オブジェクトへのプールまたはレートのシングル・ステップ配賦  マルチステップの標準モデルまたは外部データからデータを使用可
システム次元	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メジャー</li> <li>● AllocationType</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● MeasuresDetailed</li> </ul>
系統配賦	はい	いいえ
配賦のトレース	はい	いいえ

	標準	詳細
ステージ内配賦	はい	いいえ
相互配賦	はい	いいえ
「モデルの構築」		
ステージ	最大9つのステージ、各ステージに最大3つずつの次元	2つのステージまで: <ul style="list-style-type: none"> <li>● ソース - 最大5つのソース次元</li> <li>● 宛先 - 最大で25の宛先次元</li> </ul>
モデル・レイヤー	原価と収益	いいえ
データの入力	はい	いいえ
事前定義のドライバ・メジャー	はい	いいえ
ドライバ・データ・レポート	はい	いいえ



---

# 用語集

---

！ 感嘆符(!) を参照してください。

**#MISSING** 欠落データ(#MISSING) を参照してください。

**2 パス** 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbase のプロパティです。2 パスのメンバーは、2 番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

**Calculation Manager** Planning、Financial Management および Essbase のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証および管理するために使用する計算モジュールです。

**CDF** カスタム定義関数(CDF)を参照してください。

**CDM** カスタム定義マクロ(CDM)を参照してください。

**Cookie** Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

**EPM Oracle インスタンス** EPM System 製品のアクティブな動的コンポーネント(実行時に変更できるコンポーネント)を含むディレクトリです。EPM Oracle インスタンス・ディレクトリの場所は、EPM System コンフィグuratorを使用した構成時に定義します。

**EPM Oracle ホーム** EPM System 製品に必要なファイルを含むミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。EPM Oracle ホームの場所は、EPM System インストーラでのインストール中に指定されます。

**essbase.cfg** Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

**EssCell** 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase Spreadsheet Add-in のセルに入力する関数です。

**ESSCMD** Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

**ESSLANG** テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。**エンコード方式**も参照してください。

**ESSMSH** MaxL シェルを参照してください。

**Extensible Markup Language (XML)** データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

**Extract-Transform-Load (ETL)** データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。

**GUI** グラフィカル・ユーザー・インタフェース

**Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)** データベース API(ODBC、SQL\*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)を作成して発行します。

**Java データベース接続(JDBC)** Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL ベースのデータベース・アクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

**Java データベース接続(JDBC)** Java ベース・クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL ベースのデータベース・アクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

**JSP** Java Server Page です。

**KeyContacts ガジェット** Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供します。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts がジェットを使用できます。

**LRO リンク・レポート・オブジェクト(LRO)**を参照してください。

**MaxL Essbase** で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。**MaxL DDL**、**MaxL DML**、および **MaxL シェル**も参照してください。

**MaxL DDL** Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。

**MaxL DML** Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作の言語です。

**MaxL DML の計算済メンバー** 分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

**MaxL Perl モジュール** Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

**MaxL シェル** MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX は essmsh、Windows は essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

**MaxL スクリプト・エディタ** 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

**MDX (多次元式)** リレーショナル・データベースで SQL を使用する際に、OLAP 準拠のデータベース向けに OLE DB に命令する言語です。「OLAPQuery」セクションのアウトライナを構築するとき、Interactive Reporting クライアントは要求を MDX の命令に変換します。ユーザーがクエリーを処理するとき、MDX がデータベース・サーバーに送信され、サーバーはクエリーの結果となるレコードを戻します。**SQL スプレッドシート**も参照してください。

**MIME タイプ** アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

**MIME タイプ** 多目的インターネットメール拡張仕様 (Multipurpose Internet Mail Extension)です。項目のデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより決定されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

**NULL 値** データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

**ODBC** Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

**「OK」ステータス** 集計ステータスの 1 つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

**OLAP メタデータ・カタログ** Integration Services で、リレーショナル・データ・ソースから取り出されるデータの特徴、ソース、場所およびタイプを記述したメタデータが含まれているリレーショナル・データベースです。

**OLAP モデル** Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAP モデルは多次元データベースの構造を生成するために使用されます。

**Open Database Connectivity (ODBC)** 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

**Oracle ホーム** 特定の製品に必要なインストール・ファイルが含まれるディレクトリで、ミドルウェア・ホームのディレクトリ構造内にあります。「ミドルウェア・ホーム」も参照してください。

**PL 勘定(P&L)** 損益勘定です。通常、会社の損益計算書を構成する費用勘定と収益勘定の集合を指します。

**POV (視点)** 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDMでの POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

**Production Reporting** [SQR Production Reporting](#) を参照してください。

**PVA 期別価額メソッド(PVA)**を参照してください。

**root メンバー** 次元分岐における最上位のメンバーです。

**Shared Services レジストリ** Shared Services データベースの一部です。Shared Services レジストリでは、インストールされたほとんどの EPM System 製品の情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、配置設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を格納および再利用します。

**SPF ファイル** SQR Production Reporting Server で作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

**SQL スプレッドシート** SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

**SQR Production Reporting** データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

**Structured Query Language** リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

**TCP/IP** [Transmission Control Protocol/Internet Protocol \(TCP/IP\)](#)を参照してください。

**Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)** 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの格納が可能です。

**Unicode モードのアプリケーション** 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

**WebLogic Server ホーム** WebLogic Server インスタンスに必要なインストール・ファイルが含まれるミドルウェア・ホームのサブディレクトリです。WebLogic Server ホームは Oracle ホームと同等です。

**WITH セクション** MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。

**Workspace ページ** 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

**ws.conf** Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

**wsconf\_platform** UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

**XML** [Extensible Markup Language \(XML\)](#)を参照してください。

**XOLAP** アウトラインのメンバーのみを格納し、クエリ時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

**Y軸スケール** 「調査」セクションに表示される、チャートのY軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意のY軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一のY軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一のY軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通のY軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

**Zero Administration** サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。

**アイデンティティ** 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の識別です。

**アウトライン** 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的関係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

**アウトライン同期** パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

**アクセサ** データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

**アクセス権** リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

**アクティビティ・レベルの承認** 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

**アクティブ-アクティブ高可用性システム** すべての使用可能メンバーが要求に対応でき、アイドル状態のメンバーがないシステムです。通常、アクティブ-アクティブ・システムは、アクティブ-パッシブ・システムより豊富な拡張性オプションを備えています。「アクティブ-パッシブ高可用性システム」と対比してください。

**アクティブ-パッシブ高可用性システム** 常に要求に対応するアクティブ・メンバーと、アクティブ・メンバーに障害が発生した場合にのみアクティブ化されるパッシブ・メンバーが存在するシステムです。「アクティブ-アクティブ高可用性システム」と対比してください。

**アクティブ・サービス** 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

**アセンブリ** EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

**値次元** 入力値、換算値、および連結の詳細を定義するために使用される次元です。

**アダプタ** ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

**アップグレード** 新しいソフトウェア・リリースを配置し、アプリケーション、データおよびプロビジョニング情報を前の配置から新しい配置に移動するプロセスです。

**宛先** (1) Business Rules と Calculation Manager の場合は、割り当てられた値が保管されるデータベース内の交差を指します。(2) Profitability and Cost Management の割当てでは、配賦された値を受け取るポイントを指します。

**アドホック・レポート** エンド・ユーザーがその場で作成するオンライン分析クエリーです。

**アプリケーション** (1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析およびレポートに対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

**アプリケーション移行ユーティリティ** アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。

**アプリケーション管理者** アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

**アプリケーション・サーバー・クラスタ** 同時に稼働し、信頼性と拡張性を実現するために連携している複数のアプリケーション・サーバーが緩やかに結合したグループです。ユーザーには1つのアプリケーション・サーバー・インスタンスのように見えます。「垂直アプリケーション・サーバー・クラスタ」および「水平アプリケーション・サーバー・クラスタ」も参照してください。

**アプリケーションの通貨** アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

**アペンダ** 宛先を意味する Log4j の用語です。

**安全率** より安全な投資から期待される利回りです (米国の長期国債など)。

**暗黙の共有** メンバーが 1 つ以上の子を持ち、連結されている子は 1 つのみである場合、親と子が値を共有します。

**アーティファクト** 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです (スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

**移行** アプリケーション、アーティファクト、またはユーザーを、別の環境またはコンピュータにコピーするプロセスです。たとえば、テスト環境から本番環境にコピーします。

**移行監査レポート** 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

**移行監査レポート** 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

**移行スナップショット** アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

**移行スナップショット** アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

**移行定義ファイル(.mdf)** アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

**移行定義ファイル(.mdf)** アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

**移行ログ** アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

**移行ログ** アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

**依存エンティティ** 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

**一意でないメンバー名** **重複メンバー名**を参照してください。

**一意のメンバー名** データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

**一意メンバーのアウトライン** 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

**イメージ・ブックマーク** Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

**因果関係マップ** 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示します。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。

**インストール・アセンブリ** EPM System インストーラへのプラグインを実行する製品インストール・ファイルです。

**インデックス** (1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。(2)インデックス・ファイルを指します。

**インデックス・キャッシュ** インデックス・ページを含むバッファです。

**インデックス項目** 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリーはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

**インデックス・ファイル** ブロック・ストレージのデータ取得情報を格納する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

**インデックス・ページ** インデックス・ファイルの下位区分です。データ・ブロックを指すポインタを含みます。

**イントロスペクション** データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。**スクレーピング**と対比してください。

**インポート・フォーマット** FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

**疎次元** ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。**密次元**と対比してください。

**影響ステータス** 親エンティティに連結する子エンティティの変更を示します。

**エンコード方式** テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の1つです。各エンコード方式には UTF-8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。[コード・ページ](#)および[ロケール](#)も参照してください。

**エンタープライズ・ビュー** Administration Services の機能の1つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーティファクトを直接操作できます。

**エンティティ** 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

**エージェント** アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

**お気に入りガジェット** Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL が含まれるガジェットです。「ガジェット」も参照してください。

**親** 直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親はエンティティであると同時に少なくとも1つのノードに関連しているため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

**親の調整** 親に関連して子に転記される仕訳エントリーです。

**オンライン分析プロセス(OLAP)** 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行える多次元的环境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAP システムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

**会社間照合** アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の連結合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

**会社間照合レポート** 内部取引勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

**拡張リレーショナル・アクセス** リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースに存在する要約レベルのデータにマッピングされます。

**確認レベル** プロセス管理の確認ステータス・インディケータの1つです。「開始していません」、「第1パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

**加重** スコアカードの項目に割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、その項目の相対的な重要性を示します。スコアカードのすべての項目の加重を総計すると 100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

**カスケード** メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

**カスタム・カレンダー** システム管理者が作成したカレンダーです。

**カスタム次元** ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

**カスタム定義関数(CDF)** Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。[カスタム定義マクロ\(CDM\)](#)も参照してください。

**カスタム定義マクロ(CDM)** Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。[カスタム定義関数\(CDF\)](#)も参照してください。

**カスタム・プロパティ** ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

**カスタム・レポート** 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

**カタログ・ペイン** アクティブ・セクションで利用可能な要素のリストを表示します。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクションのリスト、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールが表示されます。

**カテゴリ** データ編成に使用するグループです。たとえば、月です。

**株式ベータ** 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータは1.2です。

**カレンダー** ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、およびQ4から構成されます。

**為替レート** ある通貨から別の通貨に変換する際に使用する数値です。たとえば、1米ドルをユーロに変換する場合、為替レートの0.8936に米ドルを乗じます。これにより、\$1に相当するユーロは0.8936と算出されます。

**為替レート・タイプ** 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、ヒストリカル・レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

**換算 通貨換算**を参照してください。

**換算レート** **為替レート**を参照してください。

**勘定科目次元** 高機能の会計を可能にする次元タイプです。勘定科目として定義可能な次元は1つのみです。

**勘定科目タイプ** 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の振る舞いを示します。勘定科目タイプのオプションには、費用、収入、資産、負債、および資本が含まれます。

**勘定科目の消去** 連結時に連結ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

**勘定科目のブロック** 連結ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算連結プロセスで値を受け取りません。

**関数** 値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。

**感嘆符(!)** 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

**管理対象サーバー** 内蔵されたJava仮想マシン(JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

**関連勘定科目** 勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

**外部でトリガーされるイベント** ジョブの実行をスケジューリングするための、時間ベースでないイベントです。

**外部認証** Oracle Hyperion アプリケーションの外部に格納されたユーザー情報を使用して、アプリケーションにログオンすること指します。ユーザー情報の格納場所は、通常はMSADやNTLMなどの企業ディレクトリとなります。

**ガジェット** EPMのコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysisのコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

**期別価額メソッド(PVA)** 通貨換算プロセスの1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

**基本エンティティ** 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

**基本次元** 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product次元がFlavors属性次元の基本次元となります。

**基本通貨** 日常の業務取引が行われる通貨です。

**期末** チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

**キャッシュ** データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

**キューブ** 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

**キューブ・スキーマ** Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

**キューブ配置** Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

**兄弟** 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

**共有 Workspace ページ** 専用のシステム・フォルダに格納され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

**共有ストレージ** フェイルオーバー・クラスタのすべてのノードに対して使用できる必要のあるデータを含むディスク・セットで、共有ディスクとも呼ばれます。

**共有ディスク** 「共有ストレージ」を参照してください。

**共有メンバー** ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

**クエリー・ガバナ** Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

**行の抑制** 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付けます。

**クラスタ** 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

**クラスタ・サービス** システムとしてクラスタ・メンバーの操作を管理するソフトウェアです。クラスタ・サービスを使用すると、一連のリソースやサービスを定義して、クラスタ・メンバー間でのハートビート・メカニズムを監視し、これらのリソースやサービスをできるだけ効率良くかつ透過的に別のクラスタ・メンバーに移動できます。

**クラスタ内部接続** ハートビート情報に関するノード障害を検出するためにハードウェア・クラスタにより使用されるプライベート・リンクです。

**クラスタ棒グラフ** カテゴリを横に並べたグラフです。並列カテゴリの分析に便利です。垂直棒グラフでのみ使用されます。

**繰返し** 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。

**クリーン・ブロック** 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。

**クロス集計レポート** テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うことです。テーブルのセルには、交差する分類に合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

**グリッドの POV** 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート設計者はグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

**グループ** 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

**グローバル・レポート・コマンド** 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

**計算** データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行したりするプロセスです。



**計算結果アイテム** データベースやキューブに物理的に格納される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ項目、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

**計算スクリプト** データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、配賦や他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

**計算済勘定科目** 変更できない計算式がある勘定科目です。これらの計算式は、作成しているモデルの勘定科目の整合性を保つために固定されています。たとえば、当期純利益、計算済勘定科目の計算式は戦略的財務に組み込まれており、過去実績または予測の期間で変更はできません。

**計算前** ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

**系統データ** 配賦の計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての配賦ステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

**系列** 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他の1つ以上のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューアでグラフィカルに表示できます。[トレーサビリティ](#)も参照してください。

**結合** 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく2つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

**欠落データ(#MISSING)** ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

**権限** データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

**検証** アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。たとえば、FDM の検証ルールにより、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。

**検証ルール** データの整合性を強化するために FDM で使用されるルールです。たとえば、FDM の検証ルールにより、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。

**限界税率** 税引き後の負債コストを計算するために使用されます。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

**現地通貨** 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

**原点** 2つの軸の交差です。

**子** データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

**高可用性** 障害が発生した場合でもアプリケーションが継続してサービスを提供できるようにするシステム属性です。これは、フォルト・トレラント・ハードウェアおよびサーバー・クラスタを使用して、シングル・ポイント障害をなくすことで実現されます。1つのサーバーで障害が発生すると、処理要求は別のサーバーにルーティングされます。

**高機能計算** 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

**交差** 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位。ワークシートのセル。

**構成ファイル** セキュリティ・プラットフォームでは、XML ドキュメントの構成を製品の管理者やインストール・プログラムに依存しています。XML ドキュメントは有意義なプロパティの値を示し、企業の認証シナリオに関連する場所と属性を指定するように変更する必要があります。

**構造ビュー** トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

**構築方法** データベース・アウトラインを変更するために使用するメソッドの一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築メソッドを選択します。

**個人の反復タイム・イベント** 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

**個人用変数** 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

**個人用ページ** リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

**コミット・アクセス** Essbase の取引の処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時取引は書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

**コンテキスト変数** タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

**コンテンツ** リポジトリに格納されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

**コンテンツ・ブラウザ** コンテンツを選択して Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

**コントリビューション** 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

**コントロール・グループ** 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されます。サーベンス・オクスリ (Sarbanes-Oxley) 法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

**コード・ページ** 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。[エンコード方式](#)も参照してください。

**差異** プラン値と実績値などの 2 つの値の差です。

**サイクル・スルー** データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。

**再構成 URL** ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするための URL です。

**再構築** データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

**最新** 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

**最上位メンバー** 次元のアウトラインで、階層ツリーの一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

**サイレント応答ファイル** インストール管理者が提供する必要があるデータをかわりに提供するファイルです。応答ファイルにより、EPM System インストーラまたは EPM System コンフィグレータはユーザーの介入または入力なしで実行できます。

**サブ勘定科目のナンバリング** 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

**サブスクリイブ** 項目またはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、項目またはフォルダにフラグを付けることを指します。

**サポート詳細** セルの値を算出した計算および仮定です。

**三角換算法** 3 つ目の共通通貨を使用して 1 つの通貨から別の通貨に残高を換算する方法です。たとえば、デンマーク・クローネから英国ポンドに換算する場合、残高はクローネからユーロに換算され、その後ユーロからポンドに換算されます。

**算出ステータス** 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

**算術演算子** 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、\*、/、%など)。

**算術データ・ロード** データベース内の値に対して演算(たとえば各値に 10 を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

**サンプリング** エンティティの特性を判断するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。[メタデータのサンプリング](#)も参照してください。

**サービス** ビジネス項目を取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

**サブレット** Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

**残高勘定科目** 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

**式** データベース・メンバーを計算する演算子、関数、次元およびメンバー名、および定数の組合せです。

**式の保存** データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

**資産勘定科目** 勘定科目タイプの1つです。会社の資産の値を保管します。

**支出勘定科目** 期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

**市場リスク割増額** 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

**システム抽出** データをアプリケーションのメタデータから ASCII ファイルに転送します。

**子孫** データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

**シナリオ** データを分類するための次元です(Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

**支配比率** 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

**収益勘定科目** 期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

**集計ルール** 階層のノードを集計する際に実行されるルールを特定します。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、このルール内で制御できます。

**修飾名** 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York]など)。

**集約** 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび格納するプロセスです。または集約プロセスによって格納された結果を指します。

**集約関数** 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

**集約スクリプト** 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

**集約ストレージ・データベース** 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、格納されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、格納されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

**集約制約** 集約要求ライン・アイテムや集約メタトピック・アイテムに設定する制約です。

**集約セル** 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む4つのセルに展開されます。

**集約ビュー** 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

**出資比率** エンティティが親によって所有される程度です。

**手動ステージ** 完了するためにユーザーが操作する必要があるステージです。

**障害回復** 本番サイトでの自然災害による停止や計画外停止に対する保護対策機能です。地理的に離れたスタンバイ・サイトへのアプリケーションやデータの回復ストラテジを使用します。

**消去** 組織内のエンティティ間での取引をゼロに設定(消去)するプロセスです。

**消去済勘定科目** 連結ファイルに表示されない勘定科目です。

**詳細チャート** 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

**使用済ブロック** 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

**シリアル計算** デフォルトの計算設定です。1つの計算を複数のタスクに分割して、一度に1つのタスクを計算します。

**仕訳(JE)** シナリオと期間の残高勘定科目の借方または貸方に計上する調整の集合です。

**シングル・サインオン(SSO)** 一度ログオンすると、認証のための情報を再度入力することなく複数のアプリケーションにアクセスできる機能です。

**シングル・ポイント障害** システム内のコンポーネントで、そこで障害が発生すると、ユーザーは通常の機能にアクセスできなくなります。

**信頼できるユーザー** 認証されたユーザーです。

**時間次元** データが示す期間を定義します(会計期間、暦時間など)。

**軸** (1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。(2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

**次元** ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。

**次元間の無関係性** 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元はアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

**次元構築** Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

**次元構築のルール** データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

**次元性** MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、{(West, Feb), (East, Mar)} というセットの場合は、含まれている2つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります。

**次元タイプ** 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

**次元タブ** 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

**次元テーブル** (1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。(2)Essbase Integration Services では、Essbase の潜在的な次元を定義する1つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAP モデルのコンテナを指します。

**持続性** Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

**実行時プロンプト** ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

**実績の頻度** 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

**自動逆仕訳** 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

**自動ステージ** ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

**従業員** 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

**重複する別名** 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

**重複メンバーのアウトライン** 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

**重複メンバー名** データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。

**重要事業領域(CBA)** 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

**重要成功要因(CSF)** 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。

**上位レベル・ブロック** 少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

**冗長データ** 重複データ・ブロックです。Essbaseで更新されたブロックがコミットされるまで、取引の間保持されます。

**ジョブ** 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

**ジョブの出力** ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

**垂直アプリケーション・サーバー・クラスタ** 同じマシン上に複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

**水平アプリケーション・サーバー・クラスタ** 別々のマシンに複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスが存在するクラスタです。

**数値属性範囲** 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に0-20、21-40、41-60、および61-80という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

**スキーマ** リレーショナル・データベースにおける、データおよびデータ間の関連を表す論理モデルです。

**スクレーピング** データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。**イントロスペクション**と対比してください。

**スケール** スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

**スコア** ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

**スコアカード** 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。

**スコープ** Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が3レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。**持続性**も参照してください。

**ステージ** 通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の1つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の2つのタイプがあります。

**ステージ・アクション** 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

**ステージ後割当て** 配賦モデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられません。

**ステージ内割当て** 財務フローの割当てです。同じステージ内のオブジェクトに対して割り当てられません。

**ステージング・テーブル** 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1つ以上のRDBMSのスナップショット(再構築されたバージョン)です。

**ステージング領域** 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1つ以上のRDBMSのスナップショット(再構築されたバージョン)です。

**ステータス・バー** 画面下部のステータス・バーには、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

**スナップショット** 特定の時点の読取り専用データです。

**スポットライタ** 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

**スマート・カット** URL フォームのリポジトリ項目へのリンクです。

**スマート・タグ** Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから使用可能な定義済アクションに関連付けられています。Oracle EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

**スーパーバイザ** サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

**ズームチャート** チャートを拡大することにより詳細情報を表示するために使用されます。チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

**精度** 数値に表示される小数点以下の桁数です。

**製品** Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

**セカンダリ・メジャー** プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

**責任マップ** 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

**セキュリティ・エージェント** Web アクセス管理プロバイダ(Netegrity SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

**セキュリティ・プラットフォーム** EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

**世代** データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

**設計レポート** コンポーネント・ライブラリを使用してカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインターフェースです。

**接続ファイル** [Interactive Reporting 接続ファイル\(.oce\)](#) を参照してください。

**セル** (1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

**セル・ノート** Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

**選択リスト** レポート設計者がレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

**戦略マップ** 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

**戦略目標(SO)** 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の 1 つのパーспекティブに関連付けられ、1 つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目的の親になります。

**税金の初期残高** Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

**関連サブクエリー** 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

**相互割当て** 財務フローの割当ての一種です。宛先の 1 つとしてソースが含まれます。

**組織** 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

**祖先** その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

**属性** 次元メンバーの特性です。たとえば、従業員次元メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

**属性計算次元** メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの 1 月の平均売上の値を計算できます。

**属性次元** 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

**属性タイプ** 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

**属性の関連付け** データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

**属性レポート** 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。[基本次元](#)も参照してください。

**貸借一致の仕訳** 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

**対称型マルチプロセッシング(SMP)** マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

**対称トポロジ** 本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で同一の Oracle Fusion Middleware の障害回復構成です。対称トポロジでは、本番サイトとスタンバイ・サイトのホスト、ロード・バランサ、インスタンスおよびアプリケーションの数は同じです。両方のサイトで同じポートが使用されます。システムは同一に構成され、アプリケーションは同じデータにアクセスします。

**タイトル・バー** Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示します。

**タイム・イベント** ジョブを実行するトリガーです。

**タイム・スケール** 指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示します。

**タイムライン・ビューア** 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

**多次元データベース** 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。[リレーショナル・データベース](#)と対比してください。

**タスクフロー** ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

**タスクフロー・インスタンス** タスクフローの単一のインスタンスを示します。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

**タスクフロー管理システム** タスクフローの定義および作成し、その実行を管理します。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

**タスクフロー参加者** 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

**タスクフロー定義** タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスを示します。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

**タスク・リスト** 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

**タブ** Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

**テーブル** MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、( [Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual] )といったテーブルがあります。

**単項演算子** アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、\*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

**代替階層** 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

**ダッシュボード** 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

**置換** データ・ロードのオプションの1つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

**チャート** スプレッドシート・データをグラフィカルに表したものです。視覚的な表示により、分析、カラー・コーディング、および比較の手助けとなるビジュアル・キューの効率が上がります。

**チャート・テンプレート** ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

**抽出コマンド** Essbase レポート作成コマンドの1つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

**調査** [ドリルスルー](#)を参照してください。

**調整** [仕訳\(JE\)](#)を参照してください。

**調整勘定科目** 内部取引勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

**直接レート** 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間またはシナリオのレートを入力します。

**通貨換算** データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1\*0.923702)。変換後のユーロの額は0.92になります。

**通貨の上書き** 入力期間で、選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/項目として該当期間の値を入力できます。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

**通貨パーティション** アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

**通常仕訳** 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。貸借一致エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

**定義済ドリル・パス** データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

**適応状態** Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

**テキスト・メジャー** メジャーの値をテキストとして表現できるデータ型です。Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。

**テンプレート** 特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済のフォーマットです。

**デフォルト通貨単位** データの単位スケールを定義します。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、10,000 と解釈されます。

**データ関数** データを集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを集計します。



**データ・キャッシュ** 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

**データ・セル** [セル](#)を参照してください。

**データ値** [セル](#)を参照してください。

**「データなし」ステータス** 集計ステータスの1つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

**データ・ファイル・キャッシュ** 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

**データ・フォーム** Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

**データベース接続** データ・ソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

**データ・マイニング** Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

**データ・モデル** データベース・テーブルのサブセットを示します。

**データ・ロック** 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぎます。

**データ・ロード位置** FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

**データ・ロードのルール** テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

**透過パーティション** ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

**透過ログイン** ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせます。

**統合** Shared Services を使用して EPM System 製品間でデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付け、およびスケジュールが決定されます。

**時系列レポート作成** カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

**トップ・ラベルとサイド・ラベル** 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

**トラフィック・ライト** 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

**トリガー** ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbase の機能の 1 つです。基準に一致すると、Essbase はユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

**トレサビリティ** メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえば Essbase Studio の場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソースまで追跡できます。

**トレース・レベル** ログ・ファイルで捕捉された詳細のレベルを定義します。

**トークン** 外部認証システム上の 1 つの有効なユーザーまたはグループの暗号化された ID です。

**トースト・メッセージ** 画面右下の隅に表示され、現れたり消えたりするメッセージです。

**同期** Shared Services とアプリケーション・モデルの同期です。

**同期済** モデルの最新バージョンがアプリケーションと Shared Services の両方に存在する状態を指します。[モデル](#)も参照してください。

**導出テキスト・メジャー** Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium、および Low が表示されるように定義されます。「テキスト・メジャー」も参照してください。

**導出テキスト・メジャー** Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、販売高メジャーに基づく導出テキスト・メジャー「販売実績インデックス」は、「高」、「中」、および「低」の値で構成できます。対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium、および Low が表示されるように定義されます。**テキスト・メジャー**も参照してください。

**動的階層** 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

**動的計算** Essbase で、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

**動的計算および保管メンバー** ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときのみ Essbase によって計算されるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2 回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

**動的計算メンバー** ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

**動的参照** データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

**動的時系列** ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

**動的ビュー勘定科目** 勘定科目の 1 つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

**動的メンバー・リスト** システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

**動的レポート** レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

**ドメイン** データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

**ドライバ** ドライバは配賦方法の一種です。ドライバを利用する複数ソース間の数学的関係、およびこれらのソースがコストや収益を配賦する宛先を示します。

**ドリルスルー** あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

**ドリルダウン** 次元の階層を使用してクエリー結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパースペクティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

**内部取引消去** **消去**を参照してください。

**名前付きセット** MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

**入力データ** 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

**認証** 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

**認証サービス** 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

**ネイティブ認証** サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

**ネスト列見出し** 複数の次元からのデータを表示するレポート列の見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1(Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget(Scenario 次元)で修飾されます。

**ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)** Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

**ハイパーリンク** ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

**配賦のトレース** Profitability and Cost Management の機能の 1 つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

**ハイブリッド分析** リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

**反復タイム・イベント** ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

**反復テンプレート** 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

**汎用ジョブ** SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

**凡例ボックス** 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

**ハードウェア・クラスタ** ネットワーク・サービス(たとえば IP アドレス)やアプリケーション・サービス(データベースや Web サーバーなど)のシングル・ビューを、これらのサービスのクライアントに提供するコンピュータの集合です。ハードウェア・クラスタの各ノードは、独自のプロセスを実行するスタンドアロン・サーバーです。これらのプロセスは互いに通信して、連携してアプリケーション、システム・リソース、データをユーザーに提供する 1 つのシステムのようなものを形成します。

**バックアップ** アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

**バッチ POV** ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

**バッチ計算** データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

**バッチ処理モード** サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

**バッチ・ファイル** 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

**バッチ・ローダー** 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

**バージョン** データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

**パターン照合** 条件として入力される項目の一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(\*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple\*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

**パフォーマンス・インディケータ** ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

**パブリック・ジョブ・パラメータ** 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

**パブリック反復タイム・イベント** 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

**パレット** JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。

**パースペクティブ** スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

**パーティション化** データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

**パーティション領域** データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの 1 つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2 つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に 18 個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する 18 個のセルが含まれていなければいけません。

**非アクティブ・グループ** 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

**非アクティブ・ステータス** エンティティの当期の連結が非アクティブにされていることを示します。

**非アクティブ・ユーザー** 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

**非次元モデル** Shared Services のモデル・タイプの 1 つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

**非対称トポロジ** 本番サイトの層とスタンバイ・サイトの層で異なる Oracle Fusion Middleware の障害回復構成です。たとえば、非対称トポロジでは、スタンバイ・サイトのホストとインスタンスを本番サイトより少なくすることができます。

**日付メジャー** Essbase で、メジャーが示されている次元で「日付」のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。

**表示タイプ** リポジトリに保存された 3 種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

**標準仕訳テンプレート** 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

**標準次元** 属性次元以外の次元です。

**ビジネス・プロセス** 集合的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

**ビジネス・ルール** 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

**ビジュアル・キュー** 特定のタイプのデータ値をハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。

**ビュー** 年次累計または期別のデータを示すものです。

**ピボット** 取得したデータのパーспекティブを変更する機能です。Essbase では、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

**ピン** ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは動的です。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやトラフィック・ライトの色を変更できます。

**ピンボード** 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはトラフィック・ライトを定義する必要があります。

**ファイルの区切り文字** データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

**ファクト・テーブル** スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

**フィルタ** データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

**フェイルオーバー** プライマリ・データベース、サーバーまたはネットワークに障害が発生するか、これらがシャットダウンする場合に、冗長性のあるスタンバイ・データベース、サーバーまたはネットワークに自動的に切り替える機能です。フェイルオーバー用にクラスタリングされているシステムは、高可用性、サーバーの冗長性を利用したフォルト・トレランス、および共有ディスクなどのフォルト・トレラント・ハードウェアを提供します。

**フォーマット文字列** Essbase で、セルの値の表示を交換する方法です。

**復元** データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

**複製パーティション** パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

**負債勘定科目** 一定時点における会社の負債残高を格納する勘定科目タイプです。未払費用、買掛金勘定、長期借入金などが負債勘定科目に含まれます。

**フッター** レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

**フリーフォーム・グリッド** 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

**フリーフォーム・レポート作成** ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

**フレーム** デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームとワークスペース・フレームが2つの主要な領域となります。

**フロー勘定科目** 期別と年次累計の符号なしの値を格納する勘定科目です。

**ブック** 類似する Financial Reporting ドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。

**ブックの POV** ブックが実行される次元のメンバーです。

**ブックマーク** ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークの2つのタイプがあります。

**ブロック** プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

**ブロックされた勘定科目** 手動で入力する必要があるために連結ファイルの計算に含めない勘定科目です。

**ブロック・ストレージ・データベース** 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

**ブロードキャスト・メッセージ** Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が提出する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどのユーザー向けの情報が表示されます。

**分離レベル** データベース操作のロックとコミットの動作を決定する Essbase カーネルの設定です。選択肢は: コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス。

**プライマリ・メジャー** 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

**プランナ** プランナは、大多数のユーザーから構成されます。データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、および Smart View の使用が可能です。

**プランニング・ユニット** シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

**プレゼンテーション** Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポジット内のレポートを参照するポインタを含みます。

**プロキシ・サーバー** セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

**プロジェクト** 実装でグループ化された EPM System 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

**プロセス監視レポート** FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

**プロット領域** X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

**プロビジョニング** ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。

**並列エクスポート** Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

**並列計算** 計算オプションの1つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

**並列データ・ロード** Essbase で、複数プロセスのレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

**変換** (1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーティファクトを変換します。(2)データ・マイニングで、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更します。

**変換先通貨** 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

**変換元通貨** 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

**「変更済」ステータス** エンティティのデータが変更されたことを示す集計ステータスです。

**別名** 代替名です。たとえば、列をより簡単に特定する記述子として、メンバー名のかわりに別名を表示できます。

**別名テーブル** メンバーの代替名を含むテーブルです。

**ページ** グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしば Z 軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

**ページ・ファイル** Essbase のデータ・ファイルです。

**ページ見出し** レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されていません。

**ページ・メンバー** ページ軸を決定するメンバーです。

**保管階層** 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含むことができないなどの一定の制限があります。

**ホスト** アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

**ホスト・プロパティ** ホストに複数の Install\_Home が含まれる場合は、いずれかの Install\_Home に関するプロパティとなります。ホスト・プロパティは CMC から構成されます。

**保存された仮定** ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

**マイ Workspace ページ** 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

**マイニング属性** データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

**マスター・データ・モデル** 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

**マップ・ナビゲータ** 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

**マップ・ファイル** 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を格納するために使用されます。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mpr となります。

**マルチロード** 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

**マージ** データ・ロード・オプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

**密次元** ブロック・ストレージ・データベースで、次元メンバーのすべての組合せのデータを含んでいる可能性のある次元です。たとえば、時間次元はすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるために、しばしば密な次元となっています。**疎次元**と対比してください。

**ミドルウェア・ホーム** Oracle WebLogic Server ホームが含まれるディレクトリで、EPM Oracle ホームおよびその他の Oracle ホームを含むこともできます。ミドルウェア・ホームは、ローカル・ファイル・システム、または NFS を介してアクセス可能なリモート共有ディスク上に配置できます。

**ミニスキーマ** データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

**ミニレポート** レポートのコンポーネントの 1 つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の 1 つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1 つ以上のミニレポートを含めることができます。

**耳折れ** 折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されます。

**メジャー** OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。**ファクト・テーブル**も参照してください。

**メタアウトライン** Integration Services で、OLAP モデルから Essbase のアウトラインを作成するための規則と構造を含んだテンプレートです。

**メタデータ** データベースに格納された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

**メタデータ・セキュリティ** ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

**メタデータのサンプリング** ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

**メタデータ要素** データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために格納され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

**メトリック** ビジネス・データから計算される数値計測単位です。業績評価や企業トレンド分析に役立ちます。

**メンバー** 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

**メンバー選択レポート・コマンド** 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

**メンバー専用レポート・コマンド** レポート・ライターのフォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

**メンバー・リスト** 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

**メンバー・ロード** Integration Services で、次元およびメンバー(データを含まない)を Essbase のアウトラインに追加するプロセスです

**目標** 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

**持株会社** 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

**モデル** (1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。(2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。(3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

**役割** リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

**ユーザー定義属性(UDA)** アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDAを使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

**ユーザー定義メンバー・リスト** ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

**ユーザー・ディレクトリ** ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。

**ユーザー変数** ユーザーのメンバー選択に基づいて、データ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示します。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

**要約チャート** 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

**ライトバック** 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

**ライフサイクル管理** アプリケーション情報をライフサイクルの最初から最後まで通して管理するプロセスです。

**ライフ・サイクル管理ユーティリティ** アプリケーションとアーティファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。

**ライン・アイテムの詳細** 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。



**リソース** システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

**リポジトリ** ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマット、および注釈の情報を格納します。

**領域** メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

**履歴平均** 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

**リレーショナル・データベース** 関連する 2 次元テーブルにデータを格納するデータベースです。 [多次元データベース](#) と対比してください。

**リンク** (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。(2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

**リンク条件** タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

**リンク・データ・モデル** リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

**リンク・パーティション** データ・セルを使用して 2 つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

**リンク・レポート・オブジェクト(LRO)** セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。 [ローカル・レポート・オブジェクト](#) と対比してください。

**隣接する四角形** Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または 1 ページ当たりの行数により指定されます。

**レイアウト領域** Workspace Page で、コンテンツを配置可能な領域を指定するために使用されます。

**例外** 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

**レイヤー** (1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。(2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

**レコード** データベースで、1 つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

**列** グリッドまたはテーブルで縦方向に表示される情報です。列には、特定のフィールドからのデータ、計算により得られたデータ、またはテキストの情報が含まれます。

**レベル** 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

**レベル 0 のブロック** 疎のレベル 0 メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

**レベル 0 のメンバー** 子の存在しないメンバーです。

**レポート・エクストラクタ** スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

**レポート・オブジェクト** レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

**レポート・スクリプト** 1 つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

**レポートの通貨** 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

**レポート・ビューア** レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

**連結** 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この連結は Year になります。

**連結比率** 親に連結された子の値の割合です。

**連結ファイル(\*.cns)** 連結ファイルは、連結のプロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。連結ファイルを使用して、連結を定義したり変更したりすることも可能です。

**連結ファイル(親)** 事業部門のすべてのファイルが連結されたファイルです。連結の定義を含みます。

**ログ・アナライザ** Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

**ロケーション別名** データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

**ロケール** コンピュータで使用される言語、通貨、および日付フォーマット、データのソート順、文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。[エンコード方式](#)および [ESSLANG](#) も参照してください。

**ロケール・ヘッダー・レコード** スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

**ロック済** ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

**「ロック済」ステータス** 集計ステータスの 1 つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

**ロック済データ・モデル** ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

**論理 Web アプリケーション** 内部ホスト名、ポートおよび Web アプリケーションのコンテキストの識別に使用される別名付きの参照です。クラスタ化環境または高可用性環境では、分散コンポーネントに対して単一の内部参照を確立する別名です。EPM System において、クラスタ化されていない論理 Web アプリケーションは、その Web アプリケーションを実行している物理ホストにデフォルトで設定されます。

**論理グループ** FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される 1 つ以上の論理勘定を含みます。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

**ローカル結果** データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されません。

**ローカル・レポート・オブジェクト** Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。[リンク・レポート・オブジェクト\(LRO\)](#)と対比してください。

**ロード・バランサ** クラスタの個別のアプリケーション・サーバーに要求を送信するハードウェアまたはソフトウェアで、システムへの唯一のエントリ・ポイントです。

**ロード・バランシング** 複数のサーバー・グループに要求を分散すること。これによって、エンド・ユーザーのパフォーマンスが最適化されます。

**ロールアップ** [連結](#)を参照してください。

**ワイルド・カード** 検索文字列で、任意の 1 文字または文字グループを示す文字(\*)です。

**割当て** Profitability and Cost Management で、配賦モデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

**ワーク・フロー** FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

**ワークブック** 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。



## 索引

## A - Z

- AllAllocations 次元, 193
- AllocationType 次元, 43, 193
- ASO。「集約ストレージ・オプション(ASO)データベース」を参照
- AssignedPostStage 次元  
詳細 Profitability, 205
- BSO。「ブロック・ストレージ・オプション(BSO)データベース」を参照
- CalculatedDriverValue ドライバ, 185
- CostAssigned, 187
- CostAssignedIntraStage, 187
- CostAssignedPostStage, 187
- CostInput, 187
- CostPerDrvUnit ドライバ, 187
- CostReceived, 187
- CostReceivedIntraStage, 187
- CostReceivedPriorStage, 187
- DirectAllocation 次元, 193
- EffectiveTotalDriverValue, 130, 185
- EPMA POV 次元  
詳細 Profitability, 207
- EPMA 次元  
詳細 Profitability, 205
- Essbase  
アウトラインとレポート, 44, 166  
ステージ・データのレポート, 167  
接続情報, 49  
標準, 48  
直接配賦, 168  
配賦系統, 169
- Essbase アウトライン, 38
- Excel Spreadsheet Add-In  
レポート作成, 170
- FixedDriverValue ドライバ, 185
- GenealogyAllocation 次元, 193
- GrossReceivedCost, 187
- GrossReceivedRevenue, 189
- hpcm.log, 23  
データベースの配置, 145  
配置エラー, 142
- HTTP および HTTPS ポート  
詳細 Profitability, 214  
標準, 48
- IdleCost, 187
- IdleCost メジャー  
詳細 Profitability, 205
- IdleDriverValue  
標準 Profitability, 130
- IdleDriverValue ドライバ, 185
- IdleRevenue, 189
- IndirectAllocation, 193
- intra 接尾辞, 166
- MeasuresDetailed 次元, 205  
詳細 Profitability, 205
- NetCostForAssignment, 187
- NetReciprocalCost, 187
- NetReciprocalRevenue, 189
- NetRevenueForAssignment, 189
- OverDriven  
詳細 Profitability, 289
- OverDriven メジャー  
詳細 Profitability, 205
- OverrideTotalDriverValue ドライバ, 185
- Percentage ドライバ, 185
- POV コピー, 61  
詳細 Profitability, 243
- POV 次元, 57, 205, 240  
詳細 Profitability, 207  
標準 Profitability, 41
- POV の管理, 56  
詳細 Profitability, 239
- POV のステータス, 57, 240
- Profitability and Cost Management の起動, 22  
インストール後, 20
- Quantity ドライバ, 185

ReciprocalIntermediateRevenue, 189  
 ReciprocalIntermediateCost, 187  
 Rate ドライバ, 185  
 RDB  
     詳細  
         詳細 Profitability, 214  
 ReciprocalCostAssigned, 187  
 ReciprocalCostReceived, 187  
 ReciprocalRevenueAssigned, 189  
 ReciprocalRevenueReceived, 189  
 Reports  
     Smart View, 171  
 RevenueAssigned, 189  
 RevenueAssignedIntraStage, 189  
 RevenueAssignedPostStage, 189  
 RevenueInput, 189  
 RevenueReceived, 189  
 RevenueReceivedIntraStage, 189  
 RevenueReceivedPriorStage, 189  
 SharedServices\_Security\_Client.log, 23  
 Smart View  
     レポート作成, 171  
 Smart View クエリー, 173  
 SysAllocVar1, 193  
 SysAllocVar2, 193  
 SysAllocVar3, 193  
 TotalDriverValueAfterReciprocals ドライバ, 185  
 TotalAllocation, 193  
 TotalDriverValue  
     標準 Profitability, 130  
 TotalDriverValue ドライバ, 185  
 UnitCost ドライバ, 187  
 URL, 22  
 UserDefinedDriverMeasures, 185  
 validationReport.txt, 136  
 Weight ドライバ, 185

## あ行

アイドル能力  
     詳細 Profitability, 289  
     標準 Profitability, 130  
 アイドル費用  
     配賦の詳細のトレース, 117  
 アイドル容量  
     ドライバ  
         詳細 Profitability, 289  
         標準 Profitability, 130

「アイドルを許可」  
     詳細 Profitability, 289  
     標準 Profitability, 130  
 アウトライン  
     Essbase, 166  
 宛先 POV, 61  
     詳細 Profitability, 243  
 宛先ステージ, 233  
 アプリケーション・タイプ, 18  
     詳細 Profitability, 19, 215  
     標準 Profitability, 18  
 アーカイブ済ステータス, 58, 60, 240, 243  
 アーティファクト  
     インポート, 66  
         詳細 Profitability, 247  
     選択したオブジェクトの POV からの削除,  
         62  
         詳細 Profitability, 246  
 インポートの確認  
     ジョブ・オプション, 306

## か行

カスタム次元, 41  
     詳細 Profitability, 205  
 カスタム・データ入力ビュー, 113  
 カスタム・ドライバ, 73  
 カスタム表示プリファレンス  
     標準, 49  
 仮定のシナリオ  
     詳細 Profitability, 243  
     標準 Profitability, 33  
 監査次元  
     詳細 Profitability, 205  
 共通メンバー・セレクト, 24  
     ソート, 25  
 クエリー  
     Smart View, 173  
 クラスタ  
     「システム情報」タブ, 48  
 クローン次元, 40  
 グリッド・ビュー, 24  
     モード, 26  
 計算後スクリプト, 52, 54  
 計算スクリプト, 141, 148。「計算スクリプト」  
     を参照  
         計算後, 54  
         計算前, 54

- 複数のステージのコントリビューション, 151
- 計算前スクリプト, 52, 54
- 計算データベース
  - 配置, 142
  - 標準, 48
- 計算用アプリケーション
  - 標準, 48
- 系統
  - 計算, 141
  - データ, 151
  - 複数のステージのコントリビューションの計算, 151
  - 複数のステージのコントリビューション・パス, 151
- 検索, 29
- 検索タグ, 104
- 検証, 127
  - 詳細 Profitability, 285
  - 詳細 Profitability モデル構造, 286
  - ステージの貸借一致, 134
    - 詳細 Profitability, 288
  - ドライバ・データ・レポート, 136
  - モデル構造, 128, 131
    - 詳細 Profitability, 286
- 検証ルール, 128
  - 詳細 Profitability, 286
- 公開済ステータス, 57, 60, 240, 243
- 交差, 40
  - 手動変更, 115
- 降順, 24
- 構造検証, 128
  - 詳細 Profitability, 286
- コンテキスト・メニュー, 24
  
- さ行**
- 再配置
  - モデル・ステージ, 55, 234
- 参照テーブル, 217
  - 式, 71
    - カスタムのドライバ式, 71
    - 定義済のドライバ式, 71
- システム・コンポーネント
  - 詳細 Profitability, 214
  - 標準, 48
- システム次元, 41, 205
  - 詳細 Profitability, 205
- 「システム情報」タブ
  - 詳細 Profitability, 214
  - 標準, 48
- 視点(POV), 56
  - POV およびすべてのアーティファクトの削除, 63
    - 詳細 Profitability, 245
  - コピー, 61
    - 詳細 Profitability, 243
  - シナリオの作成
    - 標準 Profitability, 33
    - 詳細 Profitability, 239
    - 変更, 243
  - 新規 POV の作成, 61
    - 詳細 Profitability, 243
  - 次元, 56
    - ステータス, 60
    - ステータスの変更
      - 詳細 Profitability, 243
  - 選択したオブジェクトの削除, 62
    - 詳細 Profitability, 246
  - ソース, 61
    - 詳細 Profitability, 243
  - ターゲット, 61
    - 詳細 Profitability, 243
  - 追加, 59
    - 詳細 Profitability, 241
  - バージョン次元, 58, 240
    - 変更, 60
- シナリオ
  - 新規シナリオの作成, 61
    - 詳細 Profitability, 243
    - 標準 Profitability, 33
- 収益
  - OverDriven, 131
    - 未割当て, 128, 289
- 収益レイヤー, 69
  - 配賦メジャー, 43
- 集約ストレージ・オプション(ASO)データベース
  - 計算した配賦データの転送, 150
  - 「ステージの貸借一致」レポート, 134
  - レポート用データベースの配置, 145
- 昇順, 24
- シーケンス優先度
  - 詳細 Profitability, 251
- 次元, 205

- AllAllocations, 193
- AllocationType, 43, 193
- DirectAllocation, 193
- EPMA
  - POV 次元詳細 Profitability, 207
- Essbase, 41
- GenealogyAllocation, 193
- MeasuresDetailed, 205
- POV, 56, 57, 240
- 切替え, 24
- クローン, 40
- 次元名
  - 詳細 Profitability, 203
  - 標準 Profitability, 38
- 属性, 46, 95, 105, 109, 110, 166
  - 詳細 Profitability, 211
- タイプ, 41, 205
  - 詳細 Profitability, 203, 205
  - 標準 Profitability, 33, 38, 41
- ツリーおよびグリッド・ビュー・モード, 26
- ドライバ, 52
- 非 EPMA
  - 詳細 Profitability, 207
- ビジネス
  - 詳細 Profitability, 209
  - 標準 Profitability, 44
- ビジネス次元メタデータ, 209
  - 標準 Profitability, 44
- 別名
  - 詳細 Profitability, 207
  - 標準 Profitability, 43
- メジャー, 42
- 次元交差, 40
- 次元の切替え, 24
- 次元のフィルタ, 24
- 次元メンバー
  - SysAllocVar1, 193
  - SysAllocVar2, 193
- ジョブ・オプション
  - インポート構成, 306
- スキーマ
  - 詳細 Profitability, 214
- スキーマ・バージョン
  - 詳細 Profitability, 214
  - 標準, 48
- スクリプト。「計算スクリプト」を参照
  - 計算スクリプト, 148
- 計算前と計算後, 54
- ステージ
  - 概要, 51
  - 削除, 56
    - 詳細 Profitability, 238
  - ステージ・データのレポート作成, 167
  - ステージ内割当て, 49, 52
  - ステージ内割当ての変更, 55
  - 接頭辞, 52
    - 詳細 Profitability, 234
  - 接頭辞の変更, 55, 237
  - 多次元, 49
  - 追加, 52
    - 詳細 Profitability, 234
  - バルク編集
    - ステージ・ルール削除, 270
  - 変更, 55
    - 詳細 Profitability, 237
- ステージ間割当て, 88
- ステージ接頭辞, 51, 52, 54
- ステージ内割当て, 88, 89
  - 使用可能にする, 49
  - 追加, 52
    - プリファレンスの設定, 49
  - 変更, 55
- 「ステージの貸借一致」レポート, 134
- OverDriven
  - 詳細 Profitability, 289
- アイドル能力, 289
  - 詳細 Profitability, 288
- ステージング・テーブル
  - インポート, 66
    - 詳細 Profitability, 247
- ステータス
  - POV, 57, 240
- 制限
  - 系統コントリビューション・パス, 151
- セキュリティ役割
  - ビュー
    - 詳細 Profitability, 214
    - 標準, 48
- 接頭辞, 51, 54
  - 追加, 52
  - 変更, 55, 234, 237
- セル
  - 手動変更, 115
- 前提条件



- タスクフロー, 155, 309
- 相互配賦, 125
- 相互割当て, 88, 89
- ソース POV, 61
  - 詳細 Profitability, 243
- ソース・ステージ, 233
- ソースと同じ
  - 割当てルール, 98
  - 割当てルール定義, 107
- ソート
  - 共通メンバー・セレクトタの使用, 24
  - 降順, 25
  - 昇順, 25
  - デフォルト, 24, 25
  - メンバー, 24
  - 列, 25
- 属性次元, 46, 166, 205
  - 詳細 Profitability, 211
  - 標準 Profitability, 41
  - フィルタ処理, 95, 101, 105, 109, 110

## た行

- 貸借一致
  - 検証, 134
    - 詳細 Profitability, 288
- 多次元ステージ, 49
- タスクフロー
  - スケジュール, 161, 314
  - ステータスの表示, 158, 311
  - 前提条件, 155, 309
  - タスクの詳細の表示, 160, 313
  - 表示, 157, 310
- 単一交差
  - 検索, 29
    - ドライバの選択の削除, 87
      - 詳細 Profitability, 264
    - ドライバの選択の作成, 84
      - 詳細 Profitability, 262
    - ドライバの選択の変更, 86
- ターゲット POV, 61
  - 詳細 Profitability, 243
- 代替階層, 44, 209
- 直接配賦
  - 計算, 141
    - レポート作成, 168
- 直接配賦データ
  - 計算, 148

- 通貨
  - 標準 Profitability, 33
- ツリー・ビュー, 24
  - モード, 26
- テーブル
  - 登録, 217
- デフォルトのソート, 24
- データ
  - 異動, 150
  - インポート, 66
    - 詳細 Profitability, 247
  - 計算, 141
  - 検証, 127
    - 詳細 Profitability の検証, 285
- データとアーティファクトのインポート, 66
  - 詳細 Profitability, 247
- データ登録, 217
- データ入力ビュー, 111
- データの手動入力, 111
- データの転送, 150
- データの入力, 111
  - カスタム編集ビューの作成, 113
  - 個々のセルの変更, 115
  - 手動編集, 115
    - ステージ・データの編集, 115
    - データの手動編集, 115
    - ドライバ・データの編集, 116
  - 標準ビュー, 111
  - 編集ビューの削除, 116
  - 編集ビューの編集, 115
- データ・フィルタ, 275
- データベース
  - 計算用データベースの配置, 142
  - 詳細 Profitability, 214
  - 接続情報
    - 標準, 48
  - データの転送, 150
  - レポート用データベースの配置, 145
- 統計
  - モデル統計のクエリー, 64
- トレース配賦イメージのエクスポート, 126
- ドライバ, 52
  - 「アイドルを許可」
    - 詳細 Profitability, 289
    - 標準 Profitability, 130
- 式, 71
  - 詳細 Profitability, 251

比率ベース, 251  
 レートベース, 252  
 シーケンス優先度  
   詳細 Profitability, 251  
 選択, 82  
 単一交差のドライバの選択の削除, 87  
   詳細 Profitability, 264  
 単一交差のドライバの選択変更, 86  
 単一の交差に対するドライバ選択の作成, 84  
   詳細 Profitability, 262  
 定義の削除, 82  
 定義の作成, 78  
 定義の変更, 80  
 ドライバ定義の複製, 81  
 ドライバの選択の削除, 87, 263  
 ドライバの選択の作成, 83  
   詳細 Profitability, 260  
 ドライバの選択の変更, 86  
 ドライバの優先度のシーケンス付け, 77  
 バルク編集  
   ドライバの削除, 268  
 標準 Profitability に対する定義, 70  
 標準基準, 76  
 複製  
   詳細 Profitability, 259  
 変更, 80, 81  
 ドライバ値メジャーの合計の上書き, 289  
 ドライバ・データ  
   編集, 116  
 ドライバ・データ・レポート, 136  
 ドライバの選択, 82  
 ドライバの割当て  
   詳細 Profitability, 260  
 ドライバ・メジャー, 42, 70  
   CalculatedDriverValue, 185  
   CostPerDrvUnitt, 187  
   EffectiveTotalDriverValue, 185  
   FixedDriverValue, 185  
   IdleDriverValue, 185  
   OverrideTotalDriverValue, 185  
   Percentage, 185  
   Quantity, 185  
   Rate, 185  
   TotalDriverValueAfterReciprocals, 185  
   TotalDriverValue, 185  
   UnitCost, 187  
   UserDefinedDriverMeasures, 187

Weight, 185  
 ドライバ・メジャーのテーブル, 185  
 ドラフト・ステータス, 57, 60, 240, 243

## な行

名前ビュー, 24  
 入力メジャー  
   詳細 Profitability, 205  
 能力  
   アイドル  
     標準 Profitability, 130

## は行

配賦  
   相互配賦のトレース, 125  
   トレース, 117  
   トレース配賦ダイアグラムのエクスポート, 126  
   配賦の詳細のトレース, 117  
   配賦フローのトレース, 121  
   「プロパティ」 ペイン, 117, 121, 125  
 配賦系統, 151  
   レポート作成, 169  
 配賦の詳細, 117  
 配賦のトレース, 117  
   詳細, 117  
   トレーサビリティ・ダイアグラムのエクスポート, 126  
   フロー, 121  
 配賦フロー, 121  
 配賦メジャー  
   CostAssigned, 187  
   CostAssignedIntraStage, 187  
   CostAssignedPostStage, 187  
   CostInput, 187  
   CostReceived, 187  
   CostReceivedIntraStage, 187  
   CostReceivedPriorStage, 187  
   GrossReceivedCost, 187  
   GrossReceivedRevenue, 189  
   IdleCost, 187  
   IdleRevenue, 189  
   NetCostForAssignment, 187  
   NetReciprocalCost, 187  
   NetReciprocalRevenue, 189  
   NetRevenueForAssignment, 189

- ReciprocalIntermediateRevenue, 189
- ReciprocalIntermediateCost, 187
- ReciprocalCostAssigned, 187
- ReciprocalCostReceived, 187
- ReciprocalRevenueAssigned, 189
- ReciprocalRevenueReceived, 189
- RevenueAssigned, 189
- RevenueAssignedIntraStage, 189
- RevenueAssignedPostStage, 189
- RevenueInput, 189
- RevenueReceived, 189
- RevenueReceivedIntraStage, 189
- RevenueReceivedPriorStage, 189
- UnassignedCost, 187
- UnassignedRevenue, 189
- 収益レイヤー配賦メジャーのテーブル, 189
- 費用レイヤー配賦メジャーのテーブル, 187
- バルク編集
  - ドライバの削除, 268
  - 複数ステージのルール, 270
  - 割当ての追加, 269
- バージョン次元, 58, 240
- 非 EPMA 次元
  - 詳細 Profitability, 205, 207
- 表示プリファレンス
  - 標準, 49
- 標準基準ドライバ, 76
- 標準データ入力ビュー, 111
- 費用
  - OverDriven, 131
- 費用レイヤー, 69
  - 配賦メジャー, 43
- 比率ベースのドライバ
  - 詳細 Profitability, 251
- ビジネス次元, 209
  - 詳細 Profitability, 205
  - 属性, 46
    - 詳細 Profitability, 211
  - 標準 Profitability, 41, 44
  - メタデータの要件
    - 詳細 Profitability, 209
    - 標準 Profitability, 44
  - ルール
    - 標準 Profitability, 44
- ビュー
  - カスタム編集ビュー, 113
  - 詳細 Profitability, 291
  - ステージ・データの編集, 115
  - ツリーおよびグリッド・ビュー・モード, 26
  - データの手動編集, 115
  - 標準データ入力ビュー, 111
  - 編集ビューの削除, 116
  - ビュー・モード
    - ツリーおよびグリッド・ビュー, 26
    - フィルタ, 27
  - フィルタ
    - グリッド・ビュー・モード, 26
    - 属性, 95, 105, 109, 110
    - フィルタの使用, 27
    - 割当て, 89
      - 詳細 Profitability, 275
    - 割当てルール, 95, 101, 105, 109, 110
  - 複数のステージのコントリビューション・パス, 151
  - ブロック・ストレージ・オプション(BSO)データベース
    - 「ステージの貸借一致」レポート, 134
    - 配置, 142
  - プリファレンス
    - モデル・レベル
      - 標準, 49
  - 「プロパティ」ペイン
    - 相互配賦, 125
    - 配賦の詳細, 117
    - 配賦フロー, 121
  - 編集
    - 手動でデータを編集, 115
    - データの入力ウィンドウ, 115
    - ドライバ・データ, 116
    - 編集ビューの削除, 116
  - 編集ビュー
    - カスタム編集ビューの作成, 113
    - 削除, 116
    - 手動編集, 115
    - 編集, 115
  - 別名次元
    - 詳細 Profitability, 205, 207
      - 別名の表示, 207
    - 大かっこ
      - 詳細 Profitability, 207
      - 標準 Profitability, 43
      - 標準 Profitability, 41, 43
  - 別名の表示
    - 詳細 Profitability, 207
  - 別名ビュー, 24

ポート

詳細 Profitability, 214  
標準, 48

## ま行

未割当て, 128, 289

未割当ての収益, 128, 289

UnassignedRevenue, 189

未割当ての費用, 128, 289

UnassignedCost, 187

未割当てメジャー

詳細 Profitability, 205

明示的なドライバの選択

ドライバの選択の削除, 87

詳細 Profitability, 264

ドライバの選択の作成, 84

詳細 Profitability, 262

ドライバの選択の変更, 86

メイン・メニュー, 200

標準 Profitability, 37

メジャー

収益レイヤー配賦, 43

ドライバ, 42

費用レイヤー配賦, 43

レポート作成, 42

メジャー次元, 42

メタデータ

ビジネス次元の要件

詳細 Profitability, 209

標準 Profitability, 44

メンバー・セレクト, 24

メンバー名

大かっこ, 43

詳細 Profitability, 207

モデル

概要

標準 Profitability, 33

検証, 127

詳細 Profitability の検証, 285

通貨

標準 Profitability, 33

定義

標準 Profitability, 33

統計, 64

モデルの作成手順

標準 Profitability, 35

モデル計算

計算スクリプト, 141

モデル検証ルール, 128

詳細 Profitability, 286

モデル構造

検証, 128, 131

詳細 Profitability の検証, 286

モデル・ステージ

概要, 51

削除, 56

詳細 Profitability, 238

ステージ内割当て, 52

ステージ内割当ての変更, 55

接頭辞, 52

詳細 Profitability, 234

接頭辞の変更, 55, 237

追加, 52

詳細 Profitability, 234

変更, 55

詳細 Profitability, 234, 237

モデル・データ・スキーマ

詳細 Profitability, 214

選択, 215

モデル・データの登録, 217

モデル統計のクエリー, 64

モデルの管理

「システム情報」タブ

詳細 Profitability, 214

標準, 48

モデル・データ・スキーマ

詳細 Profitability, 215

モデル・レベルのプリファレンス

標準, 49

モデル・レベルのプリファレンス

標準, 49

## や行

役割

ビュー

詳細 Profitability, 214

標準, 48

ユーザー情報

詳細 Profitability, 214

標準, 48

ユーザーのセキュリティの役割

ビュー

詳細 Profitability, 214

標準, 48

**ら行**

ライフサイクル管理  
 データとアーティファクトのインポート, 66  
 詳細 Profitability, 247

リレーショナル・データベース  
 詳細 Profitability, 214  
 標準, 48

ルール・ファイル, 142

ルール名, 104

例外  
 選択, 82  
 単一交差のドライバの削除, 87  
 詳細 Profitability, 264  
 単一交差のドライバの選択, 84  
 詳細 Profitability, 262  
 単一交差のドライバの変更, 86

レイヤー, 69  
 費用および収益レイヤー配賦メジャー, 43

列  
 ソート, 25

レポート  
 Essbase, 166  
 Excel Spreadsheet Add-In, 170  
 印刷, 134, 136  
 詳細 Profitability, 288  
 ステージ, 167  
 ステージの貸借一致, 134  
 詳細 Profitability, 288  
 直接配賦, 168  
 ドライバ・データ, 136  
 配賦系統, 169

レポート作成アプリケーション  
 標準, 48

レポート・ビュー  
 詳細 Profitability, 291

レポート・ビューの配置  
 詳細 Profitability, 291

レポート・メジャー, 42

レポート用データベース  
 ASO データベース, 145  
 計算した配賦データの転送, 150  
 配置, 145  
 標準, 48  
 複数のステージのコントリビューションの計算, 151

レポートベースのドライバ  
 詳細 Profitability, 252

ログイン URL, 22

ログ・ファイル, 23  
 hpcm.log, 23  
 SharedServices\_Security\_Client.log, 23  
 validationReport.txt, 136  
 ログ・ファイルのエラー・メッセージ, 23

**わ行**

割当て, 88  
 検索, 29  
 削除, 93  
 作成, 89  
 詳細 Profitability, 275  
 ステージ間, 88  
 ステージ内, 88, 89  
 使用可能にする, 49  
 ステージ内割当ての追加, 52

相互, 88, 89  
 タイプ, 88  
 バルク編集  
 割当ての追加, 269  
 フィルタ, 89  
 詳細 Profitability, 275  
 変更, 92  
 詳細 Profitability, 279  
 割当てルールの変更, 104

割り当てられたメジャー  
 詳細 Profitability, 205

割当てルール, 94  
 新しいルール名で保存, 101  
 既存の「ソースと同じ」割当てルールの適用, 103  
 既存の割当てルールの適用, 103  
 削除, 102  
 作成, 95  
 ソースと同じ, 98  
 定義の削除, 110  
 定義の作成, 105  
 定義の変更, 109  
 変更, 101  
 割当てルールの変更, 104

割当てルール定義  
 ソースと同じ, 107  
 ルール名, 104

A-Z あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行 わ行